

産業構造審議会 教育イノベーション小委員会
学びの自律化・個別最適化WG
委員プレゼン資料集

2022年3月18日



目次

開催 (回/日)	テーマ	プレゼン委員等
第1回 (7/1)	論点説明、委員自己紹介	今村委員、木村（政）委員、工藤委員、 佐藤委員、神野委員、末富委員、苫野委員、 野口委員、福本委員、美馬委員
第2回 (10/1)	学校の組織・環境の再設計 ・学校を高信頼性組織に近づける ・学校空間の学習環境を再設計する	今村委員、岩本委員、木村（政）委員、 熊谷委員、日野委員、福本委員、美馬委員
第3回 (12/3)	学習者視点での「教育データ連携と個別学習計画」 に基づく、パーソナルトレーニングの確立 ・「標準授業時数」から「学習実績管理」への移行 ・個別学習計画の策定と運用を実現するために必要な人材 の資質と規模（教員の役割含む） ・公教育における教育データの利活用・教育データ連携を促 進するために必要なこと	木村（政）委員、野口委員、佐藤委員
第4回 (2/25)	「場の選択肢」の拡充	デジタル庁横田参事官補佐、 福本委員、今村委員、末富委員

第1回 学びの自律化・個別最適化WG（7/1） （論点説明、委員自己紹介）

2021年7月1日 産構
審「第1回 学びの自律化・個別最適化WG

不登校ゼロ社会を目指して

日本の不登校をとりまく状況

児童生徒の不登校をとりまく状況

- 1 7年連続で増える不登校の児童生徒
- 2 不登校の児童生徒はさらに増えていく
- 3 しかし公的支援は圧倒的に不足している
- 4 対策制度はあっても現場の対応は進んでいない
- 5 保護者の持つ資本の差が、不登校の学びの機会格差になる
- 6 ゲリラ的に選択する学びの、安全と質保証
- 7 今後、検討すべきこと

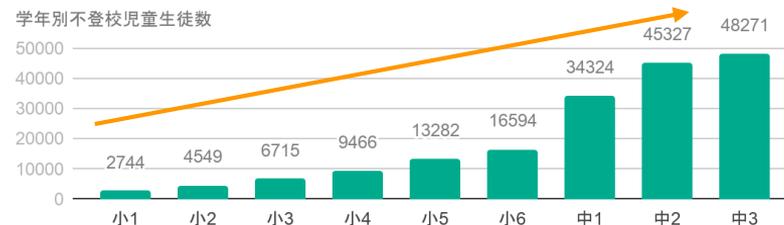
1 7年連続で増える不登校の児童生徒

コロナ前の19年度で約 **18万人** の児童生徒が不登校

【合計(小・中)】 (人)

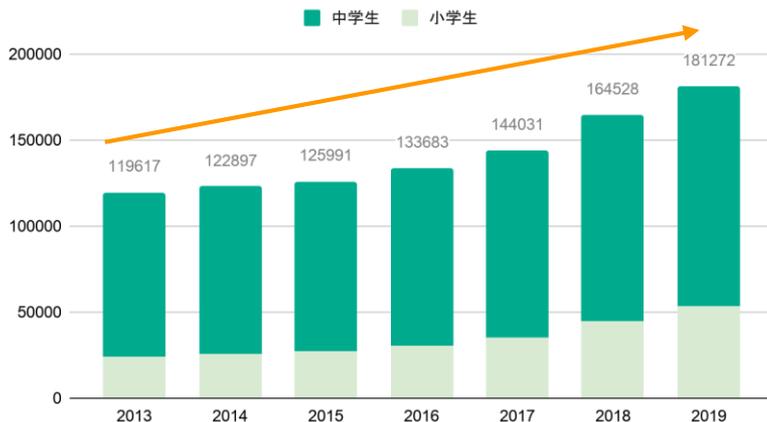
区分	欠席日数30～89日の者 (1)		欠席日数90日以上で 出席日数11日以上者の者 (2)		欠席日数90日以上で 出席日数1～10日の者 (3)		欠席日数90日以上で 出席日数0日の者 (4)		不登校児童生徒数
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
国立	327	49.9%	281	42.9%	32	4.9%	15	2.3%	655
公立	77,636	44.3%	75,999	43.3%	14,587	8.3%	7,202	4.1%	175,424
私立	2,452	47.2%	2,291	44.1%	309	6.0%	141	2.7%	5,193
計	80,415	44.4%	78,571	43.3%	14,928	8.2%	7,358	4.1%	181,272

学年があがるとともに不登校児童生徒数も増加



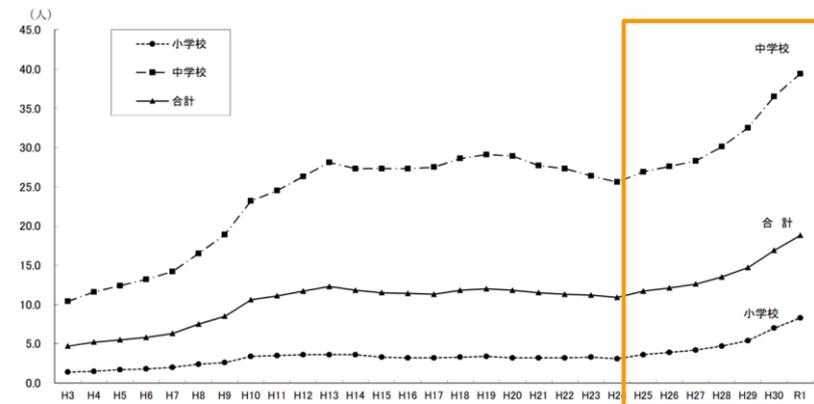
7年連続で増え続ける不登校児童生徒

不登校児童生徒数の推移



不登校児童生徒の割合で見るとより顕著に増加

<参考2> 不登校児童生徒の割合の推移(1,000人当たりの不登校児童生徒数)



2 不登校の児童生徒はさらに増えていく

不登校「傾向」も含めると、その数は中学生で**33万人**、※18年度時点
 コロナ禍のいま・そしてこれからは、**ますます増加する可能性が高い**。

不登校傾向にある子どもの実態調査（18年度）

不登校	学校に行っていない状態が一定期間以上ある	30日以上欠席	33万人
	学校に行っていない状態が一定期間以上ある	1週間以上連続欠席	
教室外登校	学校の校門・保健室・校長室等には行くが、教室には行かない	学校内で行動表出	
部分登校	基本的には教室で過ごすが、授業に参加する時間が少ない		
仮面登校A 授業不参加型	基本的には教室で過ごすが、皆と違うことをしがちであり、授業に参加する時間が少ない		
仮面登校B 授業参加型	基本的には教室で過ごし、皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている	学校内で行動非表出	
登校	学校に馴染んでいる	—	

3 しかし公的支援は圧倒的に不足している

設置が自治体の努力義務となっている「不登校特例校」や「教育支援センター」は不登校の児童生徒数に対して足りず、点と点がつながらない

不登校特例校（一条校）の不足

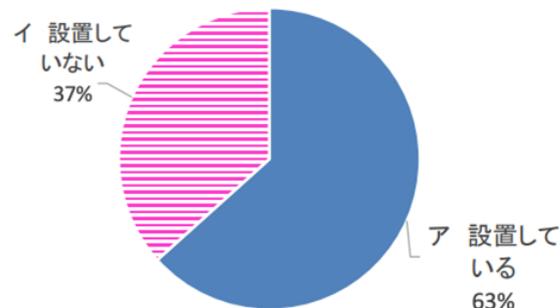
指定校数 **17**校（うち 公立8校 私立9校）
平成17年学校教育法施行規則の改正により全国化

不登校特例校	数
小中一貫校 (小中合同学習室含む)	2
小学校	1
中学校	11
高校	3

教育支援センターの不足

設置自治体は全国の約**63%**
未設置の理由は、**予算・場所の確保の問題**が上位

1-1 教育支援センターの設置の有無



4 対策制度はあっても現場の対応は進んでいない

学校外の学びで出席認定をもらっている児童生徒の数は少ない。

学校外の機関等で相談・指導等を受け、指導要録上出席扱いとした児童生徒数

(人)	国立	公立	私立	計
小学校	14	6,170	28	6,212
中学校	52	19,365	237	19,654
計	68	25,535	265	25,866

学校外の学びで出席認定を
もらっている児童生徒は
25,866人で、全体の14%

自宅におけるIT等を活用した学習活動を指導要録上出席扱いとした児童生徒数(人)

	国立	公立	私立	計
小学校	5	155	14	174
中学校	3	397	34	434
計	8	552	48	608

自宅のICT等を活用した学習
で出席認定をもらっている
児童生徒は608人のみで
全体の0.3%

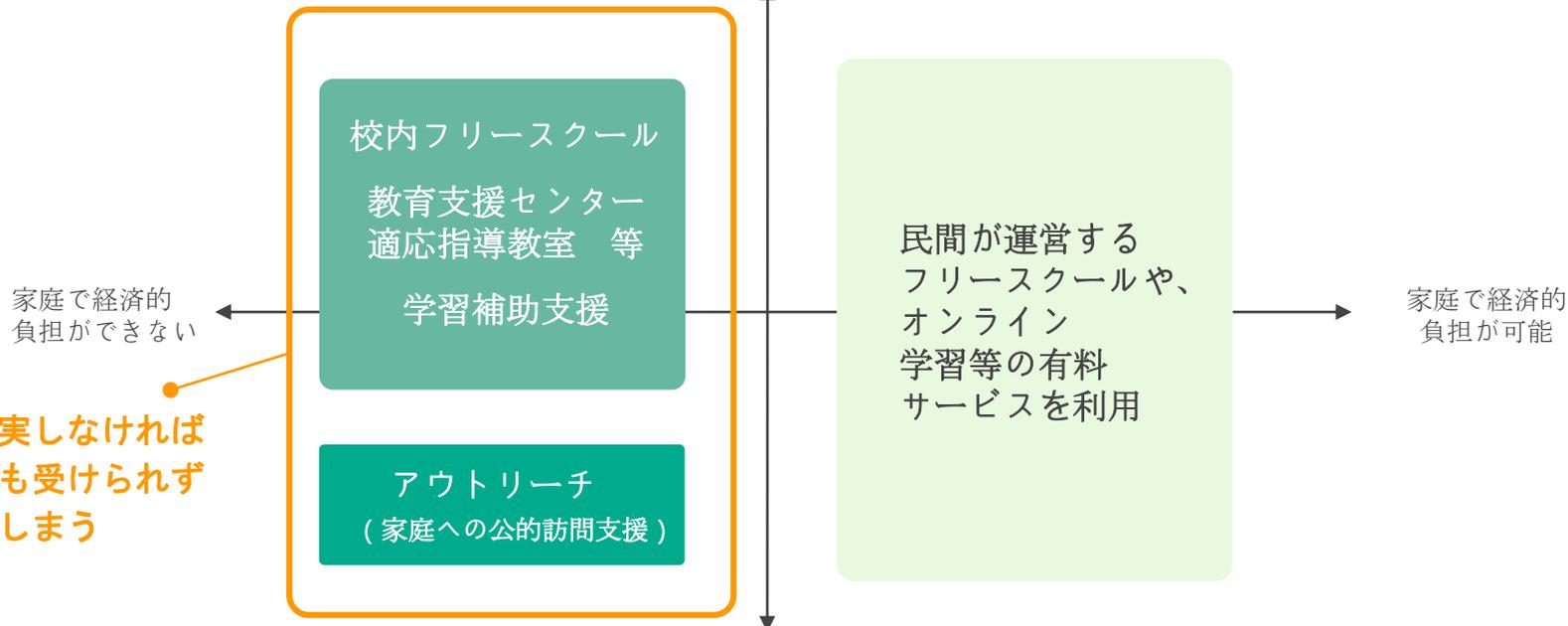
5 保護者の持つ資本の差が、不登校の学びの機会格差になる

学びの保障は、家庭や自治体によって届く機会に格差がすでにある。

点在する施策をコレクティブインパクトの視点で確認し、

「誰が取り残されているのか」の視点で、アウトリーチの充実を。

家庭で時間・情報・協力者の確保が可能



家庭で経済的負担ができない

校内フリースクール

教育支援センター
適応指導教室 等

学習補助支援

アウトリーチ

(家庭への公的訪問支援)

民間が運営する
フリースクールや、
オンライン
学習等の有料
サービスを利用

家庭で経済的負担が可能

家庭で時間・情報・協力者の確保ができない

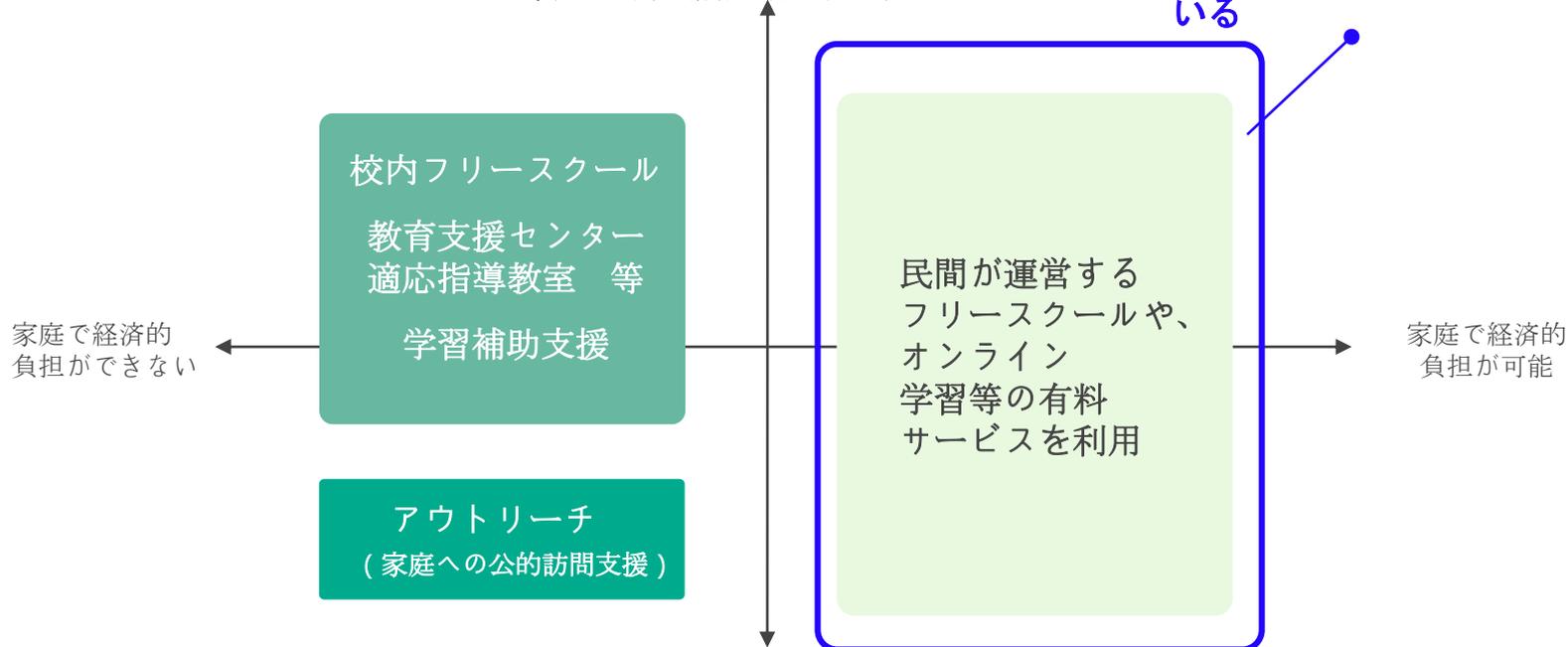
公的支援が充実しなければ
誰からの伴走も受けられず
取り残されてしまう
可能性が高い

6 ゲリラ的に選択する学びの、安全と質保証

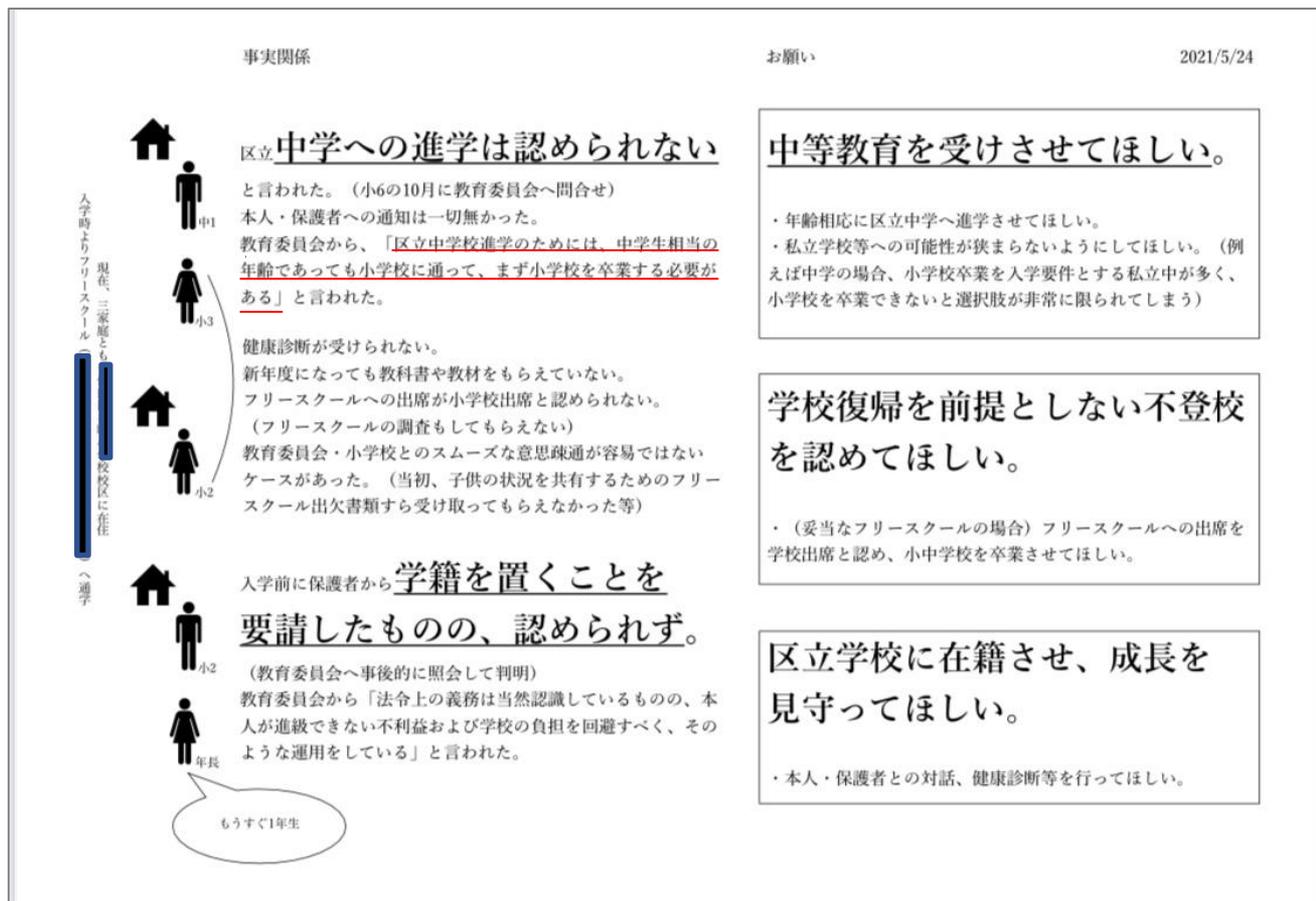
すでに学びを選択している家庭が、**心身の健康を保ちつつ、
未来の希望進路を健全に選択できる当たり前を保証しながら**
個別的な学びの選択を認証すべきではないか

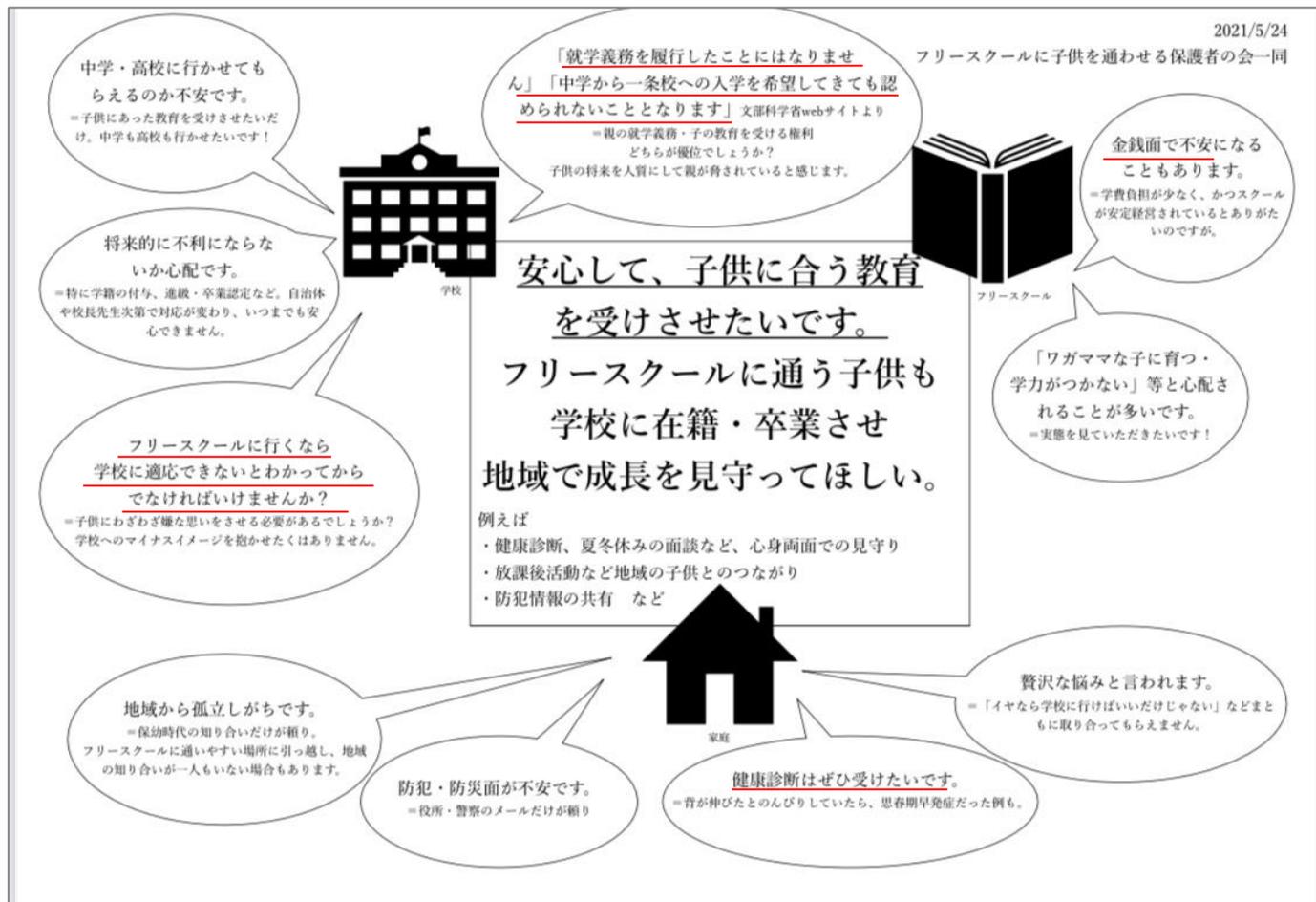
家庭で時間・情報・協力者の確保が可能

なんらかの不安や思いをも
って、民間施設での学びを
選択することが、先々のハ
ンデを追う選択肢となっ
ている



家庭で時間・情報・協力者の確保ができない





11. 学齢児童生徒をいわゆるインターナショナルスクールに通わせた場合の就学義務について

Q 学齢児童生徒をいわゆるインターナショナルスクールに通わせた場合、保護者は就学義務を履行したことになるのでしょうか。

A

いわゆるインターナショナルスクールについては、法令上特段の規定はありませんが、一般的には主に英語により授業が行われ、外国人児童生徒を対象とする教育施設であると捉えられています。インターナショナルスクールの中には、学校教育法第1条に規定する学校(以下「一条校」といいます。)として認められたものがありますが、多くは学校教育法第134条に規定する各種学校として認められているか、又は無認可のものも少なからず存在しているようです。

一方、学校教育法第17条第1項、第2項には、学齢児童生徒の保護者にかかる就学義務について規定されています。ここでは保護者は子を「小学校、義務教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部」、「中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の中学部」に就学させると規定されています。よって、保護者が日本国籍を有する子を一条校として認められていないインターナショナルスクールに就学させたとしても、法律で規定された就学義務を履行したことはありません。

学校教育法においては、小学校等の課程を修了した者が中学校等に進学することを予定しています。これは、同法第45条に規定しているように、中学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すことを目的としているからです。

このことを踏まえると、例えば一条校でないインターナショナルスクールの小学部を終えた者が中学校から一条校への入学を希望してきても認められないこととなります。インターナショナルスクールの中学部の途中で我が国の中学校へ編入学を希望する場合も同様です。

なお、市町村教育委員会におかれては、憲法に定める教育を受ける権利を保障し、その権利を実現するために義務教育制度が設けられていることに鑑み、経済的な事情、居住地の変更等のやむを得ない事情により学齢児童生徒が実際的に未就学となるような状況が生じないようご注意ください。

[参照条文]

学校教育法(昭和22年法律第26号)

第1条 この法律で、学校とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。

第2条 学校は、国(国立大学法人法(平成15年法律第112号)第2条第1項に規定する国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構を含む。以下同じ。)、地方公共団体(地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)第68条第1項に規定する公立大学法人(以下「公立大学法人」という。)を含む。次項及び第127条において同じ。))及び私立学校

▶ [小・中学校等への就学について](#)

▶ [東日本大震災関係](#)

▶ [法令・通知等](#)

▶ [調査研究等](#)

▶ [就学事務Q&A](#)

▶ [私立小中学校等に通う児童生徒への経済的支援に関する実証事業について](#)

7 検討すべきこと

- 1, 現在「取り残している子ども」を発見し続ける
官民コレクティブチームの情報共有と取り組みの在り方
- 2, 自治体間で支援リソースのシェアをしながら取り組む
支援の在り方
- 3, オルタナティブスクールの公的認証と
教育支援センター等、行政による民間との包括連携の在り方
- 4, 文科省・厚労省・内閣府・経産省 など 不登校アジェンダ
のそれぞれの政策から見えたことを学びあい、協力して
コレクティブに戦略をたてる会議の設置

团体概要

団体概要

名称	認定特定非営利活動法人カタリバ
本部	東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ
設立	2001年11月1日（2006年9月21日に法人格取得）
役員	代表理事：今村久美 常務理事/事務局長：鶴賀康久 理事：岡本拓也（公認会計士） 酒井穰（経営者） 中原淳（博士/人間科学） 山内幸治（若者創業支援NPO理事） 監事：久保田克彦（公認会計士） 中山龍太郎（弁護士）
職員数	133名（2021年1月時点）
収入	1,231,270千円（2019年度）

代表理事 プロフィール



今村 久美 Kumi Imamura

認定NPO法人カタリバ代表理事
公益社団法人ハタチ基金代表理事
一般社団法人地域・教育魅力化プラットフォーム理事

慶應義塾大学卒。2001年にNPOカタリバを設立し、高校生のためのキャリア学習プログラム「カタリ場」を開始。2011年の東日本大震災以降は子どもたちに学びの場と居場所を提供、2020年には、経済的事情を抱える家庭にPCとWi-Fiを無償貸与し学習支援を行う「キックケプログラム」を開始するなど、社会の変化に応じてさまざまな教育活動に取り組む。

慶應義塾大学総合政策学部特別非常勤教授。2015年より、文部科学省中央教育審議会委員。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会文化・教育委員会委員。教育再生実行会議初等中等教育ワーキング・グループ委員。

認定NPO法人カタリバとは

カタリバは、日本全国で活動する、創業20年目の教育NPOです。

ビジョン

どんな環境に生まれ育っても、未来をつくりだす力を育める社会

ミッション

意欲と創造性をすべての10代へ

アクション

子どもたちに「サードプレイス（自分で選択した居場所）」と「サードリレーションシップ（ナナメの関係）」を届ける

First

家／親と子ども



Second

学校／先生と児童生徒



Third

自分で選択した居場所／ナナメの関係



サードリレーションシップ・ナナメの関係：タテ（親・先生）でもヨコ（同世代の友人）でもない、新たな視点をくれる一歩先ゆく先輩

活動内容

カタリバは、子どもたちの心に火を灯すプロフェッショナルとして、意欲と創造性を育むことを妨げるあらゆる課題（困難な環境・意欲を育むきっかけ不足・災害など）の解決を目指し、全国各地の現場とオンラインで活動しています。

意欲を引き出すきっかけに
出会えていない

探究学習事業

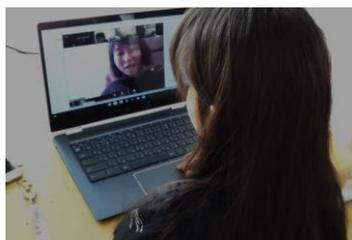
10代の日常を探究に



学校に行けず
自信を持ってない

不登校支援事業

自走する力を育む



自分ではどうすることもできな
い困難な環境に置かれている

困窮世帯向け支援事業

逆境から未来をつくる



災害によって突然
日常を奪われた

災害時子ども支援事業

災害の悲しみを強さへ



生まれ育った環境に関わらず、すべての子どもたちに「サードプレイス（自分で選択した居場所）」と「サードリレーションシップ（ナナメの関係）」を届ける

温故創新

**おおくまが目指す
未来の学校**

大熊町教育委員会 木村 政文

先生の役割も変わった

～戸惑いも手応えもある～

Qubenaを活用した「手応え」

☆ Qubenaで「自分から学べる子」に

- 一斉授業では理解に時間のかかる子のペース
↓
- Qubenaを取り入れてからは、一人一人がじっくりと自分のペースで課題に取り組み、自分が何を学んだか振り返り、自分でまとめる。
 - 『自分で頑張った分だけ着実に身につく』 実感
 - **学び方**が身についてきている

☆ Qubena導入で変わった教員の働き方

- 教える時間、及び教材や資料準備の時間が減少
↓
- 生み出された時間 = 時間の余裕
 - じっくり教科書を読む　さまざまな問題を解く
 - **より教材研究の時間に充てられる**

おおくまの子どもたちが抱く 教員のイメージ

“学び舎 ゆめの森” エリアごとにどんな思いや願いを込めていくか...

③ ^{〜に〜関係する} 同じ目線

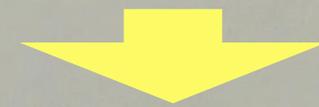
味方
子どもの “
傾りにいる
子どものヒーロー
みんなの “
誰でも、どんな人でも味方する
信用できる人
頼りになる
紅茶
応援お、助け合
守り神
頼れる友達
I LOVE
ハリ がいい

温かい ← 見守られる
楽しい所
手伝う人
1番幸せ
できることが多い
背中を押してくれる
笑顔にしてくれる
未来を考へる人
社会の厳しさを教えてくれる

親切
希望

→ 終了 14:20.

みんなを支える神
子どもを支える味方
支えてくれるヒーロー
できないことを教えてくれる人
新しく学ぶ



期待されているからこそ
We're the “teachers”.
求められているのは「人間力」

学校現場の教職員の課題

- 決められた業務を最後までしっかりやり遂げるが、業務の必要性や本質のそもそもを考えて、さらにより良く改善していこうとする意欲。
- 自分の強みや得意に気づかなかったり、自信が持てなかつたりすることによる自己肯定感の低さ。
- 教育の本質の「なぜ(Why)」を考え、議論すると言う経験が乏しいことによる判断力の甘さ。
- 問題があつたり、分からなかつたりしたら、組織で一緒に考え、助け合うとする「お互い様、お陰様」の組織風土。
- 物事の本質の「なぜ(why)」を考える経験が乏しいことから、組織としての新しい発想による企画の創出。

求められているのは、教師自身の「人間力」

●人間力（内閣府「人間力戦略研究会報告書」、2003年4月より）

人間力は「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」をいい、次の要素によって構成されています。

構成要素	項目	内容
知的能力的要素	基礎学力	総合的・本質的な見方、専門の基礎的知識、数量的リテラシー（表・グラフ等）、情報リテラシー（情報コミュニケーション技術等）について理解し、活用できる。
	専門的な知識・ノウハウ	専門的知識と技能について、その背景や応用を含め、理解し、活用できる。
	論理的思考力	情報を収集し、複眼的・論理的に分析し、それを的確に表現できる。
	創造力	異なる知識を組み合わせたり、常識や固定観念にとらわれない新たな発想をしたり、さまざまな角度から柔軟に考えたりすることで、新しい価値や新たな行動を生み出すことができる。
社会・対人関係力的要素	コミュニケーションスキル	同じ世代の人たちだけでなく、異なる文化・世代・立場の人たちに対しても、傾聴し、気持ちや意思を推察・尊重・共感し、自分の気持ちや意思を適切に伝え、共に理解し合い、考えの対立を調整できる。
	リーダーシップ	目標やビジョンと問題意識をチームで共有し、メンバーの役割を明確にし、メンバーの能力の向上を支援し、メンバーの気持ちに配慮しながら支え、目標を妨げるメンバーの行動に対してはその理由を述べて注意し、チームを目標達成に導くことができる。
	公共心	社会の一員であることを自覚し、社会の問題を自分の問題として考え、社会全体の利益となるよう積極的に行動できる。
	規範意識	自分が判断・行動するときに従うべき基準について深く理解し、自主的・自立的に規律ある行動をすることができる。
	他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力（相互啓発力）	他者の考えや意見（良かった点や改善点など）に素直に真摯な態度で耳を傾けるとともに、自分の考えや意見を謙虚に誠実な態度で発表したり、お互いのすぐれた点を見習ったりすることで、お互いに視野を広げ、啓発し合うことができる。
自己制御的要素	意欲	生涯にわたって学び続けていきたいという学修意欲、自らを向上させて自分に合った職業について自立した社会生活を送りたいという就業意欲、ボランティア活動・地域活動等に参加して社会に貢献したいという社会参加意欲、高い目標を持ち成し遂げたいという目的意欲を持っている。
	忍耐力	目標を持ち、その実現のために、自分の欲求や衝動を適切にコントロールし、信念を持って粘り強く取り組むことができる。
	自分らしい生き方や成功を追求する力（自己受容・自己実現力）	自分をありのままに直視して受け入れたり、成功モデルや理想像、十年後の自分（必然的未来像）を思い描いて踏み出したり、自分の可能性を探し、広げ、生かしていくことで、自己実現に向けて努力できる。

教師自身が己の能力開発に努める。

おおくまが目指す 考える教員集団

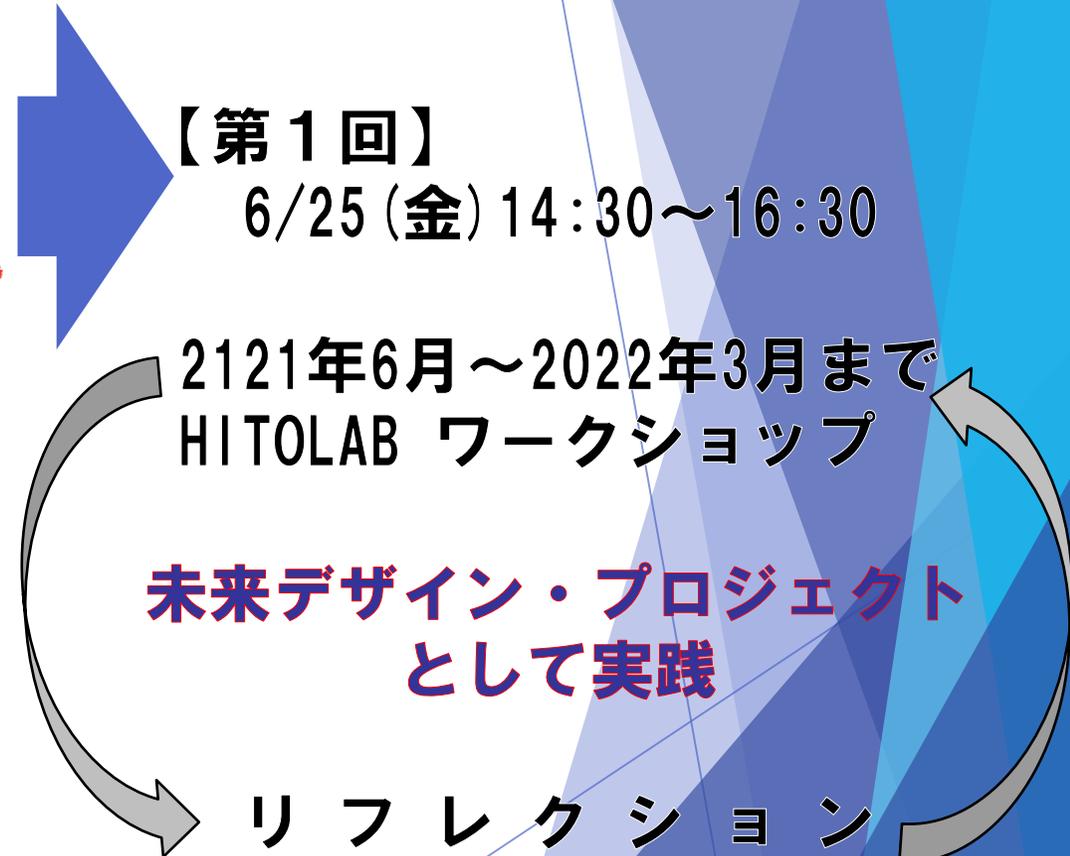
- 1 **ビジョン策定** → 教職員が**プロ**としての唯一無二のキャリアストーリーを創る。
- 2 **余白をつくる** → 学校のそもそもリストによる**事務内容の見直し**。
→ **極少人数**の学校規模の強み。
→ **Ed-tech**による効率化。
- 3 **チームになる** → 小中学校**教科担任制**。教科部会。**お互い様、お陰様**の意識。
→ リクルート**HITOLAB**による研修プログラム。
→ **リスペクト**。
- 4 **探索・探求する** → **先進校**（自由の森学園、大日向小学校、風越学園、
新渡戸文化学園、札幌新陽高校など）視察。
- 5 **実践し、体得する** → **未来デザインプロジェクト**。
- 6 **対話、越境を重ね、自律していく** → **リフレクション**。解説・評価・賞賛。
→ **大学サテライト**。

考える教員集団育成のための おおくまmethod

* リクルート・ヒトラボのプログラムを活用し、教員自身が学習し、成長するノウハウを学び、唯一無二のキャリア・ストーリーを創る。

学習する学校 スクールリーダー・教員養成プログラム 全体像

	テーマ	概要	備考 (学習する学校)
1	多様性・自己理解・生徒理解	MBTI、ストレングスファインダー、マルチプルインテリジェンス等のツールを活用し、人間の多様性を捉える力を磨く。	セルフマスタリー
2	教育理念・教育方針の自分事化 (共有ビジョン)	自己の動機の源を知り、教育理念・教育方針を実現するために、自己のクワイエットデメンション (内発的動機付け) を活かす方法を学ぶ。ヒエラルキーが求める主体性と、(管理者のいない) ティール組織が求める主体性の違いを理解し、育む生徒エージェンシーの姿を理解する。	ビジョン共有 セルフマスタリー
3	学習力(メタ認知・リフレクション・対話)の基礎	自己の感情、思考、価値観 (ものの見方) を俯瞰するリフレクション力を磨く。	メンタルモデル
4	ミネルバ大学探究プログラム (1)	脳神経科学に基づいた「学び方を学ぶ」プログラムを体験し、PBLや探究学習のベースとなる考え方を理解する。	探求学習
5	ミネルバ大学探究プログラム (2)	「複雑性のマネジメント」を学ぶプログラムを体験する。システム思考、行動科学、EQ、チームダイナミクスなどがその要素。	探求学習
6	対話・対立・共創する力	対立を話し合いで合意形成する力を磨く。多様な意見を活かし、新たなアイデアを創造する力を磨く。	対話、チーム学習
7	経験から学ぶ力	経験から学ぶリフレクション力を磨き、OECD 学びの羅針盤2030に紹介されているAARモデルの実践方法を学ぶ。	リフレクション、AARモデル
8	アンラーン・自己変容	前例を踏襲しない問題解決に不可欠な、自らの成功体験を手放し、新しいものの見方を持つために必要なアンラーンのスキルを磨く。教育に求められる変化を、自己変容に結びつける。	メンタルモデル
9	システム思考	複雑な問題を解決するために必要なシステム思考・氷山モデルの活用方法を学ぶ。	システム思考
10	教員のリーダーシップ (①～⑨の学びの総括)	自己らしさを活かした教員の姿、リーダーシップの在り方を見出す。教師と生徒が共同エージェンシーとして共に学ぶ学習する学校を目指す。	リーダーシップ/共同エージェンシー



【第1回】

6/25 (金) 14:30～16:30

2021年6月～2022年3月まで
HITOLAB ワークショップ

未来デザイン・プロジェクト
として実践

リフレクション

* 全10回を実施予定 *

子どもの学びを活かす校舎

～ 多 様 性 × 混 在 ・ ア ナ ロ グ × デ ジ タ ル ～

校舎設計におけるテーマ

「多様性と混在」

【多様性とは】

- 年齢、所属や立場を超えて**多様な人と出会う**
- **多様な空間と出会う**（一人で静かに学びに没頭できる場所、みんなで語り合える場所、読書にふける場所、お気に入りの場所、心が落ち着く穏やかな場所、やる気みなぎる場所など）
- **多様な文化と出会う**（書籍、絵画、工芸、音楽、歴史、伝統など）
- **多様な体験と出会う**（ものづくり、栽培、調理、演劇、スポーツなど）
- **多様な学びと出会う**（個別最適化された学び、グループ学習、探究的な学びなど）

【混在とは】

- **多世代が混在**する（乳児、幼児、児童、生徒に加え、教職員、地域の方々、大熊を応援する様々な方々が混ざって一緒に遊んだり、学んだり、活動したりする空間）
- 発達段階に応じた活動場所が混在する
- **アナログとデジタルが混在**する（実物に触れる、直接体験する、文字や映像として理解する、仮想的に体験する、遠隔での交流など）

0才から15才までが学び・地域住民も集う校舎

■外観パース



図書ひろば(おおくまベース)を中心としたゾーニング



校舎と敷地のイメージ

■配置計画図（外構計画図）

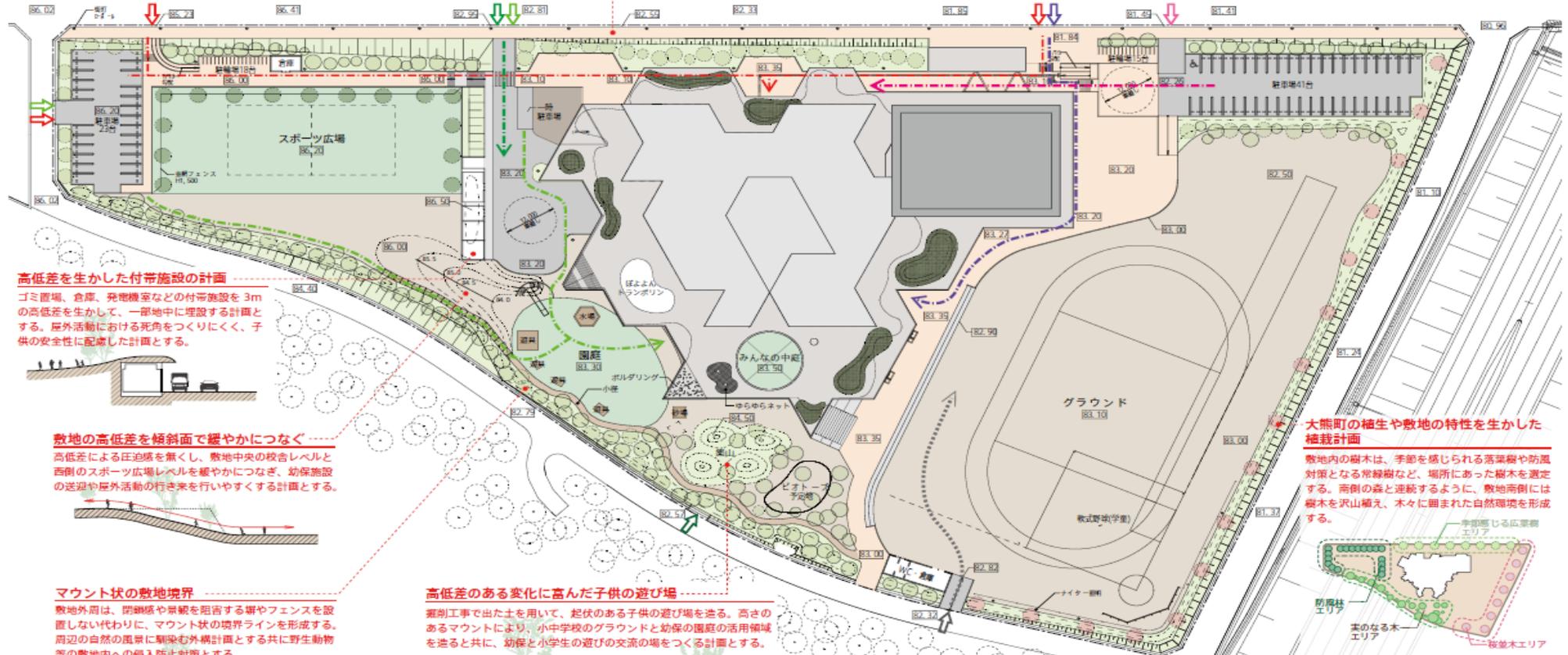
施設へのアプローチは、幼児、小中学生、教職員、地域住民など利用者に合わせた出入口・アプローチを計画し、それぞれの付近に管理諸室を配置し、職員の視認によるセキュリティを確保した計画とする。外部に隣接する各教室には、外部空間を取り込み、床仕上げをウッドデッキや土間、深い軒を出し、半屋外領域を形成する。屋内、半屋外、屋外と段階的な領域づくり、屋内外の連続した活動や周辺の自然環境を享受しやすい計画とする。

施設を取り囲む大きなプロムナード

人を施設へと自然に引き寄せる大きなプロムナードを施設周囲を取り囲むように計画する。歩行性に配慮した舗装ブロックを採用し、児童や利用者のアプローチを演出する。



凡例		
舗装ブロック (プロムナード)	利用者	利用者出入口
天然芝・人工芝	教職員	教職員出入口
クレイ舗装	児童 (小中)	児童出入口
	保護者送迎	保護者送迎出入口
	サービス	サービス出入口
	緊急車両	緊急車両出入口



高低差を生かした付帯施設の計画
ゴミ置場、倉庫、発電機室などの付帯施設を3mの高低差を生かして、一部地中に埋設する計画とする。屋外活動における死角をつくりにくく、子供の安全性に配慮した計画とする。

敷地の高低差を傾斜面で緩やかにつなぐ
高低差による圧迫感を無くし、敷地中央の校舎レベルと西側のスポーツ広場レベルを緩やかにつなぐ。幼保施設の送迎や屋外活動の行き来を行いやすくする計画とする。

マウント状の敷地境界
敷地外周は、閉鎖感や景観を阻害する塀やフェンスを設置しない代わりに、マウント状の境界ラインを形成する。周辺の自然の風景に馴染む外構計画とする共に野生動物等の敷地内への侵入防止対策とする。

高低差のある変化に富んだ子供の遊び場
掘削工事が出た土を用いて、起伏のある子供の遊び場を造る。高さのあるマウントにより、小中学校のグラウンドと幼保の園庭の活用領域を造ると共に、幼保と小学生の遊びの交流の場をつくる計画とする。

大熊町の植生や敷地の特性を生かした植栽計画

敷地内の樹木は、季節を感じられる落葉樹や防風対策となる常緑樹など、場所にあった樹木を選定する。両側の森と連続するように、敷地南側には樹木を沢山植え、木々に囲まれた自然環境を形成する。



幼保・義務教育学校ゾーン (1階)

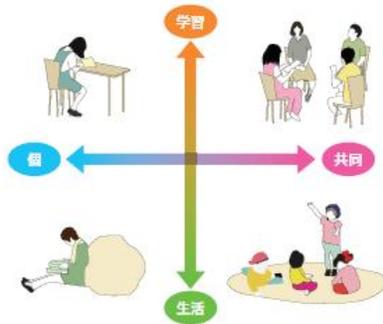


義務教育学校・大学サテライト・教員研修ゾーン(2階)

■2階平面計画図

□学習環境の考え方

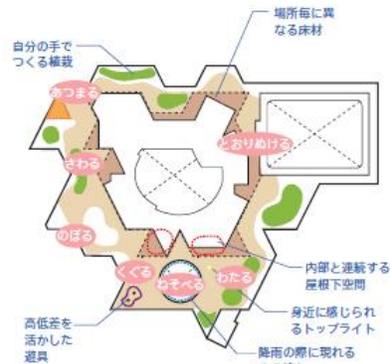
施設全体の学習環境の設えとして、落ち着いて学習に集中できる環境からリラックスできる環境、個人で学習する環境から共同で学習する環境、様々なシチュエーションに対して対応する場所を用意し、生徒が自分で環境を選択しながら学習できる計画とする。



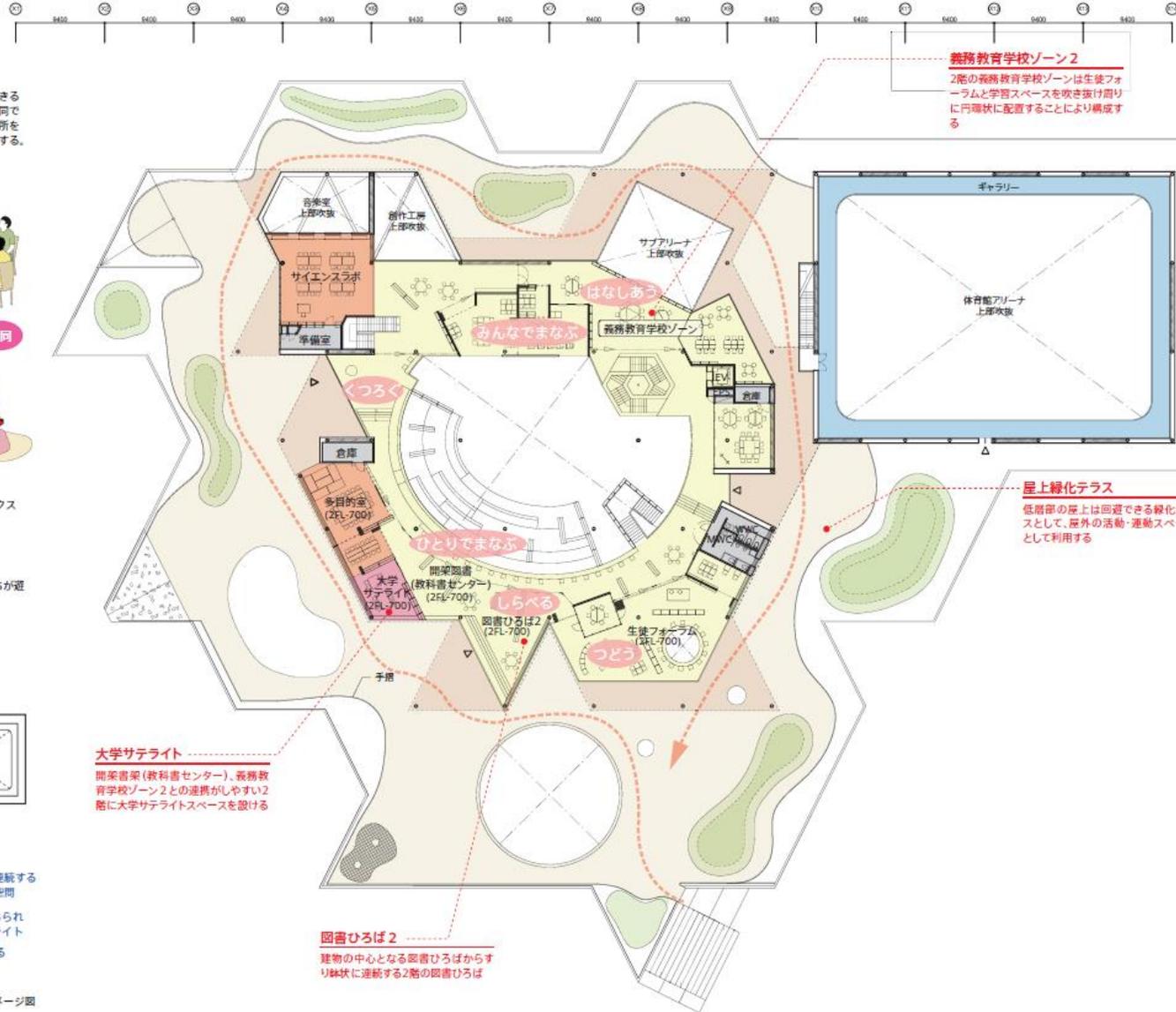
学習空間マトリクス

□屋上広場計画

1階屋上は、「遊びと創造のひろば」をテーマとし、子供たちが遊びながら学べる仕組みを随所に取り入れる計画とする。



屋上広場計画イメージ図



義務教育学校ゾーン2

2階の義務教育学校ゾーンは生徒フォーラムと学習スペースを吹き抜け周りに円環状に配置することにより構成する

屋上緑化テラス

低層部の屋上は回遊できる緑化テラスとして、屋外の活動・運動スペースとして利用する

大学サテライト

開架図書(教科書センター)、義務教育学校ゾーン2との連携がしやすい2階に大学サテライトスペースを設ける

図書ひろば2

建物の中心となる図書ひろばからすリ鉢状に連統する2階の図書ひろば

なぜ、学びの自律化・個別最適化か？
～目的をおさえる～

横浜創英中学・高等学校長 工藤 勇一

【OECD Learning Framework 2030】

【個人の Well-Being】

人が社会の中で
よりよく生きていく



【社会の Well-Being】

よりよい(持続可能な)
社会をつくる



2030年

人口爆発

食糧問題

環境問題

.....

.....

.....



どの問題も
利害の対立が起こる
解決は簡単じゃない

人類は岐路に立つ

自国だけでは問題解決できない時代に！

2015年
国連で採択
世界161カ国

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

17の開発目標

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

【OECD Learning Framework 2030】

【個人の Well-Being】

人が社会の中で
よりよく生きていく



【社会の Well-Being】

よりよい(持続可能な)
社会をつくる

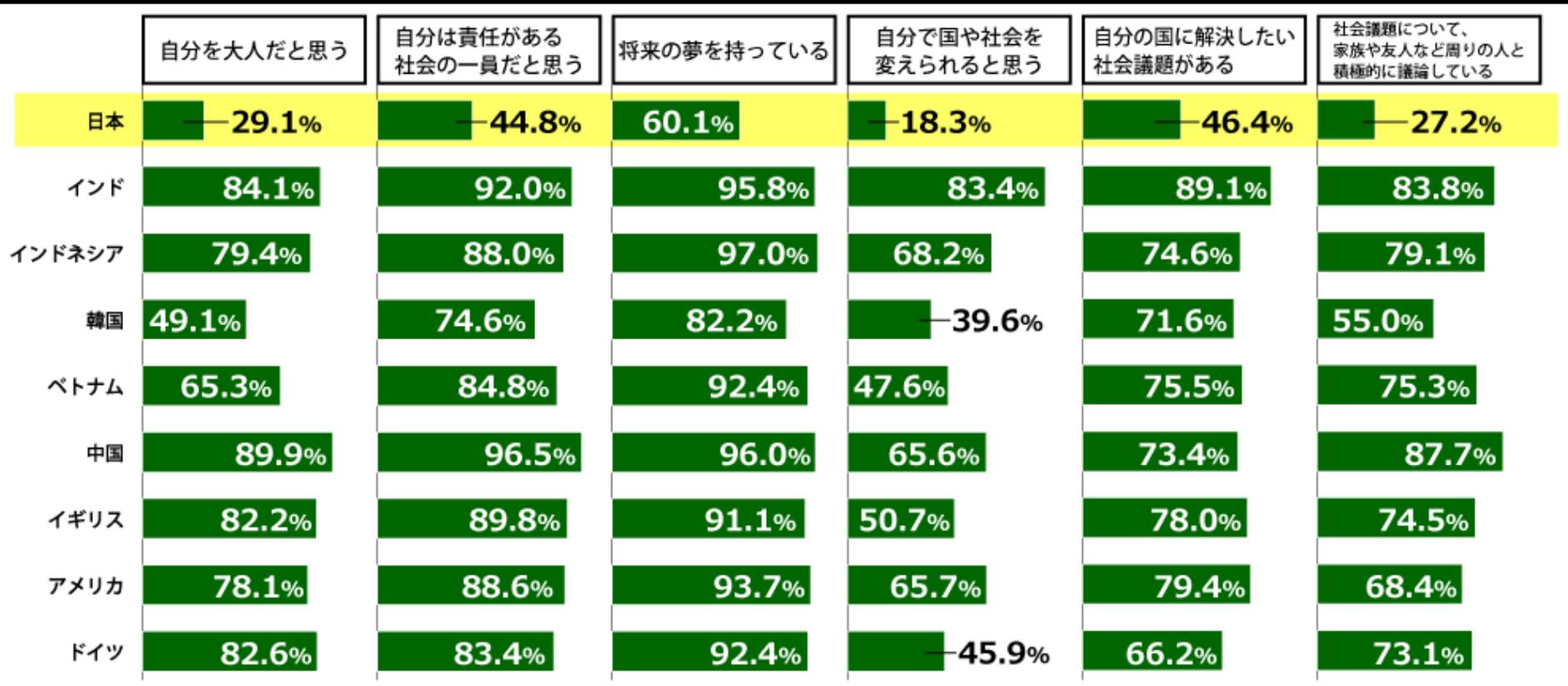


当事者意識

ますます自己決定する力が必要

なのに・・・

若者の「国や社会に対する意識」



国:

日本

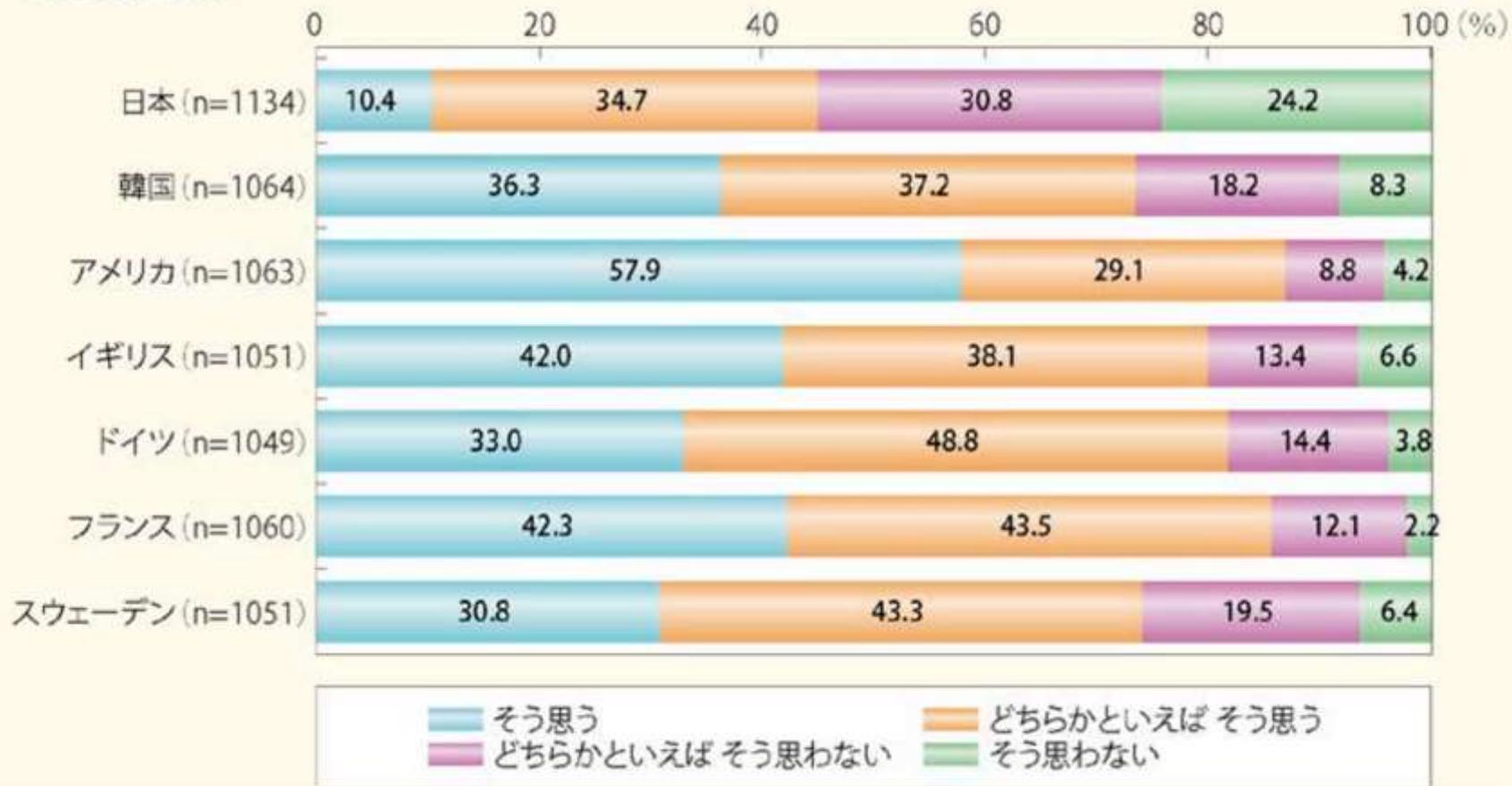


図表3

自分自身に満足している

内閣府 2019年版「子ども・若者白書」から

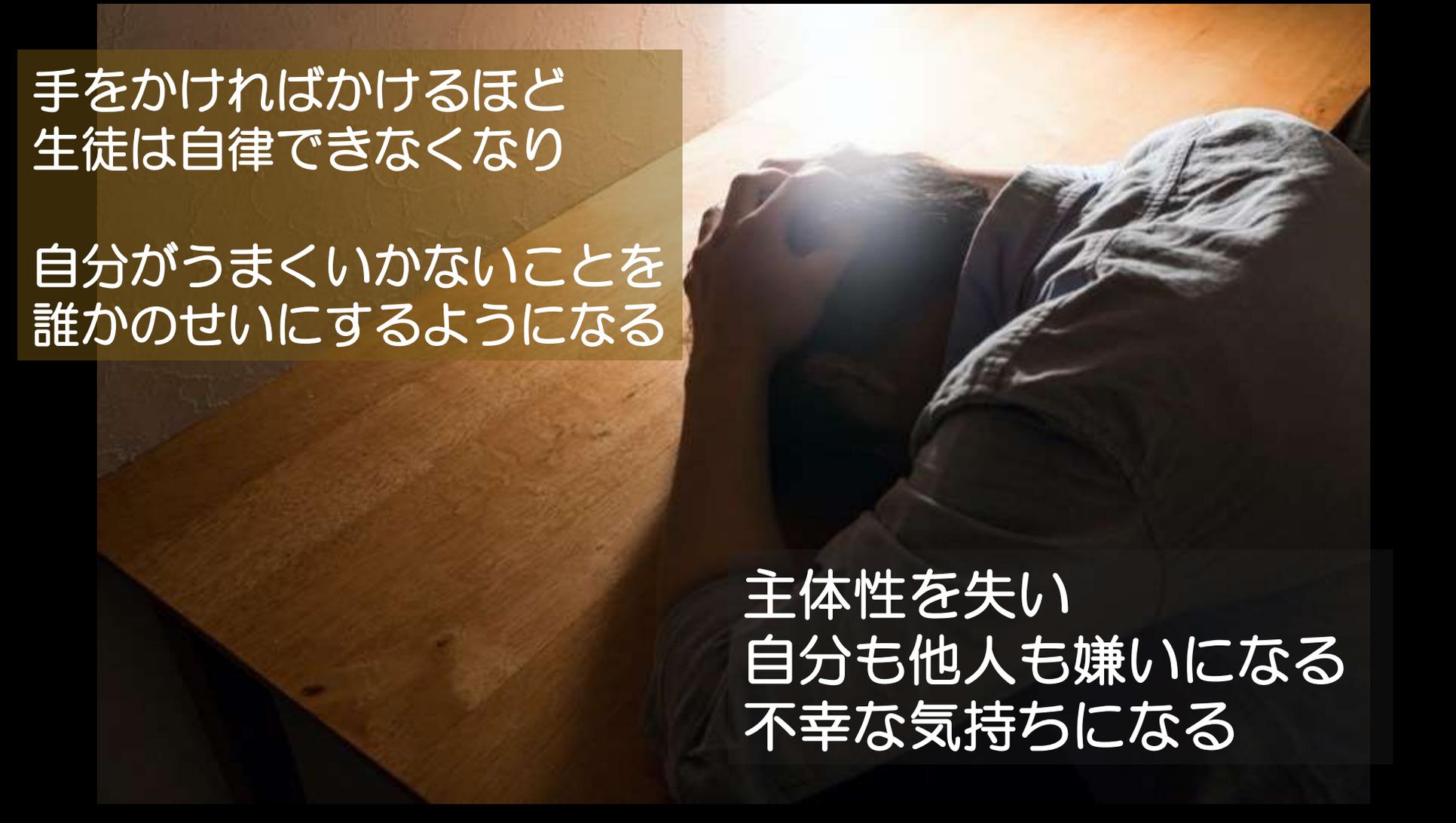
(a) 諸外国比較



人は与えられることに慣れていく

(サービス産業化した教育)





手をかければかけるほど
生徒は自律できなくなり

自分がうまくいかないことを
誰かのせいにするようになる

主体性を失い
自分も他人も嫌いになる
不幸な気持ちになる

主体性を失う

幸福度の低さ

与え続ける教育

当事者意識のなさ

自己肯定感の低さ

目的 自律した生徒を
育成する

生きる力



手段の目的化

目的 基礎学力を
身につけさせる

徳育

豊かな人間性

知育

確かな学力

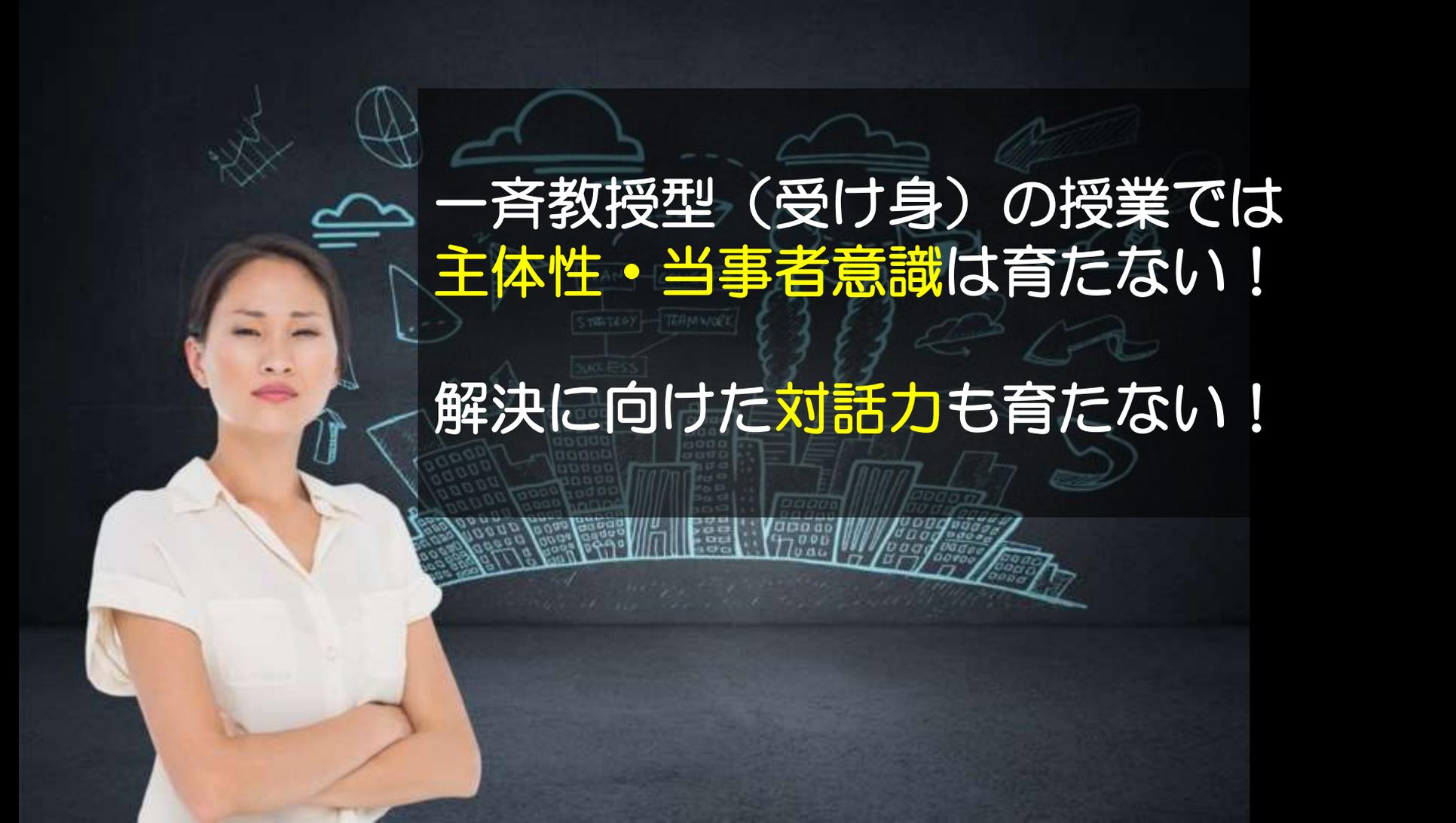
体育

体力・健康

〈これまでは**教師**の立場から見てきた〉

1. 何を教えて（カリキュラム）

2. どう教えるか（教え方）

A woman with her arms crossed stands in front of a chalkboard. The chalkboard is filled with various business-related diagrams and drawings in white chalk, including a city skyline, a flowchart with boxes labeled 'STRATEGY', 'TEAMWORK', and 'SUCCESS', and several arrows pointing in different directions. The background is dark, making the white chalk drawings stand out.

一斉教授型（受け身）の授業では
主体性・当事者意識は育たない！

解決に向けた対話力も育たない！

〈これからは**学習者主体**で〉

LEARNING

1. 何を学んで（カリキュラム）
2. どう学ぶか（学び方）

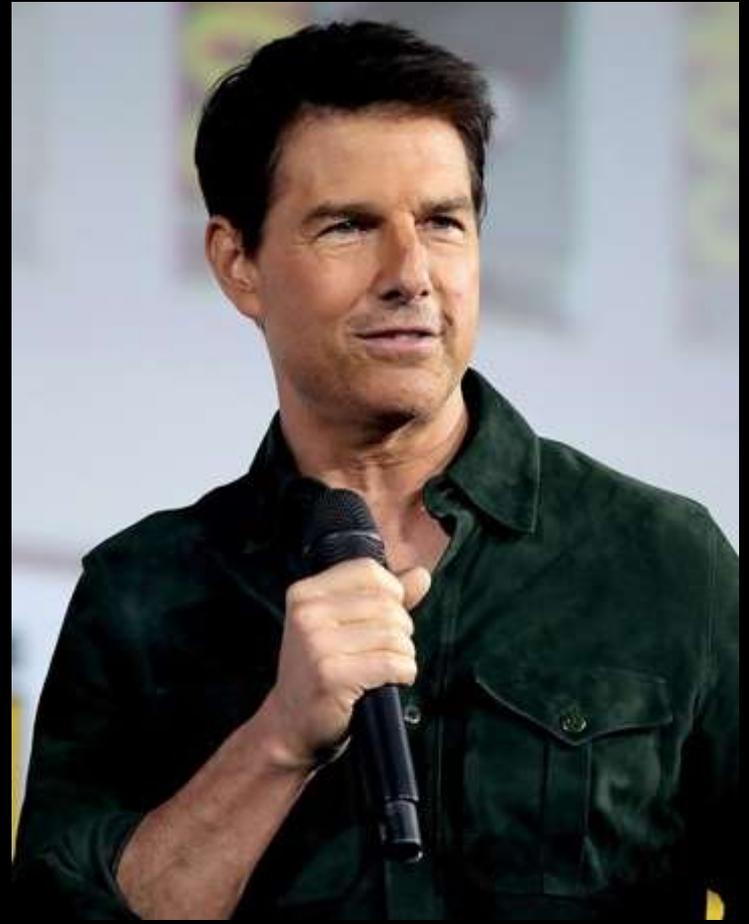


五年生男児のノート

夏と冬で降水量が逆なのはなぜか
考えよう。

季節風は季節によって決まる。北風
向にふく風のこと

学びのスタイルは人それぞれ異なる



五年生男児のノート

夏と冬で降水量が逆なのはなぜか
考えよう。

季節風は季節によって決まる。北風
向に吹く風のこと

9月7日（月）単位量あたりの大きさ②

速さを求める式

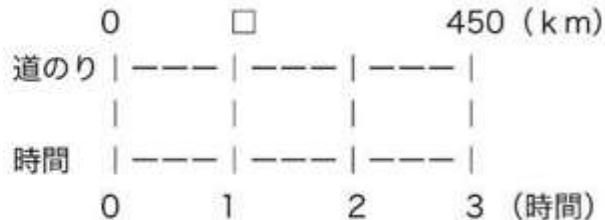
速さ = 道のり ÷ 時間

めあて

どちらが速い？

・はくたか号 → 450kmを3時間

・ひかり号 → 366kmを2時間



はくたか
 $450 \div 3 = 150$
A、150km進む

ひかり
 $366 \div 2 = 183$
A、183km進む

× 3

→

□km | 450km

----- | -----

1時間 | 3時間

→

× 3

時速…1時間あたり |

分速…1分あたり | に進む道のり

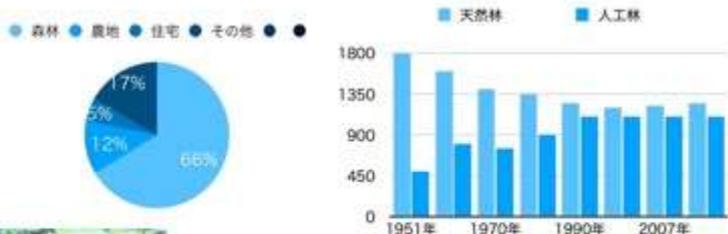
秒速…1秒あたり | で表した

速さ。

PC
利用
（数日後）
五年生男児のノート

PC利用(半年後)

五年生男児のノート



0~2年 苗木を育てる

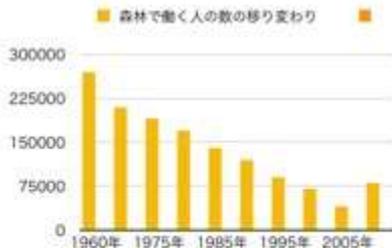
2~10年 苗木を育て雑草を狩る

10~40年 枝打ちをし間伐をする

40~50年 木を切り出して運ぶ

東京都森林組合の話

木を植えて切り出すまでには、多くの作業と50年以上の長い年月がかかります。
この仕事は、山のきつい斜面で大きな木を切ったり運んだりします。
少しでも気を緩めると大きな事故につながるので注意して作業をしています。
また、この地区の森林は杉やヒノキが多く毎日たくさん花粉が発生しています。
そこで大きくなった杉やヒノキをきって多摩産材として活用し、新たに花粉の少ない杉を植え
花粉の少ない森林に変えています。



昔と比べて、木材に代わる材料が増えたことで木材自体の利用が減っています。
また、外国の木材との競争などにより安くなりすぎたため木が切られなくなっています。
そのため、日本では昔と比べると林業で働く人が少なくなり高齢化も進んでいます。



めあて
グラフから計算しよう
1990年(全体) 205億t
日本→割合 5.1% = 0.051t
205(億) × 0.051 = 10.455
A 10.455億t

2016年(全体) 323億t
日本→割合 3.5% = 0.035t
323(億) × 0.035 = 11.305
A 11.305億t

1990年(全体) 205億t
中国→割合 10.3% = 0.103t
205(億) × 0.103 = 21.115
A 21.115億t

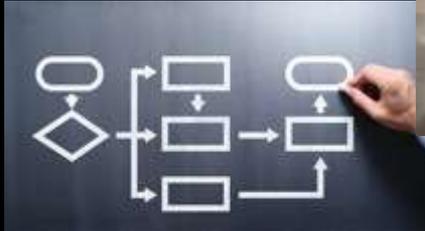
2016年(全体) 323億t
中国→割合 28.2% = 0.282t
323(億) × 0.282 = 91.086
A 91.086億t

3月1日(月)データの活用

めあて
データを読み取り気付いた事を話し合おう。



学び方 = 将来の働くスタイルに



〈これからは**学習者主体**で〉

LEARNING

1. 何を学んで（カリキュラム）
ICTテクノロジー
2. どう学ぶか（学び方）





2009年よりデジタルテクノロジーを活用した
教育イノベーション

EdTechの研究・実践 ＜社会実装＞

さとう まさひろ
佐藤 昌宏

デジタルハリウッド大学 学長補佐 教授
一般社団法人 教育イノベーション協議会 代表理事
株式会社グローナビ 代表取締役

■ NTT、ライブドア、デジタルハリウッドの実務経験と二度の起業を経験し、現在はデジタルハリウッド大学院にて、実務家教員として「EdTechイノベーションに関する研究実践」について学生の指導を行う。

■ 2004年には、構造改革特区を活用した、日本初の株式会社による専門職大学院デジタルハリウッド大学院の学校設置メンバーとして設立に参画する。

<人間工学とは>

人間の身体的・認知的・精神的特性を理解し、人間とシステム要素を等距離に捉え、仕事、機械・道具、環境、組織、社会システム、組織文化との相互作用の適正化を図る実践科学

引用：一般社団法人日本人間工学会

開催概要

学会名	日本人間工学会第62回大会
主催	一般社団法人 日本人間工学会
共催	大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部
会期	2021年5月22日(土)～23日(日)
会場	大阪工業大学梅田キャンパス(〒530-8568 大阪市北区茶屋町1-45)およびオンライン
事前接続・配信テスト	2021年 5月15日(土) 10:00～12:00, 5月16日(日) 10:00～12:00 ZoomのID, パスコードは5月10日頃までにお知らせします。
大会長	大須賀 美恵子(大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部 教授)
テーマ	新しい生活様式を支える人間工学
特別講演	5月22日(土) 14:30～16:00 EdTechが変える教育の未来 講演者: 佐藤 昌宏(デジタルハリウッド大学 教授・学長補佐)
運営事務局	日本人間工学会第62回大会運営事務局 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-9-6 十全ビル4階 株式会社ドーモ内 TEL 03-5510-7923 / FAX 03-5510-7922 E-mail : jes2021@do-mo.jp

ここまでは昔からやってきた！

「人間と システム（仕組み）の適正化を図ること」
教育・学び

EdTech（エドテック）

デジタル
テクノロジー

イノベーション

<本WGで考えたいこと>

1. (多様な) 人間とは？
2. それを支える仕組みとは？

現代のデジタルテクノロジーは
金棒のように寄り添う

デジタルテクノロジーを活用した 教育の イノベーション がもたらす

EdTech（エドテック）をこう定義した

先端技術のみならず汎用技術を活用して
教育のビフォアアフターを創出すること

神野 元基(じんの げんき)

株式会社COMPASS ファウンダー

合同会社LINKALL 代表

中央教育審議会 初中等部会臨時委員

産業構造審議会 教育イノベーション小委員会委員

宮崎市 教育CIO

学校法人 東明館学園 理事

- ・ 北海道網走市出身
- ・ 慶應義塾大学在学中より起業家として活動
- ・ 2010年 シリコンバレーで起業
- ・ 2012年 八王子で学習塾COMPASSを開校
- ・ 2014年 **AIドリル Qubena(キュビナ)** の開発に着手
- ・ 2019年 中央教育審議会 臨時委員に就任
- ・ 2021年 宮崎市**教育CIO**として活動



経済産業省「未来の教室」実証事業

千代田区立麹町中学校にて9月より始動

中学1年生の実施カリキュラム

従来の授業

中学1年生(2・3学期)の学習

実証事業の
授業計画

中学1年生(2・3学期)の学習

中学2年生(1学期~)の学習

STEAM教育

中学1年生の2・3学期の学習範囲を修了

中学2年生の学習範囲を先取り

数学を実践的に活用した
STEAM教育を実施



Qubenaによる单元内自由進度学習

「習熟」と「実践」
の学習サイクル



数学を実践的に活用したSTEAM教育

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

個別最適な学び(「個別に応じた指導」(指導の個別化と学習の個性化)を学習者側の視点から整理した概念)

それぞれの学びを往還

協働的な学び

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識等を確実に習得させるため、ICTの活用や専門性の高い教師によるより支援が必要な児童生徒へのより重点的な指導などによる効果的な指導
- 子供たち一人一人の特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行うとともに、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、専門性の高い教師による個々の子供に応じた学習活動の提供
- 自ら学習を調整するなどしながら、その子供ならではの課題の設定、子供自身による情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、主体的に学習を最適化することを教師が促す

- 知・徳・体を一体的に育むため、教師と児童生徒の関わり合いや児童生徒同士の関わり合いなど様々な場面でのリアルな体験を通じた学びやICTの活用による他の学校の子供たちとの学び合いなど
- 学校ならではの協働的な学び合いや、地域の方々をはじめ多様な他者と協働した探究的な学びなどを通じ、持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力を育成

子供の学び

幼児教育

- 小学校との円滑な接続、質の評価を通じPDCAサイクルの構築等により、質の高い教育を提供
- 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる

義務教育

- 先端技術の活用等による資質・能力の確実な育成、一人一人の興味・関心等に応じ意欲を高めやりたいことを深められる学びの提供
- 学校ならではの協働的な学び合い、多様な他者と協働した探究的な学びなどを通じ、地域の構成員の一人としての意識を育成
- 生活や学びにわたる課題(虐待等)の早期発見等による安全・安心な学び

高等学校教育

- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力が育まれる
- 地方公共団体、企業、高等教育機関、国際機関、NPO等の多様な関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学び
- 多様な子供たち一人一人に応じた探究的な学びや、STEAM教育など実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学び

教職員の姿

- 教師が学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供たち一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たしている
- 多様な人材の確保や教師の資質・能力の向上により質の高い教職員集団が実現し、多様なスタッフ等とチームとなり、校長のリーダーシップの下、家庭や地域と連携しつつ学校が運営されている
- 働き方改革の実現により教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、志望者が増加し、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができている

子供の学びや教職員を支える環境

- 小中高における1人1台端末環境実現、デジタル教科書等の先端技術や教育ビッグデータを活用できる環境の整備等による指導・支援の充実、校務の効率化等
- 災害や感染症発生時でも不安なく学習継続できる学校施設の整備、教職員配置の在り方も含めた新しい時代の学びの環境整備
- 小中連携、学校施設の複合化・共用化等の促進を通じた魅力的な教育環境の実現

「未来の教室」で描く宮崎市の教育戦略デザイン

AI を活用した「個別最適化学習」による
宮崎市ならではの「未来の教室」を創造する。
KEYWORD : Edtech、STEAM 教育、地域貢献

基本理念：宮崎で育ち、学ぶことを通して、郷土に誇りと愛着をもつ感性豊かな「みやざきっ子」の育成
望ましい教職員像：宮崎を愛し 専門的力量と見識を備えた 信頼される教職員



「未来の教室」で育てたい子ども像：自分や地域の課題に向かって、他者と協働しながら、主体的・創造的に解決し、自ら未来を切り開く子ども



導入期	
アミこまざっ子	朝自習の時間での活用
	個に応じた問題ができ、一人一人の学びの自立化と学力の定着が図られる。 朝自習のプリント問題の作成時間が軽減できる。保護者の費用負担も軽減できる。

アミこまざっ子	小規模校（複式指導）での活用
	先生に頼らず、自ら学ぶことができ、複式指導（間接指導）が充実する。 学級担任や複式緩和の非常勤講師の負担が軽減できる。

拡充期	
アミこまざっ子	授業における習熟の時間での活用
	個に応じた習熟ができ、教員の個別指導により全員の学習内容の定着が図られる。 学習プリントの作成時間が軽減できる。個別指導の充実が図られる。

アミこまざっ子	少人数指導（数学・外国語）での活用
	個別最適化された学習が進められ、学習意欲の向上と学力の向上が期待できる。 教科担任の個別指導の充実が図られる。少人数指導講師の負担が軽減する。

充実期	
アミこまざっ子	日常の授業での活用
	一人一人が個々のペースで演習を行い、単元内の自由進度学習が実現する。 学習意欲が向上し、先生への質問や生徒同士のコミュニケーションが増える。 児童生徒の学習への取組がデータで可視化され、評価に活用できる。
	学習の進捗が速いため、探究型学習の授業が創出できる。
	創出された時間で数学を実践的に活用した STEAM 教育や次学年の先取り学習が実施できる。

目指す姿

「個別最適化学習」による・・・

児童生徒による主体的・創造的な学び

＜ 児童生徒 ＞

- 学習意欲の向上・基礎学力の向上
- コミュニケーション能力の向上
- 課題発見力の向上・自己解決能力の向上
- 新しいものを生み出す創造力の向上

＜ 教職員 ＞

- 個別指導の充実（机間指導の時間の拡大）
- 個々への適切な評価の実現と学力の保証
- 余剰時間の創出（創造的な学びへの活用）
- 地域とのつながりを生かした探究型学習
- 総合的な学力を身に付けるカリキュラムの創造
- 業務の負担軽減・働き方への意識改革

これまでの学び + Edtech + これからの学び = 「未来の教室」

アミこまざっ子	教育支援教室（適応指導教室）での活用
	自分に合った問題に自分のペースで取り組める環境で、学びの自立化が図られる。 教育支援室に通う児童生徒が増え、自分に自信を持ち、不登校の減少につながる。

数学を実践的に活用した STEAM 教育
社会問題等の課題解決の手段としてテクノロジーと数学等を実践的に活用する学習

地域とのつながりを生かした探究型学習
世界とつながり宮崎に貢献できるグローバル人材を育成するためのカリキュラム

校務支援システムの導入による教職員のワークスタイル改革
資料作成等の時間削減、評価や成績処理の時間削減、個別指導の時間の創出、余剰時間の創出、意識改革

アミこまざっ子	家庭学習（オンライン学習）での活用
	授業で行った問題がタイムリーに宿題で行え、学習内容の定着が図られる。 学習ログの活用による評価と支援により、臨時休業中でも学習機会が確保できる。

- 「Edtech」を充実させるための環境整備**
- 1人1台のタブレット PC（インターネット接続、授業支援ソフト・AI 型ドリル教材の導入）
 - 学習基盤となる情報活用能力（情報モラルを含めた情報リテラシーとタブレット端末の操作スキル）
- 学校のフレキシブルな教育課程の創造・学校 BPR（業務改善）**
- 授業時数の変更や地域の特性を生かした新しい探究型学習の創造など柔軟な教育カリキュラムの編成

「未来の教室」に向けた3つの柱

学びの自立化・個別最適化

個人の認知特性や到達度に合わせた学び
一人一人の特性等に対応し、一人も取り残さない学び
個々の能力を最大限に引き出す学び

学びの STEAM 化

「知る」と「創る」が循環する学び（価値創造のため）
ふるさと宮崎に誇りと愛着をもたせる学び
地域に貢献できる力を育成するための学び

新しい学習基盤づくり

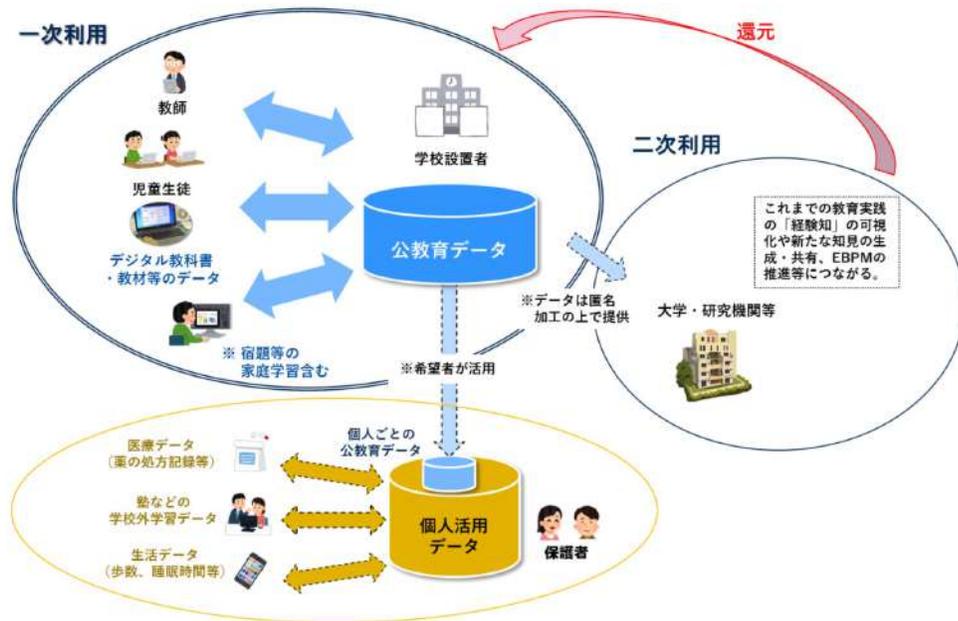
学校 ICT 環境（一人一台）の早期整備
到達度主義の学びへの転換
学校 BPR（時間的余裕の捻出、働き方の意識改革）

経験こそ学び。
将来を見据えた
新しい教育。

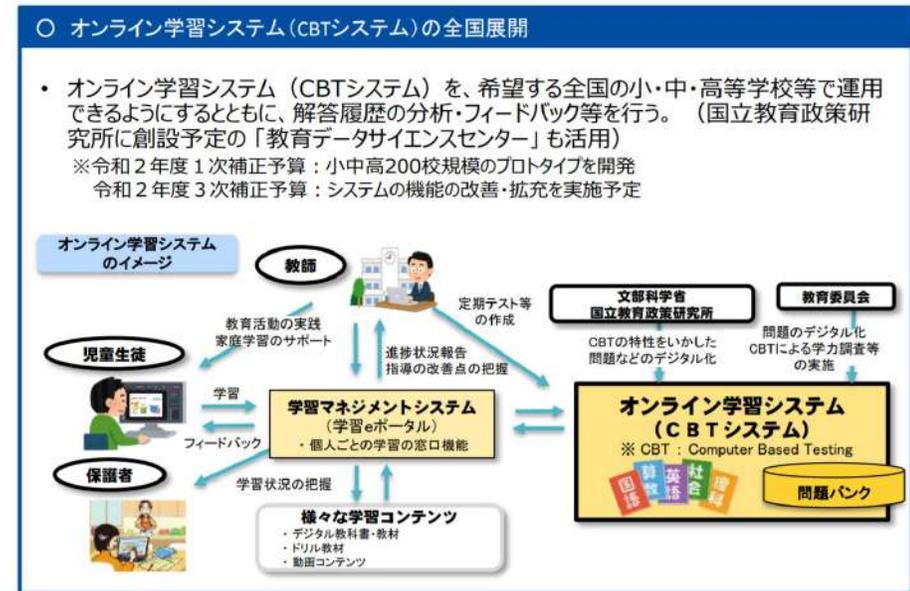
説明会・オープンスクール申し込み

教育データ利活用に関する検討状況

- 文部科学省「教育データの利活用に関する有識者会議」にて、“教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）案”が示され、学校設置者を中心とする公教育データの公教育内での利用に係る内容が検討されている
- また、学びの保障の観点からオンライン学習システム(CBTシステム)の全国展開が検討される中で、学校での学習データについては学習eポータルに集約していくことが検討されている



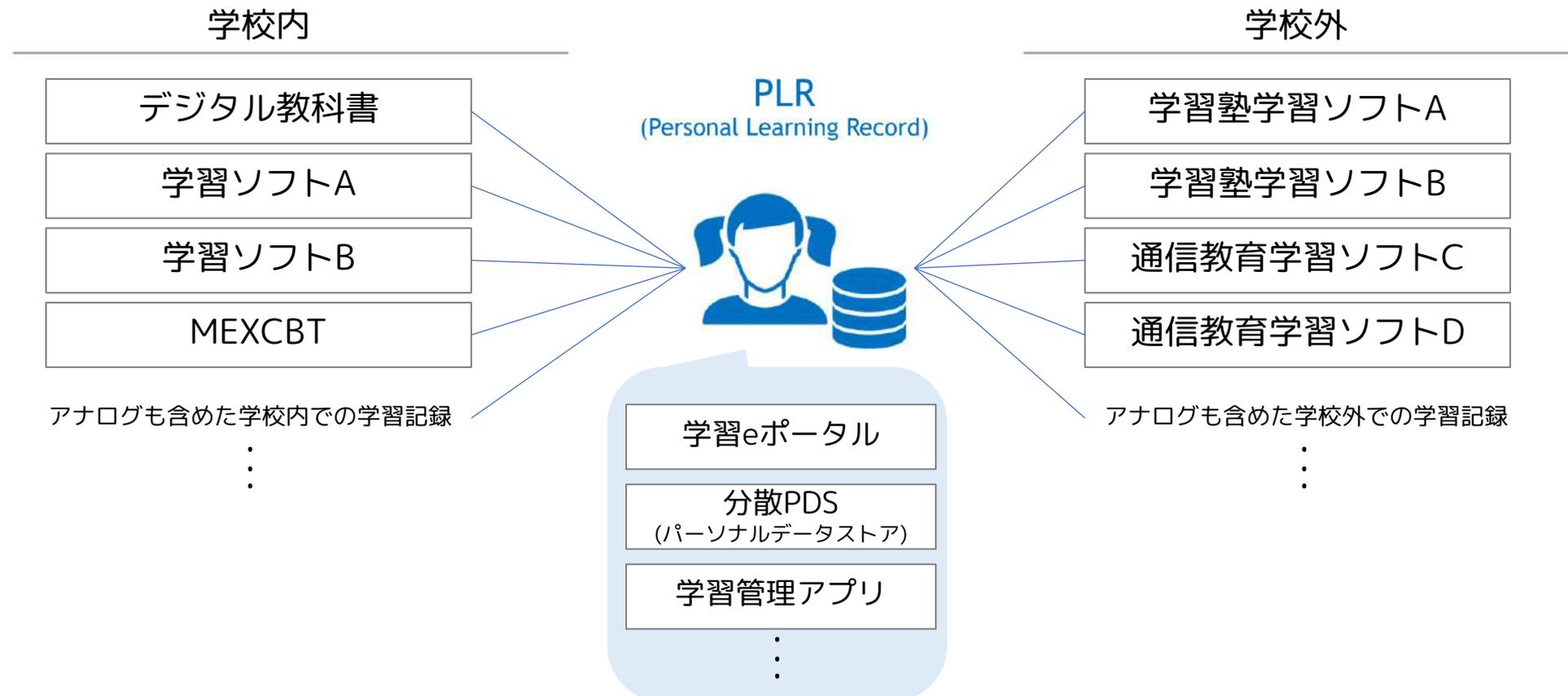
文部科学省“教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）”より



文部科学省“令和3年度文部科学関係予算のポイント”より

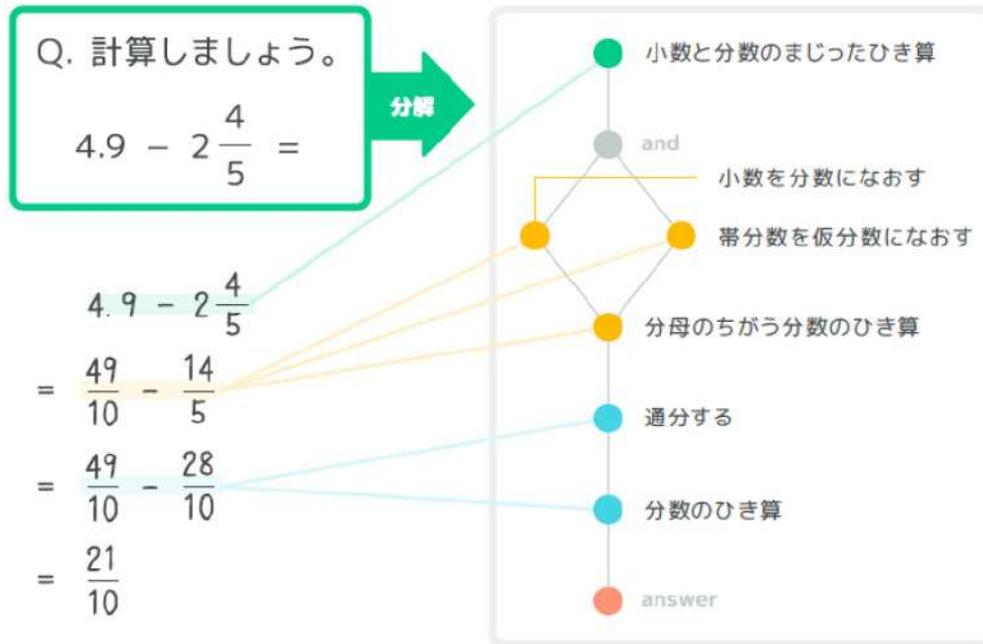
学習者を中心とする教育データ利活用

- 学習者は、学校内・学校外の両方で学習をしており、データは学校内で閉じることなく、学校内と学校外で統合して管理/蓄積を行っていくことが検討されるべきである



学習データのデータ粒度とその活用

- 学習教材によってデータ粒度にはばらつきがあり、データ粒度を学習教材同士で合わせていくことで、データの受け渡し等をシームレスに行っていくことができる
- また、細かい粒度でのデータ取得が可能であれば、今後履修主義ではなく習得主義として単位を認めることや個別学習計画の策定等にも寄与するものと思われる



[OPR] 足し算を筆算で計算する:2けた+2けた (1のくり下がりが0になる):1748:603
[OPR] 和がnより大きくなる式を導く:1750:604
[OPR] 文章を読んで、2けたと1けたの足し算する(くり上がりあり):2081:605
[OPR] 文章を読んで、2けたどうしの足し算する(くり上がりあり):1749:606
[CON] たし算はたされる数とたす数を入れ替えても和が同じ:1752:607
[EXP] のこりを求める式は引き算:1775:609
[OPR] 2けたの数のそれぞれの位の差を求める:2579:611
[EXP] 引き算の筆算で位をそろえてあわす:2591:612
[EXP] 引き算の筆算でくりきをそろえてあわす:2けたと2けた:2624:612
[OPR] 2けたの数のそれぞれのくりきの差を求める:一の位の差を求める:2814:612
[OPR] 2けたの数のそれぞれのくりきの差を求める:十の位の差を求める:2815:612
[OPR] 2けたの数どうしの差を筆算で求める:答えが2けた・くりさがりなし:2634:613
[EXP] 十の位が0のときは書かない:2595:614
[OPR] 2けたの数どうしの差を筆算で求める:答えが1けた・くりさがりなし:2639:613
[OPR] 2けたと1けたの数の差を筆算で求める:答えが2けた・くりさがりなし:2597:613
[EXP] 引き算の筆算でくりきをそろえてあわす:2けたと1けた:2625:615
[CON] 引かれる数より引く数が大きい引き算は計算できない:2649:617
[EXP] 上の位をひとつ、下の位にくりきける:2740:617
[OPR] 2けたの数どうしの差を筆算で求める:答えが2けた・くり上がりあり:2635:613
[EXP] くりさがりの数は下の位に小さく書く:2758:619
[OPR] 2けたの数どうしの差を筆算で求める:答えが1けた・くり上がりあり:2641:62
[EXP] 文章を読んで、引き算の式であわす:2791:623
[OPR] 2けたの数どうしの引き算をする:くり上がりなし:2795:625

一つの問題から学習要素を分解し、
それぞれに対して習熟度のスコアを付与している

うかんむりの富
です

末富 芳(すえとみ かおり)

日本大学文理学部教育学科教授(教育行政学・教育財政学)

内閣府・子どもの貧困対策に関する有識者会議構成員(2014年～)

文部科学省・中央教育審議会臨時委員(初等中等教育分科会教育課程部会)

公益財団法人あすのば理事

1.議論の前に

2.個別の論点について

1.議論の前に

(1)前提を共有することは重要

(2)用語・概念を定義し統一することも重要

(1)前提を共有することは重要

- ▶未来の教室の目指す「公共の利益」は何なのか？
(本スライドno.4)
- ▶新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」が実現されるための課題(資料2,p.2)
→そもそも「主体的・対話的で深い学び」の実現条件と、その条件を実現できているかの現状のアセスメントはどうなっているのか？
- ▶政策ターゲットを意識したディスカッションと対話が重要

エビデンスインフォームドな政策改善サイクル

(末富芳,2021,「教育における公正はいかにして実現可能か?—教育政策のニューノーマルの中での子ども・若者のウェルビーイングと政策改善サイクルの検討—」『日本教育経営学会紀要』第63号,pp.52-68)

Evidence Based Policy Making(EBPM、客観的証拠にもとづく政策立案)

: 一方向的、狭義に解釈されがち、限界もある

(残念ながらPolicy Based Evidence Makingと揶揄されるケースも・・・)

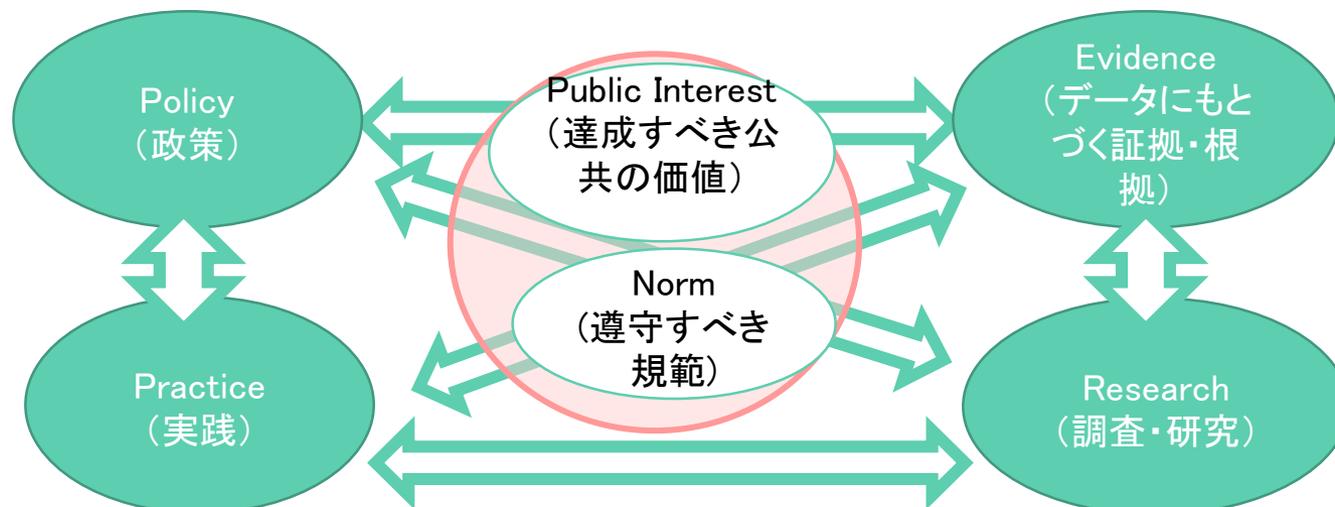
政策目標・政策ターゲットが絞り込まれている状態では良好に機能(医療政策におけるEBM)

Policy
(政策)



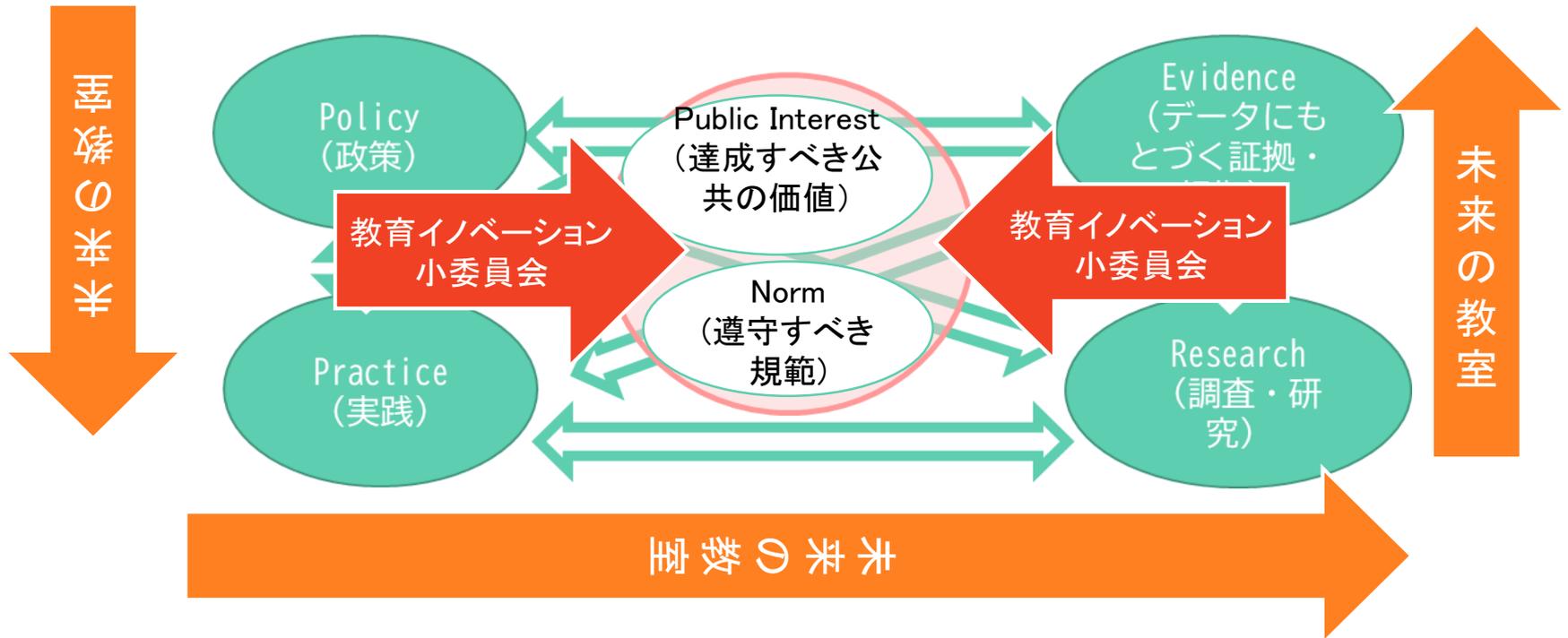
Evidence
(データにもとづく証拠・根拠)

Evidence Informed Policy and Practice(EIPP、客観的証拠を共有し参照しながらの政策立案と実践の展開): エビデンスにもとづきつつ、価値・規範や実践などの**社会・政治的次元との相互作用を重視**



Levacic&Glatter2001,OECD2007,山口ほか2017,林2019,第3期教育振興基本計画等から末富作成

METI・産構審・教育イノベーション小委・学びの自律化・個別最適化WG



中学生・高校生の時期における学習環境改善を主たる対象にしてきた
 (進路多様校、広域通信制高校、別室登校、不登校生徒、オルタナティブスクール、ホームスクーリング)

(2)用語・概念を定義し統一することも重要 (「特例」を「普遍」にしたいのならば特に)

自律的、自律化、個別最適、仕事、福祉、学習者中心、学習ログ、創造性

学習実績管理等

(個別学習計画は具体的取り組みや実践があるので比較的イメージ共有しやすい)

※論点整理案に出現しない言葉も本小委員会の発信と社会への浸透に際して重要

自立、依存、支援、伴走、見守り、公平、公正

2.個別の論点について

- 「学習・仕事・福祉」の一体化(資料2,p.5)
仕事→社会やコミュニティ等の帰属集団の中での役割？
福祉→？？？
- 学校を「高信頼性組織」に近づける(資料2,p.8)
分散型リーダーシップ
ハラスメント相談体制(大人も子どもも尊厳と権利を大切に)
文化変容はルール変更により実現可能(学校の自発性・自律性にのみ過度に期待しない)
- 学校空間の学習環境を再設計、「場の選択肢」も拡充する(資料2,p.10)
居場所カフェ
街中や地域のたくさんの居場所
オルタナティブスクール、フリースクール(人権擁護体制や公の支配問題)
- ポストGIGAスクールの「資金」の作り方(資料2,p.14)
学校施設設備
保護者負担問題(ICT化による軽減はどこまで可能か？)
スクールファンド、コミュニティビジネス

日本の教育学研究の実証・理論はトップダウン型ではなく「分散型リーダーシップ」の有効性を示すエビデンスが多い

志水2020,pp.172-173

「力のある学校」

日本の第一条件は「気持ちの揃った教職員集団」

欧米のEffective Schoolとの違い
-校長が人事権予算権を握る欧米とは異なり
-日本では校長のリーダーシップとともに「気持ちの揃った教職員」の重要性が高い

篠原(2013,p.188)

分散型リーダーシップは実践を重視

実践の構成主体として保護者および地域住民、児童生徒、NPOや民間企業、大学や福祉等の専門機関をも包摂しその多様な関係性の動態を解明する理論として構築されている点である。

露口(2011,p.188)

各学校組織では、授業改善プロセスにおいては、LST（末富注：授業改善チーム）という「組織」が重要であり、(中略)協働性や授業改善を説明する研究は、分散型リーダーシップ・アプローチの特徴であり、長所でもある。
※佐藤・山田2019も類似の知見

スクールミッションやスクールポリシーを有効なカリキュラムマネジメントやプラクティス(実践)に高めるためには、学校・教育委員会の組織実態に即した改善メカニズムの検証や設計が重要(普通科改革も同様に現状の教育実践や学校マネジメントの検証と改善メカニズムの設計が重要)

- ▶一面的な理解・文部科学省2018「学校組織運営体制の在り方について(論点の整理)」(中央教育審議会・学校における働き方改革特別部会・平成30年5月18日))
- ×権限と責任をもった主幹教諭をはじめとするミドルリーダーがリーダーシップを行使する「分散型リーダーシップ」をモデルとした組織運営を進めていくべきであると考え。

引用参考文献一覧

林岳彦,2019,「環境分野における”EBPM”の可能性と危うさ:他山の石として」

<https://www.slideshare.net/takehikoheyashi/ebpm-190936398>

広瀬裕子,2019,「英国 Ofsted の進化仮説: 教育行政のインテリジェンス機関へ —」『日本教育政策学会年報』26巻,pp.82-88

Levacic, Rosalind and Ron Glatter,2001, “‘Really good ideas’? Developing evidence-informed policy and practice in educational leadership and management, *Educational Management & Administration*, Vol. 29 issue: 1,pp.5-25.

OECD,2007,Knowledge Management, Evidence in Education: Linking Research and Policy.

志水宏吉,2020,『学力格差を克服する』ちくま新書

篠原岳司,2012,「分散型リーダーシップにもとづく教育ガバナンスの理論的再構築」日本教育学会『教育学研究』第80巻第2号,pp.27-38

露口健司,2011,「学校組織における授業改善のためのリーダーシップ実践—分散型リーダーシップ・アプローチ—」『愛媛大学教育学部紀要』第58巻pp.21-38

Ueda,M.,2019,“Self-Improving School System and Multi-School Organisation in England : Focusing on Multi-Academy Trust and Teaching Schools” , Symposium Paper: *Is Multi-School Oraganisation Effective?*

: *Comparative Studies between Multi-Academy Trust in the UK and Networking of Schools and Communities in Japan*, World Education Research Association 10th Focal Meeting, Gakushuin University, Tokyo, Japan, Xu, J.,2020, School Cluster Development, International Workshop on Understanding School-to-School Collaboration in Diverse Policy Contexts, Jan.21,2020,Graduate School of Education, Tohoku University, Sendai, Japan.

佐藤博志・山田知代,2018,「成功した校長」に関する研究 : 日本における公立小学校長の事例分析を通して」『筑波大学教育学系論集』第42巻第2号,pp.29-44.Suetomi, K.,2019, “Complicated Multi-school Organisation Model in Japan: Why and How Networking Schools and Communities Are Not Effective?”, Symposium Paper: *Is Multi-School Oraganisation Effective?*

: *Comparative Studies between Multi-Academy Trust in the UK and Networking of Schools and Communities in Japan*, World Education Research Association 10th Focal Meeting, Gakushuin University, Tokyo, Japan,

山口一男・内山融・中室牧子・小林庸平・近藤清太郎・青柳恵太郎・小池孝英,2017,「日本においてエビデンスに基づく政策を どう進めていくべきか :『日本におけるエビデンスに基づく政策の推進』プロジェクト中間経過報告参考資料」

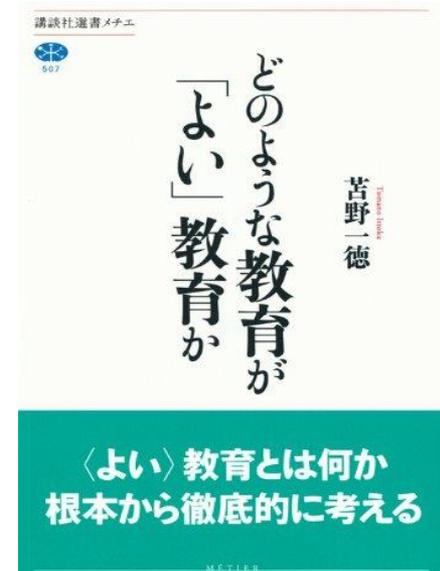
議論の前提(の前提)の共有

公教育の本質

(そもそも公教育は何のために存在するか?)

その「正当性」の原理

(どのような教育政策であれば「よい」と言えるか?)



- 最上位目標の合意(工藤委員)
- 何を学習成果として目指しているのかをしっかりと握らないと、トレンドに流される学習の本質を見失ったままの上物だけが取り替わった学習プロセスになる(中原委員)
- 「教育現場に企業論理を持ち込むな」といった批判が寄せられる可能性もある(論点整理)

公教育の本質

- 各人の〈自由〉および社会における〈自由の相互承認〉の実質化
- 公教育は、すべての子どもが、お互いに対等な存在であるという〈自由の相互承認〉の感度を育むことを土台に、〈自由〉に生きられる(生きたいように生きられる)力を育むために存在している

その「正当性」の原理

- 〈一般福祉〉の原理
- 教育政策は、ある一部の子ども(人)の自由(=福祉、よき生)のみを実質化するのではなく、すべての子ども(人)の自由(=福祉、よき生)を実質化する時にのみ「正当」と言える

現代学校教育における問題の本質

みんなで同じことを、同じペースで、同じようなやり方で、同質性の高い学年学級制の中で、できあいの問いと答えを勉強する、150年間ほとんど変わってこなかったベルトコンベヤー型のシステム

- 落ちこぼれ、吹きこぼれ
- 不登校、同調圧力、いじめ、管理・統率
- 学びの意味を見出せない、学びからの逃走

学びの構造転換へ

- 「学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合」へ
 - 学びの自律化・個別最適化
 - 学びの探究化・STEAM化
- 個別最適化を孤立化と同義には決してしない
 - 「ゆるやかな協同性」に支えられた「個の学び」の尊重
 - 必要に応じて、多様な人の力を借りられる、自分も誰かの力になれる **高信頼性組織**

教育の力
苦野一徳

すべての
子どもに
〈生きる力〉を



「学校」をつくり直す
苦野一徳
Tomonori Inoue



公教育の構造転換へ

- 自分たちの学校は自分たちで作る(市民社会の土台としての学校)

→校則ルールメイキングプロジェクト,etc.

- 同質性の高い学校・学級を、もっと「多様性がごちゃまぜのラーニングセンター」へ

→社会の中の校舎、学校の複合施設化、旅する高校・中学, etc.

教育の力
苦野一徳

すべての
子どもに
〈生きる力〉を



講談社現代新書

「学校」をつくり直す

苦野一徳
Tomomi Inoue



改めて、何のための教育イノベーションか？

公教育の本質

→各人の〈自由〉および社会における〈自由の相互承認〉の実質化

その「正当性」の原理

→〈一般福祉〉の原理

論点整理案について

産業構造審議会 2021年7月1日
株式会社LITALICO/ 国士舘大学
博士（障害科学）
野口 晃菜

議論の前提

- 議論の前提 2 : 「深刻さの度合いを増す不登校問題や、社会的にも認知されるようになった発達特性への対応、家庭の経済格差や子どもへの貧困問題への対応などを前提に組み込んで考えたい」→大賛成。
 - 「未来の教室」は多様な子どもたちがいることを前提としたインクルーシブな教育を目指していることを明記するのがどうか。今のままだと、「一部の『できる』子どもたち」が対象になっているようにも見える。
 - 以下の子どもたちも学校で学んでいることを前提にしたい。
 - 知的障害、身体障害、視覚障害、聴覚障害、性的マイ
- LITALICOノリティ、外国ルーツ、病弱、非行、etc

インクルーシブ教育システムの構築

- 障害者権利条約の批准（2014）
- インクルーシブ教育システム構築に関する報告（2012）

● 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告） 概要

はじめに

障害者の権利に関する条約の国連における採択、政府の障害者制度改革の動き、中央教育審議会での審議、障害者基本法の改正等について記述

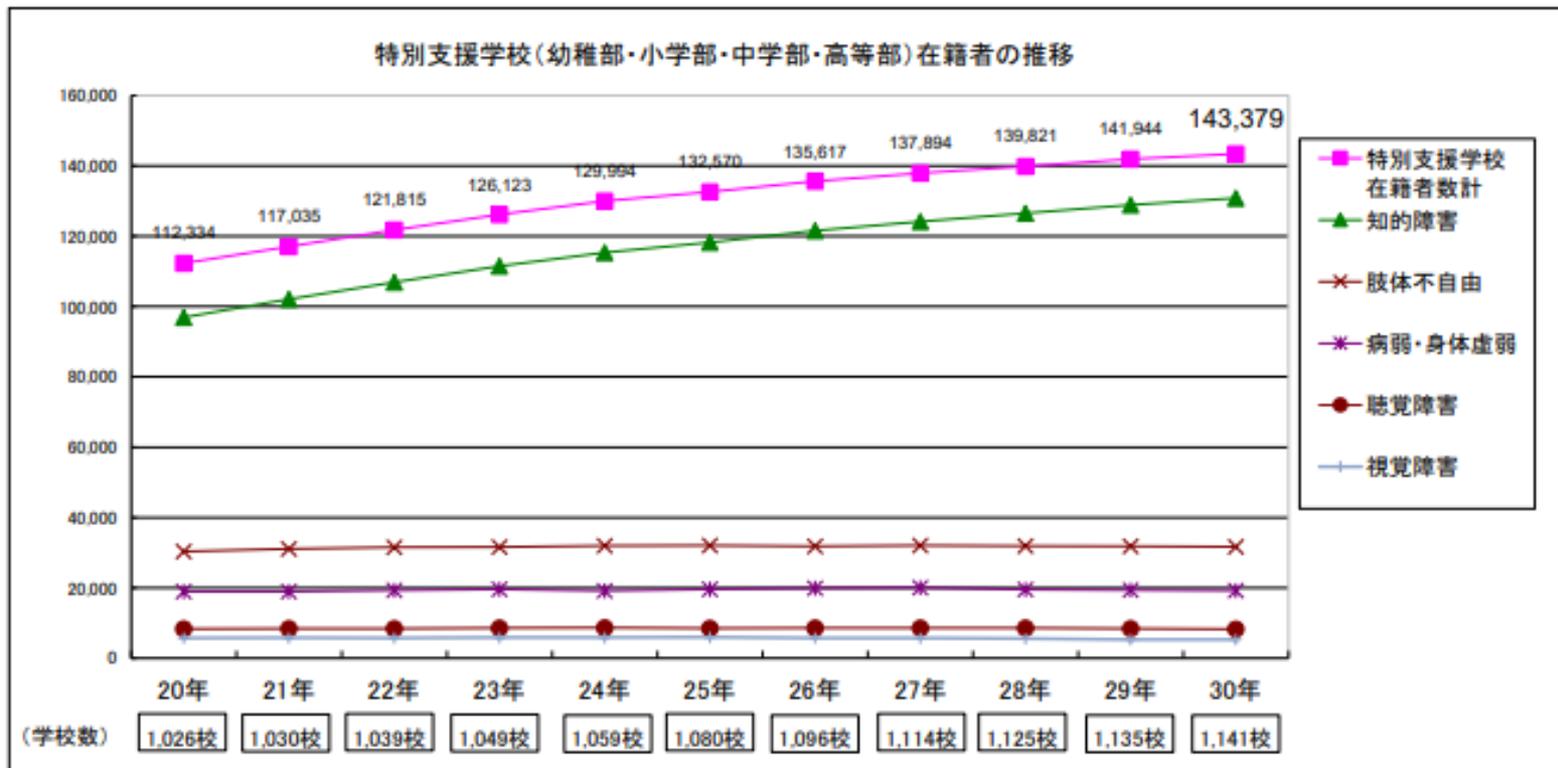
1. 共生社会の形成に向けて

(1) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築

- 「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。
- 障害者の権利に関する条約第24条によれば、「インクルーシブ教育システム」(inclusive education system、署名時仮訳：包容する教育制度)とは、人間の多様性の尊重が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学び、障害のある者が「general education system」(署名時仮訳：教育制度一般)から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、合理的配慮が提供される等が必要とされている。
- 共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要がある。

特別支援学校在籍率は年々増加（文科省資料から）

特別支援学校の児童生徒数・学校数の推移（各年度5月1日現在）

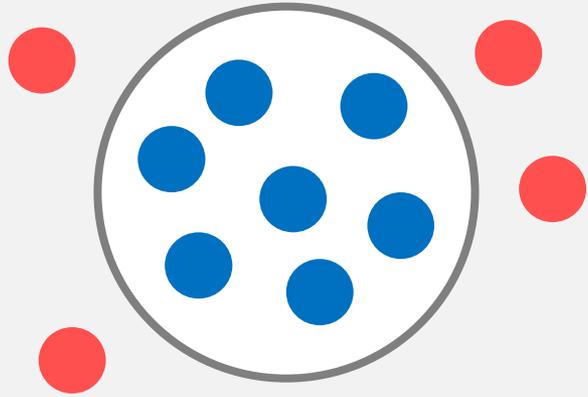


<30年度の状況>

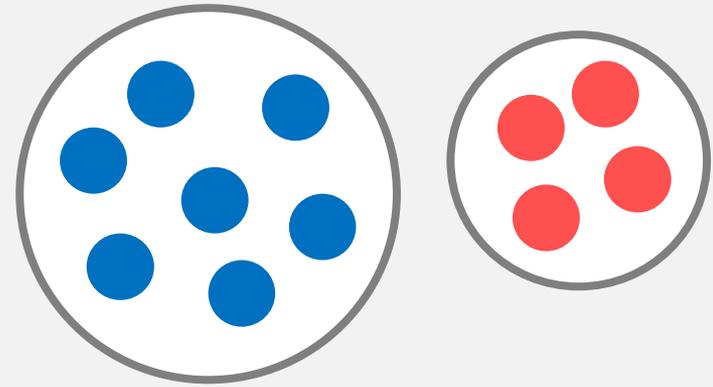
	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	計
学校数	81	117	781	350	152	1,141
在籍者数	5,315	8,164	130,817	31,676	19,277	143,379
教員数(本務)	2,801	4,144	51,101	15,181	3,250	76,477
(兼務)	311	372	3,126	1,054	237	5,100

※在籍者数は、平成18年度までは在籍する学校の障害種別により集計していたため、複数の障害を有する者については、在籍する学校の障害種別以外の障害について集計していません。平成19年度より、複数の障害種別に対応できる特別支援学校制度へ転換したため、複数の障害を有する者については、障害種のそれぞれに集計している。このため、障害種別の在籍者数の数値の合計は計と一致しません。

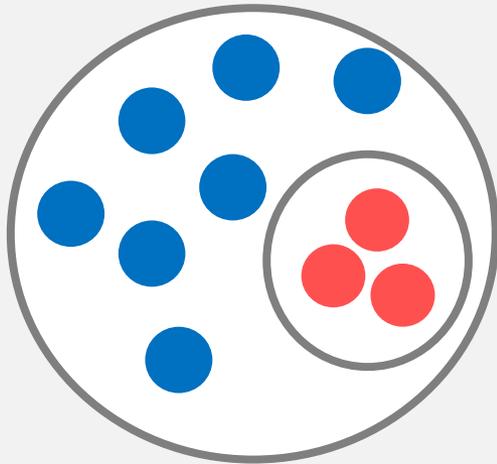
※学校数は、平成19年度より、複数の障害種別に対応できる特別支援学校制度へ転換したため、複数の障害に対応する学校については、それぞれの障害種別に集計している。このため、障害種別の学校数の数値の合計は計と一致しません。



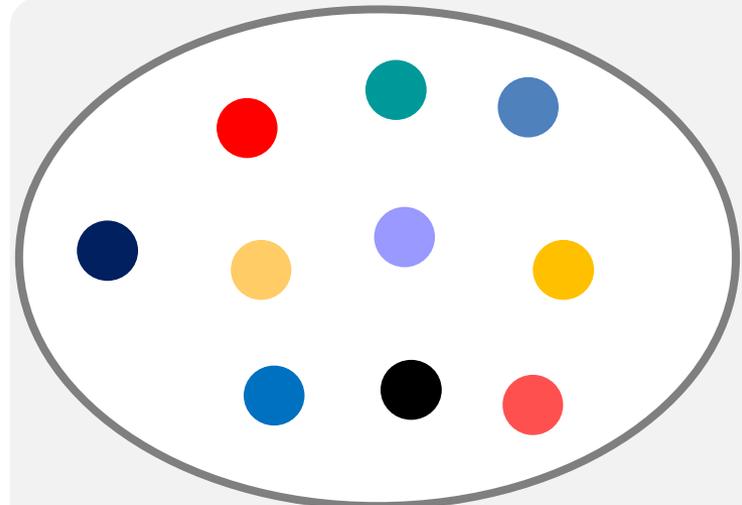
エクスクルージョン (排除)



セパレーション (分離)



インテグレーション (統合)



インクルージョン (包摂)

ポイント

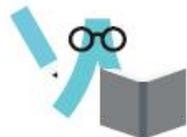
- 現行の通常の教育にプラス α をしたり、通常の教育に子どもたちを合わせるための特別支援教育、ではなく、通常の教育そのものを多様な子どもたちがいることを前提に再構築していく。
- そのためにこれまで培ってきた特別支援教育におけるノウハウを活用していく。

教育課程の話

- 「特別」を「普遍」にするためには、現行の教育課程をより柔軟に編成できるようにする必要がある。
- 現状：通常の学級→通常の教育課程、特別支援教育→「特別の教育課程」。特に知的障害のある子どもは通常の学級に在籍しづらい。
- どのように制度を変えたら教育の場にかかわらず、より一人ひとりのニーズに合った教育課程を組めるのか？

個別学習計画と学習ログについて

- 個別学習計画の目的を確認したい
 - 自己理解（※当事者研究を参考に）
 - 主体性・自己決定
 - 問題解決
 - 自分の学びに自分で責任を持つ
- 教科の目標設定と進捗を管理するのみでなく、より広義の計画になるとよいと考える
- （例：自分自身のWell-beingやメンタルヘルス、ソーシャル・エモーショナルラーニング、自分にとって一番効果的な学び方など）
- （※特別支援教育の自立活動のノウハウなどを参考に）



個別支援計画サポートシステム

ICT を活用し、障害のある子どもへの個別化した教育の提供をサポート



①多面的なアセスメント
(行動やスキル等)



②目標と指導のポイント
をレコメンド



③目標に応じた教材や
プログラム、指導動画を提示

- アセスメントに基づく個別支援計画の作成に関し、専門的な見地からのレコメンドにより計画と指導内容の質的水準を確保
- 計画作成や教材作成に関する支援者の負担軽減
- 将来的には学校・家庭での様子、医療や福祉機関の記録を集約し情報共有を効率化

学び方の多様性



メンタルヘルス



しゅく だい
宿題

いっしゅうかん しん しん じょうたい き ろく
1週間の心身の状態を記録しよう

じゅん び
準備

あ す いっしゅうかん ひつじ ぎろく び
明日から1週間の日付を「記録日」に記入しましょう

しゅく だい
宿題

ひ しん しん じょうたい いっしゅうかん き ろく
その日の「できごと」と「心身の状態」を1週間、記録しよう

しゅく だい 記録日	できごと	しん しん じょうたい 心身の状態
例 5/25 (月)	習い事に行った。うまくピアノを弾けた。	<input type="checkbox"/> とても元気 <input checked="" type="checkbox"/> まあいい感じ <input type="checkbox"/> やや疲れた <input type="checkbox"/> ぐったり
/ ()		<input type="checkbox"/> とても元気 <input type="checkbox"/> まあいい感じ <input type="checkbox"/> やや疲れた <input type="checkbox"/> ぐったり

福本 理恵

- 株式会社SPACE 最高情熱責任者
- 異才発掘プロジェクトROCKET 初代プロジェクトリーダー
- 東大未来ビジョン研究センター 客員研究員
- 国際日本文化研究センター 共同研究員



1

学びの自律化・個別最適化

学習者視点で、「個別学習計画と学習ログ」に基づくパーソナル・トレーニングを確立する

- ②「個別学習計画」づくりに当事者研究を応用することについて
- ⑤ 大きく変わる「教員の役割」への対応はいかにして可能か(教職課程改革等)
- ⑥「学習・仕事・福祉」の結合はいかにして可能か

学校空間の学習環境を再設計し、さらに「場の選択肢」も拡充する

- ③「異才(ギフテッド)の生徒」「発達特性の強い生徒」が力を発揮できる空間を作るには
- ④「場の選択肢」の拡張:オルタナティブスクールを「新しい学校」にするための制度改革

2

学びの探究化・STEAM化

学びと仕事、オンラインとオフラインで越境する「ライフスタイルポップアップラボ」

学習者視点で、「個別学習計画と学習ログ」に基づくパーソナル・トレーニングを確立する

②「個別学習計画」づくりに当事者研究を応用することについて

- 個別学習計画が学習内容だけに留まらずに、**学習者本人の学びの特徴（認知特性や思考スタイル、興味関心等）の把握の部分で当事者研究の視点と繋げることが重要。**
- 個別学習計画と学習ログの接続はデータサイエンスから検証・見える化し、本人へのフィードバック
できることでより当事者研究のサイクルに深みが出ると考える。情報の帰属、フィードバックの要素
と方法の整備の議論。
→ **個人情報の名寄せの法整備、PLRを低年齢の子どもや保護者にもどう理解してもらうか**

8つの力

何かを生み出したり、問題を解決するために使う力を示しています。自分の中にどんな力が眠っているのかわかって自分の強みを生かしていきます。



spaceQのポートフォリオでは、自分の好きなものや得意なやり方の傾向を知ることができます。これを参考にすることで、自分らしい学び方を追究していきます。

STEAM領域

Science 科学に関すること
Technology 技術に関すること
Engineering 物づくりに関すること
Arts 社会科学や芸術に関すること
Math 算数や数学に関すること

STEAMの中のどの分野に興味があるかを示しています。興味の違いに意識を向けてみましょう。



思考スタイル

物事を進めていく時の頭の使い方を示しています。自分の頭のクセを知って、特徴を生かしたやり方を工夫してみましょう。



認知特性の優位性



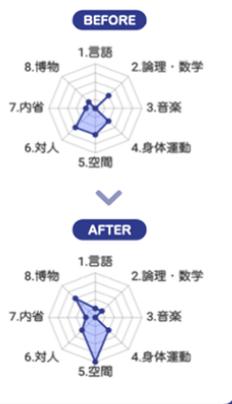
3つの学習方法

好奇心スタイル

心のエネルギー
 高エネルギー—低エネルギー
 心のエネルギーはやる気に影響します。自分の状態を知って、進むか休むかを決めていきましょう。

とまどきスタイル
 収束—拡散
 好奇心スタイルには特定の分野を深く掘り下げるタイプと、進むか休むかを決めるタイプの2種類があります。

8つの力



思考スタイル



好奇心スタイル



STEAM領域



認知特性の優位性



学習スタイル

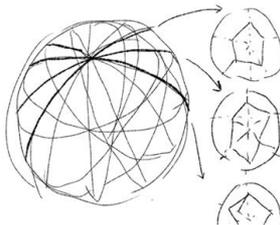
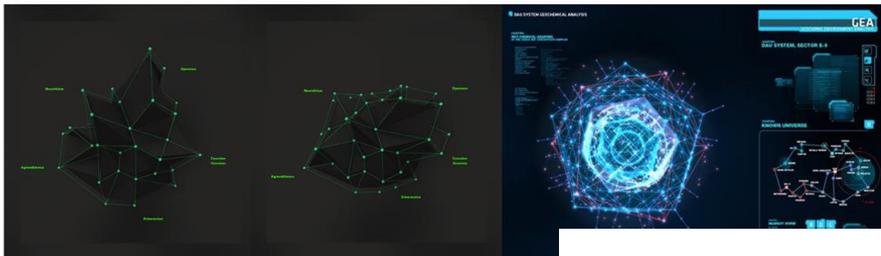


総評

8つの力のうち「空間」「対人」「身体運動」が強みになりそうです。図形や立体などの情報を使った活動が向いていて、他人の気持ちや感情を上手に読み取っていい関係性を作るのが得意です。また体を動かす活動なども取り入れるといいでしょう。特に科学分野への興味が高い他、アートや数学なども向いているでしょう。頭の使い方としては、新しい企画を考えたり、どこに問題があるのかを検証したりしながら、順番に進めていくことができるでしょう。学習方法は動画での学習を積極的に取り入れながら理解を深めていくとより効果的です。今は新しいことを始めるための心のエネルギーが高い状態なので、分野にとらわれずに気になることからどんどんチャレンジしていきましょう。



< Human Sphere 仕組み(形状の参考) : 様々な性格/体質を多角形グラフにしたもので、それを集約して球状になっている。 >



motion image

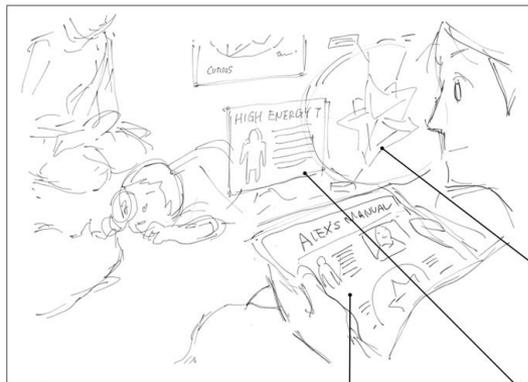
motion image



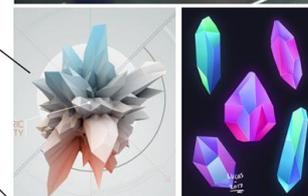
近大率が変えられる虫眼鏡でペットの三毛猫を観察している子供。
虫眼鏡も少し未来的な感じにしたいです。
(フォルムが近大率が光で表示されてるとか)



2040年 ALEX 4歳



XRで育児の方法をわかりやすく、感覚的に観察することが可能。
明るイトーン。立体的な陰影あり。ダイヤの原石みたいな。



有機ELタブレット

立体表示

コンパクトなARグラス



学びの自律化・個別最適化

学習者視点で、「個別学習計画と学習ログ」に基づくパーソナル・トレーニングを確立する

⑤大きく変わる「教員の役割」への対応はいかにして可能か（教職課程改革等）

- 養成については、教員研修の枠組みづくりをフレキシブルに変更できないか。1年前から決まっている研修だけでなく、現場の教員自ら出てきたニーズを拾って、**オンラインでスキルアップできるニーズ研修が随時行われる仕組みづくりも必要。**→[GEG](#)
- 教育大などの授業の枠組みと学校現場のPBL等の授業の枠組みを連動させて、**学生と教員とのSTEAMカリキュラム開発チーム編成を仕組み化**できないか。学生のスキルアップと学校現場の人材不足を解消できる仕組みづくりが必要。
- 地域の専門家への特別免許状授与のハードルが下がるように、オンライン上でも登録できるような**学びの人材バンクと認定システム・アプリなどの整備**できないか。→[GBER](#)

学びの自律化・個別最適化

学習者視点で、「個別学習計画と学習ログ」に基づくパーソナル・トレーニングを確立する

⑥「学習・仕事・福祉」の結合はいかにして可能か

- 社会に学校を拡張する方法として、**商店や社会教育施設等との連携で実社会での実学による学びのDX化**が必要。参画する団体、組織が学習提供認定されるオーソライズの仕組みや、そこで学んだ内容を子どもIDに紐づけて学習課程内の履修にする仕組みも必須。
→ どんな教科学習や探究学習が提供できるかデータベース化された組織が、登録情報を保持したQRコードを子供に提示し、子どもはそれを読み取って学習単位が取得できるような仕組みなど。

学習者視点で、「個別学習計画と学習ログ」に基づくパーソナル・トレーニングを確立する

⑥「学習・仕事・福祉」の結合はいかにして可能か

- 特に、不登校の子どもや学校内に多動や過敏性がある入りづらい子どもにとっては社会の多様な環境から学習環境を選択するという学習保障が必要。
- 子どもの鬱や自殺率が高い状況を鑑みて、リトリートの要素を含む「旅する学校」の中学への拡張もできると良い。自宅に居場所のない子どもたちが、自分の生まれ育った地域・家庭環境を越境して新しい価値観に触れるとともに、休み方や心身ともに充電することを学ぶことは重要。児童養護施設以外の逃げ場の選択肢として宿泊施設などの空きスペースの提供や、移動の方法を仕組み化できないか。→モビリティシステムとの連動

Sphere Garden

ここは学びの場である以前に
本来の姿に還れる場である

いくらテクノロジーが進化しても
ヒトは地球に住む生物の一部
という事実は変わらない

人間同士の共存はもちろん
人間と動植物の共存
人間と大自然との共存
生きるを学び
ミクロとマクロを
行き来できる新しい学びの場

Future
Vision
Studio



中央に大きいドームと
周囲に半球状のテント

テントの周りにはビオトープが点在
テーマは“自然体”



学びの自律化・個別最適化

学校空間の学習環境を再設計し、さらに「場の選択肢」も拡充する

③「異才(ギフテッド)の生徒」「発達特性の強い生徒」が力を発揮できる空間を作るには

- 空間を作るよりは特性と環境とのマッチングの機会を増やすことが重要。興味や専門性に合致する人や場所がどこに存在するのかを検索できるデータベースが整備されたポータルサイトが必要。
- 高学年になるまで言語化できず自分の感覚過敏や特性に気づかず生きづらさを抱えて二次障害になるケースも多い。身体測定のように定期的に、自分で意識していない認知特性や過敏性が把握できるようなアセスメントも早期で必要。認知検査や行動評定の基礎研究と連動。
- 学習環境のIoT化。調節できるスキル(デバイス等で光や音を調整など)が育つよう、スマートハウスのような実証学習環境の試せる機会を設けることが重要。

学びの自律化・個別最適化

学校空間の学習環境を再設計し、さらに「場の選択肢」も拡充する

④「場の選択肢」の拡張:オルタナティブスクールを「新しい学校」にするための制度改革

- 認定のための必須条件にある程度の基準は必要だが、それ以上にニーズへの供給も追いついていない印象。オルタナティブスクールを網羅できるポータルサイトが必要。→ STEAMライブラリなどに、オルタナラーニングのようにオルタナスクールの情報を掲載し、周知するのは今すぐに実現化可能。
- 海外のチャータースクールやサマースクールのように親が立ち上げるオルタナスクール設立がしやすくなるような要件定義と予算補助が必要。学校予算ではなく、子どもに予算を紐付けて子どもの移動に付帯して予算が移動する仕組みや、寄付や他業種との連携による収入確保をしやすくする仕掛けができないか。稼ぐ学校。→ [そらのまち保育園](#)

学びの探究化・STEAM化

学校（課程内）と社会（課程外）
オンラインとオフライン
都市と地域
学びと仕事
日常と非日常

この二項対立をボーダレスに
行き来できるための
「生きるための学び」のDX化

オフライン

STEAM学習プログラム



学びをプレゼン・展示



学びを生かした商品開発



仕事から学習へ

カリキュラム開発

ライフスタイルのポップアップラボ

様々な暮らしをポップアップさせ、
学び、働く人たちの人生の交差点を提供



価値観の交差
地域間交流
学習と仕事の接続

実学を通して仕事から学びを掘り下げ、
学びが仕事を作る循環

学習から仕事へ

教育ツーリズム

異なる価値観の暮らし



仕事体験



ロールモデルとの出会い



オンライン

●学びの自律化・個別最適化WG
【7月1日（木）15-18 於：経済産業省】

学習環境のデザイン

—空間・活動・共同体—

公立はこだて未来大学 システム情報科学部
美馬のゆり

論点整理（事務局素案）より

（3）「学習の場」をデザインし、「場の選択肢」も拡充する

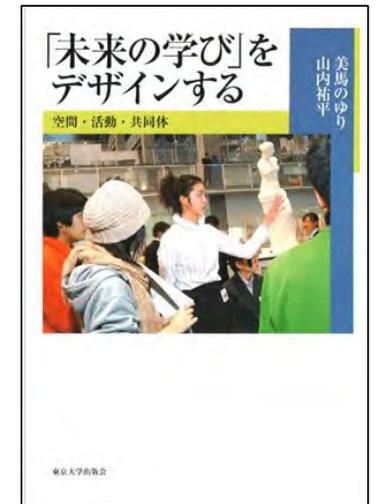
学習者が、自律的で個別最適なスタイルで学び、価値を生み出す創造性を育む学習環境を作る視点で、「校舎・教室のカタチ」「コミュニケーションのスタイル」はどう変わりうるか、それを全国各地に実現する上での障壁は何か。世界中に存在する様々な先例を土台に、「未来の教室」の姿をイメージしてみる。

→美馬委員、福本委員、日野委員、野口委員、工藤委員、今村委員、白井委員、末富委員はじめ、記述につながるプレゼン頂けますと幸いです。

学習環境のデザイン

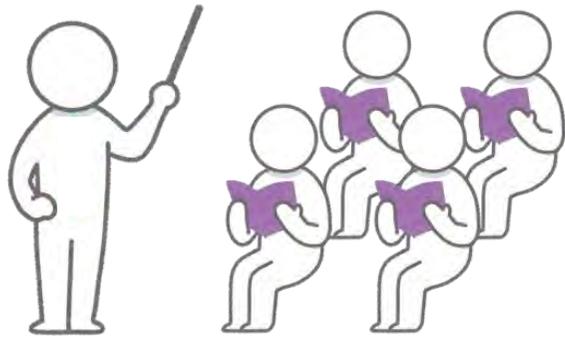
3つは相互に関係している

- ハードウェア【空間・建築】
 - どのようなスペースが必要か
 - 活動によって、人によって、選べるようにしておくこと
 - 活動を見えるようにしておくこと（学生、教員、職員）
- ソフトウェア【活動・運営】
 - カリキュラム開発
 - どのような活動を行うか
 - どのような場所で行うか
- マインドウェア【共同体・心持ち】
 - どのような活動を誰としていくか
 - 空間をオープンにすると、マインドもオープンになる
 - 20年間の実践からOpen space, open mind



(2005)東京大学出版会
—空間・活動・共同体—

学習観・評価観の転換 (LX)



知識を貯め込む
スキルを習得する

習得したか否か



対話し創り出す
活動し有能さに気づく

よさに気づき、よりよくなろうとしているか否か

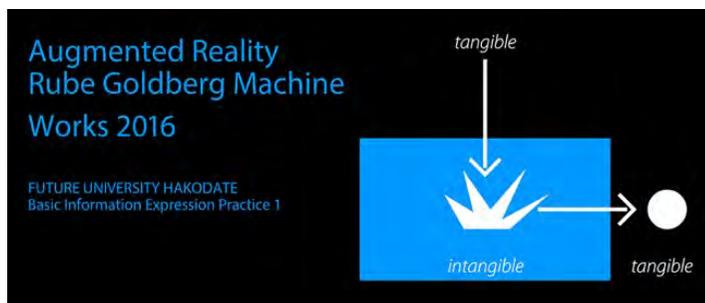
Project Based Learning プロジェクト学習



(2018) 未来大学出版会
17年間のプロジェクト学習のノウハウ

(2002~)

Programming & Design モノづくりを通じた学習



計算論的思考ってなに？
コンピュータサイエンティスト
のように考える

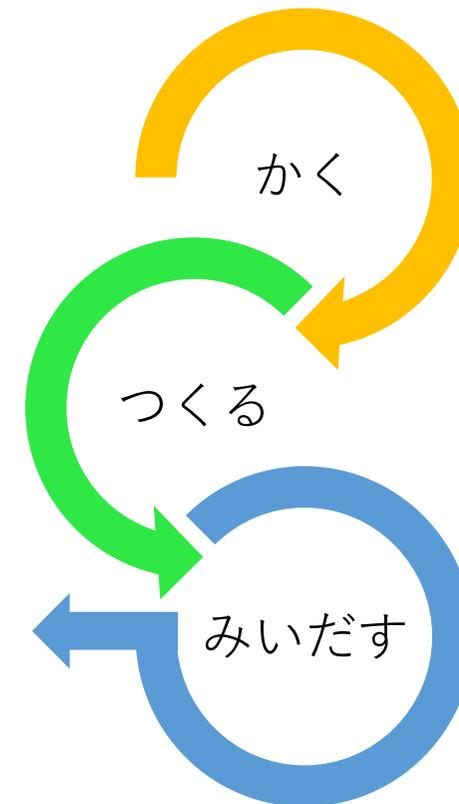
(2021冬)未来大学出版会

拡張現実ピタゴラ装置
(情報表現基礎1)

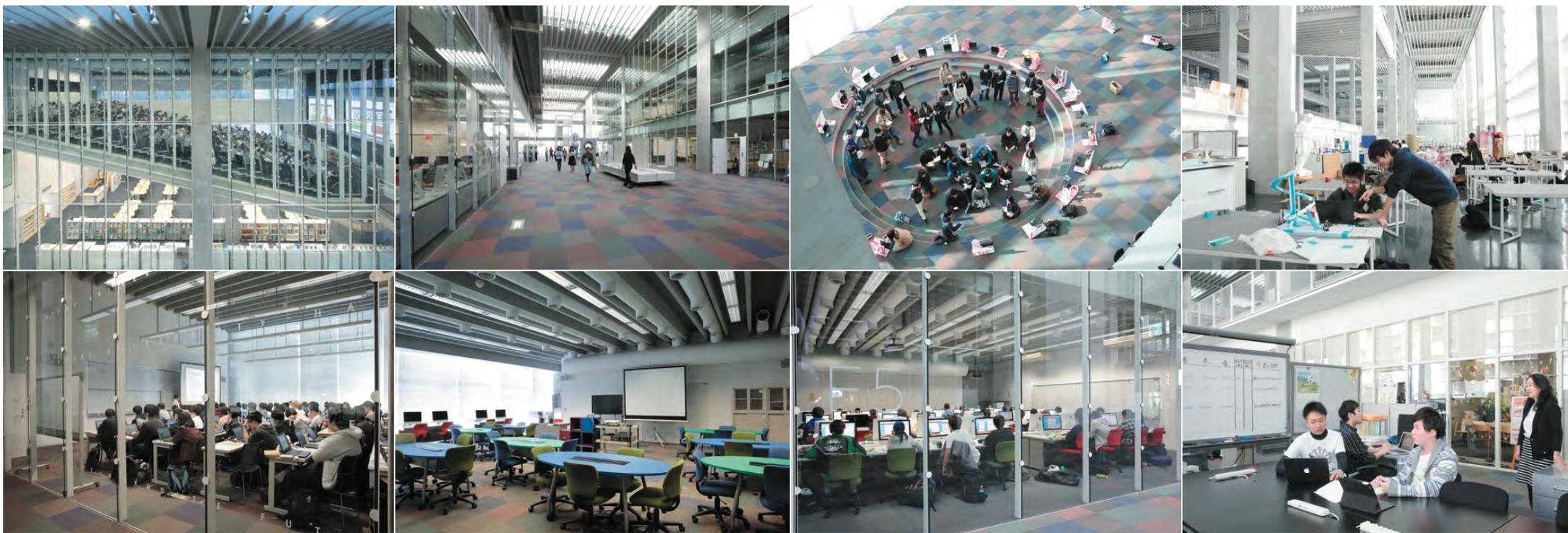
(2008~)

モノづくりと可視性

- モノづくりを通して学ぶ
 - 形あるものだけではない、イベント等の活動でもよい
 - 21世紀型スキル、デザイン思考、計算論的思考
- モノづくりを通じた学びの3段階
 1. かく（外化）
 - できあがりイメージして **絵や言葉にする**
 2. つくる（具現化）
 - 試行錯誤を重ねながら **作り上げる**
 3. みいだす（概念化）
 - 振り返り、**原理や法則を見出す**
- 汎用性のある考え方
- 新たな状況への適用



可視性を重視した空間



可視性 visibility & transparency

- 現実空間
 - 活動が互いに見える
- 電子空間
 - 情報の共有と蓄積
 - 活動が互いに見えるためには？
- 見えることが学びの機会に
 - 見て、考え、行動する
 - 計画性と偶発性
- あいまいな境界 “ambiguity”
 - 内と外
 - 個人と複数
 - 形式的と非形式的
 - 学校と生活
- 気配[性] “ambiency”
 - 先達（ちょっと先に行く人々）の日々の活動から見えてくる歴史や文化
 - ちょっと先の自分の姿

アトリエ的学習環境とオンライン

- アトリエ的学習環境
 - 美大の学習環境
 - ものをつくる
 - 他者の目にさらす
 - 振り返って考える



- 現実空間 visibility & transparency
 - コモンズ
 - 透明ガラスの壁
- 電子空間
 - 可視性
 - 同期／非同期
- 2つの空間をつなぐもの
 - あいまいな境界 “ambiguity”
 - 気配[性] “ambiency”

教育のDXは個別最適化だけではないはず

第2回 学びの自律化・個別最適化WG (10/1) (学校の組織・環境の再設計)

学校内におけるルールメイキング（校則検討）の取り組みは 高信頼性組織形成に寄与できるか？

認定特定非営利活動法人カタリバ
代表理事 今村久美

新しい時代の校則検討(ルールメイキング)のあり方

これまでの校則検討 (ルールガード)

これからの校則検討 (ルールメイク)

学校

- 教員に正しさがあり、生徒は決められたことを守る
- 生徒は校則を疑うことなくそれに従うことが当たり前(従うことのできない生徒に罰)

- **教員も正しさを探る。**一人の考えではなく生徒を含めた多様な視点から校則を考え直す。
- 生徒自身が過ごしやすいかつ**誰一人取り残さない共通理解**を探る

社会

- 社会に正しさがあり、学校のあり方を批判(ブラック校則批判)

- 学校や生徒の**目指すところを共有し共にあるべき姿**を探る



校則検討を行う機会を、社会における最も身近なルールメイキングの機会と捉え、生徒自身が「**自らの環境をデザインする**」ことを学ぶ場に

全国ムーブメントとなるルールメイキングの取り組み

2020年度

実験的に3校で
ルールメイキングの取組を実施

[モデル校]

私立安田女子高等学校（広島）
私立新渡戸文化高等学校（東京）

[協力校]

岩手県立大槌高等学校



2021年度（予定）

①学校で実証事業
(12の学校と2つの教育委員会)

[学校]

泉大津市立小津中学校（大阪）
大垣市立東中学校（岐阜）
自由学園中等科・高等科（東京）
栃木県立足利清風高等学校（栃木）
千葉県立姉崎高等学校（千葉）
山形県立遊佐高等学校（山形） 他6校

[教委]

広島県教育委員会
福井県教育委員会



②全国で取り組む学校を応援する

学び合うコミュニティの構築

— 取り組む学校同士の
— 学び合いコミュニティの形成
— 生徒同士の交流の場の設定

ルールメイキングハンドブックの作成



全国ムーブメントとなるルールメイキングの取り組み

生徒にとって身近な校則について生徒自らが課題設定し改定する過程を通して、主体的に社会に働きかける力の育成を目指しています。



具体的な取組み

① 生徒宣言の採択

生徒自らなりたい生徒像、ありたい学校像を設定し、校則を考える上での指針を示しました。

<大槌高校 生徒宣言 前文>

私たち大槌高校生徒は震災後、この大槌高校で避難所運営を始め、復興研究会という組織を立ち上げ、大槌に貢献するよう努力しました。そこでは「自分で考え、自分で判断をすること」、「主体的に活動すること」の大切さを学びました。私たちはこのような精神を引き継ぎ、学校生活に生かしていきます。

私たちがすべきことは、生徒全員でなりたい生徒像やありたい学校の姿を問い続け、より良い学校生活を送ることができる理想の状態を共有することです。その理想の下で、どのように生活を送るべきかを一人一人が考え判断する力を高めていくことが重要です。私たちが学校生活を送る上で拠って立つべき理想をここに宣言します。

② 校則検討委員会

校則検討委員会は、生徒と教職員がテーマとして設定した校則を題材に、あるべき校則について話し合う場です。議論を通して自分の立場だけではない様々な立場の意見に気付かされます。

(例：女子生徒の夏服のベストはなくすべきか？
制服は本当に必要なのか？
制服を着ることにはどんな意義があるのか？)



③ 「公共」を考える授業

(地歴公民科教諭 菊池先生)

政治経済の授業では、「自由」と「規制」を巡る議論を取り上げ、校則の意義について考えました。

コロナ禍における移動制限は国民の自由を奪うのかなど実際の社会で起こる難問を取り上げ生徒同士での議論を行いました。



ツブブロックの検討

生徒による発議

校内に設置された校則検討委員会で
教員と生徒が議論

設定された問い

- ツブブロックにすると本当に企業は採用しないのか
- 保護者も本当にツブブロックにしてはいけないと思っているのか？



調査

生徒の問いから始まる関係者への量的・質的調査を実行

行われた調査

- 教職員、生徒、地域、保護者を対象にしたアンケート調査（400人程度）
- 卒業生の入社企業へのヒアリング調査



生徒の学び

校則検討を行うことで、検討のプロセスへの学びを深めていった。

生徒は主張が認められた達成感よりも多くの視点からルールを考えることの重要性を感じた。
ルールメイクの取組を探究的な学びに変えることのできる可能性があるのでは。

ルールメイキングについて

ルールメイキングとは？

様々な視点から現状のルールを考えある正しさに導くこと

○様々な視点の重要性…

→ 一つの視点だと正しさが一つに固まってしまう。

複数の視点が存在したとしても
権威によって正しさが決まってしまう

例) 学校においては生徒より先生のほうが正しくなってしまう

これを改善し、様々な視点から
ルールを作っていくことがルールメイキングである

校則改定などの高校魅力化で生じた「職員室の変化」

数値で見る変化

	初年度	2年目	差分
失敗してもよいという 安全・安心な雰囲気がある	58%	95%	37%↑
人の挑戦に関わらせて もらえる機会がある	58%	90%	32%↑
立場や役割をこえて 協働する機会がある	75%	100%	25%↑
本音を気兼ねなく発言できる 雰囲気がある	50%	70%	20%↑

定性の変化

取り組み前

- 本当にここまで厳しいことが必要なのだろうかと思っていたが言い出せなかった。
(負の同調圧力)
- 周りの先生が厳しくしているのを見てさらに指導が厳しくなってしまう。
(忖度による負の増幅)
- 職員室の中に暗黙のルールがありそもそもを問うことが憚れる。
(暗黙の当たり前の固定化)

取り組み後

- 職員室の中で自由な発言をしても否定されない。
(自由な発想が許容される職場に)
- 生徒と自由に発言する機会が増え生徒と議論できる関係に
(抑圧的關係から対等な關係へ)



※入学者が2019年度に比べて学区内で**唯一**増加している学校に
(45%UP R1 42人 → R3 61人)

学びの土壌(環境・関係性・風土等)の見える化・マネジメントについて

【事例】高校魅力化評価システム

「高校魅力化評価システム」は、(一財)地域・教育魅力化プラットフォームと三菱UFJリサーチ&コンサルティングで開発した、「生徒の成長」と「生徒の学習環境(学びの土壌)」を見える化し、エビデンスと対話に基づく政策マネジメント及びカリキュラム・マネジメントを推進するための評価ツールです。令和2年度には全国136校(38691名の生徒)に活用いただいています。

「高校魅力化評価システム」の特徴

1. 「社会に開かれた教育課程」に求められる資質・能力を多面的に把握

- ✓ 生徒及び教職員等への質問紙調査を用いて、これからの社会に求められる資質・能力に関する生徒の状況を多面的に捉えることができます。
- ✓ 特に、「地域」や「社会」に対する意識を幅広く捉えているところが特徴です。



2. 生徒の学習環境 (= 「学びの土壌」) を把握

- ✓ 資質・能力の育成に重要となる、生徒を取り巻く学習環境(学校や地域での大人との関係性や機会の有無など)に着目します。
- ✓ 生徒の学習環境(=学びの土壌)の現状を、定量的に把握できる点に大きな特徴があります。
- ✓ また、生徒の学習環境に影響を与える、大人(教職員等)の在り方(姿勢・態度等)の見える化・振り返りも行えます。



子どもたちの資質・能力を育むためには
明示的な教育課程（シラバス・学習計画等）だけでなく、
ヒデューンカリキュラム（学びの土壌、教職員等大人の見方・考え方・姿勢等）も含めた
カリキュラムマネジメントが重要

生徒の資質・能力

知識・技能等

主体性

探究性

協働性

社会性

学びの土壌・環境

挑戦の連鎖が生まれる
安心・安全の土壌

問う・問われる
対話の土壌

協働を生む
多様性の土壌

地域や社会に
開かれた土壌

大人のあり方

自ら課題発見・解決に挑む

主体性

問い・学び続ける

探究性

多様な他者とチームで動く

協働性

越境できる開かれた

社会性

【参考】高校魅力化評価システムの活用場面

- PDCAサイクルの構築を評価から構築
- 地域や社会に開かれた主体的な対話や協働を推進
- 予算獲得も含め、持続進化可能な取り組みへ昇華

学年会議で

【学校目標、学年目標、クラス目標などの検討のために】

- 学年ごとの生徒の特性を踏まえた教育実践や、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善（PDCA）のサポートに。

職員会議で

【高校魅力化に関する現状・目標・ビジョンの共有のために】

「チーム学校」が一丸となれる目標の共有、成果や状態の評価に。

- 特に伸ばしたい生徒の力の目標共有（魅力化の狙いの共有）
- 経年での成果の把握（目指す姿に近づいているかの確認）
- 高校、地域の学習環境の現状把握 など

地域との協働の場で

【魅力化に関わる自らのあり方を振り返るきっかけに】

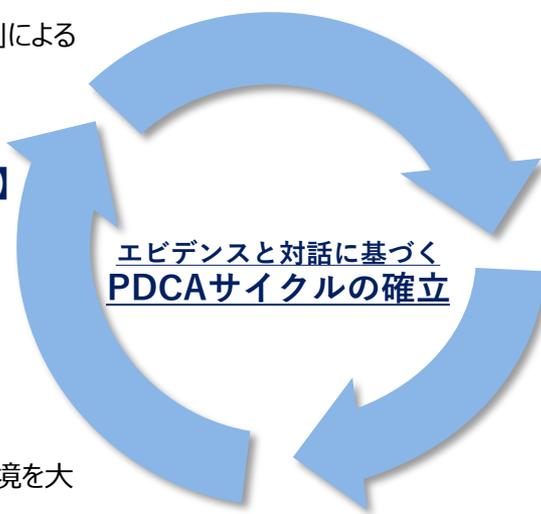
生徒の学習環境はどのような状況にあるのか定量的に把握し、どのような学習環境を大人たちが変えていけば良いか、地域と協働した建設的な議論のサポートに。

- この高校、地域の学習環境の強み、弱みは？他地域と比べてどうか？ など

事業評価で

【事業のPDCAサイクルの推進や成果の見える化、現場支援のために】

- 魅力化などの事業によって、生徒の成長や地域、社会への意識の変化に対し、どのような成果が見られるか？進捗確認のサポートに。
- 今後も事業を継続し、予算獲得、有効な支出に繋げていくために、地域で取得すべき成果指標は何か？今後の方針策定に。



エビデンスと対話に基づく
PDCAサイクルの確立

【参考】 その他：活用例等

スクール・ポリシーやビジョン策定

データをもとに教職員がそれぞれの意見を出すことで、対話的にスクール・ポリシーを策定

- 育てたい生徒像として掲げている力の視点で、アンケート結果から生徒の「できていること」「できていないこと」の現状分析を行う。
- 出てきた内容をもとに「身につけさせたい資質・能力」をあらためて具体化し、グレンジュエーション・ポリシーとして整理。
- それぞれの資質・能力を身につけさせるためにはどういった手段や機会を設けると良いかを分掌・学年会に分かれて協議し、カリキュラム・ポリシーにまとめる。
- これらを踏まえて、アドミッション・ポリシーを策定。
- 教職員等で対話的に進めたことで、実際の教育活動でも教職員が意識しやすい形で、スクール・ポリシーを策定。

育てたい生徒像にもとづく改善実施

評価項目を育てたい生徒像と紐づけて整理し、学年ごとに次の一手を検討、実施

- 自校の育てたい生徒像をルーブリックとして、整理し、関連する評価項目を一覧化。
- 教職員研修で学年ごとに結果を分析し、改善に向けた施策を検討。
- 重点的に数値を向上させる項目を検討し、現在の教育活動をどのように変えるかと合わせて、職員会議で共有。
- 実際の教育活動についても、お互いに授業見学等を行う。
- 重点項目に関するアンケートを独自で作成（具体例等も記入）し、変化を分析。

詳しくは以下のページや資料をご覧ください

◆高校魅力化評価システムについて <https://cn-miryokuka.jp/project/project04/>

◆政策レポート：魅力ある高校づくりをいかに評価するか
https://www.murc.jp/report/rc/policy_rearch/politics/seiken_191122_3/

日常の学校生活から

学校空間の学習環境を再設計し、
さらに「場の選択肢」も拡充する

大熊町教育委員会教育長 木村 政文

① 「主体的・対話的で深い学び」を引き出せる学習環境の要件は何か？



1
ワクワク本の広場
(従来の学校図書館)

▶□ 学校生活拠点を
「**知のBase**」にする。

学習センター
「**ワクワク本の広場**」
を居場所にして、



子どもたちには、
考えるためのネタ（**知識・
経験**）を蓄えさせ、



学び・探究の**成果物**を
ポートフォリオとして、
「**ワクワク本の広場**」に
蓄える。

② 場面に応じた4象限選択（ほどよい個別/集合×ほどよい対面/ネット）は可能か？

キーワードは、
ダイバーシティ (Diversity)

- ▶ □ 大人も交えた、
縦割りの人間関係で。
- ▶ サテライトに異業種のプロフェッショナルが集い、児童生徒、教職員へヒントを提示。
- ▶ 学校教育のDX化





▶ □ つまづき、失敗を恐れず

体験し、失敗から学ぶ姿勢
を徹底。



繰り返し、繰り返し。
コツコツと。



そして、**熟練**。



プロを目指す。



エキセントリックな学び

9

ふむふむ研究所
(従来の教科の教
室)

エキセントリックな学び

～正解に最短、最速にたどり着く教育から

逆にゆっくり、「なぜ」を問う教育への転換～

子どもたちに、課題を持たせ、その課題を、ゆっくり、じっくりと、自分ごととして考えさせることが、**学びの基礎体力を上げる**ことになる。

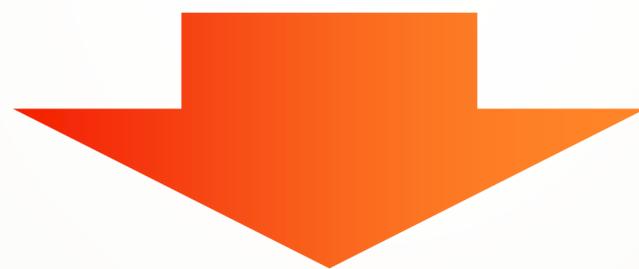
教師も同じ。

教師が自らの学校の教育の一つ一つについて、ゆっくり、じっくり、自分ごととして考えることが、**教師力を高める**ことになる。

③ 「異才（ギフト）の生徒」「発達特性の強い生徒」が力を発揮できる空間をつくるには？



インクルーシブでユニバーサルデザインな
場と活動をめざして



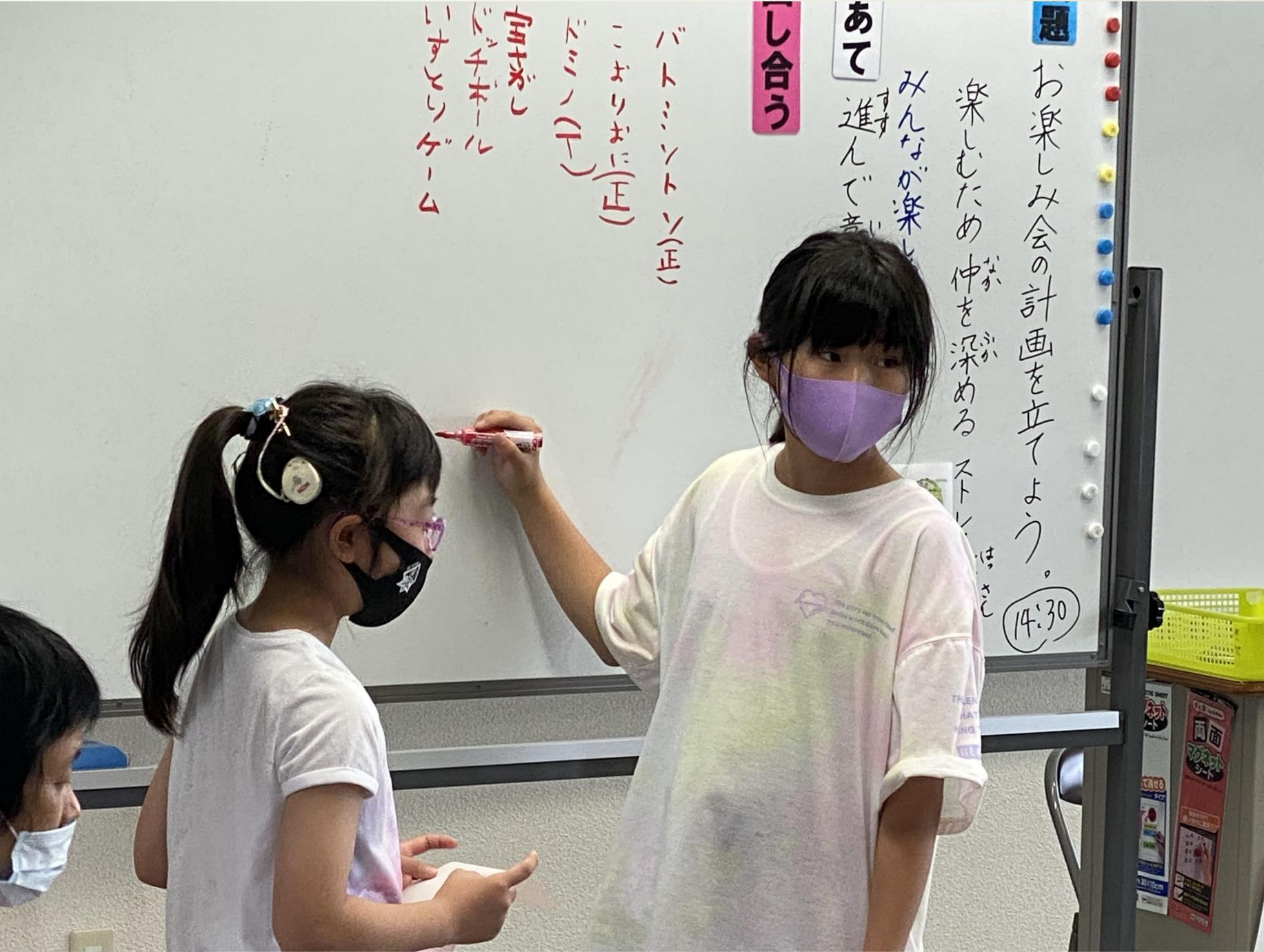
◇ 朝のミーティング ◇
◇ 学び直し ◇
◇ 共に学ぶ ◇

インクルーシブでユニバーサルデザインな活動とは

～ 異年齢、障がいの有無、国籍、性別を超えて ～

- できる、できないで分けない。
- 時間、空間、ツールの保証
- 協働→自らの力で関わり合いを持ち、
役割を果たす。

異年齢集団（小1～中1）による「朝のミーティング」



「学び直し」

国籍：中国
年齢：56歳

大熊から若松避難 大竹さん学び直し



生徒らと一緒に授業を受けている大竹さん

「感謝の手紙書きたい」

大熊町から会津若松市に避難している大竹英子さん

(56)は、同市で学校生活を続ける大熊町の熊町、大野両小、大熊中の児童、生徒と一緒に授業を受ける。中国から来日し、高校までの勉強を一通り経験したが、「日本語をもっと勉強し、お世話になった皆さんに感謝の手紙を書きたい」との思いで基本を学び直している。

中国出身の大竹さんは1991(平成3)年に来日し、長年大熊町で生活。日本と中国の架け橋となる交流活動に取り組み、子ども

たちに中国の文化を教えるなどしていた。

震災と原発事故に伴い会津若松市に避難。同市で大熊の学校が再開することを知ると「もう一度、基本を勉強したい」という思いが湧き上がった。学校にお願いして、2011年に小、中学、高校の範囲で学び直しを始めた。今年で10年となるが「『てにをは』など(助詞)が分かりづらい」と、日本語の難しさを再認識している。

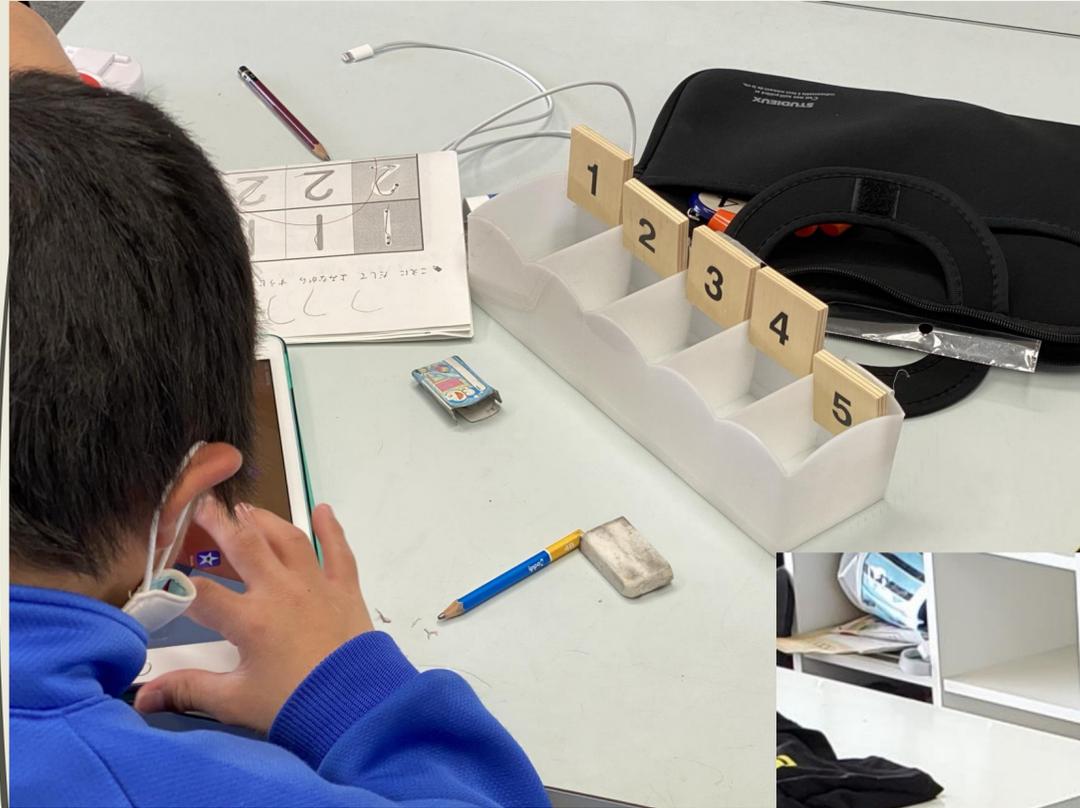
「人生で出会う人は数限りられるので、出会った人との縁を大事にしたい」と大

竹さん。手紙にこだわり、学び続けて人との縁をつなげていく考えだ。



福島民友
2021.6.23

障がいのある子もない子も「共に学ぶ」教育



<ダウン症>



<感音障がい>



<知的障がい>



産業構造審議会 教育イノベーション小委員会
学びの自律化・個別最適化WG

日時：2021年10月1日(金) 15:00～18:00
場所：オンライン

熊谷晋一郎

東京大学先端科学技術研究センター
東京大学バリアフリー支援室

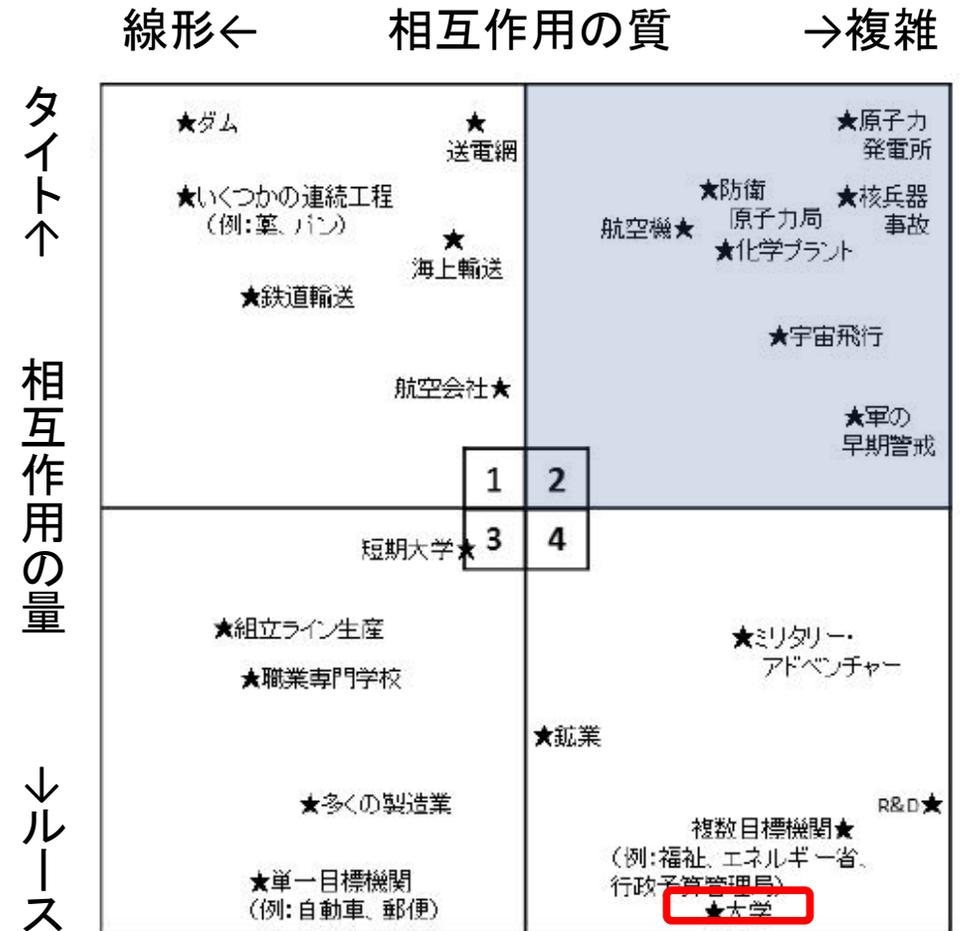
ノーマル・アクシデント理論 (Perrow, 1984)

スリーマイル島原子力発電所事故(1979年)等について、属人的視点(cf. ヒューマンエラー研究)ではなくシステムの視点から原因究明。

組織の構成要素同士の相互作用の「質」と「量」によって組織のありかたを分類

質：線形か複雑か
量：タイトかルースか

原子力発電所のようなタイトで複雑な組織は、事故を避けることができないという悲観的な結論を導いた。



高信頼性組織研究

- インドのボパールにおける有毒化学物質の漏出事故(1984年)やチェルノブイリ原子力発電所事故(1986年)、スペースシャトルチャレンジャー号の事故(1986年)が発生し、事故の原因究明だけでなく、事故を未然に防ぐ組織の特性が焦点になる。
- 事故が社会に与える影響が大きく、試行錯誤の学習が許されず、危険性が高い状況下にもかかわらず、事故を未然に防ぐことに成功しているような「高い信頼性」の実績をもった組織(高信頼性組織、以下HRO)を対象とした学際的な組織研究が誕生。

組織構造による統制	組織文化による統制
手段調達の不確実性を縮減	目的合意の不確実性を縮減
平時に優勢	有事に優勢
Organizedされた秩序の統制	Organizingする過程の統制
集権的統制	分権的統制 (文化が集権的機能をもつ)

組織構造(施設・設備・明示化されたルールや役割といった技術システム)の複雑性(多様性・冗長性)はそれを制御する組織文化(人間の知覚・認知・解釈の多様性)を超越しているため、人間が重要な情報を見逃し、解釈が不完全となり、対策が近視眼的となりがち。事故を減らすには、システムの複雑性とシステムを操作する個人や集団の認知の複雑性が適合している必要がある(必要多様性)。

高信頼性組織に求められる組織文化

1. センスメイキング (sense-making)

- 最初の直感に疑問を投げかけるデータを探しつつ、行為を通じてよりもっともらしい物語のアップデートを行うこと (Weick and Sutcliffe 2015 :邦訳 2017)。

2. マインドフルネス (mindfulness)

- センスメイキングを実現するために必要な、無意識のバイアスを積極的に取り除き続けようとする構え。
- 「現状の予想に対する反復的チェック、最新の経験に基づく予想の絶え間ない精緻化と差異化、前例のない出来事を意味づけるような新たな予測を生み出す意志と能力、状況の示す意味合いとそれへの対処法に対する繊細な評価、洞察力や従来の機能の改善につながるような新たな意味合いの発見」 (Weick and Sutcliffe 2001 p. 42, 邦訳 p.58) などの要素が組み合わさったもの。

3. ジャスト・カルチャー (Dekker 2008)

- 個人や組織が失敗に学ぶとともに、失敗に対する説明責任を果たすために、闇雲に失敗を非難し、断罪することを避ける文化

高信頼性組織は、組織が共有する物語・予想・想定を裏切る想定外のデータに注目し、物語・予想・想定を、より精緻にアップデートし続ける組織、言い換えれば、「**研究し続ける組織文化**」と要約できる。

高信頼性組織に求められる研究文化 [Just Culture]

個人のレイヤーに重い責任が課せられ組織のレイヤーは免責される
(能力と責任の医学モデル)

1. 組織の責任を棚上げして個人の責任追及と罰則
2. ルールの厳格化
3. 隠蔽

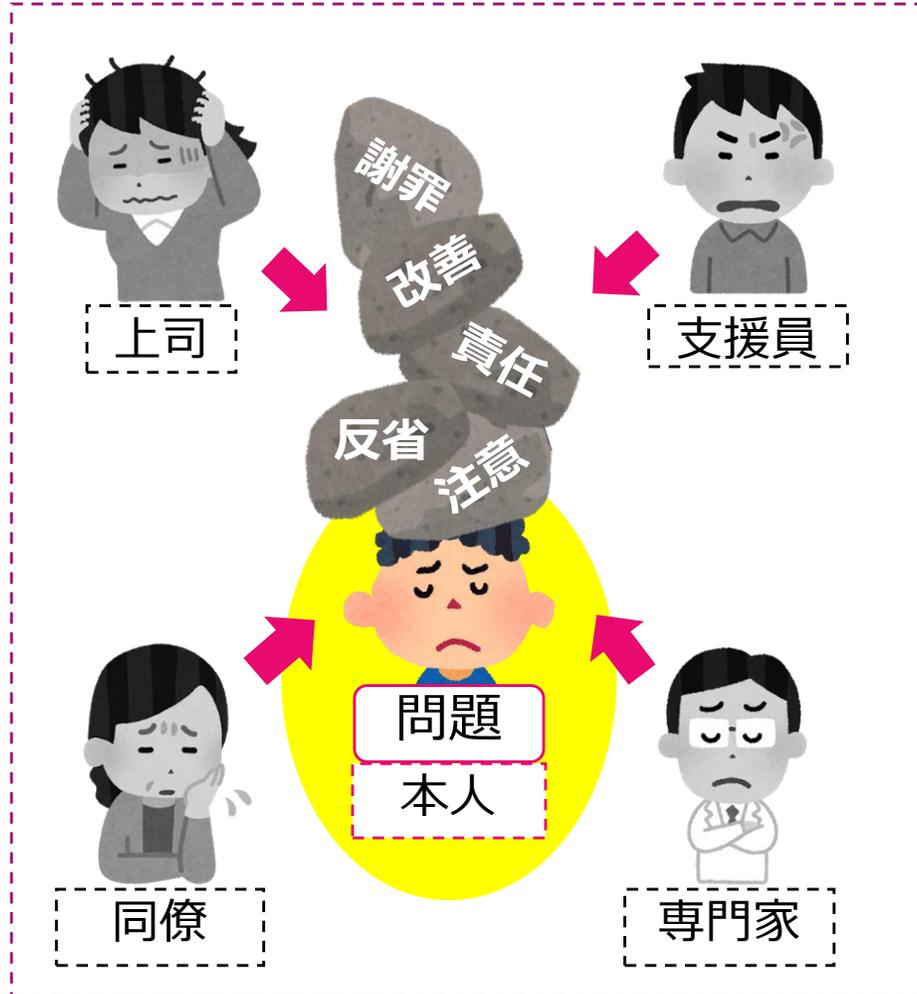
組織のレイヤーに重い責任が課せられ個人のレイヤーは報告や研究の責任以外に関して免責される (能力と責任の社会モデル)

1. 個人の報告責任と個人を責めない文化
2. 組織で共有する想定の見直しと精緻化
3. 個人の問題ではなく組織の問題として受け止める

想定外
失敗

“人”と“こと（問題）”を分ける—外在化

問題のある本人をまなざす



一般的に私たちは

「問題と本人はセットになっている」

「本人のせいで問題が生じ、本人に問題を解決したり、自分を変化させる能力がある」

という前提で、

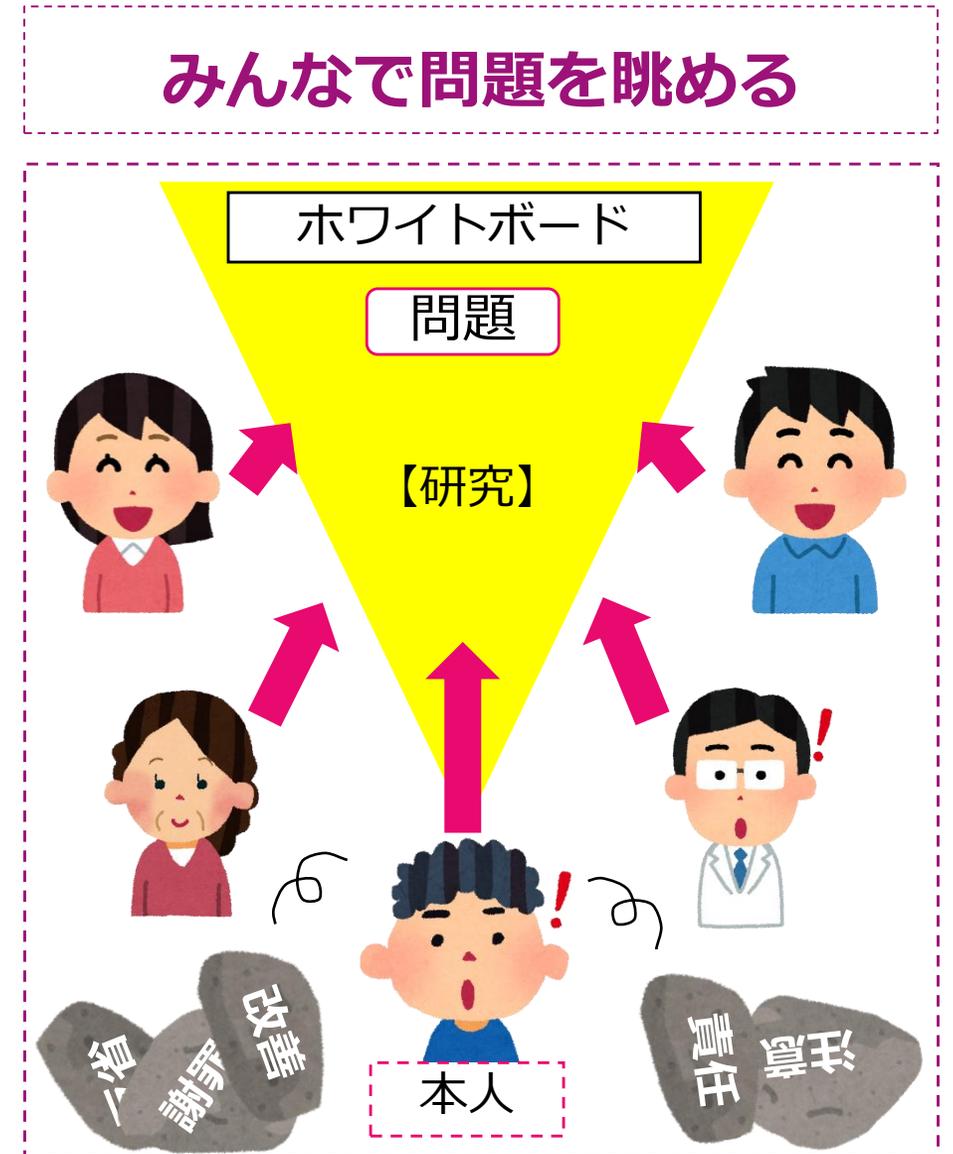
注意をしたり、反省をうながしたり、責任を問うたりしている。

“人”と“こと（問題）”を分ける—外在化

当事者研究における

「外在化」アプローチでは、責任や反省、本人が自分を変化させられるかどうかは一度保留する。

問題と本人を切り離して捉え、本人も仲間や周囲の人と共に問題を眺めるようにして、問題の構造について研究する。



反省の形式：反芻ではなく省察

自分に注意を向けることには、生きやすさにつながる場合と、生きにくさにつながる場合があるとされます。

反芻(Rumination) 能動的責任

脅威、喪失、不正によつて動機付けられたもの



省察(Reflection) 中動的責任

知的好奇心に動機付けられたもの



高信頼性組織を実装するための5つの方策

謙虚なリーダーシップ 心理的安全性 知識の共有

	Developing leadership	Culture of safety	Data systems	Training and learning	Implementing interventions
					
Key Strategy:					
ACHE Framework ¹⁶	✓	✓	✓		
Air Force Trusted Care ¹⁹	✓	✓	✓	✓	✓
ARCC Model ²⁰		✓	✓	✓	✓
High reliability team model ²¹		✓		✓	✓
IHI Framework ¹⁸	✓	✓	✓	✓	✓
JH's Operating Management System ¹⁷	✓		✓		
JH's Safety and Quality Framework ¹⁵	✓		✓	✓	✓
Joint Commission's HRHCM ³	✓	✓	✓	✓	✓
Number of frameworks addressing this strategy	6	6	7	6	6

この部分は、導入講座を体験した後に、実地で行う
 (希望するチームには、熊谷研究室と共同研究契約の上スーパービジョンを提供)

Project Aristotle (Google ピープル アナリティクス チーム, 2015)

研究目的

高い成果を達成するチームの条件を特定する

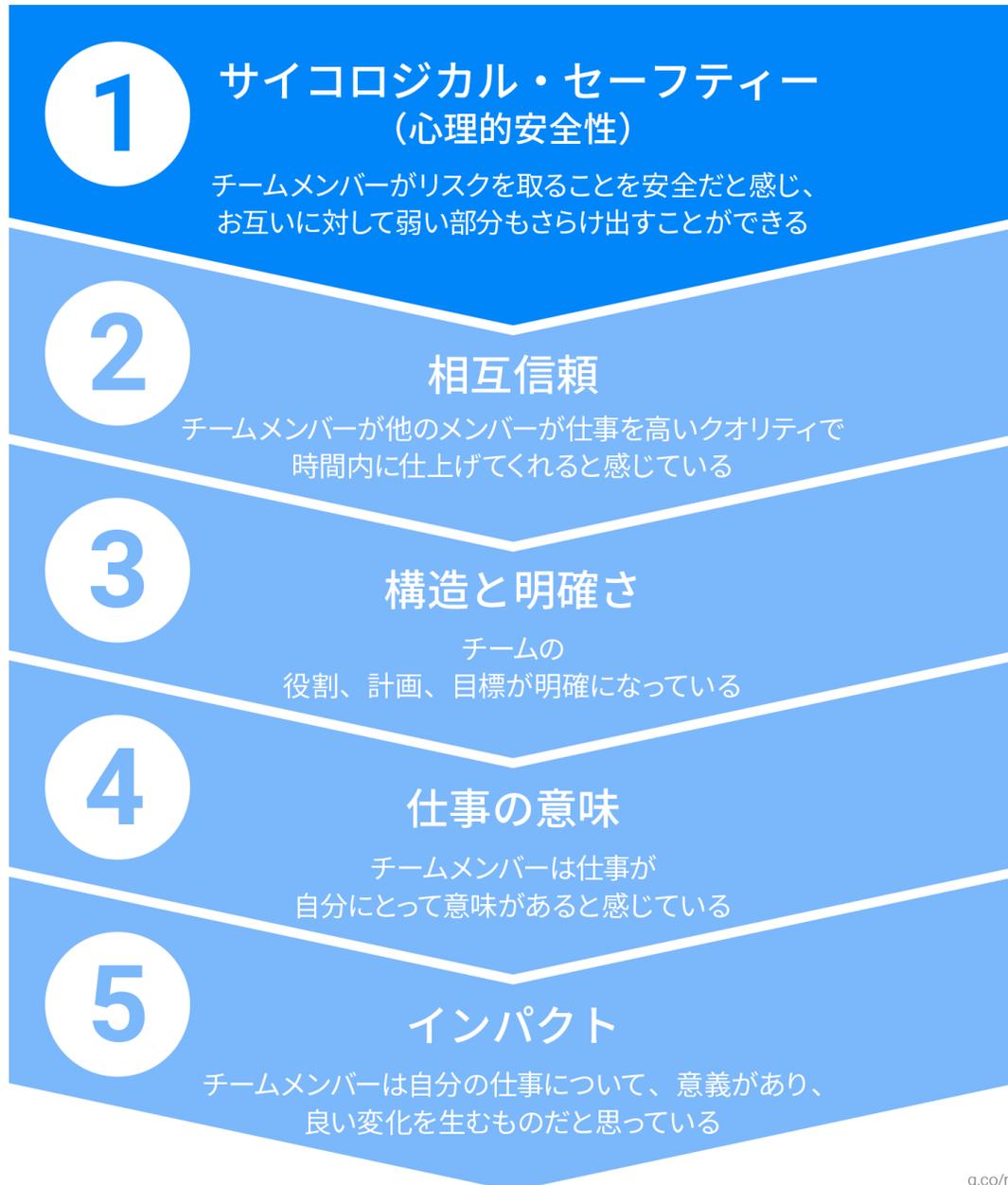
研究方法

- 180のチーム（エンジニアリング系115、営業系65）に対し、
 - ①チームの構成：メンバーの性格的な特性や営業スキル、年齢・性別などの人口統計学的な属性など
 - ②チームの力学：チームメンバー同士の関係性など
- 上記2点がチームの業績にどう影響するかを調査。
- 数百に及ぶ変数に対して35種類以上の統計モデルを適用。

研究結果

真に重要なのは、

- ① **チームの構成（誰がチームのメンバーであるか）よりも、**
- ② **チームの力学（チームがどのように協力しているか）だった。**



高い成果を達成するチーム に固有の5つの力学

- 圧倒的に重要なのが「心理的安全性」。
- 心理的安全性 (①⑧)
「対人関係においてリスクのある行動
をしてもこのチームでは安全であるとい
う、チームメンバーによって共有され
た考え」
エイミー・エドモンソン (ハーバード大学)
- 心理的安全性の高いチームのメンバーは、離職率
が低く、他のチームメンバーが発案した多様なア
イデアをうまく利用することができ、収益性が高
く、「効果的に働く」とマネージャーから評価さ
れる機会が2倍多い。

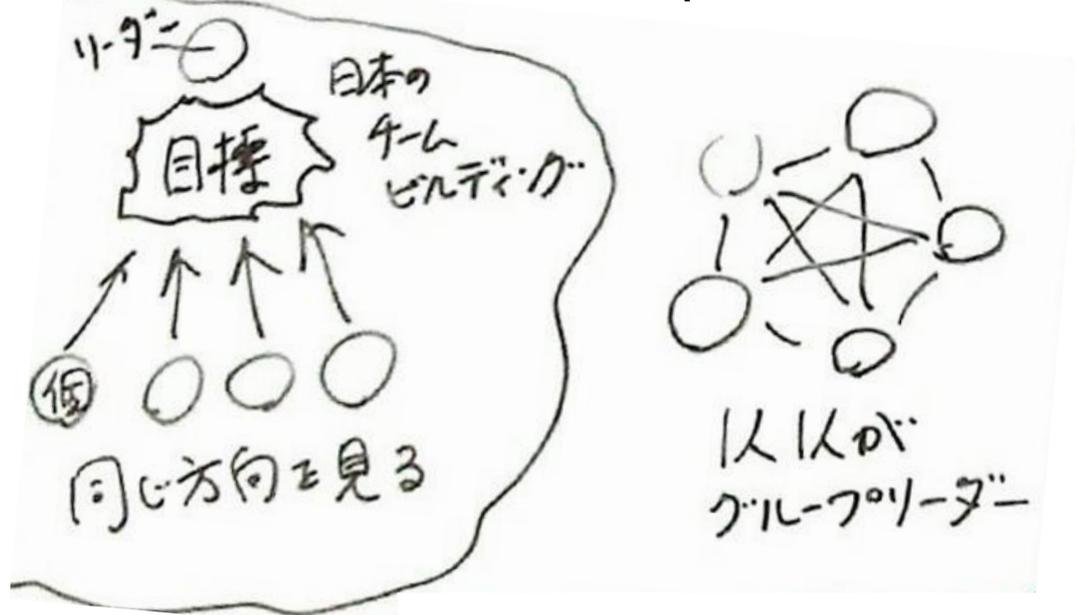


吉田氏のコメント抜粋

テーマ1：現役時代の語りにくさ

「スポーツ心理学的には**勝つためにこそ自分のことを整理するのは大切**」(筒井)であるにもかかわらず、弱音やニーズを開示すると「足を引っ張るな」と反発されがち

テーマ2：チームビルディング



テーマ3：アスリートの言葉

練習後に「今の、どう思った？」と聞き、気持ちや考えを言葉にする。その後、プレーのビデオを見て、外からの見え方とのする合わせをする。
→自分で考えるから自分のやったことに責任が持てる

テーマ4：責めない文化

9年前は苦手な部分を見つけて克服するスタンスがあり、互いを気分で攻め合うこともあった。365日共同生活をする中で互いの得意分野を知ることになり、感謝し合う関係がはぐくまれた。4年前から、ミスが起きたときに原因を属人化せず、チーム全体に帰属してみんなに対策を考える「責めない文化」が編み出された。責めないから責任をもてる。

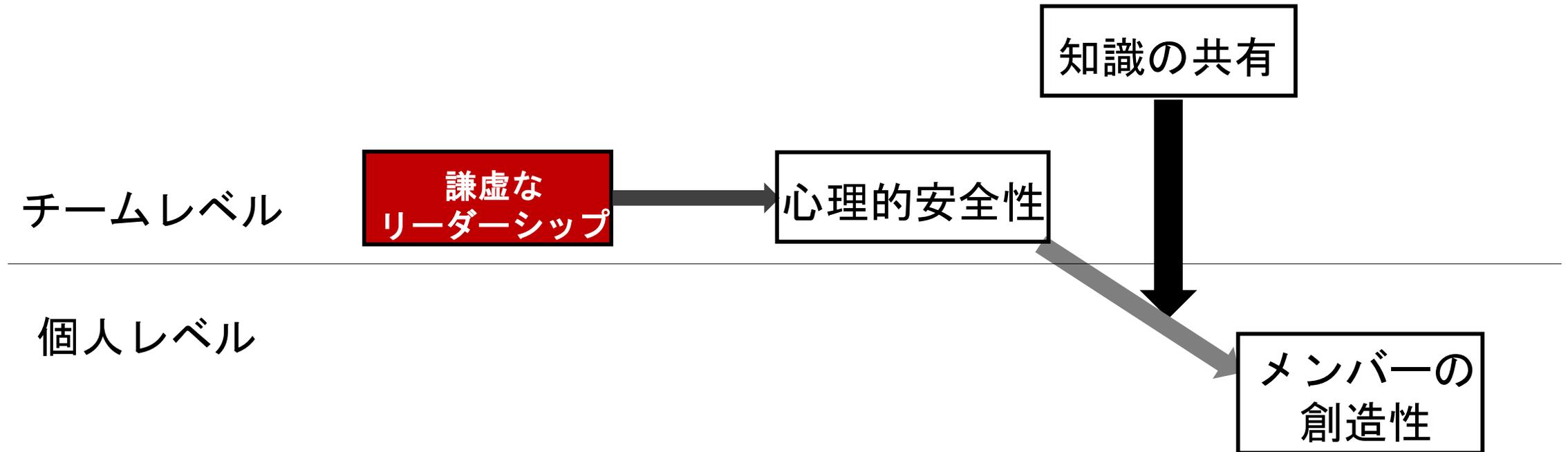
心理的安全性は数値化できる

心理的安全性尺度

* 「1. 全くあてはまらない」 「2. ほとんどあてはまらない」 「3. あまりあてはまらない」
「4. どちらともいえない」 「5. ややあてはまる」 「6. かなりあてはまる」 「7. 非常にあてはまる」

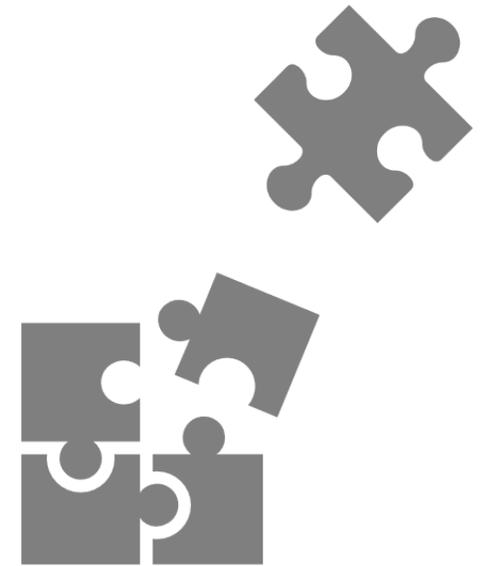
1. チームメンバーがミスをする時、しばしば白い眼で見られる。
2. このチームのメンバーらは、問題や困難について話し合うことができる。
3. このチームのメンバーらは、自分とは異なるという理由で他者を拒絶する可能性がある。
4. このチームでは、リスクを取っても安全だ。
5. このチームでは、他のメンバーに助けを求めることは困難だ。
6. このチームには、私の努力を無駄にしようとするメンバーはいない。
7. このチームのメンバーと一緒に仕事をするとき、私ならではのスキルや才能が価値を認められ、生かされている。

職場の心理的安全性を高めるリーダーシップは？



謙虚さの三要素

- ① 自己を正確に見ようとする
- ② 他者の強みや貢献を認める
- ③ ティーチャビリティ



リーダーの謙虚さは数値化できる

謙虚さ表出尺度

* 「1. 全く同意しない」 「2. 同意しない」 「3. あまり同意しない」 「4. どちらでもない」
「5. やや同意する」 「6. 同意する」 「7. 強く同意する」

1. この人物は、批判であっても、フィードバックを積極的に求める。
2. この人物は、自分が何かのやり方がわからないときに、そのことを認める。
3. この人物は、自分よりも他人のほうが多くの知識やスキルを持っているとき、そのことを認める。
4. この人物は、他人の長所に注目する。
5. この人物は、他人の長所をよく褒める。
6. この人物は、他人の独創的な貢献に対して感謝を示す。
7. この人物は、他人から意欲的に学ぼうとする。
8. この人物は、他人のアイデアに耳を傾ける。
9. この人物は、他人の助言に耳を傾ける。

われらが信条 Our Credo(クレド)

法人としての
経営理念
Management
Policy

明蓬館
高等学校
校訓
School
Policy

アットマーク
国際高等学校
校訓
School
Policy

全従業員の物心両面の幸福を追求し、
青少年の育成を通して、
人類、社会の進歩、発展に貢献する。
すべてはインディペンデント・ラーナーを育むために。
生涯をとおして生命(いのち)の炎を燃やし、学び続けられる人づくりへ

モチベイティブ・ラーナーになろう。

インディペンデント・ラーナーになろう



▲ビジョン (目指す社会) Vision

学ぶ機会はみな平等。青少年の笑顔溢れる社会づくりへ

成育環境、障害等によって学ぶ機会が阻害されたり、制限されることのない社会。

だれもが主体的に“学ぶこと”を謳歌できる社会を目指します。

▲ミッション (生徒・保護者に対して果たすべき使命) Mission Statement

生徒たちが『生命(いのち)の力』を引き出し、伸ばせる場をつくり
ます。

未来のジブンが好きになれる学びの場をつくります。

友をつくり、共に学び合える場をつくります。

▲ビリーフ (共有する信念) Belief

生徒と家族を支える、支援者と伴走者の思想を買きます。

▲アイデンティティ(われわれは何者か) Identity

“教える教育”から“自ら発見する、問題意識を持てる教育”
“自己選択を促す教育”へ

私たちは、公共益を実現するために、社会的企業である認識を持ちます。
性差、年齢に関係なく、実力本位の人事、風通しの良い風土づくりを行い、
透明性の高い経営による学校を運営します。

私たちは、自ら成長し、感動し、社会に感動を与えられる仲間たちです。

■■■われらが責任 Our Responsibility

- 1に生徒に対するもの
- 2に生徒の家族に対するもの
- 3に(生徒と家族に尽くす)連携校に対するもの
- 4に学校認可者・認可地、白山市および川崎町に対するもの
- 5にわれわれ教職員と家族に対するもの
- 6に株主に対するもの
- 7に生徒たちが活躍する、この先の人類社会に対するもの

■■■目指すべき最高行動原則 The principle of behavior

業務中のすべての時間をこれから入学される生徒と家族、そして入学された生徒と家族に捧げられるようにします。

私たちが受け取る報酬は、生徒と家族に尽くした質と量と感動に対する対価です。

■■■行動指針 Activity Guideline

1. 積極進取 私たちは、常に変化する時代に挑戦し、自ら積極的に課題に取り組みます
2. 創意革新 私たちは、常に新しいアイデアを持ち、仕事に対して革新の意識で向上します
3. 誠実努力 私たちは、常に高い倫理観を持ち、仕事に対して誠実に取り組み、自己啓発に努力します
4. 親和発展 私たちは、常に叡智を結集し、組織の限らない発展と豊かな生活を築くよう努力します

■■■行動規範 Activity Norm

1. 和（チームワーク）をなによりも大切なものとし、尊重・協調・親睦の気持ちをもって真剣に論議します
2. 礼（謙虚、すなお、感謝）の精神を根本に持ちます
3. 正義感をもって、弱気をたすけ、強気をくじくようにします
4. 真心を持ち、我と慢心、おごりを持たないように努めます
(自分がかならず聖人で、相手がかならず愚かだというわけではない。皆ともに凡人である)
5. 役職に適した人に自らがなるようにします
6. 上司、部下、同僚、生徒、保護者の良いところを見つけて、賞賛します。過失は、わが事のように愛情を持って叱ります
7. 公私混同をしません。校務はすべて公務です。私心をすべて公務に向かいます
(私心があるとき、恨みの心がおきる。恨みがあれば、かならず不和が生じる。不和になれば私心で公務をとることとなり、結果としては公務の妨げをなす)
8. 独断と独裁をしません。仕事を私物化しません。ものごとはひとりで判断せずに、必ず報告連絡相談して判断します
9. 命令をうけたならば、謹んでそれに従います
10. 私たちは小成に甘んじず、チームで大きな業績を上げることを信じて行動します



すべての支援と伴走環境の土台にあるもの

自分の脳だって暗示にかけられる、脳はポジティブな言葉を栄養にしたがる、生徒たちはポジティブな言葉を欲しがっている

マインドセットよりも必要なのは、スキルチェンジ

ポジティブなワード、ポジティブな精神風土、ポジティブなオーラ 善なるもの、真なるもの、美なるもの

おはよう	こんにちは	さようなら
ありがとう	いいねえ	うれしいなあ
いっしょにやろう	うまくいってるね	えんりよしないで
思いつく限り言ってみようか	さあいこう	いっしょにやってみようか
どうしたらいいと思う？	何しようか	何かいいことあった？
何かあったのかな？	どうしたら良かったんだっけ？	教えてくれる？



ネガティブなワード、ネガティブな精神風土、ネガティブなオーラ 陰なるもの、鬱なるもの

なんで〇〇したの？	なんで〇〇しなかったの？	〇〇してはダメ	〇〇しないとダメ
〇〇が問題	それはムリ	それはむずかしい	うまくいかない
どうせ	だって	〇〇なるに決まってる	さちっと
きちんと	ちゃんと	でも	そうは言っても
ほらね	やっぱり	むり	それはちがう
〇〇しないと	〇〇しなきゃ	しかたない	しよせん
しょうがない	〇〇くんに比べると	〇〇（お姉さん、お兄ちゃんは〇〇だったのに）	
ため息	ぐち	ちえっ	何度言ったらわかるの
ああ～あ	めんどう	普通	



「生徒が主語の学校」づくりためのキーワード

（明蓬館高等学校SNECの3つの定義）

生徒と保護者の笑顔に出会える場所

1. **〔リスペクト〕** 個性や違いや障害特性を尊重し合える場所
2. **〔相互性〕** 困っている時に仲間や先生が助け合えたり、支え合える場所
3. **〔安心安全〕** 安心して、好きな学習や得意な学習に挑戦できる場所



SNECレイアウトの物理的構造化 安心でき、集中でき、自己肯定感・共生感を感じられる場所

→ コンサルテーション室



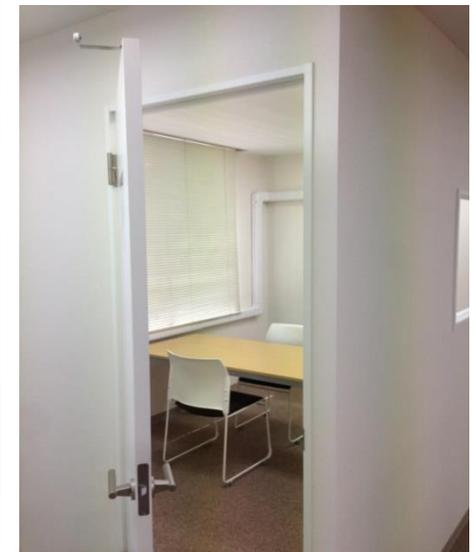
→ 学習スペース



→ トランジッション



↓ 相談室(検査実施も)



→ マルチスペース(ミニ授業スペースも)





安心できる空間デザイン

学習スペース

生徒みんなが同じ方向を向く教育環境になじめなかった生徒たちにとって、前方、左右をブースで囲われたブース机はジブンでいられるプライベートスペースです。



コミュニケーション・ワークショップスペース

特別授業や部活動、レクリエーションを行ったり、ランチタイムにはみんなとお弁当を食べることもできます。休み時間や放課後には自由を楽しむ姿が見られます。



相談スペース

個室の相談スペースです。相談員や支援員の先生に学習の相談、心の相談など、落ち着いてお話を聞いてもらうことができます。もちろんオンラインでも相談をすることができます。



多様な学習環境について

株式会社SPACE CEO
東京大学未来ビジョン研究センター客員研究員

福本理恵



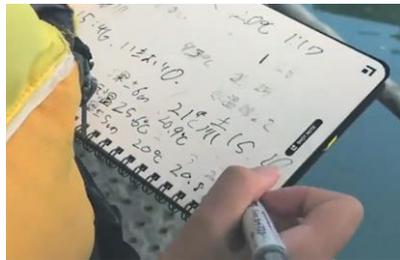
「主体的・対話的で深い学び」を引き出せる
学習環境の要件は何か

学習環境の前提となるマインドセット

- 主体的・対話的で深い学びの範囲は？
 - 学習者と同学年、同族集団・・・ファシリテーター、コーディネーターの介入が必要
 - 学習者とメンター・・・ヒアリングに基づく個別ケアが必要
- 学習場面での心理的安全性の担保
 - メールやSNS、電話での対応を個別でフォローアップ
 - メンター、コミュニケーターを複数配置
 - 家庭や学校への介入
- 学習場面が自己選択・自己決定の場であることを共有
 - 学習者とその学びをともに作る仲間、サポーターがこの意識を共有していることが重要
 - 壁打ちはしても、最終的な自己選択・決定の権利を取らない介入が必要

ソフト面での学習環境（カリキュラム設計）

- 教科書をなくし、自分なりの方法を試行錯誤できる（太陽の力を感じろ）
 - 自分なりの方法でトライアンドエラーできる場面やミッションの設定
 - 知識の活用場面の設定



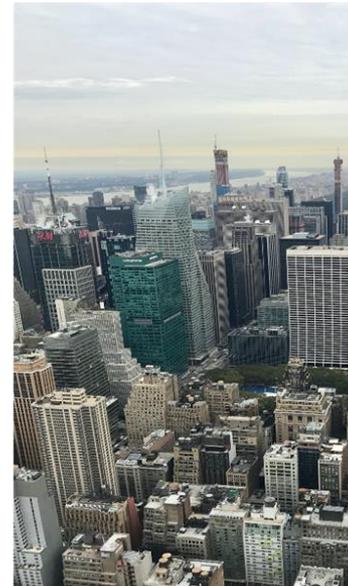
ソフト面での学習環境（カリキュラム設計）

- 時間の余白を生む学習環境を設計する（炭、旅、鉄PBL）
 - リアリティのある知識の活用
 - 人生の哲学をもった先人との対話



ソフト面での学習環境（カリキュラム設計）

- 明確な目的をなくし、魅力的なミッションを設定する
 - 取り組みたくなる答えのない問いの設定
 - ミッション（視点）に基づく探索行動



ソフト面での学習環境（人的リソース）

- エキスパートや同じ興味を持つ仲間との時間を設計

- 興味のある専門領域のエキスパートとの対話や、仲間との対話
- 学校や地域を超えたコミュニティの醸成
- 同じ深さで没頭する層は、興味の対象が異なってもコミュニティ化する

- ファシリテーター、メンター達とのやり取りの中で学びの土台を構築

- 意思決定や交渉は子ども主体で行う際にも、問題の明確化や思考の整理、状況の分析等をサポートすることで、自分達での課題解決を促進
- 考えが行き詰まり、感情や衝動行動を押さえられない場合や、アップダウンが激しい場合には壁打ち相手としてのメンターの役割も重要
- 言葉でのコミュニケーションが難しい場合でも多様なコミュニケーション方法で、子どもの状態把握、見立てをしながら、子どもの意思伝達をサポートする役割も重要

ハード面での学習環境（IT機器での補償）

- **読み書きが難しい場合のIT機器による学習補償**
 - ワープロを活用したタイピングやボイスオーバー等、読み書きを補償するITデバイスやアプリケーションを導入
- **記録ツールカメラ、iPhone、iPadでの記録補助**
 - 書くのが難しい、ワーキングメモリがしんどい場合には、記録ツールとしてのカメラ機能のあるデバイス、アプリを導入
- **思考整理のツールの場合の支援**
 - マインドマップアプリ等により思考整理を補助
- **特定のコミュニケーションが難しい場合**
 - LINEなどのチャット機能、zoom、メール等を活用し、対面言語コミュニケーションでない方法で関係性を構築。逆にIT機器操作が苦手な子には対面での言語コミュニケーションで対応

ハード面での学習環境（物理空間の設計）

- 大人数での集団学習環境が合わない場合
 - 別室やオンラインでの学習、野外等で広い空間での学習環境を考慮
- 感覚過敏等で教室環境が合わない場合
 - 別室での学習
 - イヤーマフやノイズキャンセリングヘッドフォン等のIT機器の導入
 - マスクの着用、服装等の自由化を配慮
- 多動で落ち着きがなく、固定席への着席が合わない場合
 - フィールドワーク等での学習環境を考慮
 - バランスボール等の導入



2

「異才の子どもたち、発達特性の強い子どもたち」が力を発揮できる空間をつくるには



Vtv

あなたは、歩きますか。

既に道

PR動画
2019年3月1日更新

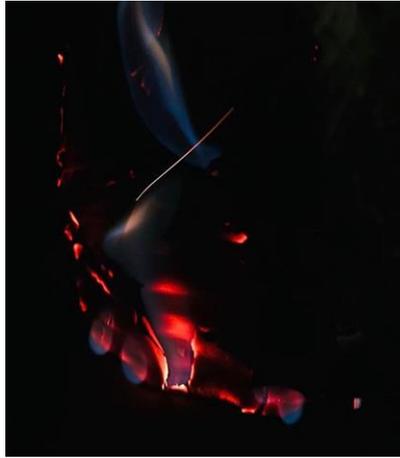
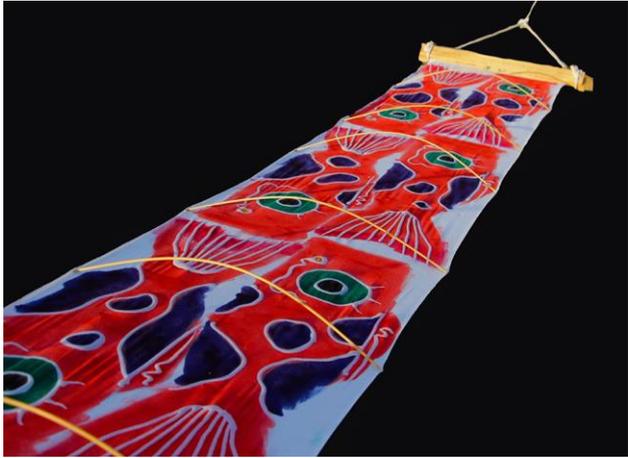
Introduction
イントロダクション

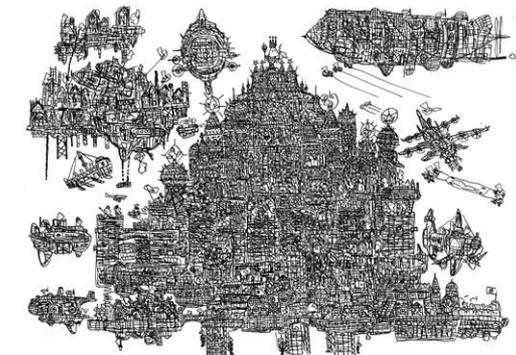
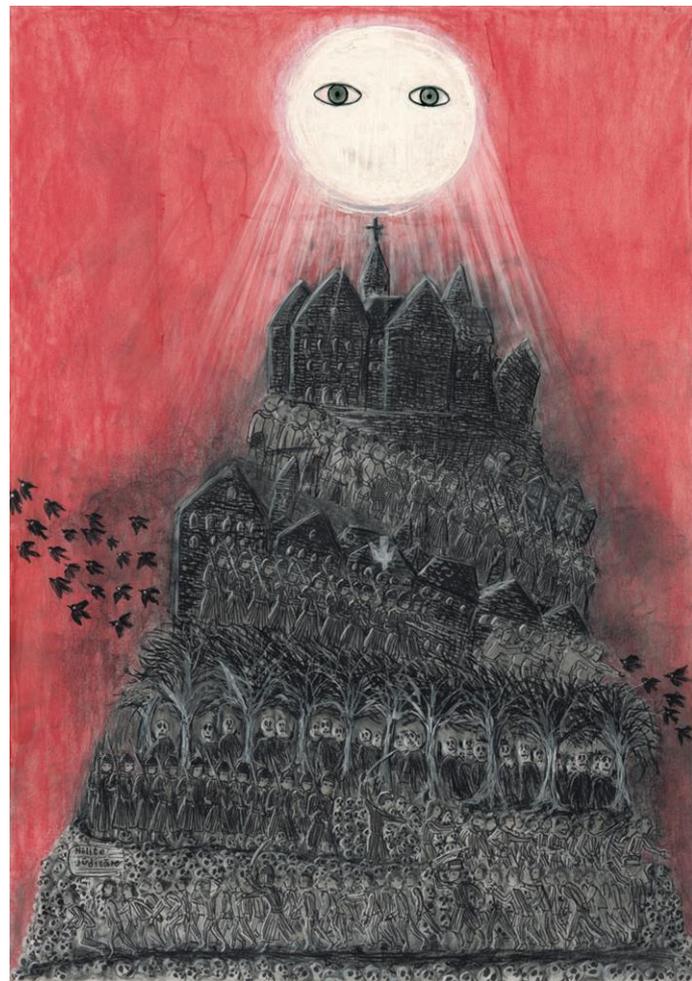
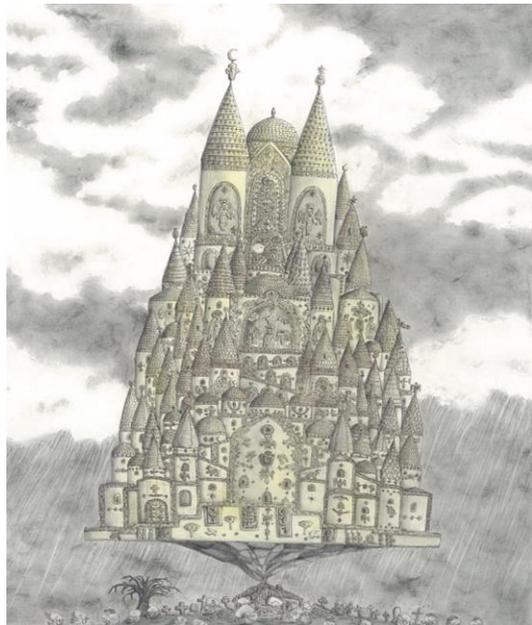
Story
あらすじ

Chart
相関図

キャスト
スタッフ

更新情報
2019/3/1
環境シボ「運賃習はんのランクイン」更新







ユニークな子どもたちに見られた特徴

- 認知的な偏り、感覚過敏
- 強いこだわりへの固執、過度な探究、過集中
- 興味の拡散、興味の限局
- 多様なコミュニケーション
- きまりやルール遵守の困難さ
- 自分の学びや生きる意味を真摯に考え続ける姿勢

A : 書くことができないが、描くことはできる

7	山みく	17	たは
8	てっさう	18	まご
9	たみ	19	す
10	どりやく	20	けき史

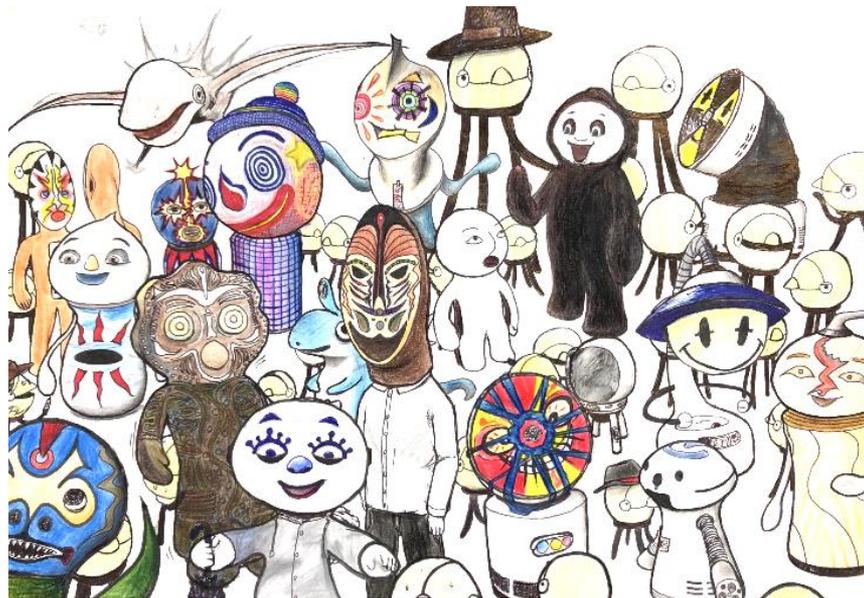
漢字を思い出して書く課題におけるAの回答

(左上から、7:山脈, 8:卒業, 9:鏡, 10:努力, 17:束, 18:孫, 19:巢, 10:歴史が正答)



文字は書き順や形の規則性があるが、絵は頭の中のファンタジーを好きなように自由に表現できる。

B：会話は苦手だが、絵の創作ができる



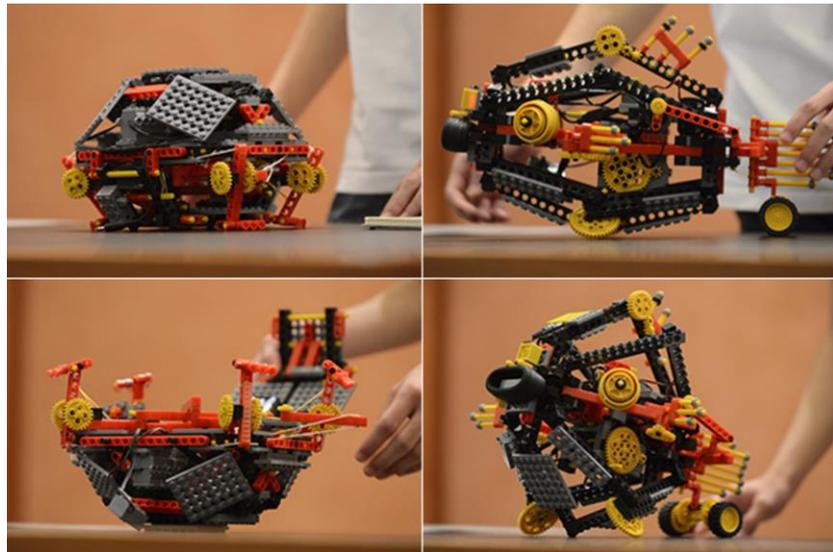
言語でのコミュニケーションは苦手で、会話中にも映像が浮かんで来て会話がまともにできなくなってしまう。

C：読み書きは苦手だが、ロボット製作ができる

1		11	粉 ?
2	?	12	中 ?
3	芽	13	?

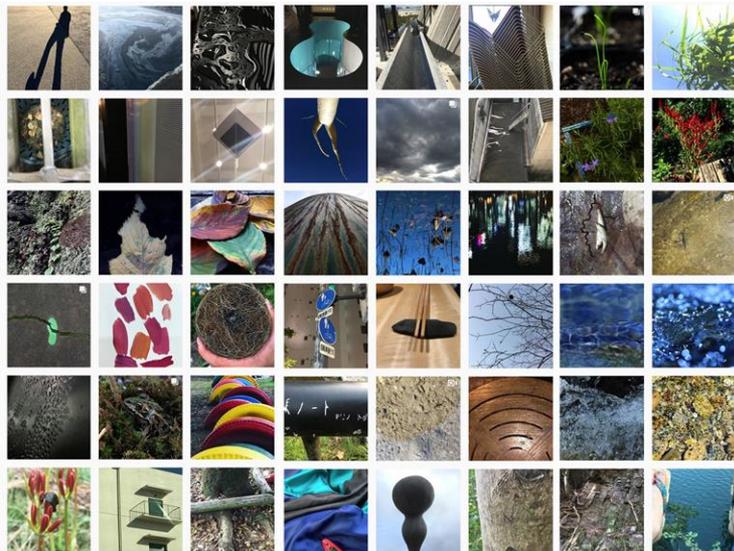
漢字を思い出して書く課題でCが書いた漢字単語

(1:目標, 3:芽, 11:粉, 12:仲間)



町の中の標識や案内板に書かれた文字を見ると読めなくてパニックになってしまう。
ロボットは文字から出なくて図解やyoutube、自分の手を動かしながらでの手探りで学ぶことができた。

E：学校の授業が苦手だが、映像学習ができる



先生の話聞いて理解することは難しく学校の勉強は苦手だったが、高卒認定の勉強の時にyoutubeなどの映像学習をした際にとってもよく理解できて、反復したりペースを自分で調整できると理解できることがわかった。

F：対面は苦手だが、オンラインで仕事ができる



対面の会話はとても苦手意思疎通ができないが、メールでのやりとりだとできてそのおかげで映像の仕事も自宅から遠隔で受注することができている。

提供した学習環境

- 認知的な偏り、感覚過敏
→ 環境調整、合理的配慮
- 強いこだわりへの固執、過度な探究、過集中
→ 教科書なし、時間制限なし、個別申請プログラム
- 興味の拡散、興味の限局
→ それぞれの興味の特性に応じたプログラム
- 多様なコミュニケーション
→ 多様な媒体、方法、頻度での連絡方法
- きまりやルール遵守の困難さ
→ 枠を外す（教科書、時間割、目的、学習方法・内容・環境）
- 自分の学びや生きる意味を真摯に考え続ける姿勢
→ トップランナーやエキスパートなど多様な生き様に触れる機会

努力やトレーニングでは
補えない場合、二次障害を防ぐことが大事

ハード面での学習環境（IT機器での補償）

- **読み書きが難しい場合のIT機器による学習補償**
 - ワープロを活用したタイピングやボイスオーバー等、読み書きを補償するITデバイスやアプリケーションを導入
- **カメラ、iPhone、iPadなどの記録ツールによる学習補償**
 - 書くのが難しい、ワーキングメモリがしんどい場合には、記録ツールとしてのカメラ機能のあるデバイス、アプリを導入
- **思考整理のツールの場合の支援**
 - マインドマップアプリ等により思考整理を補助
- **特定のコミュニケーションが難しい場合**
 - LINEなどのチャット機能、zoom、メール等を活用し、対面言語コミュニケーションでない方法で関係性を構築。逆にIT機器操作が苦手な子には対面での言語コミュニケーションで対応

ハード面での学習環境（物理空間の設計）

- 大人数での集団学習環境が合わない場合
 - 別室やオンラインでの学習、野外等で広い空間での学習環境を考慮
- 感覚過敏等で教室環境が合わない場合
 - 別室での学習
 - イヤーマフやノイズキャンセリングヘッドフォン等のIT機器の導入
 - マスクの着用、服装等の自由化を配慮
- 多動で落ち着きがなく、固定席への着席が合わない場合
 - フィールドワーク等での学習環境を考慮
 - バランスボール等の導入

やりたいを叶える申請書制度

表3-1 申請内容の件数と割合

カテゴリ	項目	件数	割合	
物品の提供	電子機器	165	343	76.91%
	カメラ	13		
	実験用具	13		
	書籍	16		
	備品	136		
学習機会の提供		68	15.25%	
人的資源の提供		22	4.93%	
物理的空間の提供		8	1.79%	
その他		5	1.12%	
合計		446	-	

- 物品の提供(76.91%)
- 学習機会の提供(15.25%)
- 人的資源の提供(4.93%)
- 物理的空間の提供(1.79%)

スカラー候補生の関心領域

関心領域	人数(人)	割合(%)
芸術	35	26.9
サイエンス	17	13.1
テクノロジー	16	12.3
数学	7	5.4
歴史	7	5.4
文学	6	4.6
物理	4	3.1
工学	3	2.3
政治経済	3	1.5
ロボット	2	1.5
医学	2	1.5
教育	2	1.5
地学	2	1.5
農業	2	1.5
その他	22	16.9

- 芸術系が26.9%と4分の1以上いることが特徴的で学力テストの成績が評価される学校で不適応を起こした子ども達にとっては、その代替として芸術が自由な表現になっている可能性がある。読み書きベース、学力テスト以外で自己表現し、評価される場所が必要
- 芸術分野以外の専門領域についても、学校内では十分に学ぶ環境が整っていないため、ROCKETのような学びの場でエキスパートのレクチャーを受けたり、同じ興味関心を持つ仲間と交流したりすることでニーズを満たしている子どもが多いことが考えられる

興味関心で集まる集団のための学習環境



服を解剖する！-服から糸へ分...

開催地：東京都渋谷区

日程：2020.02.10.

対象：渋谷区在住の小学4年生から中
学3年生まで

Balloon



スマートに生きる 一物の流れ...

開催地：広島県福山市

日程：2019.11.27-28.

対象：福山市在住の小学5年生-中学3
年生（学校における集団での
学習になじみにくい児童生
徒）

Balloon



30年前のMINIに息を吹き込め...

開催地：福島県白河市

日程：2019.10.29-11.01

対象：車に興味のある小学5年生-中
学3年生

Submarine



自然の色は何色！？

開催地：東京大学先端科学技術研究
センター、都内公園

日程：2019.09.10.

対象：小学3年生-中学3年生

Balloon



すみからすみまで

開催地：世界のどこか片隅

日程：9月下旬から10月中旬までの
5-10日程度

対象：小学5年以上、海外に一人で行
ける人、10名程度

ROCKET



沼にひそむ昆虫の正体をあば
く！

開催地：群馬県館林市

日程：2019.09.13

対象：昆虫採集に毎日出かけるほど
の虫好き、10名ほど

Submarine



日本をどう表現するか

開催地：東大先端研

日程：①2019年11月7日 ②2019年12
月中旬 ③2020年1月5日～1月
19日

対象：小学3年生以上で芸術に興味か
ある、15名程度

Submarine



光が描き出す姿を撮る！

開催地：東京都

日程：2019.09.18-20.

対象：カメラを実際に使い、写真に
関心のある中高生 10名程度

Submarine



はしからはしへ

開催地：日本の最果て

日程：2019.08.19 -08.20

対象：小学5年生以上高

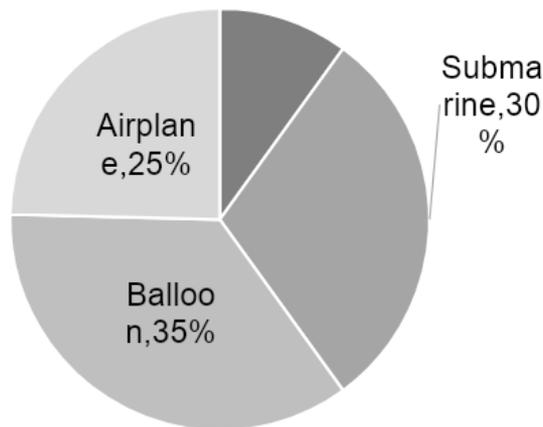


日本の61市町村

海外の14カ国、21都市

約370個のプログラムを実施

異なる特性を持つ集団コミュニティ



Rocket : ロケットが勢いよく突き抜けていくように、好奇心旺盛に様々な学び続けるタイプ

Submarine : 一つの領域を深く掘っていく様子を潜水艦の探索のように、興味関心領域を深く掘りながら学ぶタイプ

Balloon : 色々な知識の関連性が繋がっていることを上から俯瞰して学ぶタイプ

Airplane : 情緒不安定で悩みを抱え、情緒の高低差を行き来するタイプで個別対応でのフォローが多い

子ども達の認知特性や学び方の指向性によって学ぶスタイルも異なるため、プログラムを3つの枠組みで設計し、その中で活動ベースの様々な学び方を子ども達が選べるようにしてきた

学び方と学習スタイルのカテゴリー

学び方のカテゴリー

- ABL、ABSL
- PBL
- エキスパートレク
- トップランナートーク
- 国内外でのstudy tour

6割以上は座学ではない学習

活動スタイルによるプログラム数と割合

活動スタイル	個数 (個)	割合 (%)
フィールドワーク (調査)	25	6.9
探索活動	59	16.2
実験	25	6.9
セミナー	92	25.3
創作活動	39	10.7
実習	76	20.9
ミーティング	47	12.9
コンペ	1	0.3

ROCKETのポリシーとAI時代に必要な力

- 学び方のポリシー
 - 教科書なし
 - 時間割なし
 - 目的なし
- 生き方のポリシー
 - 自己選択と自己責任
 - 筋と道理
 - 人との向き合い方

AI時代に必要な力とは・・・

R2D2

Reality : リアリティ

Resilience : レジリエンス

Development : 深掘り

Diversity : 多様性

昔は家庭やコミュニティで身につけていた力

教科書なし



31-

一人一人異なる方法とプロセスで同じものが一つもない、それぞれの納得感がある一皿が完成する

時間制限なし



気候や天災を含め自然環境の影響を受けながら現地の暮らし、生き方を学ぶ「プロジェクト炭」
現場での土木工事や炭焼きを通して、物理法則や化学反応などリアリティある知識を学ぶ

目的なし



原料、製品、エネルギーを考えるために行き先不明のまま出発したインドへの海外研修
再生可能エネルギーを想定して出かけた子ども達が発見したのは人が放つエネルギーだった

自由に学べる世界

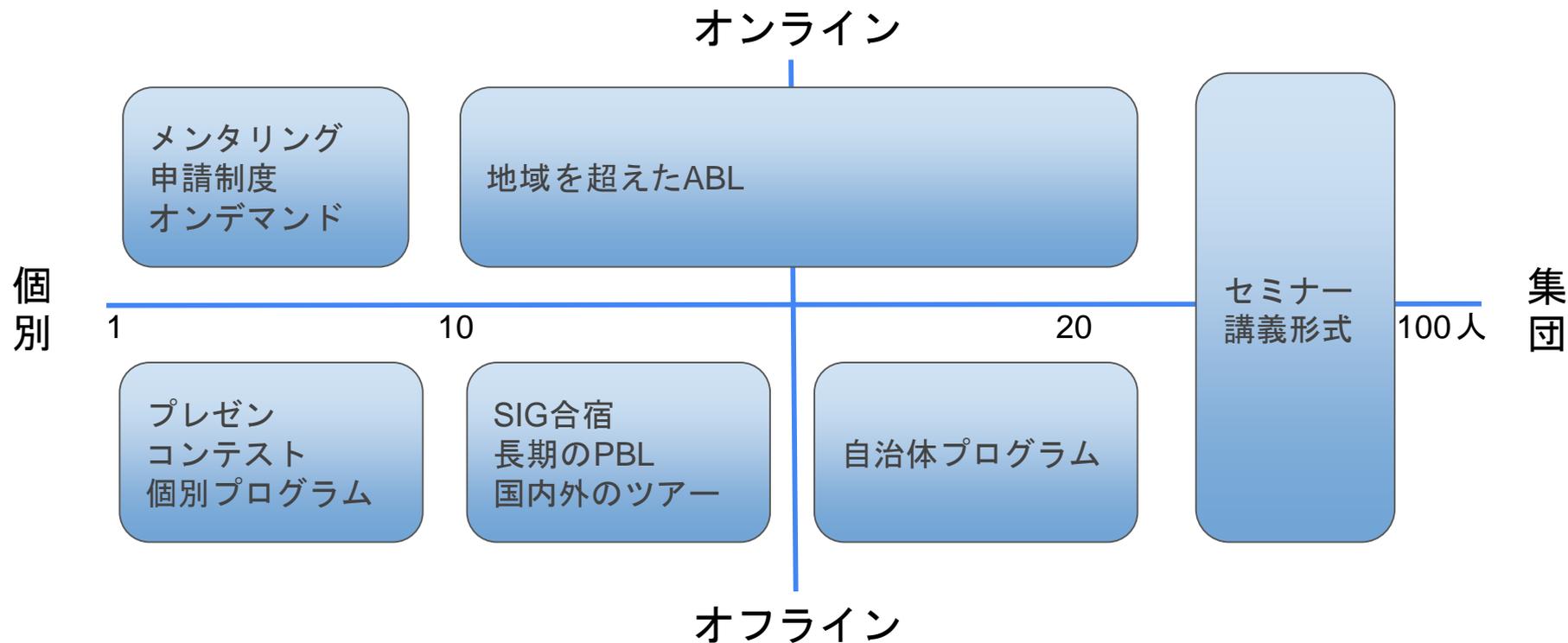
結果を簡単に評価をせず待てる

時間・空間・機会が必要

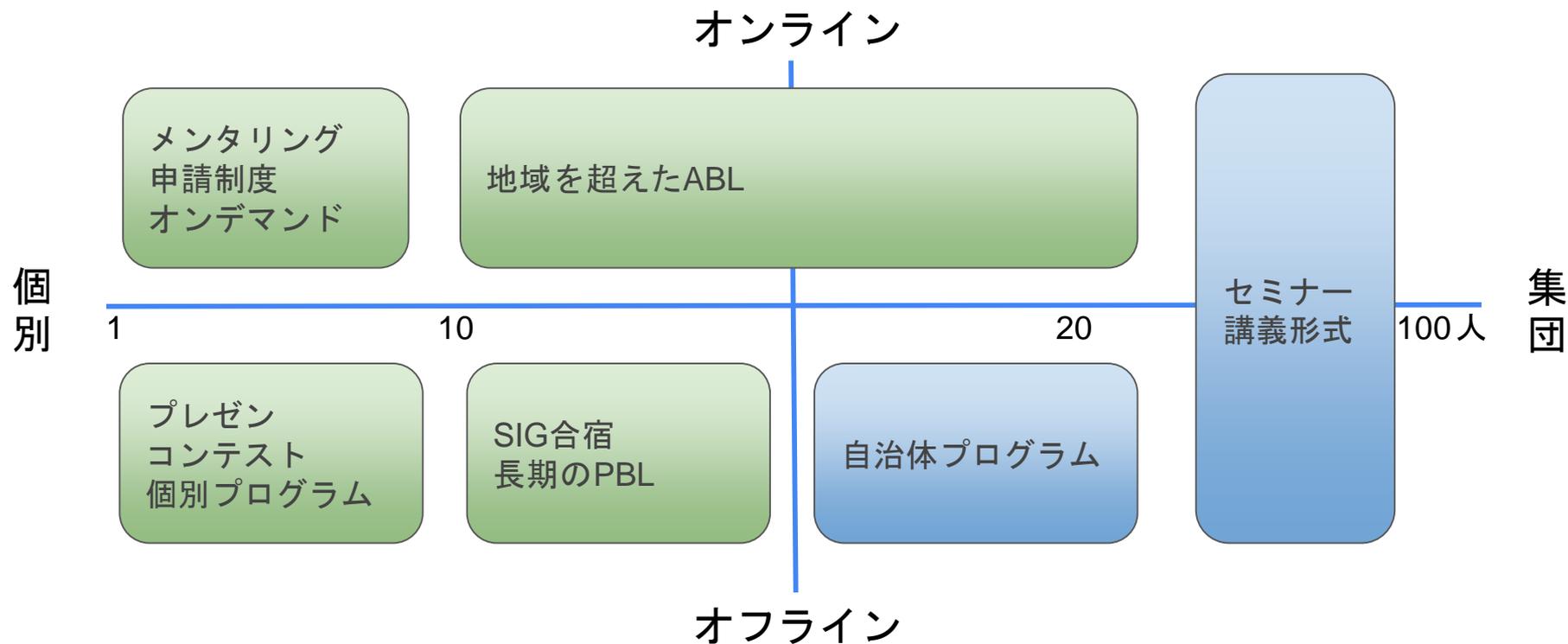


興味や特性に応じた4象限選択（ほどよい
個別/集合×ほどよい対面/ネット）は可能か

各学習プログラム・サポートの4象限への配置



各学習プログラム・サポートの4象限への配置



ロートこどもみらい財団



ロートシップ全体像

ギャザリング

1. メロー会員に登録

メロー同士の交流やイベントなどに参加できる



2. 応募する

ファンディング

3-1. アイデアを実現する！



助成金とメンタリングのサポートで、
自分の中にあるアイデアを
具体的に形にします。

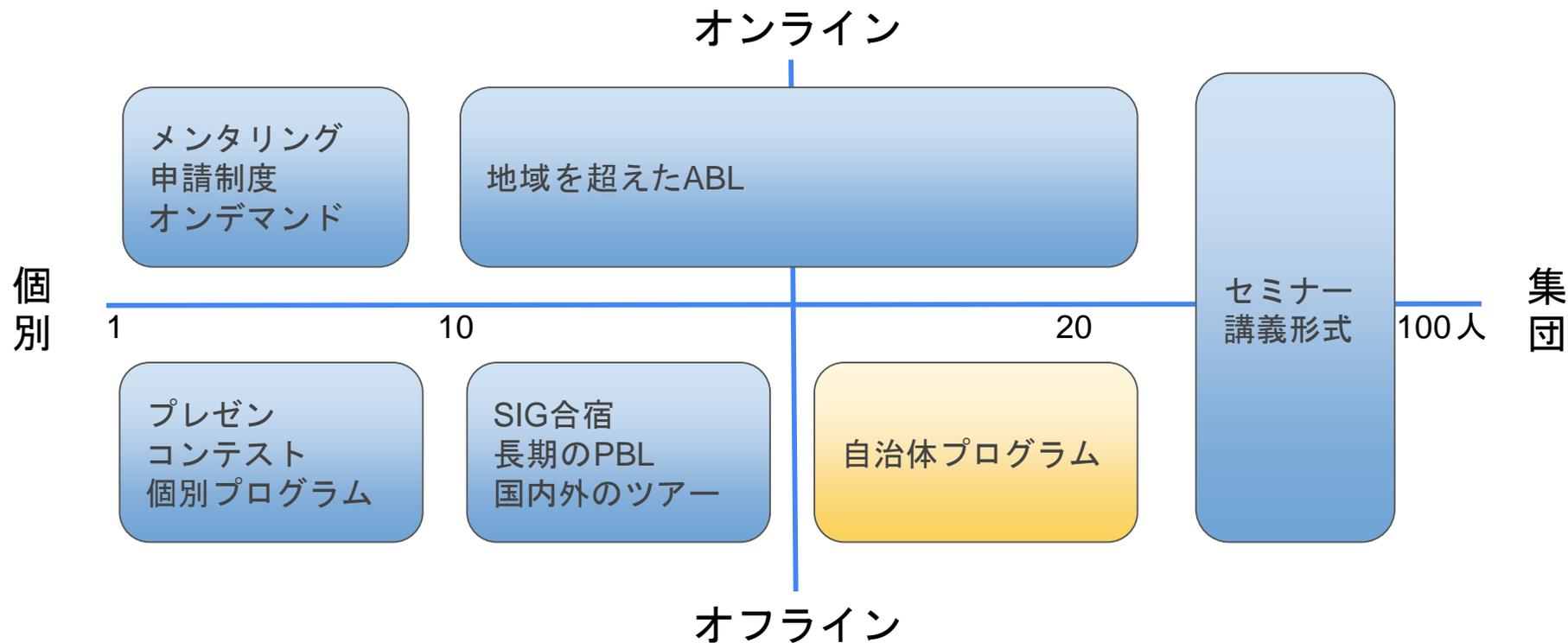
プログラム

3-2. アイデアをみがく！



さまざまな世界に触れることで
アイデア・スキルを磨き、
自分の世界をより探究します。

各学習プログラム・サポートの4象限への配置



鎌倉市 ULTLAプログラム

Uniqueness Liberation Through Learning optimization and Assessment

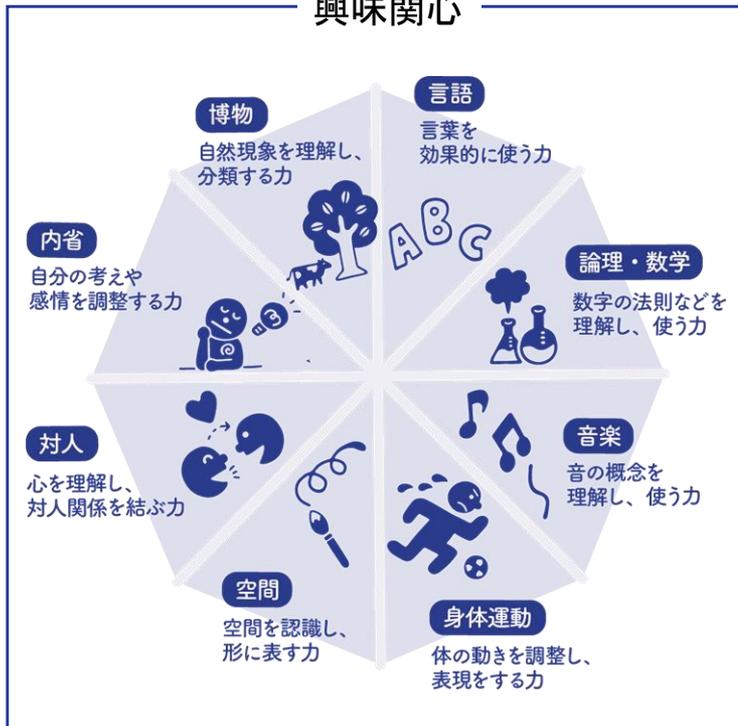
アセスメントに基づく個別最適な学びの設計

- 教室→ 地域の多様な場所を学び場に（森、海、寺、テック企業など）
- 先生→ 地域内外のエキスパートや住民を先生に
- 学習内容→ 地域のリソースを教材にして、教科単元の紐付けへ



個才の見える化

興味関心



認知特性



視覚

イラストやアニメーション、
動画など



聴覚

ラジオなど言葉で聞く



体感覚

実際に活動など体を
動かして試してみる



話す

プレゼンテーションや
会話などで伝える



書く

文章や詩などで伝える



描く

絵や図などで伝える



読む

読んだ本の言葉などを
説明に使う伝える

思考スタイル

機能



立案型

創造や発明などを考えて提案する



順守型

言われたことをきちんとやり抜く



評価型

人や物事を判断したり、評価する

形態



単独型

一度に一つのことに集中し、力を注ぐ



序列型

同時に複数のことを優先順位を決めてやる



並列型

同時に複数のことを優先順位を決めずにやる



任意型

順序や決まりごとにこだわらずにやる

水準



巨視型

物事を全体から広くみる



微視型

物事の細かな部分に注意が向く

範囲



独行型

一人で独立してやる



共同型

集団でお互いに協力してやる

傾向



革新型

新しいやり方で物事に挑戦する



保守型

すでに決まったやり方でする

認知特性と多様な学習環境とのマッチング



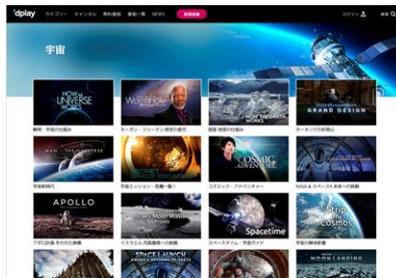
聴覚優位
一方向



体系的な知識の習得
人間関係の構築



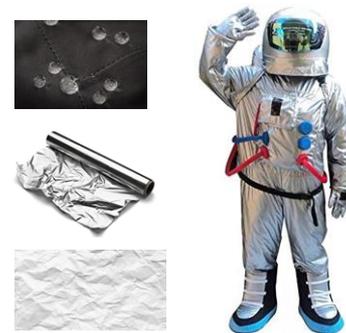
視覚優位
一方向



時間と場所を選ばない
興味ベースの学び

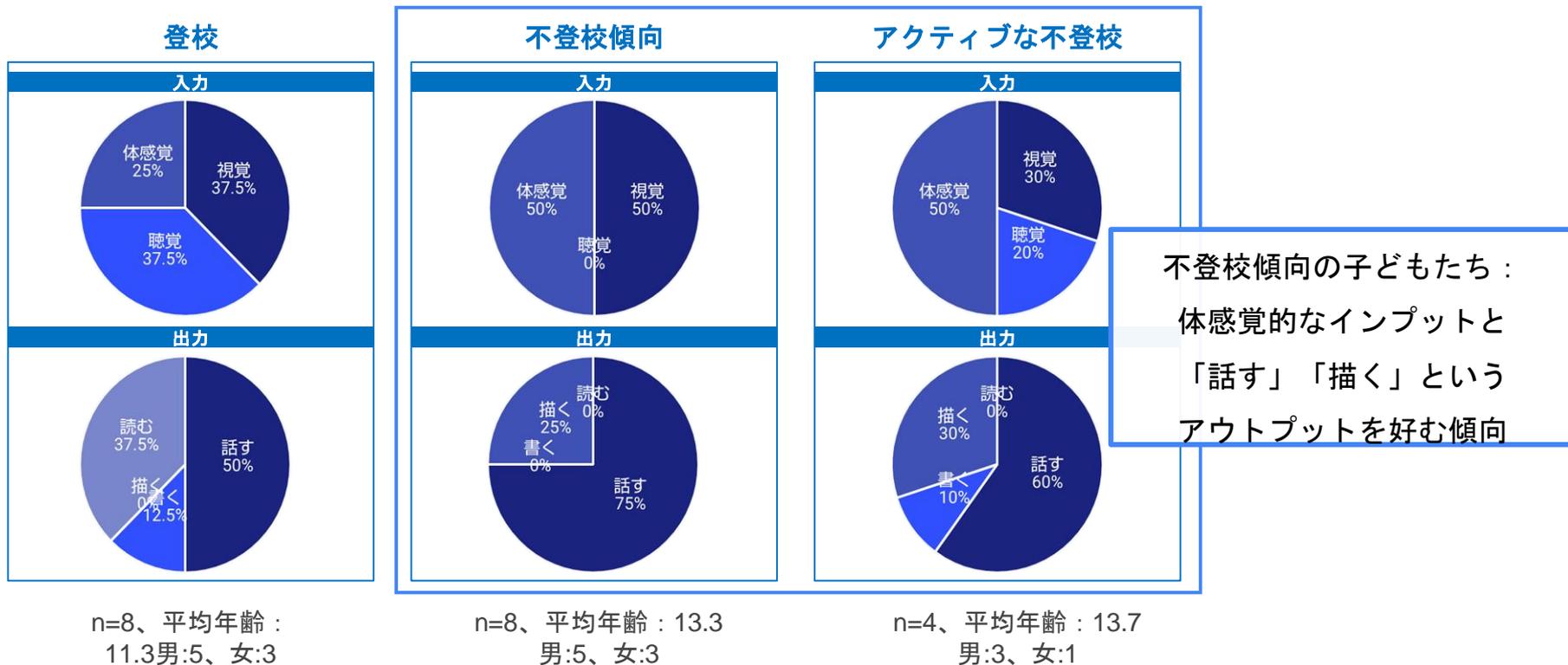


体感覚優位
双方向



知識の活用
興味ベースの学び
地域を超えた関係構築

認知特性と不登校状況との関連性



興味関心と多様な学習環境とのマッチング

1

素材が届く or 準備する



2

リアルタイム授業に参加



3

素材を使って探求する



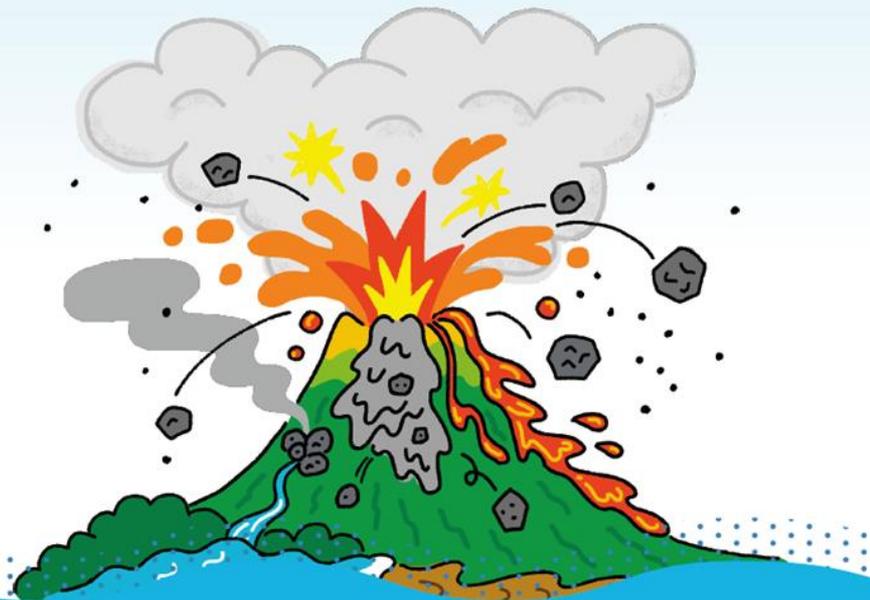
生物編



鉱物編



未来の地球人、集まれ！
エネルギーの宝庫
「三宅島」を解剖せよ
- 宝島キッズラーニングプロジェクト -







個才×地域のリソースのマッチング

子どもの興味関心と特性



地域のリソース



データサイエンスの活用で、アダプティブかつアクティブな学習環境を提供

子どもの興味関心と地域の学びのリソースをマッチングにより、探究学習の枠組みやキャリア教育の文脈で個別最適な学習環境を創出するだけでなく地域創生も実現

多様な学習環境を実現するための現場の課題

- 教育予算の拡張
- ファシリテーター、メンター等専門的なスキルを持つ人の養成と資格制度の整備
- 教育施設や企業等が提供するコンテンツの質の担保と、授業単位や教科の履修としてオーソライズする制度設計
- 学習者のアセスメントによる学習環境（内容、方法、場所等）の個別最適なマッチングのシステム化
- 学習者の学習ログ（ポートフォリオ）とそこへの評価の有無の検討

産業構造審議会 教育イノベーション小委員会
【10月1日（金）15-18 於：経済産業省】

学習空間の拡張のデザイン ー学習スタイルとテクノロジー利用ー

公立はこだて未来大学 システム情報科学部
美馬 のゆり

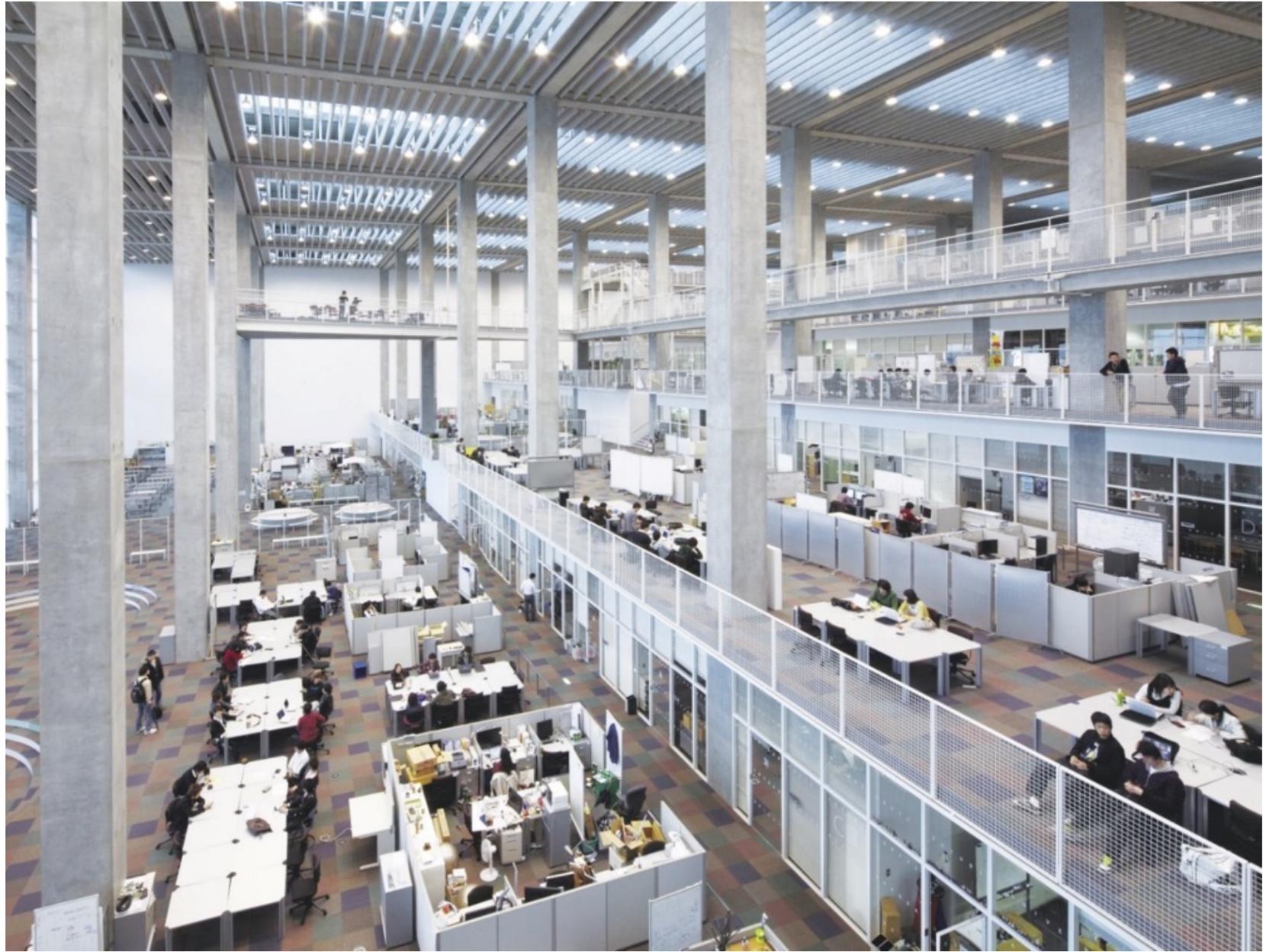
学習環境のデザイン

3つは相互に関係している

- ハードウェア【空間・建築】
 - どのようなスペースが必要か
 - 活動によって、人によって、選べるようにしておくこと
 - 活動が見えるようにしておくこと（学生、教員、職員）
- ソフトウェア【活動・運営】
 - カリキュラム開発
 - どのような活動を行うか
 - どのような場所で行うか
- マインドウェア【共同体・心持ち】
 - どのような活動を誰としていくか
 - 空間をオープンにすると、マインドもオープンになる
 - 20年間の実践からOpen space, open mind



(2005)東京大学出版会
—空間・活動・共同体—





公立はこだて未来大学



1年生 情報表現基礎



学習環境のデザイン原則

空間1	参加者全員にとって居心地のよい空間であること
空間2	必要な情報や物が適切なときに手にはいること
空間3	仲間とのコミュニケーションが容易に行えること
活動1	活動の目標が明快であること
活動2	活動そのものにおもしろさがあること
活動3	葛藤の要素が含まれていること
共同体1	目標を共有すること
共同体2	全員に参加の方法を保証すること
共同体3	共同体のライブラリーを作ること
道具1	ライブラリーを作るための道具があること
道具2	共同体内部の人にとって道具の変更が容易にできること
道具3	共同体の外の世界につながる道具があること
デザイナー1	学習環境デザイナーがチームとして存在すること
デザイナー2	デザイナー・チームは共同体内部のメンバーで構成されること
デザイナー3	デザイナー・チームは共同体の中の正式な組織であること

風邪ひかせのヤブ医者 <コンピテンシーの陥穽>

あるところに、りっぱな風邪ひきが善い人ということになっている国があった。

親たちはこぞって、わが子をりっぱな風邪ひきにしようと願った。

専門の医者が集まる学会で、大臣や社長やお金持ちなどの、りっぱな風邪ひきといわれる人たちが備えている特徴を科学的に研究した。

その結果、以下のことが明らかになった。

- 37度以上の熱を出していなければならない
- 頭痛を訴えていなければならない
- だるさを感じていなければならない

それらの症状を引き起こすためには次の方法が最も効果的だと学会で証明された。

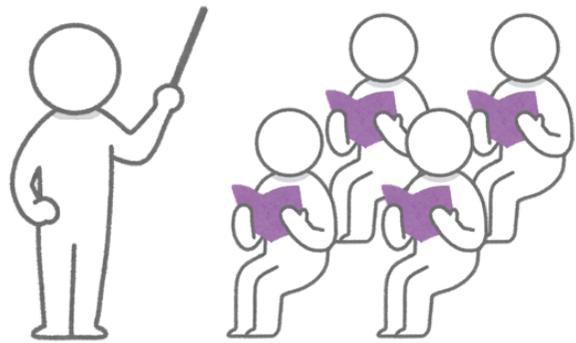
- 37度以上の熱を出させるには、カレー粉とワサビをこね合わせて全身にすり込む
- 頭痛を起こさせるには、頭にゲンコツを一発くらわせる
- だるさを起こさせるには、米俵をかつがせて、運動場を3周させる

全国のいたるところで、子どもたちにこの方法が施された。

その治療の効果をみるために、体温を測るなどしてテストも実施された。

その結果、3つの症状を兼ね備えた「りっぱな風邪ひき」の子どもができあがった。

学習観・評価観の転換 (Learning Transformation: LX)



知識を貯め込む
スキルを習得する

習得したか否か



対話し創り出す
活動し有能さに気づく

よさに気づき、よりよくなろうとしているか否か

学習空間の拡張

- 学習「空間」の拡張
 - 「いつでも、どこでも、何度でも」
 - テクノロジーによって学習時間も拡張する
 - 目的に合わせた学習スタイル
 - 目的に合わせたテクノロジーの利用
- 学習スタイル
 - 個別学習と共同学習
 - 個別学習：理解と習得、フィードバック、省察など
 - 共同学習：情報の生成、共有、発表、フィードバック、省察など
- テクノロジー利用
 - リアルタイム型とオンデマンド型
 - 情報の蓄積、共有、編集
 - 活動（プロセスを含む）の可視化
 - 適切なタイミングでの進行の制御

対面とオンライン
 から
リアルタイムとオンデマンド
 のブレンドへ

		個別学習	共同学習
リアルタイム [同期]	対面		PBL、探究学習
	オンライン [リモート]		オンライン会議
オンデマンド [非同期]	オンライン [リモート]	学習コンテンツ 学習ポートフォリオ	記録ツール 資料の蓄積・共有

ソフトとハードのデザイン

(2000年より実施している公立はこだて未来大学の例)

- 制度のデザイン（ソフトウェア）
 - プロジェクト学習の実施
 - チーム・ティーチングの採用
 - 学内共同研究の奨励
 - 授業フィードバック・システムの開発と運用
- 空間のデザイン（ハードウェア）
 - 全ガラス壁の教室、異なる形式の教室
 - オープンスペースの設置
 - 公共施設の配置
 - 学内全域のLAN設備と必携のノート型パソコン
- 可視性
 - 活動が互いに見える（現実空間）
 - ネット上での情報共有と蓄積（電子空間）

マインドセットの変革と醸成

- [未来大学]におけるFD・SDとは
 - 教職員個人としての資質の向上だけではない
 - よりよくなろうとする学習共同体（組織）の構築とその維持
- [大学]教職員に求められているもの
- [大学]の規模、地域、専攻によって異なる
- 自分たちで考えていく必要がある

- 必要なのは教職員の学習共同体

第3回 学びの自律化・個別最適化WG（12/3） （学習者視点での「教育データ連携と個別学習計画」 に基づく、パーソナルトレーニングの確立）



「パーソナルトレーニング」の確立に向けて

大熊町教育委員会教育長 木村 政文

1 パーソナルトレーニングのための個別学習計画

(1) 今までの時間割は...

(各教科の標準授業時数) ÷ 35 ÷ 週当たりの時数

→ 教科書会社の単元配当計画表をもとに
年間指導計画を作成する。
そして、月(週)の時間割を作成して、
子どもたちに配付

一律・一斉による受動的な学習環境

→ 自分の学びをデザインすることはできない

標準授業時数の位置付け

標準授業時数は、学習指導要領で示している各教科等の内容を指導するのに要する時数を基礎として、学校運営の実態などの条件を考慮して国が定めたもの。

小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校の前期課程では、学校教育法施行規則において、教科等ごと、学年ごとに標準授業時数を定めている。

各学校においては、標準授業時数等を踏まえ、学校の教育課程全体のバランスを図りながら、児童生徒・学校・地域の実態等を考慮し、学習指導要領に基づいて各教科等の教育活動を適切に実施するための授業時数を具体的に定め、適切に配当する必要がある。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ (令和3年1月26日中央教育審議会答申) (抄)

第Ⅱ部 各論

2. 9年間を見通した新時代の義務教育の在り方について

(2) 教育課程の在り方

③カリキュラム・マネジメントの充実にに向けた取組の推進

(略)

- 標準授業時数については、学習指導要領に示す各教科等の内容の指導の質を担保するための、いわば量的な枠組みとして、教育の機会均等や水準確保に大きな役割を果たしてきた。特に資質・能力のうち、定量的に質を測定できるのは知識・技能等の一部にとどまることから、学習指導要領が求める教育の質を量的に支えるものとして標準授業時数は重要な意義を持っている。
- 一方で、標準授業時数の在り方をめぐっては、児童生徒や教師の負担について考慮すべきとの指摘や、学習状況に課題のある児童生徒も含めて指導すべき内容を一般的に教えることが可能なものとなっているのが、ICTを活用した学習指導を踏まえた柔軟な在り方について検討が必要、といった指摘がある。
(略)
- また、学習指導要領のねらいとする資質・能力の育成と、一定の総授業時数の確保による教育の機会均等の観点を踏まえ、総枠としての授業時数（学年ごとの年間の標準授業時数の総授業時数）は引き続き確保した上で、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成や探究的な学習の充実等に資するよう、カリキュラム・マネジメントに係る学校裁量の幅の拡大の一環として、教科等の特質を踏まえつつ、教科等ごとの授業時数の配分について一定の弾力化が可能となる制度を設けるべきである。その際、この制度を利用する学校は、家庭・地域に対して特別の教育課程を編成・実施していることを明確にするとともに、他の学校や地域のカリキュラム・マネジメントに関する取組の参考となるよう、教育課程を公表することとするべきである。

(参考) 学校教育法施行規則に定める標準授業時数

小学校の標準授業時数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	306	315	245	245	175	175
社会	-	-	70	90	100	105
算数	136	175	175	175	175	175
理科	-	-	90	105	105	105
生活	102	105	-	-	-	-
音楽	68	70	60	60	50	50
図画工作	68	70	60	60	50	50
家庭	-	-	-	-	60	55
体育	102	105	105	105	90	90
特別の教科 道徳	34	35	35	35	35	35
特別活動	34	35	35	35	35	35
総合的な 学習の時間	-	-	70	70	70	70
外国語活動	-	-	35	35	-	-
外国語	-	-	-	-	70	70
合計	850	910	980	1015	1015	1015

備考

- 一 この表の授業時数の一単位時間は、四十五分とする。
- 二 特別活動の授業時数は、小学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係るものを除く。）に充てるものとする。
- 三 第五十条第二項の場合において、特別の教科である道徳のほか宗教を加えるときは、宗教の授業時数をもつてこの表の特別の教科である道徳の授業時数の一部に代えることができる。（別表第二から別表第二の三まで及び別表第四の場合においても同様とする。）

中学校の標準授業時数

	1年	2年	3年
国語	140	140	105
社会	105	105	140
数学	140	105	140
理科	105	140	140
音楽	45	35	35
美術	45	35	35
保健体育	105	105	105
技術・家庭	70	70	35
外国語	140	140	140
特別の教科 である道徳	35	35	35
総合的な 学習の時間	50	70	70
特別活動	35	35	35
合計	1015	1015	1015

備考

- 一 この表の授業時数の一単位時間は、五十分とする。
- 二 特別活動の授業時数は、中学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係るものを除く。）に充てるものとする。

～ 教科書会社の単元配当計画表 ～

令和2年度(2020年度)用 小学校算数科用

「新しい算数」 年間指導計画作成資料 略案 【5年】

令和2年(2020年)2月14日版

※単元ごとの配当時数、指導内容などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

新しい算数 第5学年 年間指導計画案

・**黄**印は、発展的な学習の内容を示しています。
・「学習指導要領」欄のAは数と計算、Bは図形、Cは変化と関係、Dはデータの活用。「内取」は内容の取扱いを示しています。

上巻	単元	指導時数	ページ	指導内容	学習指導要領
1学期	★学びのとはら	1	2～7	●数学的活動を通じた算数科の学び方の確認	第4学年の内容
	1. 整数と小数	5	8～15	●十進数としての整数、小数 ●小数や整数を10倍、100倍、1/10、1/100にしたときの数の表し方 ●十進位取り記数法と十進数の意味	A(2)
		142		● 発展 カードを用いた条件に合う数づくり、長さの小数での表現	
	2. 直方体や立方体の体積 ◆他教科との関連:英語	8	16～31	●体積の意味 ●体積の単位「立方センチメートル、立方メートル」と単位の相互関係 ●直方体、立方体の体積公式とその適用 ●複合図形の体積の求め方 ●体積の単位と既習の単位との関係	B(4)
		143		● 発展 容積の変化の仕方に着目した、最大値となる条件の考察	
	3. 比例	4	32～38	●比例の意味	C(1)
	☆おぼえているかな?	—	39	●既習内容の理解の確認	—
	4. 小数のかけ算	9	40～51	●小数をかけることの意味 ●小数の乗法の考え方や筆算形式 ●純小数をかけるときの積と被乗数の関係 ●小数の場合も分配、交換、結合法則が成り立つこと	A(3)(6)
		144		● 発展 3回乗じて10になる数についての考察	
	5. 小数のわり算	9	52～63	●小数でわることの意味 ●小数の除法の考え方や筆算形式 ●純小数でわるときの商と被除数の関係 ●小数の除法におけるあまりの位取り ●商を整数で表すときの処理の仕方	A(3)
		144		● 発展 カードを用いた条件に合う除法づくり	
	★小数の倍	5	64～69	●倍に関する基準量交換 ●小数倍を適用する計算(第一、二、三用法)と小数倍の意味 ●簡単な場合についての割合	A(3)
	★どんな計算になるのかな?	2	70	●小数の乗除についての演算決定	A(3)
	☆おぼえているかな?	—	71	●既習内容の理解の確認	—
6. 合同な図形	8	72～83	●合同の意味、合同な図形の弁別 ●合同な図形の性質 ●合同な三角形の作図と、三角形の決定条件の初歩 ●合同な平行四辺形の作図と、四角形の決定条件の初歩	B(1)	
	144		● 発展 平面図形の決定条件の初歩		
7. 図形の角	6	84～95	●三角形の内角の和は180°であること ●多角形の内角の和の考察 ●1種類の合同な四角形だけで平面を敷き詰められること	B(1) 内取(2)	
	145		● 発展 作図を通じた長方形の性質の考察		
8. 偶数と奇数、倍数と約数	12	96～109	●偶数、奇数の意味とその類別 ●倍数、公倍数、最小公倍数の意味とその見つけ方 ※「プログラミングを体験しよう」への誘導あり ●約数、公約数、最大公約数の意味とその見つけ方	A(1) 内取(1)	
	146		● 発展 条件に合う整数を考える問題		
9. 分数と小数、整数の関係	6	110～119	●整数のわり算の商を分数で表すこと ●分数倍の意味 ●分数と小数、整数の相互関係	A(4)	
	146		● 発展 循環小数に関する考察		
★考える力をのばそう	2	120～121	●変化する2つの数量とその和や差を表すことを通じて、変化の規則性を見つける問題解決	C(1)	
★算数で読みとこう	2	122～123	●訪日外国人旅行者についてのデータから情報を読み取ったり判断したりする問題	D(1)	
☆おぼえているかな?	—	124	●既習内容の理解の確認	—	

下巻	単元	指導時数	ページ	指導内容	学習指導要領
2学期	10. 分数のたし算とひき算	11	2～18	●通分の意味とその方法 ●約分の意味とその方法 ●異分母分数の加法、減法の計算 ●分数と小数の混じった加減計算 ●時間の分数表示	A(4)(5)
		144		● 発展 条件に合う分数の加法づくり、音符の長さに関する考察	
	☆おぼえているかな?	—	19	●既習内容の理解の確認	—
	11. 平均	5	20～27	●平均の意味と求め方 ●平均から全量を求める方法	D(2)
		10	28～42	●単位量あたりの大きさの意味 ●人口密度の意味と求め方 ●速さの意味と表し方 ●速さに関する公式とその適用	
	12. 単位量あたりの大きさ	10	28～42	●単位量あたりの大きさの意味 ●人口密度の意味と求め方 ●速さの意味と表し方 ●速さに関する公式とその適用	C(2)
	☆おぼえているかな?	—	43	●既習内容の理解の確認	—
	13. 四角形と三角形の面積	11	44～64	●平行四辺形の面積の求め方、面積公式とその適用 ●三角形の面積の求め方、面積公式とその適用 ●台形やひし形の面積の求め方、面積公式とその適用 ●三角形の高さと面積の関係	B(3)
		145～146		● 発展 図形の面積公式に着目した図形の関係の考察、図形の性質を用いた面積の求め方	
	☆おぼえているかな?	—	65	●既習内容の理解の確認	—
14. 割合	9	66～82	●割合の意味とその求め方 ●百分の意味とその表し方 ●歩合の意味とその表し方 ●百分率を適用した計算方法	C(3) 内取(4)	
	—	83	●既習内容の理解の確認		
☆おぼえているかな?	—	83	●既習内容の理解の確認	—	
15. 帯グラフと円グラフ	8	84～94	●帯グラフ、円グラフの読み方、特徴、書き方 ●統計的な問題解決の方法	D(1) 内取(5)	
	◆他教科との関連:英語				
16. 変わり方調べ	1	95～99	●図、表を用いて数量の規則性を見つける問題解決	A(6)	
17. 正多角形と円周の長さ	9	100～113	●正多角形の概念、性質、かき方 ※「プログラミングを体験しよう」への誘導あり ●円周率の意味 ●円の直径の長さや円周の長さの関係	B(1) 内取(3) A(6) C(1)	
	7	114～123	●角柱、円柱の概念、特徴、性質 ●角柱、円柱の見取図、展開図 ● 発展 トイレペーパーの芯を展開した図形の考察		
★考える力をのばそう	2	124～125	●2重の関係を図に表すことを通じて基準量を求める問題	C(3)	
★算数で読みとこう	2	126～127	●日本の国土の利用についてのデータから情報を読み取ったり判断したりする問題	D(1)	
★5年のふしゅう	5	128～132	●5学年の学習内容の総復習、働かせてきた数学的な見方・考え方の振り返り	A～D	

年間の総時数	2学期制 前期 79 + 後期 80 = 159	予備時数	
標準時数	175 時間	3学期制 1学期 51 + 2学期 65 + 3学期 43 = 159	16 時間

～ 年間指導計画表 ～

5年 算数科		関連指導					
別一指導教育	二一ここにこタイム	三ーふるると教育	四ーキャリア教育	五ー会津大連県	六ー合科的な指導		
性一性教育	食一食育	障一保健指導	A:数と計算 B:量と測定 C:図形 D:数と関係				
1	字ひのとびら 整数と小数のしくみをまとめよう (1)整数と小数 (2)まとめ	(1) 63 (2) 64 (3) 65	1	1	1	キ ・整数及び小数について、十進法記法に基づいて表されていることを見直し、十進法としての特徴を統合的に理解し、計算などに有効に用いることができるようにする。	標準上の位置点
2	底辺や高さを決めるかたし方を考えよう (1)ものかたし方の考え方 (2)いろいろな体積の単位 (3)まとめ	66 (1) 67 (2) 68 (3) 69	9	1	1	キ ・物の量について単位と数量の関係を理解し、単位を併せておこなうことができるようにするとともに、単位についての特徴をまとめる。	○4月18日L.A.学習発表 ○算数基本説明書(教材室)
3	変わり方を調べよう(1) かけ算の世界をたどろう (1)かけ算のかけ算 (2)まとめ	64 (1) 65 (2) 66	10	1	1	キ ・併せて変わる2つの数量の関係を表に用いて表徴することを通して、比例について理解する。	○デジタル
4	わり算の世界をたどろう (1)小数のわり算 (2)まとめ	68 (1) 69 (2) 70	10	1	1	キ ・小数のわり算の計算の過程や計算の仕方に理解し、それを活用することができるようにするとともに、小数の乗除でも算術の場面と関係や場面が異なるとことを理解する。	○デジタル
5	小数の積 ○ 2桁のかけ算になるかな 6 形も大きさも同じ図形を調べよう (1)合同な図形	69 (1) 70 (2) 71	10	1	1	キ ・図形の合同の意味や合同な図形の性質などについて理解し、合同な図形を識別したりできるようになる。	○デジタル
6	まとめ 7 図形の角を調べよう (1)三角形の内角の和	70 (1) 71 (2) 72	10	1	1	キ ・三角形の内角の和について理解し、四角形や他の多角形の内角の和を求める。	○デジタル
7	算 ぶくしゅう 8 算数の性質を調べよう (1)素数と合成 (2)素数と合成 (3)約数と公約数 (4)まとめ	71 (1) 72 (2) 73 (3) 74 (4) 75	10	1	1	キ ・素数、素数及び倍数、約数などについて知り、素数の性質についての理解を深めるとともに、素数の性質や約数についての感興を高める。	○プログラミング
8	分数と小数、整数の関係を調べよう (1)わり算と分数 (2)分数と小数、整数の関係 (3)まとめ ○ 考え方をのびそう 14 分数のたし算、ひき算をたどろう (1)通分と分数のたし算、ひき算 (2)約分と分数のたし算、ひき算 (3)いろいろな分数のたし算、ひき算 (4)時間と分数 (5)まとめ 11 ならした大きさを考えよう (1)平均	72 (1) 73 (2) 74 (3) 75 (4) 76 (5) 77 (6) 78 (7) 79 (8) 80 (9) 81 (10) 82	10	1	1	キ ・分数の除法の結果を分数で表すこと及び分数と小数、整数の関係について理解する。	○デジタル
9	北へ方を考えよう(1) (1)こみくあひ (2)いろいろな単位量あたりの大きさ (3)通算 (4)まとめ	82 (1) 83 (2) 84 (3) 85 (4) 86	12	1	1	キ ・平均の意味を理解し、それを用いることができる。	○デジタル
10	面積の求め方を考えよう (1)平行四辺形の面積の求め方 (2)三角形の面積の求め方 (3)いろいろな四角形の面積の求め方 (4)三角形の高さと面積の関係 (5)まとめ	87 (1) 88 (2) 89 (3) 90 (4) 91 (5) 92	12	1	1	キ ・平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの計算による面積の求め方を理解する。	○デジタル ○三角定規、分度器活用 ○デジタル
11	北へ方を考えよう(2) (1)割合 (2)百分の計算 (3)割合 (4)わりばき、わりましの問題 (5)まとめ	88 (1) 89 (2) 90 (3) 91 (4) 92 (5) 93	10	1	1	キ ・2つの数量の割合について、割合を用いた比べ方や百分の表し方などを理解し、割合を用いて比べたり、割合や百分率を求めたりする。	○百分率とグラフの読み取りの積極的活用 ○算数活用(教材室)
12	割合をグラフに表して調べよう (1)棒グラフと折れ線グラフ (2)まとめ	93 (1) 94 (2) 95	10	1	1	キ ・棒グラフや折れ線グラフの特徴とそれらの用い方やデータの収集や適切な表現の選択などを理解し、統計的な表現	○デジタル
13	変わり方を調べよう(2) (1)変わり方調べ 17 多角形と円をくわしく調べよう (1)正多角形 (2)円のまわりの長さ (3)まとめ 18 立体をくわしく調べよう (1)角柱と円柱 (2)角柱と円柱の展開図 (3)まとめ	92 (1) 93 (2) 94 (3) 95 (4) 96 (5) 97 (6) 98 (7) 99 (8) 100 (9) 101 (10) 102	10	1	1	キ ・併せて変わる2つの数量について、表や式、図を用いて変化や対応の特徴を調べ、式に表す。 ・割合や単位を定めて、正多角形の意味や性質についての理解を深めるとともに、円周率の意味や直径、円周、円周率の関係を理解し、それを用いることができるようにする。	※210 NRT学力テスト(1時間制定期考)
14	考え方をのびそう ○ 算数で読みとこう ○ 5年のぶくしゅう	99 (1) 100 (2) 101	1	1	1	キ ・割合や構成を通して、角柱、円柱の意味や性質について理解し、立体図形についての感興を高める。	○3月18日L.A.学習発表 (1時間制定期考) ○立体的な展開図説明 ○教材室に角柱と円柱あり ○三角定規、コンパス活用
15	算 ぶくしゅう	100 (1) 101 (2) 102	1	1	1	キ ・算数・数学に関する興味を広げる。 ・学習内容の理解を促進する。	

～ 週の時間割 ～

6年生 時間割		10月5日～10月9日				
		5日(月)	6日(火)	7日(水)	8日(木)	9日(金)
行事			火曜日課 道々タイム 学充タイム (中・高)	特別日課 (運動会練習開始と同日) 不審者対応避難訓練 (業間) ALT来校	朝のV.S活動 フッ化物洗口 第1回クラブ活動	ALT来校
朝活動	読書・視写	健康観察	学級	きらきろタイム	SST	
1	国語 熟語の 成り立ち	国語	社会 たしかめ テスト	国語	算数 比と その利用	
2	社会 天皇中心の 国づくり (テスト)	理科 水溶液の 性質	国語 やまなし	音楽 せんりつ の特ちょうを いかして	理科 水溶液の 性質	
業間			不審者対応避難訓練			
3	総合 平和について 考えよう	算数 比と その利用	外国語 Unit 4	社会 武士の 世の中へ	理科 水溶液の 性質	
4	算数 比と その利用	音楽 せんりつ の特ちょうを いかして	道徳 規則の尊重	算数 比と その利用 (テスト)	国語 やまなし	
給食	○	○	○	○	○	
5	家庭 思いを形に (製作)	学活 修学旅行に 向けて	算数 表を使って 考えよう	総合 平和について 考えよう	外国語 Unit 4	
6	家庭 思いを形に (製作)	家庭 思いを形に (製作)		クラブ 第1回 クラブ活動	図工 あったら いいな こんなもの	
下校時刻	16:30	16:00	15:30	16:30	16:30	
準備するもの	ハンカチ 名札 ちり紙 ぼうし さいほう道具	ハンカチ 名札 ちり紙 ぼうし リコーダー さいほう道具	ハンカチ 名札 ちり紙 ぼうし	ハンカチ 名札 ちり紙 ぼうし リコーダー	ハンカチ 名札 ちり紙 ぼうし 色えんぴつ	
提出物	10月分学級費(9日まで)					

(2) 一人一人の時間割を作成するとは...

教師も子どもたちも「最上位目標」を共有し、
一人一人が唯一無二の成長の物語を創ること



教師による**学習カウンセリング** → **時間割の作成**



「個別最適な学び」を教師がコーディネート

子どもたち一人一人の学習内容と学習計画が更新され続ける
→ **自分の学びをデザインする力の育成**

教師による学習カウンセリング

- ① 学習者が、今の自分の学びの状態を知る。
 - 今の自分は何が分かって、何ができるのか。そして、これからは、何が知りたくて、何ができるようにになりたいのか。
- ② 学習者が、学びの方法・手段を知る。
 - 学びを広げたり、学びを深めたりするのに、何をどうしたら良いのか。
 - 認知特性を活かして。
- ③ 学習者が、自らの学びの進捗をモニターする。
 - 自らの学びのリフレクション。

学習者と相談して時間割を作成する。



時間割

第9週 学校運営計画
令和3年5月31日(月)～令和3年6月6日(日)

日	曜	日直	本校行事予定	研修・会議等	授業予定						
					校時	1	2	3	4	5	
31	月	大竹	SC吉田先生勤務日 エフコム支援日 鈴木さん 月末統計 18日	校内研修 本間	1 3 4 6	算	体 国	理 社	理 社	国 理	● オンライン会議 3:30～
1	火	坂本	新校舎に関わるワークショップ 13:45～15:15 廣村正彰さん来校 東條D・猪狩HD勤務日		1 3 4 6	算	国 国	国 理	国 理	国 理	● 総学 ● 総学 ● 総学 ● 総学
2	水	鈴木(香)	猪狩HD勤務日 さつまいも苗植え 渡辺市雄さん宅畑 ※雨天時は6/3(木)に延期	2-4-5校時短	1 3 4 6	国 算	苗 苗	理 社	理 社	理 社	● ● ● ●
3	木	和田	白井D・猪狩HD勤務日	初任者校内研修 会議室 校時目	1 3 4 6	音 音	音 音	音 音	音 音	音 音	● ● ● ●
			尿検査 2回目 SC花見先生勤務日	初任者校内研修 会議室 2～4校時目	1 3	国 理	理 社	理 社	理 社	理 社	● 福島大学附属小学校 授業づくりセミナー 目黒 鈴木(香)

時間割は誰のものか？
子どもたちのもので
なくてはならない

Qubenaによる
個々の児童生徒の**学びの履歴**

カウンセリング

個別最適な学びを
教師がコーディネート

(3) 一人一人の評価の在り方

〔知識・技能〕

- ・ ワークシートの活用
- ・ 単元テストの活用
- ・ Qubenaの学習ログの活用

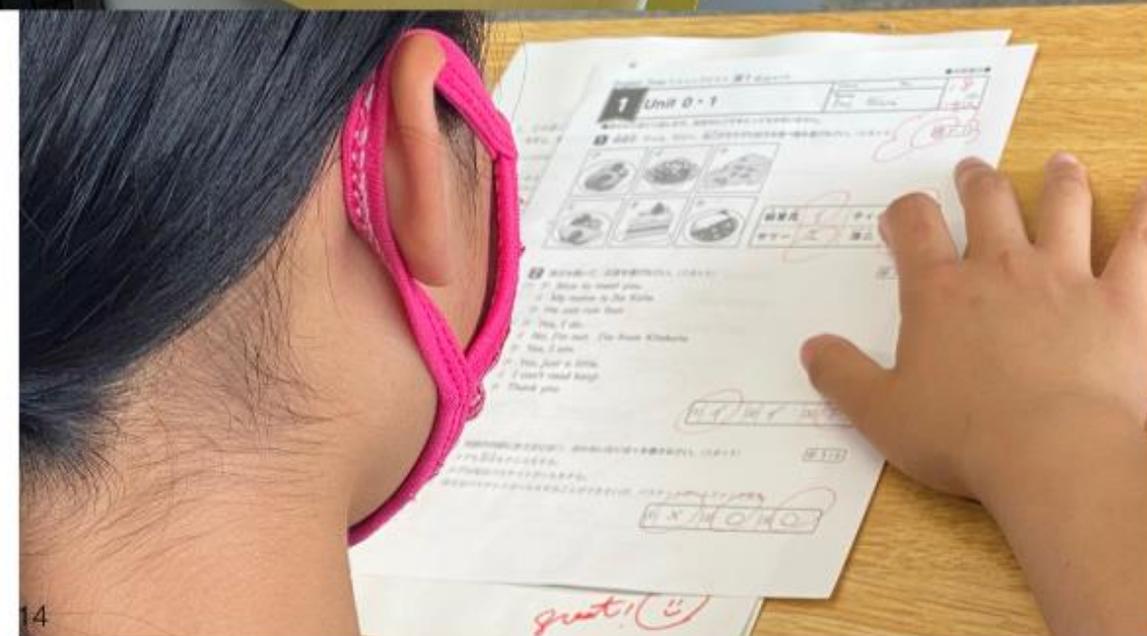
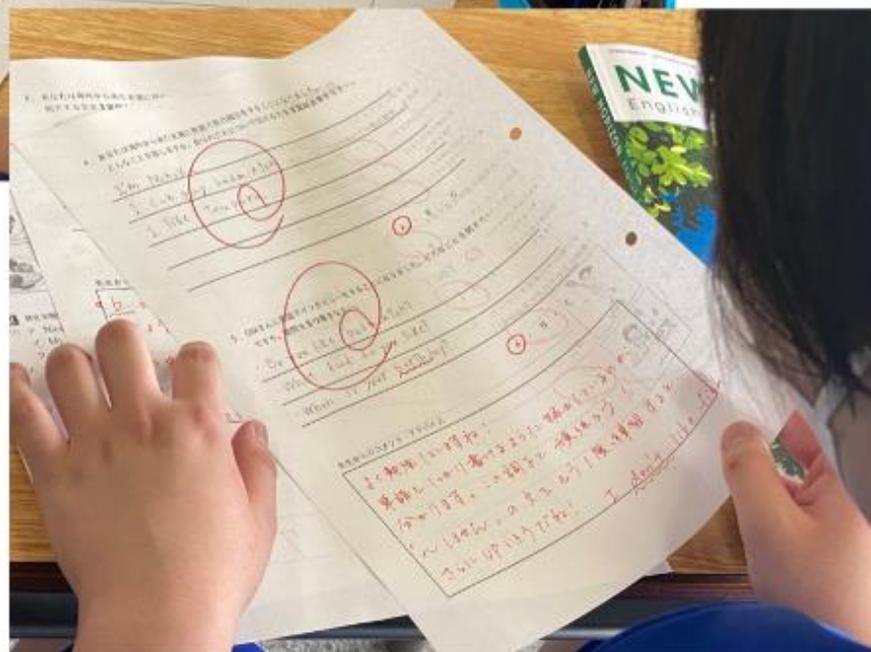
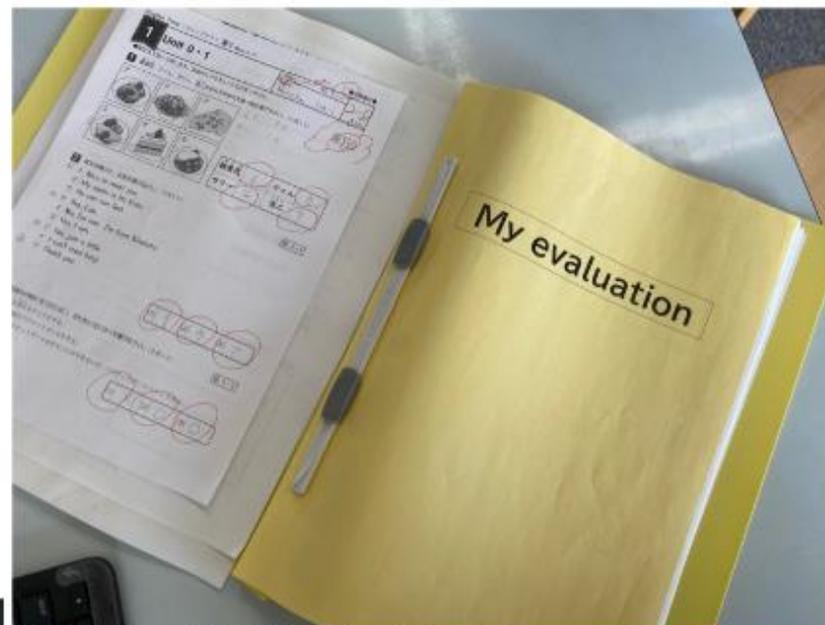
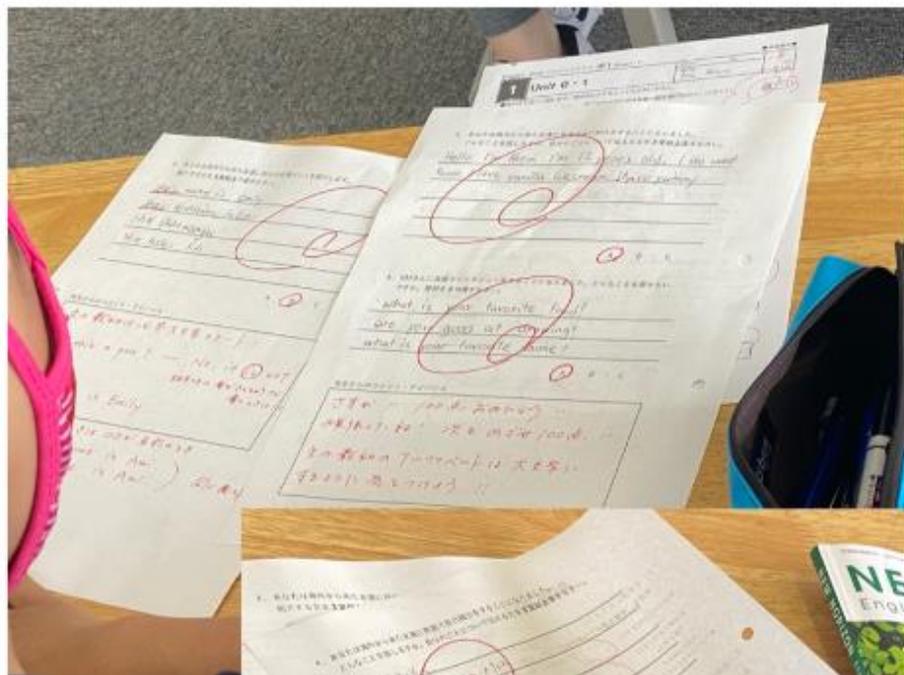
〔思考・判断・表現〕

- ・ ポートフォリオによる一人一人の
キャリアパスポートの作成
→ 評価の個別最適化
- ・ 自分の学びのリフレクション
→ 教師や保護者へのプレゼンテーション

キャリアパスポートの作成・学びのリフレクション

→ **自分のキャリアをデザインする力の育成**

単元テストの活用



思考・判断・表現

「何をどう学び、何が出来るようになったのか」



プレゼンテーション

- 一次プレゼン (教科担当教師)
- 二次プレゼン (管理職)
- 三次プレゼン (保護者)



評価 → **非認知能力** の評価

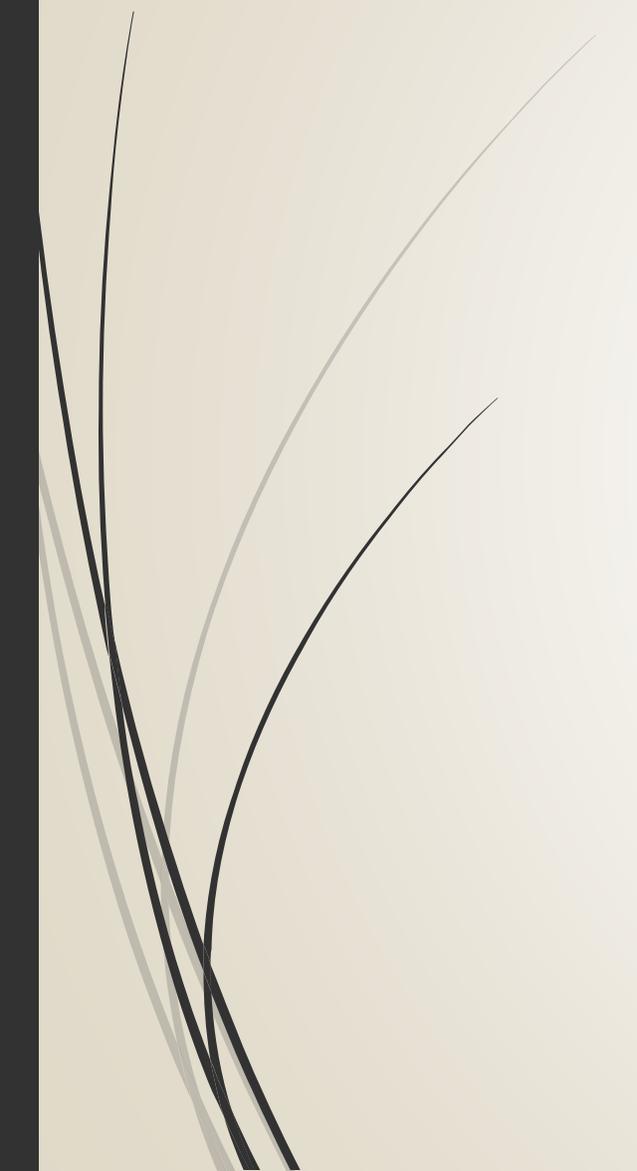


ハイブリッド型プレゼン

ICT機器の活用と技能の実演







プレゼンテーションの様子をご覧ください。

2 パーソナルトレーニングを充実させる学び舎デザイン

～【文科省】「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」中間報告(概要)より～

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）

全ての子どもたちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿

「未来思考」をもった上で、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて、これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿を示す。

新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして、その中心となる「幹」に『**学び**』を据え、その学びを豊かにしていく「枝」として『**生活**』『**共創**』の空間を実現する。

また、学び舎の土台として着実に整備を推進していく「根」として『**安全**』『**環境**』の確保を実現する。

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

学び

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現

⇒学習空間を、均質で画一的なものから柔軟で創造的なものに転換
(教室空間の改善・充実に関する創意工夫の例)

- ・1人1台端末環境等に対応したゆとりのある教室の整備 (イメージ①)
- ・多目的スペースの活用による多様な学習活動への柔軟な対応 (イメージ②)
- ・ロッカースペース等の配置の工夫等による教室空間の有効活用 (イメージ③)

⇒読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備 (ラーニング commons)

⇒教職員の教材製作空間 (スタジオ)、コミュニケーション・リフレッシュの場 (ラウンジ) の整備



イメージ①



イメージ②



イメージ③

生活

新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現

⇒居場所となる温かみのあるリビング空間 (小教室・コーナー、室内への木材利用)
⇒空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

共創

地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現

⇒地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出
⇒地域活性化等の観点から、他の公共施設等との複合化・共用化等を促進

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

安全

子どもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現

⇒老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
⇒避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能を強化

環境

脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

⇒屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) を推進
⇒環境や地域との共生の観点から学校における木材利用 (木造化、室内利用) を推進

～【文科省】「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」中間報告(概要)より～

新しい時代の学びを実現する空間イメージ例 (未来思考の視点を含む)

Schools for the Future 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体で学びの場として創造する
子供たちにとって「明日また行きたい学校」となるために、そこに集う人々にとっても「生き生きと輝く学校」となるために

学び



単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

学び



学校施設全体を学びの場として捉え、階段状の空間を、ステージやプロジェクタ等を備えた発表・表現の場としていく姿

学び



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせ、読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・commons」としていく姿

学び



製作・編集のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿

生活



子供たちの居場所となる小空間・ベンチ等の配置や、木材を活用して温かみと潤いのあるリビング空間としていく姿

生活



断熱性能を高めて空調設備が設置された体育館を、大人数での多様な活動も展開できる大空間として活用していく姿

共創



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

共創



他の公共施設(図書館等)との複合化・共用化を図り、多様な「知」を集積する共創空間としていく姿

個別最適な学びを実現する校舎

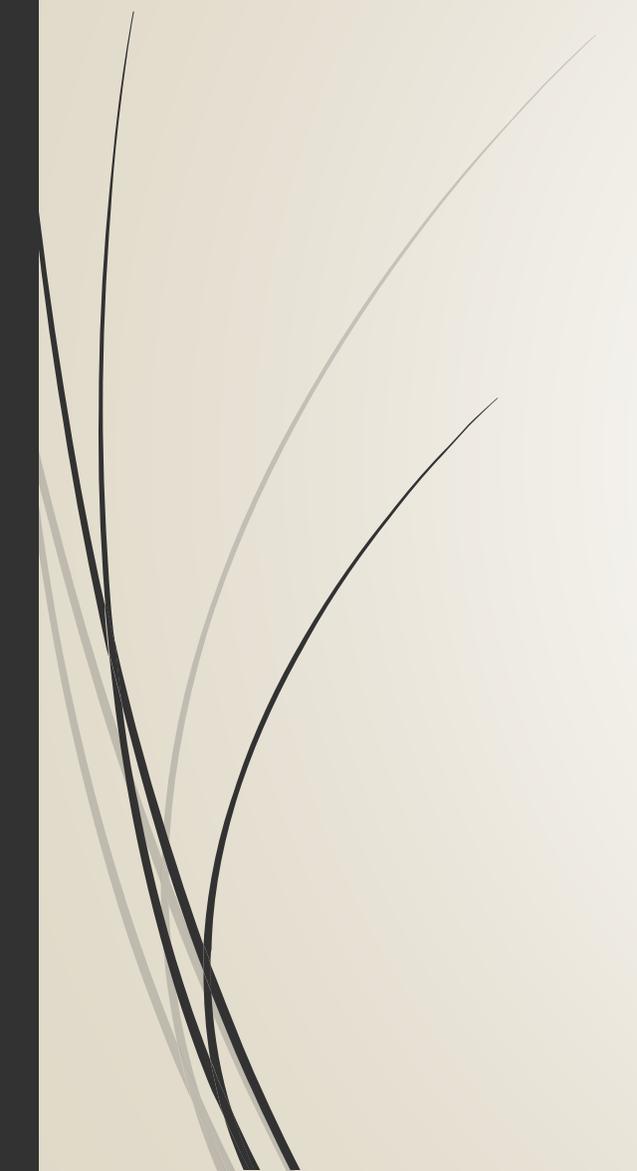
■外観パース



2023年 大熊町で学校再開

義務教育学校「大熊町立 学び舎 ゆめの森」





校舎のプロモーションビデオをご覧ください。

3 個別学習計画作成に向けた今後の課題

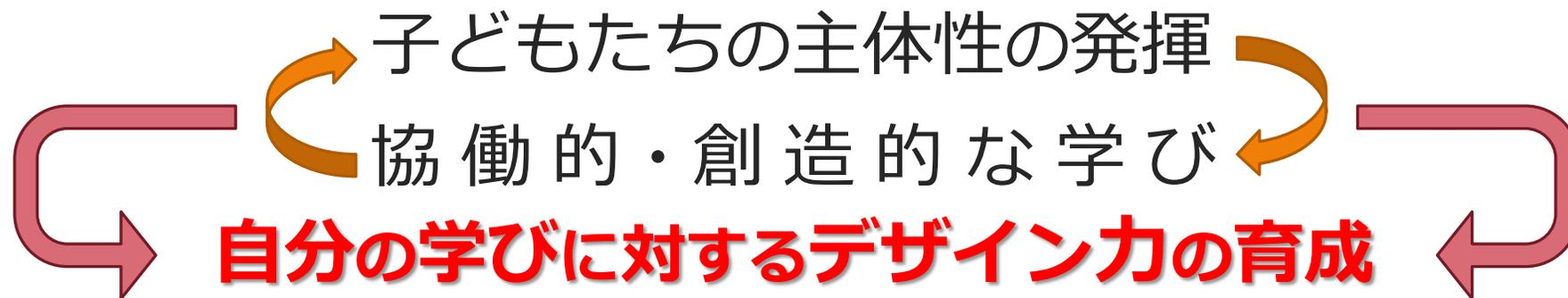
(1) 教師の意識改革

ティーチ → (答えのある学び)



伴走者
ファシリテーター } → (答えのない学びをともに)
学びのデザイナー

(2) 主体的・対話的で深い学びの充実



(3) 学力の伸びと定着

- 各種調査による実態の把握
- 学力の伸びと非認知能力の相関関係に基づいた教師による個別最適な学びのコーディネート
- 学力の伸びと定着を保護者が実感
- 個別学習計画作成に向けた保護者の理解と協力

(4) 標準授業時数

- Society5.0時代の到来（個別最適な学び・AIの活用）を見据えた幅のある（目安の）授業時数
- 履修主義から修得主義への転換

4 今後の展望

【教育のDX化】

【アアルトコンサルティング合同会社との実証事業】

- ・ 総合教育支援サイトの立ち上げ

～ **ゆめの森.com (仮称)** ～

【テクマトリックス株式会社との連携】

- ・ 学びの総合支援システム〔教育課程マネジメント、個別学習計画作成、学びの履歴（評価）、時数管理、欠席報告、保護者への連絡等〕による一元化

【アアルトコンサルティング合同会社との実証事業】

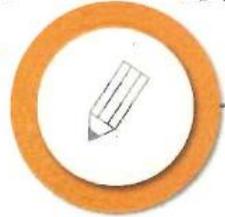
総合教育支援サイトの概要

アアルトコンサルティング
合同会社

○魅力ある教育コンテンツを広く発信・配信して、大熊町への興味を最大化する。

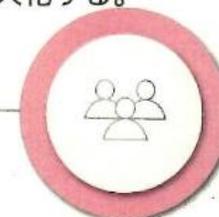
教育施策

DX 学習の進捗状況
生徒主体の情報発信



コミュニティ運営

オンライン同窓会
大熊応援団



ゆめの森 .com
(仮称)

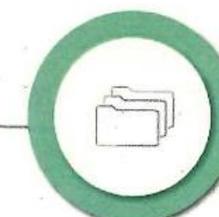
デジタル施策

オンライン放課後
VR コンテンツ



アーカイブ施策

SNS の運用とバックログの管理



○各コンテンツの取組情報を継続して発信し、大熊町の魅力訴求に繋げることとスピード感を持った情報更新を行う。

○上記情報発信やコミュニティ施策を通して、学び舎ゆめの森と同等のコンセプトを有するサイトを運営し、デジタル領域からも興味関心層を取り込む。

【総合教育支援サイト（アクティブWEBサイト）】

（仮称）Webゆめの森.com

義務教育学校「大熊町立学び舎ゆめの森」の学びのフィールドの概念を**広く**、**多様**にとらえる。

大熊町立学び舎ゆめの森

《対面でのリアルの学び》

学び舎ゆめの森に登校して、教師、友達、地域の人々、異年齢、異業種などの、多様な他者と関わり合いを持って、リアルな学びのフィールド



《WEBでのバーチャルな学び》

総合教育支援サイト「（仮称）Webゆめの森.com」で、震災により全国に離れ離れとなった大熊町の関係者、応援者、支援者、そして多様な他者と関わり合いを持つ、グローバルな学びのフィールド

すべての子どもを対象とした
個別の計画作成に向けた仕組みの構築
-特別支援・発達支援分野・海外の取り組みから-

2021年12月3日 産業構造審議会
株式会社LITALICO/ 国士舘大学
博士（障害科学）
野口 晃菜

発表の流れ

- ① 特別支援教育における個別の計画の作成の現状と課題
- ② LITALICOにおける個別の計画の作成・運用のための体制
- ③ 海外の通常の学級における個別最適化の例
- ④ 学校における個別計画の作成・運用のための提案

特別支援教育の現状

義務教育段階の全児童生徒数：989万人

減少傾向



特別支援学校

0.7% (約7万2千人)



平成19年比で1.2倍

小中学校

特別支援学級

2.4% (約23万6千人)

(学校教育法第22条の3に該当する児童生徒：約1万8千人)



平成19年比で2.1倍

通常学級

通級による指導

1.1% (約10万9千人)



平成19年比で2.4倍

発達障害の可能性のある児童生徒の6.5%の在籍率

(学校教育法第22条の3に該当する児童生徒：約2千人)



約

10.7%

増加傾向

※を除く数値は平成29年5月1日時点

https://www.mext.go.jp/content/20200109-mxt_tokubetu01-00069_3_1.pdf

特別支援教育の現状

	学級編成 定数措置	教育課程	個別の計 画	教員免許
通常の学級	40人 ※小1は35人	通常の教育課程	必要に応じて (義務で はない)	小中学校の教員免許 ※2019年度より特別 支援教育1コマ必修 化
通級による指 導	【小・中】 教師1人あたり 担当児童生徒13人 【高】 加配措 置	通常の学級の教育課程 + 自立活動 【小・中】 週1～8コ マ以内 【高】 年間7単 位以内	作成義務	
特別支援学級	8人	通常の学級と同じ教育 課程+自立活動、特別 な教育編成	作成義務	特別支援学校教諭免 許保有が望ましい (平成30年度 取得 率30.8%)
特別支援学校	【小・中】 6 人 【高】 8人 【重複】 3人	各教科等+自立活動、 障害の程度によっては 自立活動を中心とした 指導。障害の状態等に 応じた弾力的な教育課 程が編成可。	作成義務	特別支援学校教諭免 許保有が必須 (平成30年度取得率 79.8%)

※合理的配慮はどの場においても提供義務あり。 ※各学校特別支援教育コーディネーターを配置
任)

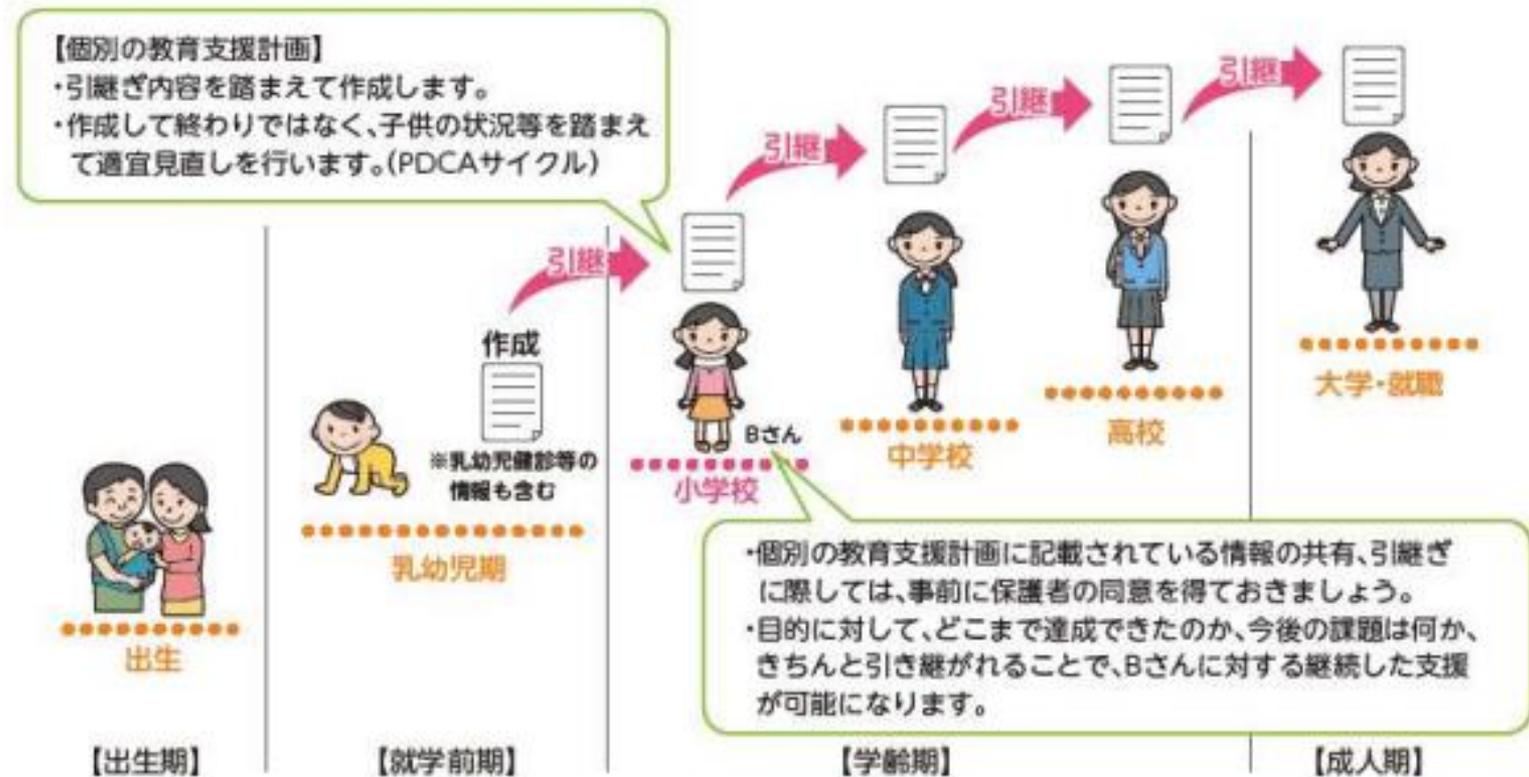
知的障害特別支援学級に在籍する 子どもの時間割例

	月	火	水	木	金
1時間目	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
2時間目	国語	国語	国語	国語	国語
3時間目	算数	生活単元学習	算数	生活単元学習	図工 (交流)
4時間目	音楽 (交流)		体育 (交流)		
給食・掃除	交流	交流		交流	
5時間目	体育 (交流)	算数	遊びの指導	算数	音楽 (交流)

個別の教育支援計画

個別の教育支援計画

子ども・保護者の願い、障害によるニーズ、支援内容、相談歴、など子どもについて関係者で情報共有を・引継ぎをするための計画



個別の教育支援計画の参考フォーマット（文科省，2021）

個別の教育支援計画の参考様式

【プロフィールシート】（記入例）

1. 本人に関する情報

①氏名	フリガナ	モンカ タロウ	②性別	男	③生年月日	平成26年5月5日
		文科 太郎				
④園・学校名	〇〇市立A小学校			⑤学年・組	1年1組	
⑥学校長名	□山 △美					
⑦学びの場	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級					
	<input checked="" type="checkbox"/> 通級による指導（ <u>自校</u> 他校・巡回） 障害種別：発達障害					
	<input type="checkbox"/> 特別支援学級 障害種別：					
	<input type="checkbox"/> 特別支援学校 障害種別					
⑧障害の状態等	主障害				他の障害	
	診断名					
	手帳の 取得状況	手帳（年 月交付）			等級	
		手帳（年 月交付）			等級	
⑨教育歴 （在籍年月日）	幼稚園等	園名：（〇年〇月〇日～〇年〇月〇日）				
	小学校段階	学校名：（〇年〇月〇日～〇年〇月〇日）				
		学校名：（〇年〇月〇日～〇年〇月〇日）				
	中学校段階	学校名：（〇年〇月〇日～〇年〇月〇日）				
		学校名：（〇年〇月〇日～〇年〇月〇日）				
	高等学校段階	学校名：（〇年〇月〇日～〇年〇月〇日）				
学校名（〇年〇月〇日～〇年〇月〇日）						
⑩検査	検査名				検査名	
	実施機関				実施機関	
	実施日				実施日	
	結果				結果	
	資料	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	資料		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	備考

個別の教育支援計画の参考フォーマット（文科省, 2021）

2. 家庭に関する情報

①住所	〒×××-▲▲▽▽	②保護者	
	〇〇市緑ヶ丘1-2-3		
③連絡先	☎090-××××-▲▲▲▲ ()	☎	()
	☎ ()	☎	()
④備考			

3. 関係機関に関する情報

①支援を受けた日（期間）	②機関名	③担当者名	④主な支援・助言内容等
R2. 7. 1~R3. 3. 31	緑ヶ丘児童発達支援センター	×〇

4. 備考

--

個別の教育支援計画の参考フォーマット（文科省, 2021）

個別の教育支援計画の参考様式

小学校入学時の例

【支援シート（本年度の具体的な支援内容等）】（記入例）

1. 本人に関する情報

①氏名

(フリガナ) モンカ タロウ
文科 太郎

②学年・組

1年1組

③担当者

担任	通級指導教室担当	特別支援教育 コーディネーター		
〇〇〇〇	●●●●	□□□□		

※ 本計画の作成（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Action）にかかわる全ての者を記入すること。

④願い

本人の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・本を上手に読めるようになりたい。（R3.4.30） ・落ち着いた気持ちで、学習に参加したい。（R3.4.30）
保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・音読に自信をもって取り組んでほしい。（R3.4.30）

⑤主な実態

学校・家庭 でのようす	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> ・習い事（体操）には休まず通っている。（家庭） ・絵本の読み聞かせが好き。（家庭） ・友達との関係は良好で、休み時間には一緒に遊んでいる。（学校）
	苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・文字だけの本は読みたがらない。（家庭） ・音読では、文節を意識しないで読むことが多い。（学校） ・文章を読んで理解することが苦手である。（学校） ・音読や文章題の宿題に時間がかかる。（家庭）

※ 「苦手なこと」の欄には、学校生活、家庭生活で、特に支障をきたしている状況を記入すること。

個別の教育支援計画の参考フォーマット（文科省, 2021）

2. 支援の方向性

① 支援の目標	・単語や文節を意識しながら音読するような方法を身に付けることができる。
---------	-------------------------------------

② 合理的配慮を含む支援の内容	
①-1-2	学習内容の変更・調整 ・読む量を減らし、本人の負担にならない程度の量に調整する。
①-2-1	情報・コミュニケーション及び教材の配慮 ・単語や文節のまとまりが分かりやすいように補助線や区切り線を引かせる。
②-1	専門性のある指導体制の整備 ・通級指導教室と連携し、視覚認知能力を高める指導の充実を図る。

※（上段：青枠）必要な合理的配慮の観点等を記入、選択すること。

（下段：白枠）上段の観点等に沿って合理的配慮を含む支援の内容を個別具体的に記入すること。

③ 支援の目標に対する関係機関等との連携	関係機関名		支援の内容
	□□病院作業療法（担当**OT：月2回）		ビジョンセラピー（眼だけで追視する訓練）
	放課後等デイサービス（担当**指導員：月～金放課後）		読書（合理的配慮①-2-1）

個別の教育支援計画の参考フォーマット（文科省, 2021）

3. 評価

① 支援の目標の評価	<ul style="list-style-type: none">- 音読の前に、自分から補助線や区切り線を引き、それらを手がかりに音読に自信をつけている。- 学校の取組を保護者に伝え、家庭でも同様の方法で音読することを認めてもらえることで、保護者の称賛もあり、自信につながっている。（R4.3.1）
② 合理的配慮を含む支援の内容の評価	<p>【①-1-2】は、引き続き、同様の合理的配慮が必要である。</p> <p>【①-2-1】は、本人に定着し、音読課題は見られず、合理的配慮としては必要なくなった。</p> <p>【②-1】は、引き続き、学年が上がり、複雑な画数による新出漢字への対応から、通級指導教室と連携した指導は必要である。（R4.3.1）</p>

※年度途中で評価する場合も有り得るので、その都度、評価の年月日と結果を記入すること。

4. 引継ぎ事項（進級、進学、転校）

① 本人の願い	<ul style="list-style-type: none">- 落ち着いた気持ちで、学習活動に参加したい。
② 保護者の願い	<ul style="list-style-type: none">- 物事に最後まで取り組んでほしい。- 通級指導教室は継続して利用したい。
③ 支援の目標	<ul style="list-style-type: none">- 漢字に関しては、2年生においても同様の支援目標が必要である。- 本人・保護者の願いにもあるが、長い時間集中することが苦手であるため、2年生における支援の目標としたい。
④ 合理的配慮を含む支援の内容	①-1-2、②-1は、引き続き、必要であると思われる。
⑤ 支援の目標に対する関係機関等との連携	<ul style="list-style-type: none">- ビジョンセラピーについては引き続き取り組みを続ける必要がある。- 学校における合理的配慮と連携して取り組みを進める必要がある。

5. 備考（特に配慮すべき点など）

- 保護者は、新しい生活と学習への適応状況について強い不安を抱きやすいので、学校での様子は、定期的に連絡し、伝えるようにする。

6. 確認欄

このシートを支援関係者と共有することに同意します。

年 月 日

保護者氏名

このシートを進学先等に引き継ぐことに同意します。

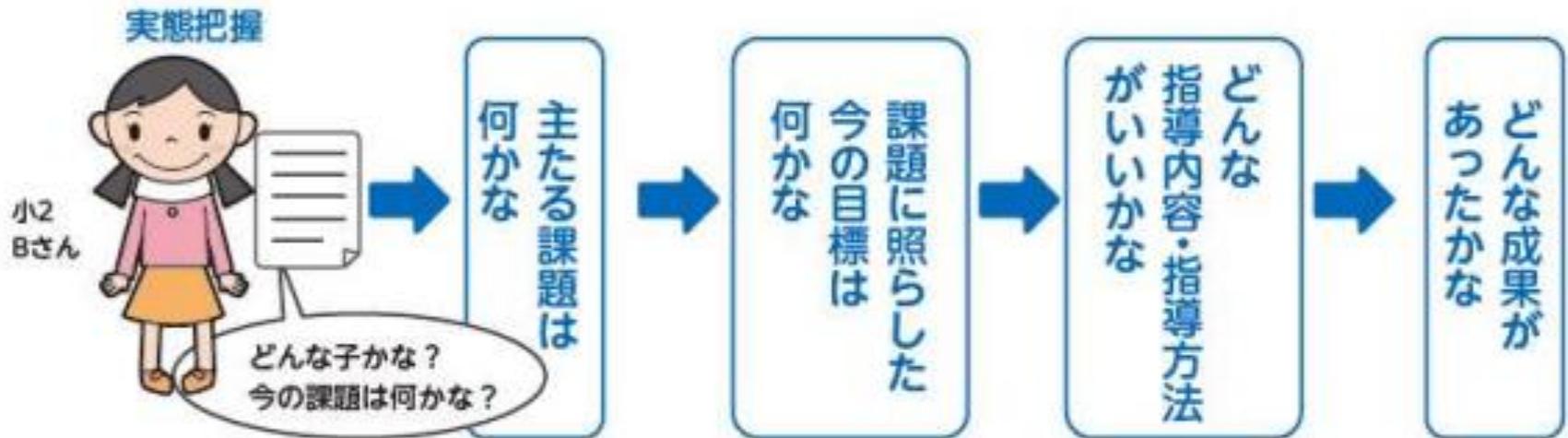
年 月 日

保護者氏名

個別の指導計画

個別の指導計画

学年ごとや学期ごとに、一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法が記載される具体的な計画



個別の指導計画のフォーマット例（特総研・通級による指導）

○ 月				
指導場面	指導内容	指導のねらい	支援の手立て	
小 集 団 指 導	朝 ・ 帰 り の 会	当番活動 持ち物調べ 予定の確認 ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・係の役割を意識する。 ・二人組で協力して活動する。 ・自分の持ち物を意識して管理する。 ・学習の予定をプリントに書き、一日の見通しをもつ。 ・自分の行動の一日をふりかえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表などの視覚的な手がかり ・リストや図を活用 ・一時間ずつ確認 ・ふりかえりシート
	社 会 的 ス キ ル	絵画配列 (お話づくり) ジェスチャー	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の推移や因果関係がわかり、簡単なお話をつくる。 ・ことばを使わずに身体表現で相手に伝える。 ・出題者に注目して解答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そして」「それから」等指導者が接続詞を補足 ・話さないためのマスク ・伝わりやすいモデル ・ステージなどの活用
	集 団 遊 び	カードゲーム フルーツ バスケット	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して活動する。 ・順番やゲームのルールを守る。 ・勝ち負けに対して適切に対応する。 ・ルールに従って活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・順番を番号等で明示 ・個人用のルールカード ・適切な対応を評価 ・ルールを大きく表示
		動物歩き	<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使いバランスよく運動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・側で身体の動きを補助



～障害のある子と家族をもっと元気に～ 概要

1. 教育と福祉との連携に係る主な課題

学校と放課後等デイサービス事業所において、お互いの活動内容や課題、担当者の連絡先などが共有されていないため、円滑なコミュニケーションが図れておらず連携できていない。

2. 保護者支援に係る主な課題

乳幼児期、学齢期から社会参加に至るまでの各段階で、必要となる相談窓口が分散しており、保護者は、どこに、どのような相談機関があるのかが分かりにくく、必要な支援を十分に受けられない。

今後の対応策

1. 教育と福祉との連携を推進するための方策

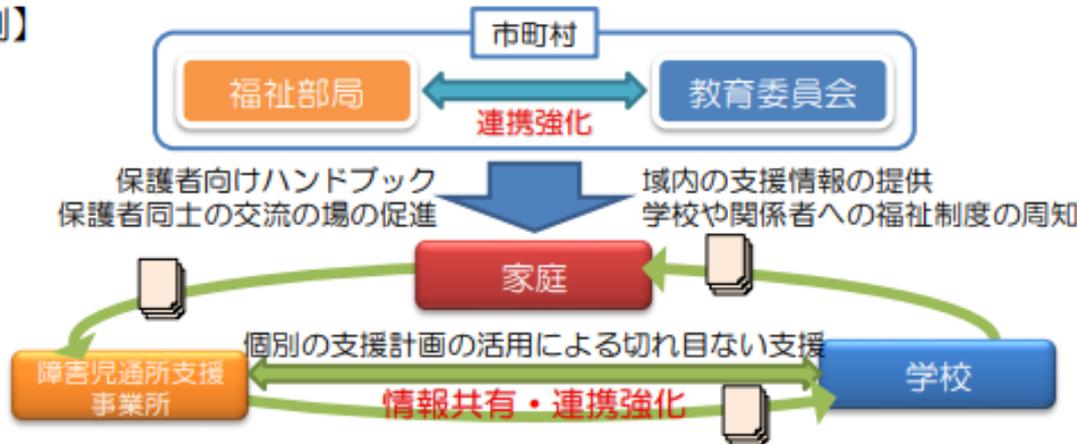
- ・教育委員会と福祉部局、学校と障害児通所支援事業所との関係構築の「場」の設置
- ・学校の教職員等への障害のある子供に係る福祉制度の周知
- ・学校と障害児通所支援事業所等との連携の強化
- ・個別の支援計画の活用促進

2. 保護者支援を推進するための方策

- ・保護者支援のための相談窓口の整理
- ・保護者支援のための情報提供の推進
- ・保護者同士の交流の場等の促進
- ・専門家による保護者への相談支援

【具体的な取組例】

- (厚生労働省)
- ・放課後等デイサービスガイドラインの改定
 - ・障害福祉サービス等報酬改定で拡充した連携加算を活用し、学校との連携を更に推進。



- (文部科学省)
- ・個別の支援計画を活用し、切れ目ない支援体制を整備する自治体への支援
 - ・保護者や関係機関と連携した計画の作成について省令に新たに規定

特別支援教育における個別の計画のポイント

- 個別の教育支援計画において各関係者の共通理解と情報の引継ぎがなされる。
- 個別の指導計画においては学期ごとの具体的な目標とその目標を達成するための障害特性に応じた手だてが記載される。
- 子どもと保護者の願いを踏まえて目標が設定される。
- 子どもについて多角的なアセスメント（情報収集と分析）がなされた上で目標設定がされる。

特別支援教育における個別の計画の課題

- 通常の学級におけるノウハウ不足・通常学級は義務ではない
- 子ども本人の願いが置き去り
- 特に新任者は計画の作成方法が分からない
- 年度頭に全員分作成するための負担が高い
- 様式が自治体や学校ごとに異なる
- 作成するプロセスが目的になっなくなってやり口々に汗かされ

学習者視点の不在・質のばらつき

形骸化・高負担

インクルーシブ教育のノウハウ不足

発表の流れ

- ① 特別支援教育における個別の計画の作成の現状と課題
- ② LITALICOにおける個別の計画の作成・運用のための体制
- ③ 海外の通常の学級における個別最適化の例
- ④ 学校における個別計画の作成・運用のための提案

LITALICOジュニア

■ 事業内容

- ・ 児童発達支援：未就学
- ・ 放課後等デイサービス：学齢期
- ・ 訪問支援：未就学＋学齢期
- ・ 学習教室：未就学＋学齢期

■ 在籍生徒数

8,500名

※待機者数：12,000名

■ 事業所数

137事業所(関東/関西/東海)

■ 訪問小学校数

724校（2021年9月実績）

■ 支援形態・内容

- ・ 平均週1~2回通所、学校や園に訪問支援
- ・ 個別支援/ペア/小集団
- ・ 必要なスキル群に基づいて計画作成





個別支援計画サポートシステム

ICT を活用し、障害のある子どもへの個別化した教育の提供をサポート



①多面的なアセスメント
(行動やスキル等)



②目標と指導のポイントを
レコメンド



③目標に応じた教材や
プログラム、指導動画を提示

- アセスメントに基づく個別支援計画の作成に関し、専門的な見地からのレコメンドにより計画と指導内容の質的水準を確保
- 計画作成や教材作成に関する支援者の負担軽減
- 将来的には学校・家庭での様子、医療や福祉機関の記録を集約し情報共有を効率化

LITALICOジュニアの支援体制

- 児童発達管理責任者の役割：個別支援計画の作成責任者・保護者への提示、保護者面談など
 - 支援員の役割：直接支援、個別支援計画草案作成、保護者相談対応など
- ※通所のタイミングが一人ひとりずれるため一度に作成するわけではなく、だいたい月4～5

名の計画作成	登録者数	支援員の数	一人あたりの担当
児童発達支援 (未就学) 週1～2回教室通所	50～60名	7～8名 児童発達管理責任者：1名 児童指導員6～7名	・児童指導員一人あたり担当者6～7名 ・児童発達管理責任者一人あたり50～60名
放課後等デイサービス (学齢期) 週1～2回教室通所	50～60名	7～8名 児童発達管理責任者：1名 児童指導員6～7名	・児童指導員一人あたり担当者6～7名 ・児童発達管理責任者一人あたり50～60名
保育所等訪問支援 (未就学+学齢期) 保育園・幼稚園・学校に月2～8回訪問支援	267名	64名 児童発達管理責任者：4名 児童指導員：60名	・児童指導員一人あたり約6名 ・児童発達管理責任者一人あたり約40名

LITALICOジュニアの支援体制

- 児童福祉法による福祉事業として運営しているため、国が規定している支援体制や要件がある。
- LITALICOの場合はそれにプラスして社内独自の支援体制や研修体系を構築している。

児童発達管理責任者

- 資格あり
- 5～8年以上の実務経験



教室長（社内独自）

育成担当者（社内独自）



児童指導員

- 2年以上の実務経験or資格保持者（保育士や教員免許など）

そのほか

- 複数教室を統括するマネージャー
- 困難な状況を共に解決するスーパーバイザーチーム

<https://litalico-c.jp/magazines/197>

<https://litalico-c.jp/magazines/215>

LITALICOジュニアの支援体制

- 等級1～8、約45項目の要件を満たせば等級があがる
- 児童発達管理責任者コース、指導員コース、訪問支援員コース、マネージャーコース、スーパーバイザーコースの5コース
- 集合型研修はほぼなく、OJT、スーパービジョン

例) 指導員コース

	等級 1	等級 2	等級 3
アセスメント（情報収集と分析など）	・ヒアリングや行動観察で得られた情報を元に、子どもと保護者が抱える困難さを具体的に説明できる	・ヒアリングや行動観察で得られた情報を元に、子どもと保護者が抱える困難さの背景要因の仮説を5つ以上立てることができる	・ヒアリングや行動観察で得られた情報を元に、子どもと保護者が抱える困難さの背景要因を個人因子と環境因子に分け整理し、根拠のある仮説を立てることができる
計画（目標設定・手だての考案・合意形成など）			
子どもへの指導（達成度の表か、反応の検知など）			

支援体制構築のポイント

- 支援をするにあたり、求められるスキル要件を明確にする（スタッフにも個別の計画を）
- 確実にスーパーバイズなど助言が得られる体制をつくる（一人で抱え込まない）
- システムが担えるのは、構造化（整理）や、選択肢の提示、選択肢の絞り込み。最終的にそれらの選択肢から選んで決定するのは人。
- 子ども自身・保護者と相談の上、計画を作成をする。
- 計画が指導案・指導記録に反映され、計画に対してのログを記述できるようにしている。

【参考】LITALICO 学校版 個別の学びシステム

計画作成

目黒花子

メニュー

ホーム 学びプラン2022年度 李田莉子さん

学びプラン

2022年度

新年度学びプラン作成 +

年度別学びプランの履歴

学びプランTOP >

児童生徒情報 >

▼ 帳票作成

保護者アンケート >

アセスメント >

プロフィールシート >

個別の教育支援計画 >

年間評価・引継ぎ >

個別の指導計画 ^

1学期 >



李田 莉子 りたりこ

(女) 2011年 05月 05日 生まれ 5年3組

児童生徒情報を編集

莉子さんの願い：
未登録

感覚の特性



最終更新：2022/05/13 16:42

学習面の困り



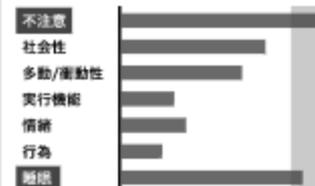
最終更新：2022/05/13 16:42

習得目標スキル

- 学習面
 - ◆文章表現をする
 - ◆事実の読み取り
 - ◆文字を読む
- 生活面
 - ◆整理整頓・持ち物管理
 - ◆買い物・金銭管理
 - ◆姿勢・移動
- 対人面
 - ◆気持ちや思考との付き合い方
 - ◆活動や遊びのルール・手順理解
 - ◆場面に合わせた伝え方

最終更新：2022/06/04 15:32

行動の特性



最終更新：2022/05/13 16:42

莉子さん の帳票作成

© LITALICO Inc.

【参考】LITALICO 学校版 個別の学びシステム

- 通級・特別支援学級の子どもを対象とした計画作成システム
- 2020年度20自治体でトライアル
- 2021年度から本格導入



【教育委員会の担当者様からのコメント】

サービス	観点	具体的なコメント
計画作成	見立て客観性	<ul style="list-style-type: none"> • 特に新任教員にとってのガイドとなっています。新任教員ですとどのような観点から児童生徒を見立てるべきかわからず、アセスメントが属人的になりがちなところを、LITALICOのアセスメントを導入することで、見立ての質担保につながる。
	目標の具体性	<ul style="list-style-type: none"> • 細分化されたリストに基づき、具体的な目標設定ができることが非常に有用。評価がしにくいからこそ、具体的な目標を立てて振り返る必要があると感じる。
	引継ぎ・共有	<ul style="list-style-type: none"> • 学年、学校間によって計画情報を引き継ぐことが難しかったが、本ツールを導入することで、引継ぎや共有が簡易になることを期待する。
教材 研修動画	個別最適化	<ul style="list-style-type: none"> • 一人一人の教育的ニーズ、特性に合わせた教材を学校現場に提供できる。
	業務効率化	<ul style="list-style-type: none"> • LITALICOの教材を活用することで、授業準備の負担が軽減される。

発表の流れ

- ① 特別支援教育における個別の計画の作成の現状と課題
- ② LITALICOにおける個別の計画の作成・運用のための体制
- ③ 海外の通常の学級における個別最適化の例
- ④ 学校における個別計画の作成・運用のための提案

多層型支援の導入

(アメリカ・フィンランド)

- 子どもを通常教育ー特別支援教育ときっぱり分けない
- 通常教育そのものを多様性を前提としたシステムにする。すべての子どもに対して個々のちがいを前提としたユニバーサルな働きかけや可能な限りの個別最適化が行える体制を整える。
- その上でさらに支援が必要な子どもに対して、必要な分支援を足していく。
- どの子どもにどの層のどの支援が必要か？についてはデータを参考にして意思決定をする。
- 通常教育で十分に支援をしたエビデンスがないとプラスアルファの支援の対象にはならない。

フィンランドのインクルーシブ教育



<https://www.sensei-no-gakkou.com/article/no0041/>

Frisila 小学校の概要 ※2016年視察時

- 130名の児童 に対し、 9名の教師
- 通常学級6クラス（**20名/クラス**）、特別支援1クラス（10人）
- 校長先生が特別支援教育の専門家：週10時間授業を担当
- 通常学級の担任が6名（そのうち1名は副校長）、特別支援学級1名。
- 看護師（週1）、ソーシャルワーカー（週1）、心理士（週1、AM勤務）⇒市で採用し、各学校を巡回。
- その他スタッフ：補助員2名（フルタイム）、校長の秘書（週に2回）、掃除のスタッフ、給食のスタッフ

個別の目標設定

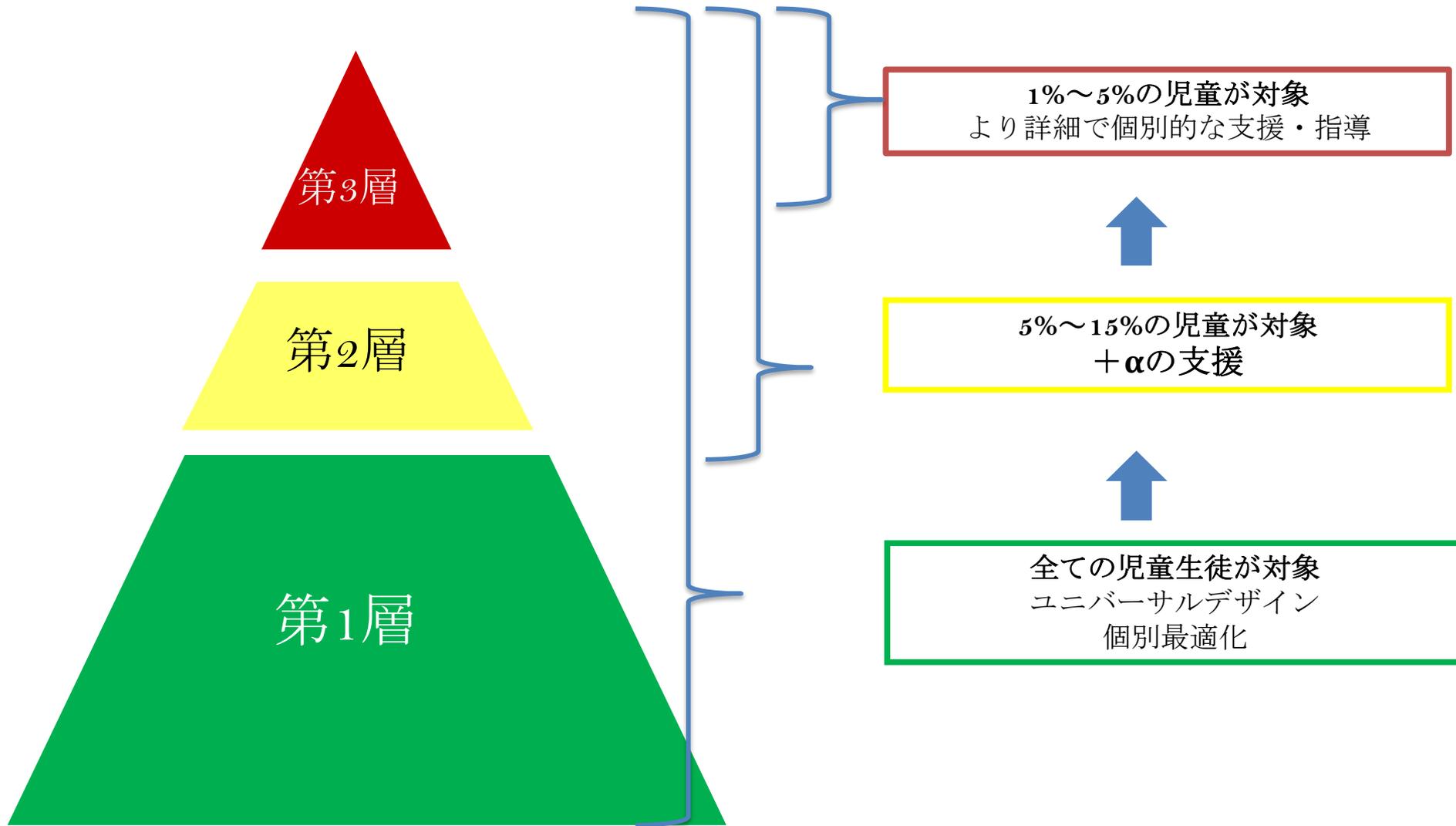
- 通常の学級においても一人ひとり個別の目標設定をする
 - 毎年2月にアセスメントの実施&振り返り
- 評価（春）
 - 1年～4年生は、定性的な評価
 - 5、6年生は、数値の評価&定性
 - 数値の評価：根拠を定性的に書く

個別発達計画（スウェーデン）

- 2006年からすべての子どもに対して「個別発達計画」の作成義務
 - 学期に1回三者面談を行い、学習面と対人関係面での評価を共有して、今後の支援に関する同意事項をポートフォリオなどのファイルに記していくもの

加瀬（2010）スウェーデンにおける<個別発達支援計画>全員策定の論理.東京学芸大学紀要, 61(1), 271-280.

アメリカにおける Response to Intervention

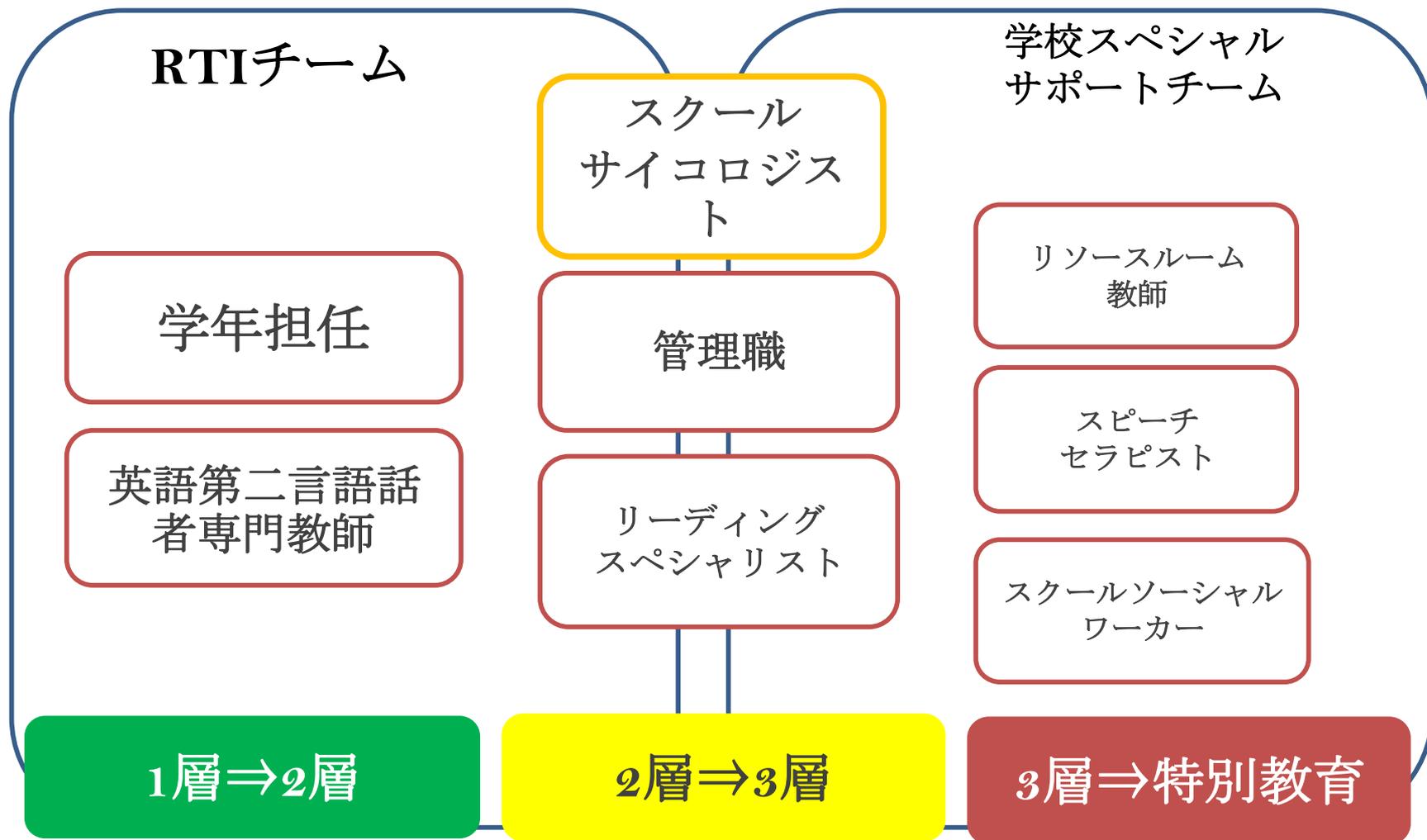


RTI導入に関わる人的資源

教育委員会 (LEA)
RTI コーディネーター

※イリノイ州・2011年視察時

※年3回の会議、どの子どもに層の支援が必要か？データを参考に意思決定をする。



RTIミーティング

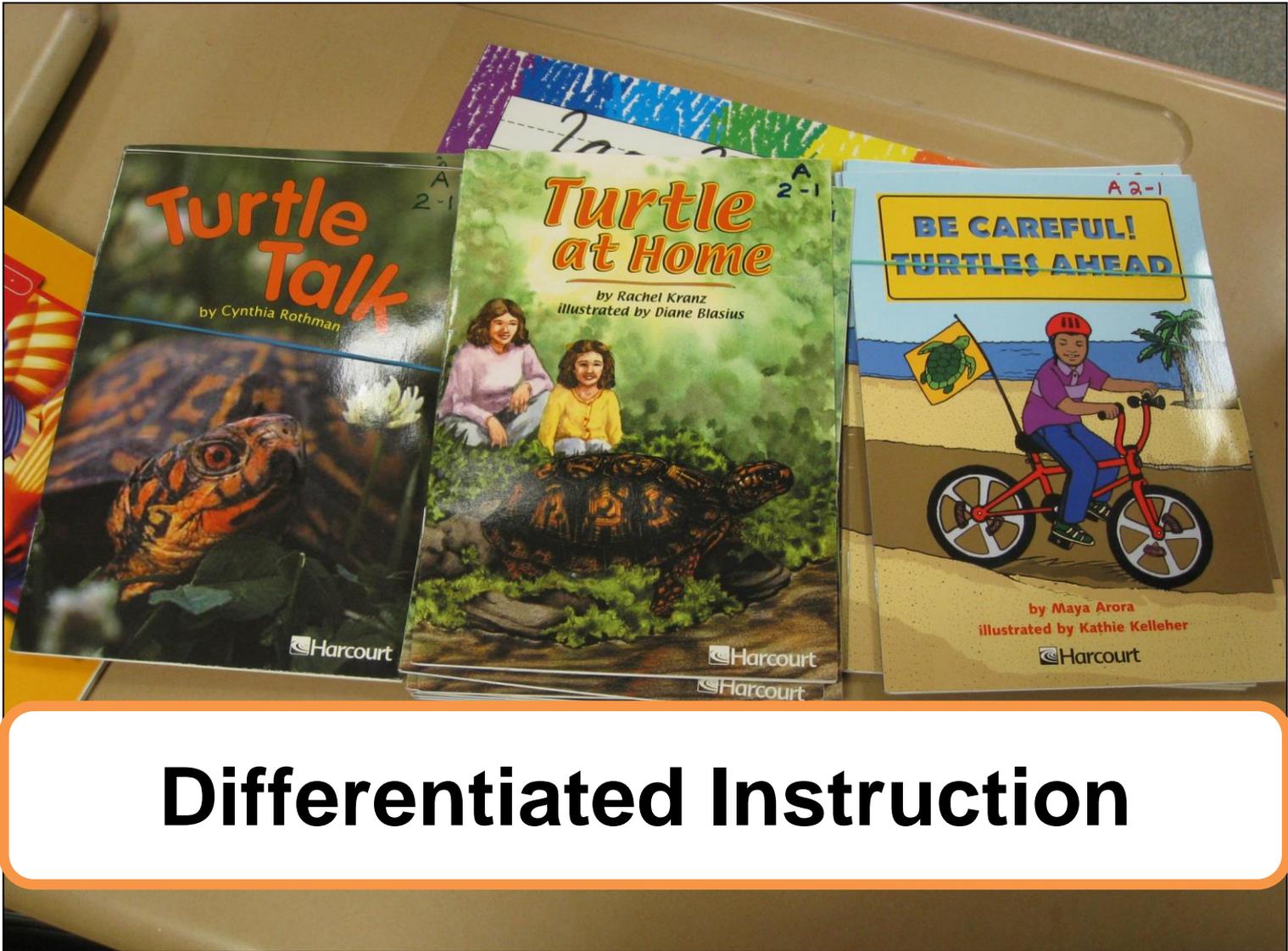
児童氏名	読み	算数	通常学級でできる支援 集中プログラム	モニタリング	担当者
A	点数	点数	読み上げ機能活用 読み集中プログラム	読みについて 月2回	Z先生
B					
C					
D					
E					

- 様々なデータを元に3層に分ける
- 介入計画 (Intervention Planning Form)を作る



すべての子どもを対象とした第1層支援 の例

- 1学級あたりの子どもの人数（アメリカ・フィンランド・スウェーデンそれぞれ約20名）
- 通常学級において可能な限りの支援を実践するための助言者や会議体・体制
- ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導・支援
- 子どもによって難易度や学び方が選択できる
- 個別の計画の作成
- 子どもが学びの主体(owner of learning)



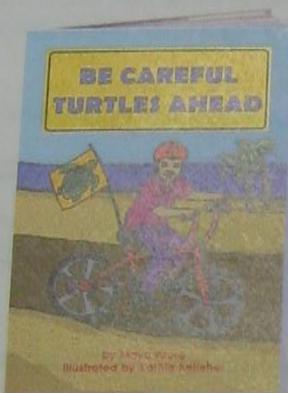
Differentiated Instruction

Guided Reading
OPTIONS



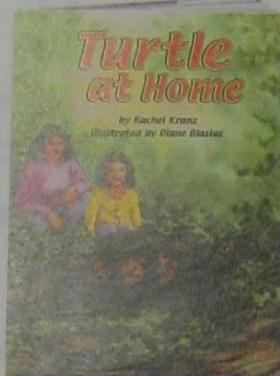
Books for All Learners

Lesson Plans on pages 18 IM–18 IP



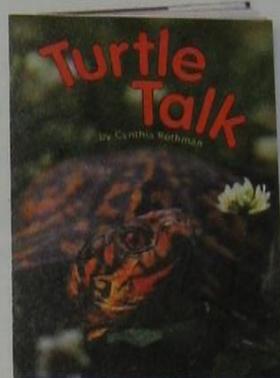
BELOW-LEVEL

- Lesson Vocabulary
- Focus Skill: Author's Purpose



ON-LEVEL

- Lesson Vocabulary
- Focus Skill: Author's Purpose



ADVANCED

- Challenge Vocabulary
- Focus Skill: Author's Purpose



ELL

- Concept Vocabulary
- Focus Skill: Author's Purpose

MULTI-LEVEL PRACTICE

ADDITIONAL RESOURCES

BELOW-LEVEL

ON-LEVEL

ADVANCED

ELL

Spelling Practice Book, pp. 27–29

ADDITIONAL SUPPORT ACTIVITIES

THEM

PE

ATH

Name _____

Officer Buckle and Gloria Vocabulary

► Think about the meaning of each Vocabulary Word in dark print. Write the word in parentheses () that best completes each sentence.

department	obeys	commands	audience
expression	accident	noticed	

- The police **department** is a _____ of the government. (part or direction)
- A dog who **obeys** its owner _____ what its owner tells it to do. (does or does not do)
- Commands** are _____ (instructions or ideas)
- A person's **expression** can be seen on his or her _____ (face or hands)
- If you **noticed** a stop sign, you _____ it. (saw or did not see)
- If you had an **accident** while you were pouring milk, you _____ it. (spilled or drank)
- The **audience** at a movie _____ the movie. (watches or plays in)

► Complete this safety tip with Vocabulary Words.

- 8-9. A person who _____ traffic rules is not likely to have an _____.

Extra Support Changing Patterns

Name _____

Officer Buckle and Gloria Vocabulary

► Read the groups of words on the posters. Write the Vocabulary Word that fits with each group.

department	obeys	commands	audience
expression	accident	noticed	

- watchers
listeners
viewers
- feeling
emotion
looks
- saw
took note of
observed

- mistake
error
bad luck
- directions
orders
strong requests
- group
section
company

7-8. Complete this safety tip with Vocabulary Words.

The person who _____ traffic rules is not likely to have an _____.



Make a poster with safety tips for your classroom.

Practice Book Changing Patterns

Name _____

Vocabulary

Word Wise

Even words with similar meanings can convey different messages. Write some sentences, and then see how their messages can change.

department	obeys	commands	audience
expression	accident	noticed	

What you need:

- pen or pencil
- paper
- index cards



What to do:

- Write one Vocabulary Word on the front of each card. Brainstorm as many synonyms, or words with similar meanings, as you can for each Vocabulary Word, and write them below the word.

- Turn each index card over. First, write a sentence using the Vocabulary Word. Next, write the same sentence substituting another word or words for the Vocabulary Word. See how you change the message of the sentence.

We heard the teacher's **commands**.

We heard the teacher's **suggestions**.

Pat knows how to **obey**.

Pat knows how to **follow directions**.

Challenge Changing Patterns

自分が得意・苦手な 学習スタイルを自己分 析 (5年生)

フラッシュカード、チャートや
グラフを先生が使うとわかりや
すい。

過去に学習がうまくいかなかっ
たときは機嫌が悪かった時。先
生がただ読むだけの時もつまら
ない。

教科書の中身がフラッシュカー
ド、ミニゲーム、マッチングゲ
ームなど、別の方法で提示され
ていると学びやすい。

On Past Learning Experiences

I learn best when the teacher does some education
I like Spanish Gallon and flashcards
I also learn better when the teacher
things in charts and graphs.

In the past, I have not done well when

I am in a bad mood and I am upset. Also, I
don't do as well when the teacher
just reads from the text and nothing
else, because it's boring

I realize

that I learn better when the
stuff from the text is presented to
me in different ways: flashcards,
memory games, matching games. I realize
that I learn and get the

発表の流れ

- ① 特別支援教育における個別の計画の作成の現状と課題
- ② LITALICOにおける個別の計画の作成・運用のための体制
- ③ 海外の通常の学級における個別最適化の例
- ④ 学校における個別計画の作成・運用のための提案

特別支援教育・LITALICO・海外の事例を踏まえて

多層型支援

多様性を前提とした全員への支援を充実させ、
段階的に支援を付け足す
データを参考にどの子にどの支援が必要か検討

個別の計画

詳細計画を全員に立てるのは困難
よりシンプルな計画を子どもと共にたてる
システムを活用し情報を構造化・選択肢を絞る

教師あたりの 担当人数

特別支援学級・通級・LITALICO→3～13名
アメリカ・フィンランド・スウェーデン→約20名
学級あたりの人数を減らすのは必須

専門家による スーパービジョン

通常学級でできる限りの工夫を実践するために
専門家による助言が受けられる仕組み

教師のスキル

子どもの願いや思いをヒアリング
選択肢の中から子どもに合わせて選択する、カスタマイズ
データを参考に意思決定をする
教師に必要なスキルを明確に定義する

理想的な体制（案）

- 1学級20名
 - 35人学級からさらに引き下げられるか？もしくは1:20になるように外部人材の活用
- スーパーバイザー常駐（多層型支援の体制整備、助言、育成）
 - 現在の特別支援教育コーディネーターを専任化（現在は校務分掌）し、専門性向上
 - 大規模学校は人数を増やす
- 特別支援教育専門教員（特別支援学級担当）
 - 現在の特別支援学級教員の専門性向上
- 補助員（通常学級における支援充実）
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、各種専門家（作業療法士、言語聴覚士など）が巡回。

【参考】通常学級における個別の計画（案）

1人ひとりのメンタル状況の把握とメンタルケアの提案



1人ひとりの学びの状況の把握と学び方の把握・提案



個々の実態・提案の出力

子どもごと・集団全体の傾向をデータで示す



自己認識

2層・3層が必要な子どもを発見

【参考】通常学級における個別の計画（案）

メンタルヘルス状況の把握とメンタルケアの提案



子ども

check in/ check out

・朝・昼・帰りに入力



保護者
子ども

メンタル状態の質問紙

・半年に1回or1年に1回入力



個別の計画作成



- ・メンタルの傾向
- ・ストレスマネジメント等の提案
- ・自分で書き込めるようにする

個々の
データ

全体の
データ

- ・リスク度
- ・詳細アセスの
推奨
- ・個々への支援
提案

全体への指導内容
の提案
(例：ストレスコー
ピング・アンガ
ーマネジメント
等)

【参考】通常学級における個別の計画（案）

学びの状況把握と学び方の把握・提案

学び手の プロフィール

- ・スクリーニングテストの結果（読み書き算）
- ・得意な学び方のアンケート
- ・個々の興味関心アンケート
- ・（教科別の進捗、教科ごとのシステムと連動）



個別の計画作成



- ・テスト結果のグラフ
- ・得意な学び方の提案
- ・自分で書き込めるようにする

個々の データ

- ・リスク度
- ・詳細アセスの推奨
- ・個々への支援提案

全体の データ

全体への指導方法の提案
（例：順序立てて教える方が良い、最終的な目的を先に示す方が良い、など）

【参考】LITALICO学校版個別の学び支援システム

計画作成



目黒花子

メニュー

ホーム 学びプラン2022年度 李田莉子さん

学びプラン

2022年度

新年度学びプラン作成 +

年度別学びプランの履歴

学びプランTOP >

児童生徒情報 >

▼ 帳票作成

保護者アンケート >

アセスメント >

プロフィールシート >

個別の教育支援計画 >

年間評価・引継ぎ >

個別の指導計画 ^

1学期 >



李田 莉子 りたりこ

(女) 2011年 05月 05日 生まれ 5年3組

児童生徒情報を編集

莉子さんの願い:

未登録



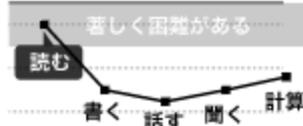
感覚の特性



最終更新: 2022/05/13 16:42



学習面の困り



最終更新: 2022/05/13 16:42



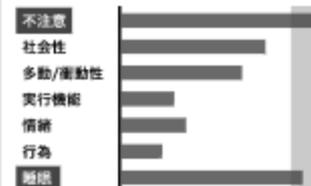
習得目標スキル

- | | |
|-----|--|
| 学習面 | ◆文章表現をする
◆事実の読み取り
◆文字を読む |
| 生活面 | ◆整理整頓・持ち物管理
◆買い物・金銭管理
◆姿勢・移動 |
| 対人面 | ◆気持ちや思考との付き合い方
◆活動や遊びのルール・手順理解
◆場面に合わせた伝え方 |

最終更新: 2022/06/04 15:32



行動の特性



最終更新: 2022/05/13 16:42

莉子さん の帳票作成

© LITALICO Inc.



【参考】LITALICO学校版個別の学び支援システム

計画作成



目黒花子

メニュー

ホーム 学びプラン2022年度 李田莉子さん / アセスメント

▼ 帳票作成

保護者アンケート >

アセスメント >

プロフィールシート >

個別の教育支援計画 >

年間評価・引継ぎ >

個別の指導計画 ^

1 学期 >

2 学期 >

3 学期 >

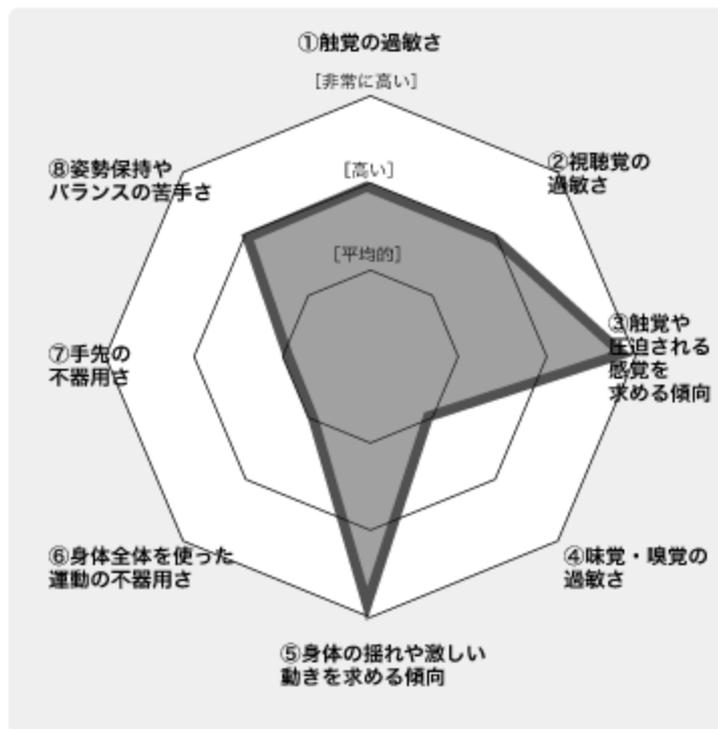
期末評価 v

莉子さんの 感覚特性 について

りこさん2回目... 2022/05/13

実施

[非常に高い]、[高い]、[平均的] の3段階評価となっています。



①触覚の過敏さ

触覚刺激や人に触れられることが苦手。特定の刺激を繰り返す傾向がある

②視聴覚の過敏さ

視覚・聴覚の刺激に対する過敏さがある

③触覚や圧迫される感覚を求める傾向

特定の触感や圧迫、振動などを好む傾向がある

④味覚・嗅覚の過敏さ

特定の食感や匂い、味などに対して過敏な傾向がある

⑤身体の揺れや激しい動きを求める傾向

揺れや回転の影響を受けにくく、強い刺激を求める傾向がある

⑥身体全体を使った運動の不器用さ

身体全体を使った運動に不器用さが見られる傾向がある

⑦手先の不器用さ

手先が不器用で道具操作や細かい作業が苦手な傾向がある

⑧姿勢保持やバランスの苦手さ

姿勢保持やバランスを取ることが苦手な傾向がある

© LITALICO Inc.



【参考】LITALICO学校版個別の学び支援システム

計画作成



目黒花子

メニュー

ホーム 学びプラン2022年度 李田莉子さん / 個別の教育支援計画

カスタマーサポート

【受付時間】

9:30-17:30 (土日祝除く)

【電話】

050-3138-4614

【メールアドレス】

iep_sys4school

@litalico.co.jp

困ったときはこちらから



<https://junior.litalico.jp/>

願い

児童生徒 本人の願い	児童生徒本人からヒアリング、または児童生徒の様子から本人の願いを想定し、その内容を記載してください。	保護者の 願い	お友達と楽しくお話ができるようになってほしいです。特に、お友達の話聞くこと、穏やかに会話することができるようになれば嬉しいです。
---------------	--	------------	--

児童生徒の実態

家庭での様子

好きなこと 得意なこと	身体を動かすのが好きです。いろんな人に話しかけることが得意です。
嫌いなこと 苦手なこと	やさしい口調で話すことが苦手です。人の話を黙って聞くことも難しいです。

学校での様子

好きなこと 得意なこと	児童生徒本人からヒアリング、または児童生徒の様子から本人の願いを想定し、その内容を記載してください。
嫌いなこと 苦手なこと	児童生徒本人からヒアリング、または児童生徒の様子から本人の願いを想定し、その内容を記載してください。

ページ内移動

支援の目標

© LITALICO Inc.



【参考】LITALICO学校版個別の学び支援システム

計画作成

目黒花子

メニュー

ホーム 学びプラン2022年度 李田莉子さん / 個別の教育支援計画

支援の目標

【要確認】児童生徒の支援の目標について、保護者・児童生徒と合意をとる必要があります

長期目標

児童生徒本人の観察、また保護者からヒアリングした内容に基づき分析した、児童生徒の「特性」を踏まえ確定した目標を記載してください。

短期目標

児童生徒本人の観察、また保護者からヒアリングした内容に基づき分析した、児童生徒の「特性」を踏まえ確定した目標を記載してください。

支援の目標に対する、支援の内容

学校での支援内容

【要確認】児童生徒の将来像の内容について、保護者・児童生徒と合意をとる必要があります

保護者の要望

困ったときに相談できる人や落ち着ける場所を確保してほしいです。在籍学級でも莉子さんの特性を理解した対応をお願いしたいです。

児童生徒本人の観察、また保護者からヒアリングした内容に基づき分析した、児童生徒の「特性」を踏まえ確定した配慮の内容を記載してください。

家庭・関係機関での支援内容

家庭

朝起きて学校に行くまでにしなければならないこと（歯磨きとか）と時間をイラストで示して壁に貼っています。家事のお手伝いを自発的にやってくれた時はきちんと褒めるようにしています。

りたりこジュニア
ソーシャルスキルトレーニング（自分の気持ち

ページ内移動

© LITALICO Inc.

【参考】LITALICO学校版個別の学び支援システム

計画作成



目黒花子

メニュー

ホーム 学びプラン2022年度 李田莉子さん / 個別の指導計画 (1学期)

支援の目標

長期目標	様々な人と円滑にコミュニケーションできる力を身に付ける
短期目標	<ul style="list-style-type: none">・状況に応じて自分の欲求よりも、今すべきことを優先することができるようになる・先生やお友達に間違いの箇所を指摘されても、認めて修正することができる



教科/領域別の目標・指導内容

教科・領域等	今学期の目標	指導場面	指導内容
自立活動	未入力	未入力	未入力

+ 項目を追加

備考	サンプルテキスト
----	----------

ページ内移動

© LITALICO Inc.



【参考】LITALICO学校版個別の学び支援システム



<https://junior.litalico.jp/>

苦手なこと	容（あらすじ）をつかんだりまとめたりすることが難しい。
-------	-----------------------------

合理的配慮

- 声かけなどに気づきにくい場合、耳に触れる、視界に入る、などで注意をひく
- スケジュール表、手帳表などを用いて、時間の構造化を行い、提示する

支援の目標

長期目標	サンプルテキストサンプルテキストサンプルテキスト
短期目標	・状況に応じて自分の欲求よりも、今すべきことを優先することができるようになる

教科/領域別の学期目標

point 児童生徒の実感が高い。

前年度の

教科・領域等	あ1
自立活動	

備考	サンプルテキスト
作成日	年 月
関係者	未入力

短期目標に関連のある文例から探す

短期目標に関連のある文例から探す

その他の方法で事例を探す

- ##### 普段の様子・困り行動から探す

普段の様子・困り行動から探す
- ##### アセスメント結果から探す

アセスメント結果から探す
※アセスメントを実施していない場合はこちらから
- ##### キーワード検索

キーワード検索
- ##### 学習指導要領から探す

学習指導要領から探す

© LITALICO Inc.

【参考】LITALICO学校版個別の学び支援システム

就学準備 特集 ゲーム感覚で学べて楽しい！ひらがなとかずの基礎

ピックアップ 19件



右から2番目はひつじです

果物と動物でチャレンジ！
見本と同じに並べて

年長～小2 就学準備
集団向き 遊び・ゲーム



ぶ・ど・う

ことばすごろく（音韻の分解）

年長～小2 集団向き
遊び・ゲーム



皆でビンゴカード作り！
「数字のうっし書き」

年長～小2 就学準備
集団向き 遊び・ゲーム



「ものの名前を書こう」で
神経衰弱カードを作...

年長～小2 就学準備
集団向き 遊び・ゲーム



うれしい、どれ？

表情カードで「気持ちの表す言葉の理解」

幼児・小学生 集団向き
遊び・ゲーム



どんな気持ち？

場面カードで学ぶ！気持ちの言葉を増やそう

小・中高生 集団向き



きもちのおんどけ 今ここかな？

今の気持ちは？気持ちの変化をモニタリング

小・中高生 集団向き



あの時どうすればよかった？視覚的に振り返る

小・中高生



「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる環境 を公教育へ実装するには何が必要か

＜多様な指導・学習形式にあった、2つの標準化＞

デジタルハリウッド大学
佐藤昌宏



2009年よりデジタルテクノロジーを活用した
教育イノベーション

EdTechの研究・実践 〈社会実装〉

さとう まさひろ
佐藤 昌宏

デジタルハリウッド大学 学長補佐 教授
一般社団法人 教育イノベーション協議会 代表理事
株式会社グローナビ 代表取締役

■ NTT、ライブドア、デジタルハリウッドの実務経験と二度の起業を経験し、現在はデジタルハリウッド大学院にて、実務家教員として「EdTechイノベーションに関する研究実践」について学生の指導を行う。

■ 2004年には、構造改革特区を活用した、日本初の株式会社による専門職大学院デジタルハリウッド大学院の学校設置メンバーとして設立に参画する。

<p>最上位目標</p>	<p>「個別最適化」の目指すところ→しっかりと定義化 その実現に向けての鍵は「データ利活用※」だ(仮説) <未来の教室ビジョン> ※提言では「学習データ」とあるが便宜的に「データ利活用」に統一</p>		
<p>いつ</p>	<p>短期(1~3年)</p>		<p>中期</p>
<p>誰が・誰のために (ここでは国が)</p>	<p>教わる側(学習者・保護者等)</p>	<p>教える側(教員・自治体等)</p>	
<p>何を</p>	<p><データ利活用を> 1. デジタルデータ(学習者) ・Office系データ、CBTデータ、EdTechツール、デジタルコンテンツ、デジタル教科書等 2. アナログデータ→紙からデジタルへ デジタル化必要 3. 認知データ→教科書、ドリル系データ 4. 非認知データ→特性、行動系データ ※1&3ではEdTech等民間活用実績あり (短期的にはデータ化しやすい1&3データを扱う)</p>	<p><データ利活用を> 教わる側1~4に加え、 5. 評価データ 6. 指導データ(学習系以外に指導に必要なもの) 7. 学校外データ(学童、学外活動、塾、習い事等) ※1&5&6は、校務支援システム等活用実績あり</p>	
<p>どうする</p>	<p><教わる側のためにデータ利活用を国がどうするか(1&3)> ■(短期的に技術を活用した)教育 ◇GIGAによる学習環境活用 ◇(汎用的な個別)学習ソフトウェア・コンテンツ活用の推進 ex:1の活用 ◇学習者の情報活用能力の定着 ◇データによる学習効果の検証(LMSやリフレクション等の重要性) ex: Moodle、Sakai等の改良版等(デジタル通信簿、デジタル連絡帳) ■技術 ◇安全な学習データ取得・流通方法の検討(ID、PDS等) ◇データ解析手法、ツールの検討 ex)MS BI等 ◇学校外データ連携の検討 ◇データの連携・標準化に向けた技術仕様検討</p>	<p><教える側のためにデータ利活用を国がどうするか> ■(短期的に技術を活用した)教育 ◇GIGAによる教育環境活用 ◇(汎用的な個別)学習ソフトウェア・コンテンツ活用をした指導・評価・教育の確立 ◇公教育情報のデジタル化(紙からデジタルへ) ◇教員の情報活用能力の定着 ◇校務・教育者向けソフトウェア・コンテンツ活用の推進 ◇非認知能力のデータ化検討 ■技術 ◇安全な校務データ取得・流通方法の検討 ◇データ解析手法、ツールの検討 ex)Microsoft BI等 ◇学校外データも含めた活用による教育・評価方法の検討(校務支援活用)</p>	

技術の進化・可能性
(AIやブロックチェーン等)

データ活用戦略立案が必要

<p>最上位目標</p>	<p>「個別最適化」の目指すところ→しっかりと定義化 その実現に向けての鍵は「データ利活用※」だ(仮説) <未来の教室ビジョン> ※提言では「学習データ」とあるが便宜的に「データ利活用」に統一</p>		
<p>いつ</p>	<p>短期(1~3年)</p>		<p>中期</p>
<p>誰が・誰のために (ここでは国が)</p>	<p>教わる側(学習者・保護者等)</p>	<p>教える側(教員・自治体等)</p>	
<p>何を</p>	<p><データ利活用を> 1. デジタルデータ(学習者) ・Office系データ、CBTデータ、EdTechツール、デジタルコンテンツ、デジタル教科書 2. アンケート 3. 認知 4. 非言語 ※1 & 2 (短期)</p>	<p><データ利活用を> 教わる側1~4に加え、 5. 評価データ</p>	<p>技術の進化・可能性 (AIやブロックチェーン等)</p>
<p>どうする</p>	<p>「ステップ」と「分けて」考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「短期」と「中長期」を分けて考える ・「教わる側」と「教える側」を分けて考える ・「現場」と「国(制度設計側)」を分けて考える ・「技術ができること」と「教育ができること」を分けて考える <p><教員情報活用> ■(短期) ◇GIGA ◇(汎用) ex:1の活用 ◇学習者の情報活用能力の定着 ◇データによる学習効果の検証(LMSやリフレクション等の重要性) ex: Moodle、Sakai等の改良版等(デジタル通信簿、デジタル連絡帳)</p> <p>■技術 ◇安全な学習データ取得・流通方法の検討(ID、PDS等) ◇データ解析手法、ツールの検討 ex:MS BI等 ◇学校外データ連携の検討 ◇1の連携・標準化に向けた技術仕様検討</p> <p>教 育の確立 ◇公教育情報のデジタル化(紙からデジタルへ) ◇教員の情報活用能力の定着 ◇校務・教育者向けソフトウェア・コンテンツ活用の推進 ◇非認知能力のデータ化検討</p> <p>■技術 ◇安全な校務データ取得・流通方法の検討 ◇データ解析手法、ツールの検討 ex:Microsoft BI等 ◇学校外データも含めた活用による教育・評価方法の検討(校務支援活用)</p>		

データ活用戦略立案が必要

そもそも・・・

今回テーマは、

学習者視点での「**教育データ連携**と**個別学習計画**」に基づく「**パーソナルトレーニング**」を確立する

ですが、以下に修正させていただきます。

教育データ連携（学習ログ）に基づく「**個別学習計画**」と「**パーソナルトレーニング**」を確立する

個別学習計画とパーソナルトレーニング、データ連携を確立するには「学習ログ」が基盤になりますが、
そもそも現時点で「**学習ログ**」の在り方に関する議論が**不十分**と感じるから。

なぜ、**学習ログ（データ利活用）**の在り方の議論が必要か？

価値があるから

学習ログ（データ利活用）の価値

学習ログ（データ利活用） の価値

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる
環境を作ることが可能だから

「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、
自分らしく学べる社会」
引用：教育データ利活用ロードマップ 211025関係省庁

具体的には、いつでも、どこでも、だれでも効果的な学びを手にすることができる（学習者視点）

アセスメントによる
一人ひとりにあった学習環境



自宅、公・民間教育、社会との
シームレスな繋がりによる最適な
学習環境の獲得

可視化による自律的な
自己調整学習サイクルの運用



メタ認知
動機付け（モチベーション）
学習方略

学びの履歴のポータビリティ化



転校・進学・就職等への連携

上記は民間では実施可能。しかし、今回の議論で重要なことは
「公教育への実装」

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる環境を公教育へ実装するには何が必要か ＜「新」指導と評価の一体化の必要性＞

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる環境を公教育へ実装するには何が必要か？

多様な指導・学習形式にあった、2つの標準化が必要

＜対面による教室以外の「多様な指導・学習形態」の検討をすべき理由＞

・ 臨時休業、学級閉鎖による、自宅等での学習・指導の必要性

・ 不登校、特別支援（発達障害）の増

※2020年度「不登校」小中学生 19万6127人（前年度8・2%増 8年連続増 過去最多）
引用：文部科学省の問題行動・不登校調査

・ GIGAスクール構想による、学校及び自宅の環境整備が整った

・ 国内外のEdTech等民間サービス、コンテンツ等の充実

・ デジタル教科書の更なるアップデートの可能性

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる環境を公教育へ実装するには何が必要か
＜「新」指導と評価の一体化の必要性＞

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる環境を公教育へ実装するには何が必要か？

多様な指導・学習形式にあった、2つの標準化が必要

2つの標準化
が必要

①**技術の標準化**：教育データを個人、学校内外と連携するための**技術標準化**

※デジタル
ロードマップ作成
(アーキテクチャー)

②**教育の標準化**：教育データを個人、学校内外と連携するための**指導と評価の教育標準化**

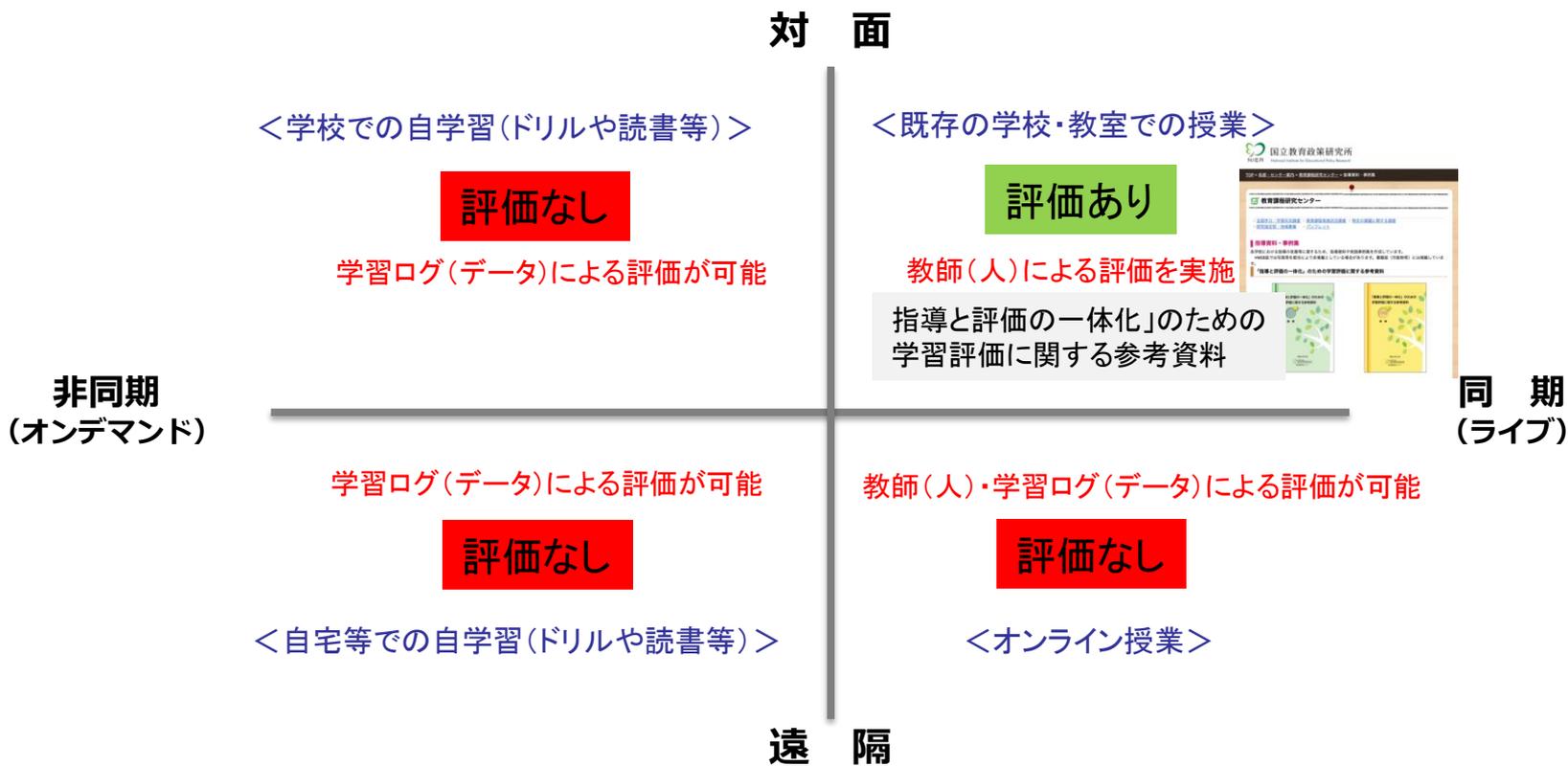
多様な指導方法の必要性と実現性はある。
課題は、それに伴う「評価」が存在しないこと

「指導と評価の一体化」
のアップデートが必須

公教育への実装は、指導と評価が規定されないと
公教育と認めることができない
(**特例**の運用になってしまう)



「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる環境を公教育へ実装するには何が必要か ＜「新」指導と評価の一体化の必要性＞



多様な指導・学習形式とそれにあつた評価方法の確立が急務

「新」指導と評価の一体化の具体的な提案

1. 評価範囲の決定

- ・ 定量評価（データ化しやすい） → 主要 3～5 教科 → 小中全学年に対応
- ・ 定性評価（データ化しにくい） → 主体的で対話的で深い学び、STEAM教育

→ **まずはここから**

→ 主要 3～5 教科確立後に検討

2. 多様な指導・学習形式の効果性検証

- ① 同期（ライブ）、対面 → 既存の学校・教室での授業
- ② 同期（ライブ）、遠隔 → オンライン授業
- ③ 非同期（オンデマンド）、対面 → 学校での自学習（ドリルや読書等）
- ④ 非同期（オンデマンド）、遠隔 → 自宅等での自学習（ドリルや読書等）

EX:非同期型の学習形態にも効果はあるのでは？

- ・ 即時フィードバック（すぐ褒めてくれる）
- ・ 自分のペースで学べる
- ・ 反復学習（何度も同じところを見返せる）

教育評価の専門家との連携要

3. 各指導・学習形式の評価方法の確立・理解度評価コード化（例：ルーブリック評価等）

- ① 同期（ライブ）、対面 → 教師（人）による評価
- ② 同期（ライブ）、遠隔 → 教師（人）、学習ログ（データ）による評価
- ③ 非同期（オンデマンド）、対面 → 学習ログ（データ）による評価
- ④ 非同期（オンデマンド）、遠隔 → 学習ログ（データ）による評価

EX:学習指導要領にあわせた単元毎の理解度評価を作ることは可能では？

- ・ データから理解度を見取る
- ・ デジタル教科書とも連携

教育評価の専門家との連携要

4. 学習指導要領単元コードと理解度評価コードのオープンデータ化（民間等への公開）

データ利活用のステップ

学習ログ（データ利活用）に向けた、今（短期的に）やるべきこと

1. 現場のデジタルイゼーション（紙からデジタルへ）

2. データ利活用戦略の立案

→技術標準化（デジ庁）

→教育標準化（文科省？内閣府？4省庁連携？国研？）

上記ができて、やっと中長期に

学習ログに基づく「個別学習計画」と「パーソナルトレーニング」
が確立する

Q&A

Q1:学校以外の学びを公教育として認めることは、不登校を助長するのでは？

A:何の科目（単元）、授業を学校以外の学び（遠隔・非同期）として認めるかを決める必要がある。大学は124単位中50%までは遠隔可としているように、公教育においても、「この授業は学校での対面、この学びは遠隔・非同期でも可能」というように再設計すべき。

これからの学びを考えたときに「学校での対面のみ」しか公教育として認めないという画一的な制度をアップデートすべき。

Q2:理解度の可視化により、行き過ぎた習得主義を助長するのではないか？

A:理解度の可視化が、行き過ぎた習得主義を助長することとは直接関係は無い。現時点でもテスト等で可視化は行われているし、データにより理解度を可視化しながら事実に基づく科学的な指導をすることは重要だと考える。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて、履修主義と修得主義、年齢主義と課程主義を検討することは、教育制度の運用の問題であり、データによる理解度の可視化とは別に考えるべき。

Q3:テクノロジーやAIに評価させることが教育として正しいのか？

A:短期・中期的において、学習ログなどを事実に基づく科学的なアシストデータと捉え、最後の評価は「人（教師）」がすべきと考える。正しい指導・評価をするために教育データ活用方法を学ぶ必要はあるものの、教師も遠隔・非同期で対応できることから業務の効率化にもつながると考える。

第4回 学びの自律化・個別最適化WG (2/25) (「場の選択肢」の拡充)



誰ひとり、取りこぼさず
個才を発揮できる教育とは

株式会社 **SPACE** CEO
東京大学未来ビジョン研究センター 客員研究員

福本 理恵



不登校の支援を行き渡らせるためのDXとは

「未来の教室」での事例紹介

広島県福山市の校内フリースクール

- 校内フリースクール「きらりルーム」：福山市内6校が実施
 - 城東中学校では専任教員1名を配置
 - 学校内外の調整と個別支援全般を担当
 - 担当授業時間数は0時間の特例措置
 - 教務主任を兼ねる
 - 定数は他の学校と同じで、加配ではない
 - 追加予算で学校内外でのコーディネーターとして配置できると理想的
- 指導主事あるいは養護教諭などが適任



支援内容と支援到達率

2020年度

2021年度

支援内容

生徒への探究学習プログラムの提供と個別の探究学習の伴走支援

生徒本人への生活・精神・学習支援及び、保護者への介入

支援到達率

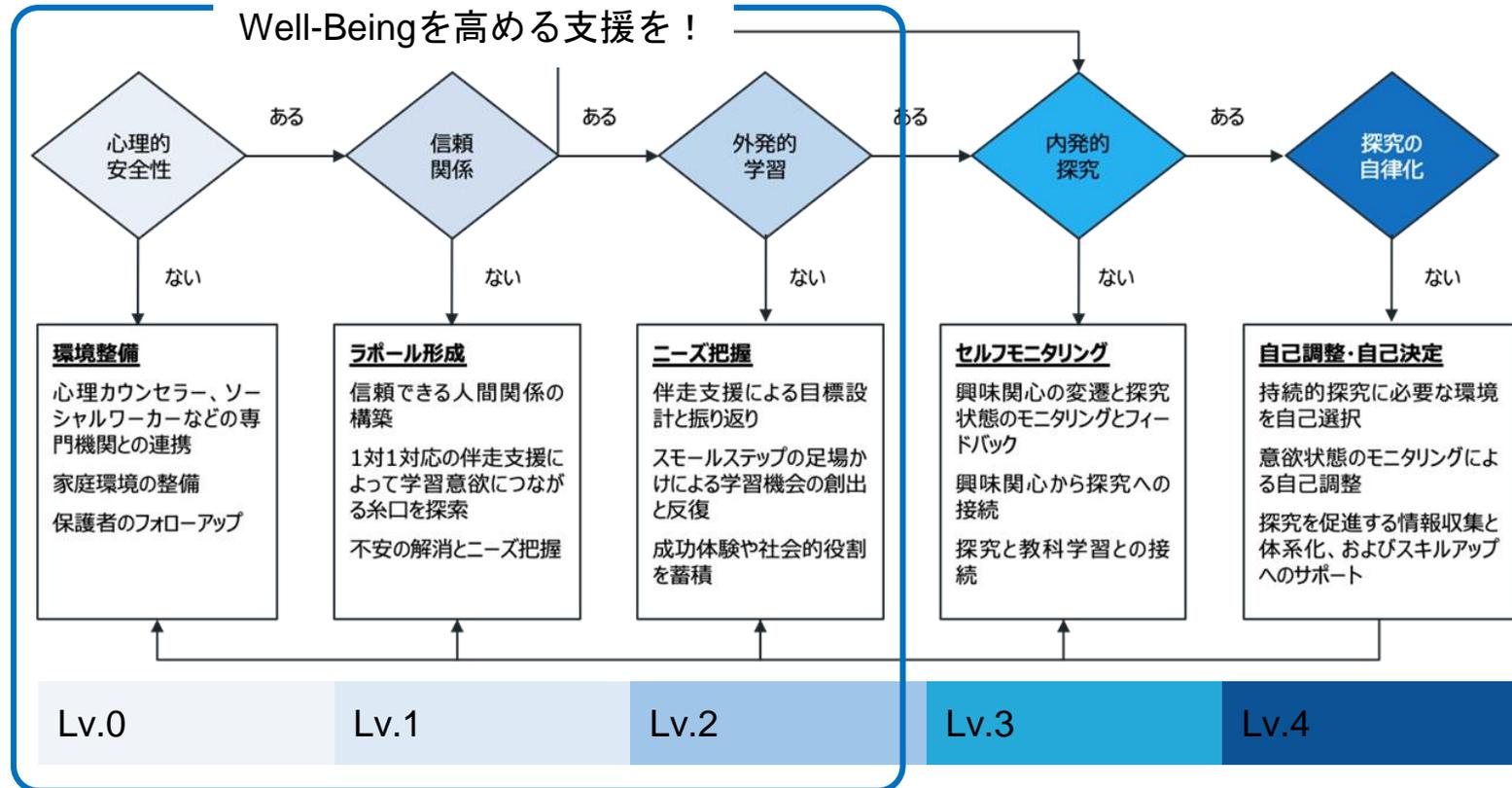
25名中の5名の生徒がプログラムに参加。完全不登校や学習以前の家庭、本人の問題が大きくてアプローチが難しかった生徒が20名

26名中の生徒のうち、24名及び保護者に対して上記の支援を実施。学校外の専門家による家庭への介入と精神的支援も積極的にカバー

支援到達率：**20%**

支援到達率：**92.3%**

前年度実証の成果「レディネスと段階的支援」



支援対象者と支援体制について

2020年度

2021年度

支援
対象

城東中学校の中1～中3まで
不登校傾向の生徒25名

城東中学校の中1～中3まで
不登校傾向の生徒26名と保護者

支援
体制

学校内外の10名

- 城東中学校教員：4名
- 広島大学インターン：6名

学校内外を連携させるチーム体制へ
教育×福祉の領域へ
生徒+保護者の支援も

学校内外の36名

- 城東中学校教員：20名
- 広島大学インターン：8名
- SC：1名
- 不登校、就労支援のNPO：3名
- 介助員／支援員：4名

支援の到達率を上げた要因

1

支援方針の決定

- ・ 属人的な支援内容を10項目で定義した支援に整理して実施
- ・ 日々の支援の構造化
- ・ 構造化によるチーム内での役割分担と支援の明確化/共有化

2

学校内外のチーム体制

- ・ 特定の教員が担当していた難しいケースを学校外の専門家やインターンと連携
- ・ 学校内外とのチーム全体で取り組む体制へ移行。コーディネーター必須

3

記録システムの導入

- ・ メモや頭の中で記録していたものをシステムに集約
- ・ 生徒への介入履歴が一覧で時系列に確認できるデータベースとして活用可能

システム導入により支援をDX化

チーム連携による支援で効果があったケース

ケースA

ケースB

優先順位

学習も人間関係の構築も難しい

1. ⑥専門的な精神支援
2. ⑦日常的な精神支援
3. ⑩教科学習支援

強迫観念が生活にも学習にも影響

1. ⑥専門的な精神支援
2. ⑦日常的精神支援
3. ⑩教科学習支援

具体的な支援

⑥：SCによる面談、現在抱えているストレス解消、コミュニケーション課題、学力不振→ 発達課題について母親に連携

⑦：担任が短時間の面談、きらりルーム担当後もclassroomで会話

⑩：インターンに心を開き、対話。学習支援により発達課題の要因把握につながる

⑥：養護教諭とSCによる面談。生育過程での家族間問題も顕在化→ SCから医療連携 → 入院治療→ 自宅療養

⑦：担任による面談。基本的に教室で生活するが、しんどくなったら保健室や別室も利用

⑩：別室でワークブック等での自学

1 支援項目の定義と方針の決定

「どこから手をつけてよいのかわからない」を解消し、支援の方針と優先順位を明確化



家庭など**環境面**に関する支援

【当てはまるケース】

家庭環境が不安定／家族との関係性が不安定／保護者が無関心 ……など

生活リズムなど**身体面**に関する支援

【当てはまるケース】

生活リズムが不規則／深夜の徘徊／ひきこもり／睡眠不足／慢性的な体調不良 ……など

心理面に関する支援

【当てはまるケース】

精神的な不調／情緒の不安定／人間関係のトラブル／自己否定／不安・悩み ……など

学習面に関する支援

【当てはまるケース】

学習意欲の低下／授業内容についていけない／課題や宿題がこなせない ……など

1 支援項目の定義と方針の決定

10項目の支援項目により支援の体系化、役割分担の明確化

	10の支援方針	連携の窓口	協働支援者／関連機関	支援実施比率
環境	① 保護者への経済的支援	生徒指導主事 → SSW	SC/NPO法人 民生児童委員／訪問支援員 行政機関 など	24.2% ※12件中7件 (58.3%に介入)
	② 保護者への精神的支援			
	③ 保護者への自立支援／生活習慣支援			
身体	④ 生徒への自立支援／生活習慣支援	生徒指導主事 → SSW	SC/NPO法人 民生児童委員／訪問支援員 など	22.1%
	⑤ ICTアウトリーチ支援			
心理	⑥ 専門的精神支援	養護教諭	SC／福祉・医療関係 など	31.5%
	⑦ 日常的精神支援		インターン など	
学習	⑧ 生活学習支援	支援ルーム担任	インターン など	22.1%
	⑨ 探究学習支援			
	⑩ 教科学習支援			

② 追加したチーム体制

専門家と大学生インターンとの連携

- 専門家
 - **スクールソーシャルワーカー**
不登校支援や就労をサポートするNPO（3名）：①保護者への経済的支援、②精神的支援、③自立支援
 - 1週間に1日／1.5時間程度稼働／時給4,000円
 - **スクールカウンセラー**（1名）：⑥専門的な精神支援
 - 1週間に1日追加／4時間程度稼働／時給5,000円
 - 大学生
 - **学生インターン**（広大生、8名）：⑦日常の精神的支援、⑧⑨⑩学習支援
 - 1週間に2日、1人3時間程度稼働／時給1,000円
- ※予算化と同時に大学の履修科目の単位認定等の仕組み化

3 支援記録システム SAOSについて

Support Assessment Operation Systemの頭文字をとったもの

- 児童生徒への包括的な支援をサポートする際に必要な記録・フィードバックシステム
- 下記のようなメリットを想定
 - 児童生徒の記録を紙からデータへ移行
 - 支援の観点を整理し、支援の手立ての検討が可能
 - 時系列な変化を把握し、介入のタイミングや効果の検討が可能
 - 学校内外でのチームでの情報共有が可能
 - 様々な情報の一元管理が可能

生徒一覧

ポイント①
それぞれの生徒の支援フ
ローと優先順位、緊急性が可
視化されている

+ 新規追加

カルテ①入力

ID	名前 ↓	学年	性別	支援方針・緊急性	最終更新	
(64)	AB			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ / 中間 ⊕	10日前	<input checked="" type="checkbox"/> 1 2  
(36)	テスト	中学1年生	女	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ / 高い ⊕	29日前	<input type="checkbox"/> 1 2  
(58)	A			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ / 中間 ⊕	28日前	<input type="checkbox"/> 1 2  
(62)	AA			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ / 高い ⊕	28日前	<input type="checkbox"/> 1 2  
(47)	B			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ / 中間 ⊕	28日前	<input type="checkbox"/> 1 2  
(60)	C			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ / 中間 ⊕	28日前	<input type="checkbox"/> 1 2  
(39)	D			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ / 中間 ⊕	28日前	<input type="checkbox"/> 1 2  
(46)	E			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ / 高い ⊕	28日前	<input type="checkbox"/> 1 2  
(42)	F			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ / 中間 ⊕	28日前	<input type="checkbox"/> 1 2  

ポイント②
支援内容を毎日記録できる
カルテ1と、学年会など集
約検討するためのカルテ2
の記録ができる



Powered by
SPACE

AA

名前 AA

学年

性別

最終更新 2021/11/11 11:03

作成日時 2021/11/09 22:22

カルテ1の累積図示(ベータ)

ポイント③

カルテの累積が図示されて表示されるため、支援の履歴や傾向が理解しやすい

ポイント④

日々の履歴が記録者と日時として蓄積されていくため、振り返りやすい

カルテ1

全期間の累積を表示

2021年12月2日 11:38:00

佐久裕昭

2021年12月1日 19:55:00

2021年11月25日 14:17:00

2021年11月18日 19:12:00

カルテ2

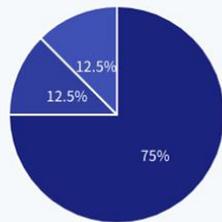
全期間の累積を表示

2021年11月25日 14:19:00

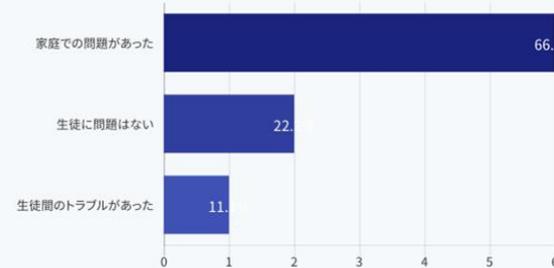
2021年11月11日 16:34:00

次は、現象と手立ての記録です。記録する項目を選択して下さい。

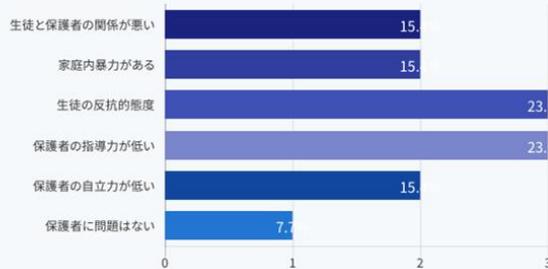
- 生徒間のトラブルや家庭の問題など、生徒と保護者の環境について
- 生徒の気分など、心理状態について
- 生徒の学習について



生徒の環境の見取り結果を記録に残して下さい。(複数回答可)



保護者の環境の見取り結果を記録に残して下さい。(複数回答可)



生徒または保護者の環境について行った手立ての記録を残して下さい。(複数回答可)



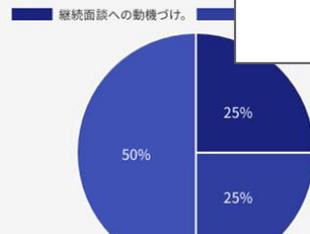
支援の累積図示のページのイメージ

図と表で記載することで一目で理解し、共有を容易にすることが可能

生徒または保護者の環境について手立てを行う中で、効果的だったことを記載して下さい。

- 保護者への共感的理解とエンパワメント。具体的には、保護者の日頃からの工夫や取り組みへの焦点化と、強化するフィードバック等を心がけた。加えて、カウンセラーの経験を自己開示し、生徒の発達課題、思春期特有の問題、保護者の置かれている状況への気づきにつながるよう働きかけたこと。
- どりむスイッチ中村さんと保護者の面談を行った。同じような悩みを持った方がいることで、安心された様子だった。また、小さい時からのことを話されたようである。
- 母の愚痴を聞く
- 相談先を2つ紹介したところ、少し安心した様子で、どりむスイッチに興味を示された

生徒または保護者の環境について手立てを行う中で



10項目の支援方針とSAOS導入のメリット・デメリット

メリット

1. 支援の細分化により、支援のステップの明確化と共有化
2. 生徒の状態に合わせた支援の選択肢や支援者のマッチング
3. 専門的な支援の切り分けにより、保護者や本人への専門的な介入を繋げる
4. 時系列に支援内容を確認できる

デメリット

1. 何かあった際にすぐに記入できないので忘れてしまう
2. 細やかな分類で頭の整理ができず、混乱する
3. 記入する項目が多く勤務時間が圧迫
4. 個人情報などの情報共有の懸念

誰ひとり取りこぼさないために

- 支援が福祉領域への積極的な介入と専門家チームとの連携が必須
- 見立てと手立てが複雑化
- その際に、支援の方向性を定義し方針を決定
- 方針をチーム内で共有しながら、明確化する際にITによるシステムサポートが有効

支援を行き渡らせるためのハードル

1

コーディネーター 1名の加配

- ・福山市のような個別支援が可能な教員をコーディネーターとして加配
- ・心理と身体の専門家である養護教諭を学校内外のコーディネーターとして加配

2

専門家の加配

- ・保護者に精神・福祉領域で対応できるSSWやSCなどの専門家の加配
- ・教育と福祉の連携が必須→子ども家庭庁など縦割りでは越えられなかった壁を低くする制度設計も必要

3

インターンの導入

- ・日常的な精神支援や個別学習支援は教育学部等の大学生インターンが効果的
- ・市町村レベルで大学と協定締結するなどし、恒常的に学生が現場でスキルアップでき、現場の支援が充実する仕組みが必要

4

情報セキュリティ

- ・個人情報の保有レベルの整備
- ・校務支援システム等の既存のシステムとの接続
- ・教員の日常の負荷を下げるアプリケーション等の検討

支援を行き届かせるための理想の支援体制

校長	1	校務補助員	1
教頭	1	介助員	3
事務長	1	支援員	1
学年	17	スクールサポートスタッフ	1
ふれあいルーム	1	SC	1
特別支援学級	4	学校図書補助員	1
養護教諭	1	教職員合計	35



- コーディネーター（養護教諭）：1名加配
- SC：勤務日数の増加
週2日/4時間
- SSW：追加配置
週1日/1.5時間
- インターン：追加配置
週2日/3時間
単位認定で補完

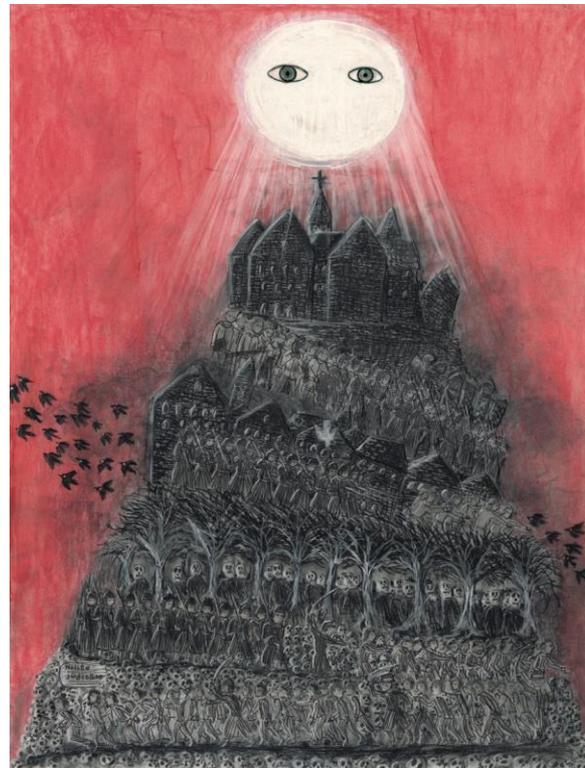
教育福祉の拠点として学校が機能するために必要な人員と予算を制度化すべき



2

学校の枠を超えたサードプレイスの可能性
自分の特性を知ること始める個別最適な学び

学校の枠を外れ 多様な道を歩む「異才」の子どもたち



異才から**個才**へ

Super Personalization Activated by Curiosity and Enthusiasm

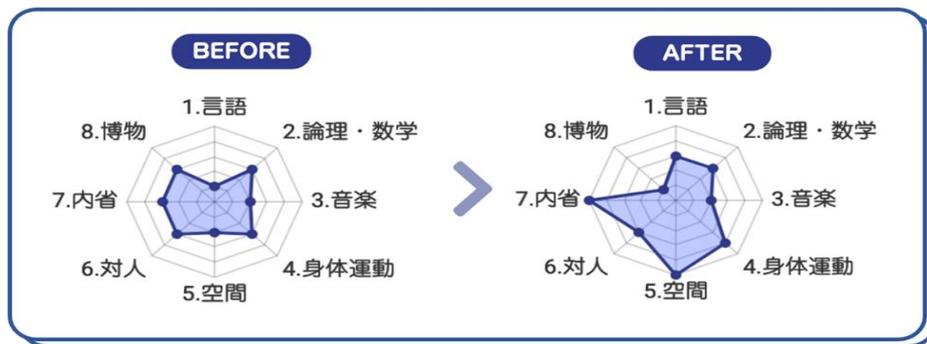
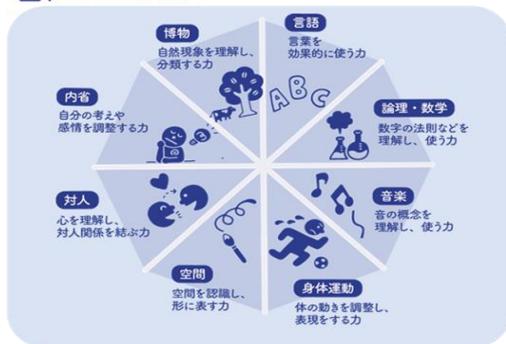
好奇心と情熱で作動する

究極のパーソナライゼーション

すべての人たちが心の中にある
好奇心と情熱に導かれるままに、
最大限に自分らしい可能性を
開花させて生きられる世界を創りたい。
誰もが自分の存在を尊び、
人生の主人公として生きること
喜びを感じる未来を切り拓きたい。
「SPACE」が叶えたいのはそんな未来の世界です。

「個才」の見える化で個別最適な学びへ

8つの力



思考スタイル



自分の特徴を把握して
学びの環境調整を
セルフコントロールする

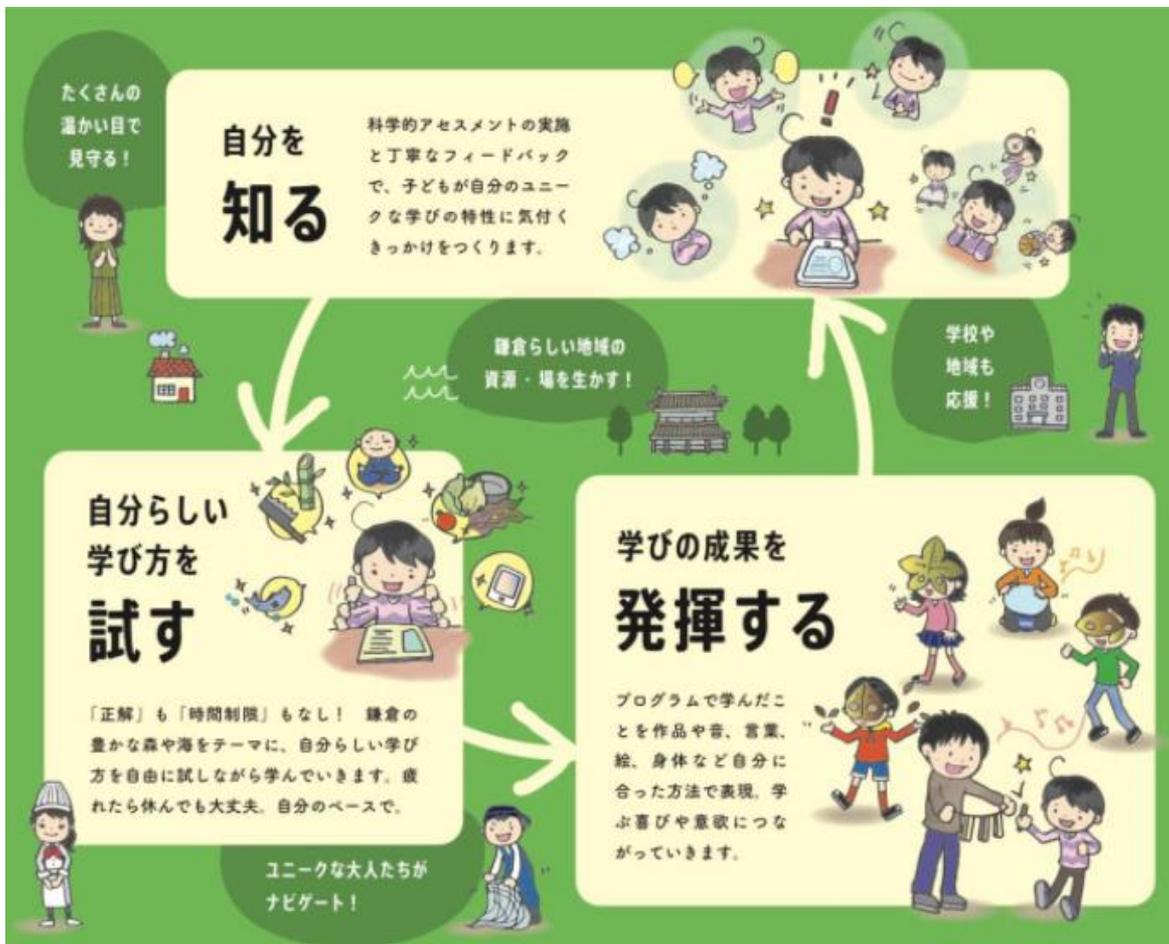
かまくらULTLAプログラム

Uniqueness Liberation Through Learning optimization and Assessment

アセスメントに基づく個別最適な学びの設計

- 教室→ 地域の多様な場所を学び場に（森、海、寺、テック企業など）
- 先生→ 地域内外のエキスパートや住民が先生に
- 学習内容→ 地域のリソースを教材にして、教科単元の紐付けへ



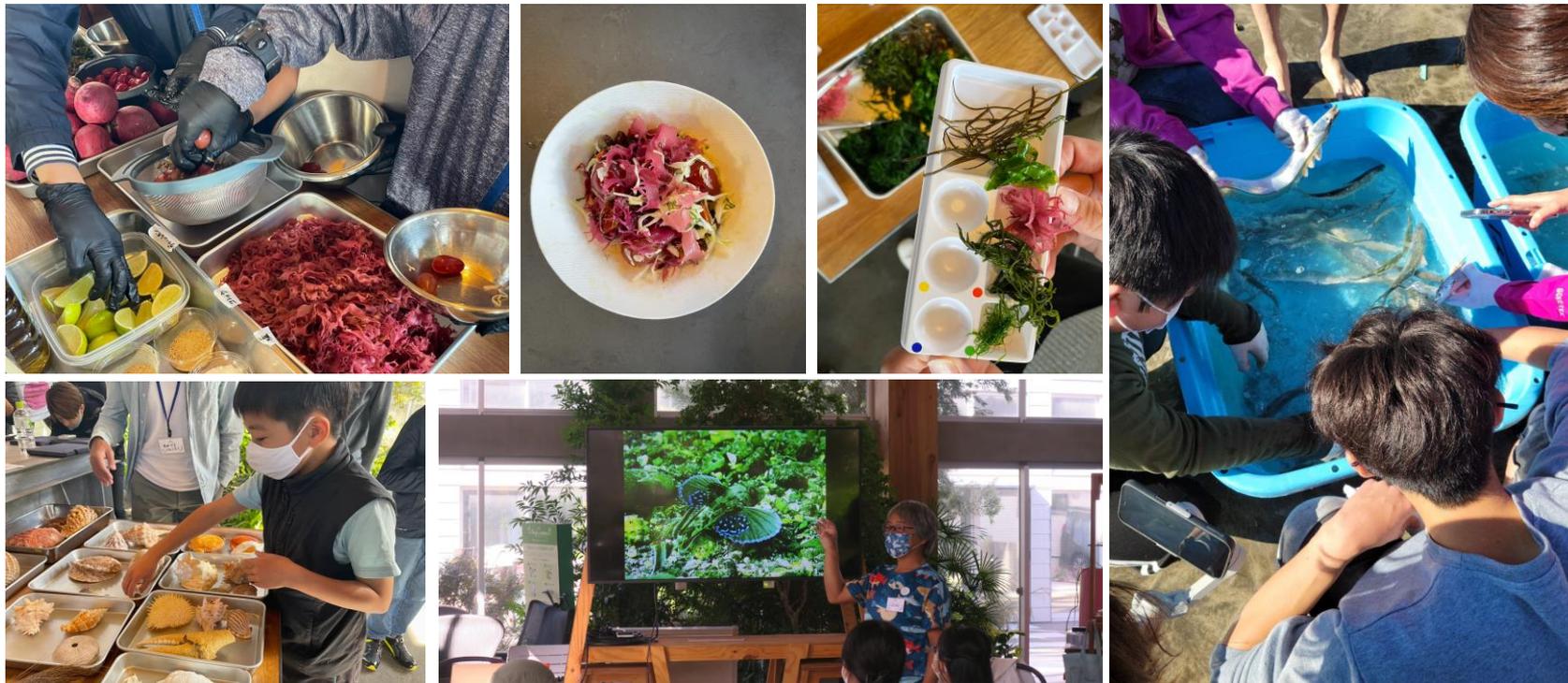


自分学をベースにおいて

自分と環境とのマッチングを
セルフコントロールしていける機会

- アセスメントで自分の興味関心、認知特性、思考のスタイルなど学び方の特徴を把握・共有
- 多様なコンテンツ（ヒト・モノ・コト）に出会って、自分の中でフィットするかどうか試行錯誤できる機会→ 地域のリソースを最大限に活用することが可能

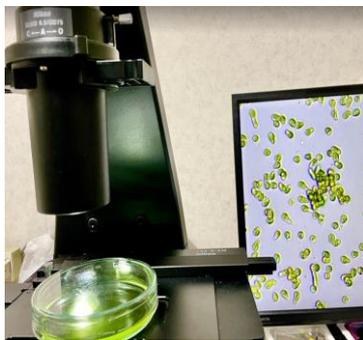
海の多様性から学ぶプログラム



現代の寺子屋を再現！



プログラムで出会った海藻にのめり込む中学生



ルートシップ全体像

ギャザリング

1.メロー会員に登録

メロー同士の交流やイベントなどに参加できる



2.応募する

ファンディング

3-1.アイデアを実現する！



助成金とメンタリングのサポートで、
自分の中にあるアイデアを
具体的に形にします。

プログラム

3-2.アイデアをみがく！



さまざまな世界に触れることで
アイデア・スキルを磨き、
自分の世界をより探究します。



掲載一覧 2022.02.01

(第3回)南極から見た地球の姿 ~一つの大陸だったときのお話~

キーワード：南極、地球、歴史、考古学、旅行、グローバル、自分らしさ皆さんは「南極」と聞いてどんな世界をイメージ...



掲載一覧 2022.02.01

目に見えないけどそこにある。"香り"ってなんだろう？

キーワード：香り、化学、ヘルスケア、精神、自分らしさ甘い香り。リラックスする香り。苦い香り。何だが、気づかない...



掲載一覧 2022.02.01

(第2回)ゲームクリエイターへの道

キーワード：ゲーム、e-Sports、プログラミング、数学、芸術（アート）、自分らしさゲーム好きな皆さん！お待ちしております...

地域の学校は子どもたちの学びのホーム
学校外、地域の外でも
多様な学びを試行錯誤し
チャレンジできる機会を増やす



**オンオフのハイブリッドで
多様なコンテンツに出会える機会を増やす**

世界中の宝に

魅力的なものにオンラインで数多く出会い

リアルで没入できる学びが可能

保存



新しい学びの プラットフォーム STEAMライブラリー Ver. 1

詳しく知る

STEAM教材を探してみよう

キーワードで検索: 例 災害



科目から検索する ▾

SDGsから検索する ▾

Search 🔍

STEAM CHAOS とは

学びの宇宙空間「STEAM CHAOS（スティームカオス）」へようこそ。

未知との遭遇を求めて出かける宇宙探索のように
様々な学びの要素がカオスに満ちあふれている世界
それが「STEAM CHAOS」です。

この空間の中には、無数に存在する天体のように学びの視点が散りばめられています。
それを発見し、繋ぎ合わせて世界を広げていく。
それが「STEAM CHAOS」の学び方です。

宇宙の無重力空間のように

「STEAM CHAOS」の世界でも自由に学年や教科を飛び越えて
あなたの好奇心の赴くままに学びの探索を進めることができます。
教える、教わるという固定した関係性ではなく、おとなも子どもも学び合うことができます。
思考を巡らせて自由に学びを創りあげていく中で
当たり前と思っていたことにも改めて発見があるかもしれません。

さあ、「STEAM CHAOS」の世界に飛び立ちましょう！
どんな学びを創りあげるかは、あなた次第です。

STEAM CHAOS での学びのツール

STEAM CHAOS（スティームカオス）には5種類の学びのツールがあります。

5種類のツールを駆使して、学びの探索を自由に進めてみてください。

マップ（地図）

全てのエピソードを一目で
見たせる学びの地図です。
学ぶ道筋を考えたり、学びの現
在地を確認したりしながら
進めてみましょう。



エピソード（動画）

エピソードはテーマに関する
探究動画です。問いやミッシ
ョンに出会えます。各エピソード
を見ながら学びの視野を広げて
みましょう。

プラン（学習画）

学び方のサンプルです。どんな
活動を通して、どのように学ぶ
かを考えるヒントにして
みましょう。



ミッション（ワークシート）

自分なりの答えを導き出すための
シートです。考えたことや調べたこと
をもとに学びを深めてみましょう。



ワープ（参考リスト）

学びを深掘りさせるときに使うリンク集です。
別の角度から学びたいときや、より詳しい
情報にアクセスしたいときはワープして
みましょう。



STEAM CHAOS の9つのテーマ

STEAM CAOS には9つのテーマが惑星のように存在しています。

興味を持った他のテーマも探索してみてください。

-  火山「エネルギーの宝庫 三宅島を解剖せよ」
-  海「海から受け取る命のバトン」
-  黒みりん「黒みりんのヒミツに迫る」
-  膜「常識を覆す、膜の力」
-  城「白亜の城を守れ」
-  神楽・たたら「神様と遊ぼう」
-  森林「森林の国ニッポン」
-  久留米餅「たて糸とよこ糸が織りなす宇宙」
-  お茶「水の旅 飲む森」



才能や興味が開花するために
アセスメントも参考にしながら
多様なコンテンツ（モノ・コト・ヒト）に出会い
個才と環境とをマッチングさせていく

ニッチな領域のエキスパートが
生まれる可能性をつくる



中等専門学校（中専）??

特化したものの資格化、認定化
習った知識や技術を社会に繋げ
キャリアにも繋がる仕組み

産業構造審議会

子どもを支える体制の整備について

義務教育 長期欠席29万人時代に必要な新制度と法改正

2022年2月25日(金)

認定特定非営利活動法人カタリバ 今村 久美

KATARiBA

Agenda

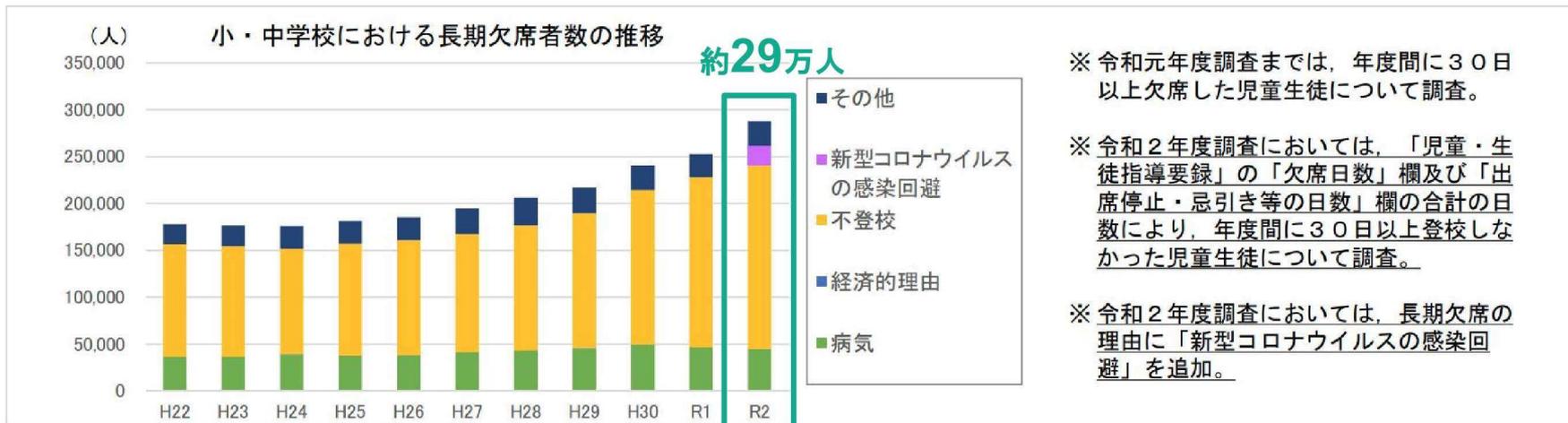
1. **いま日本で起きていること的前提**
2. **背景にある深刻な課題**
3. **NPOカタリバの取り組み事例**
4. **国がやるべき3つのこと**

Agenda

1. いま日本で起きていることの前提
2. 背景にある深刻な課題
3. NPOカタリバの取り組み事例
4. 国がやるべき3つのこと

義務教育 長期欠席29万人時代

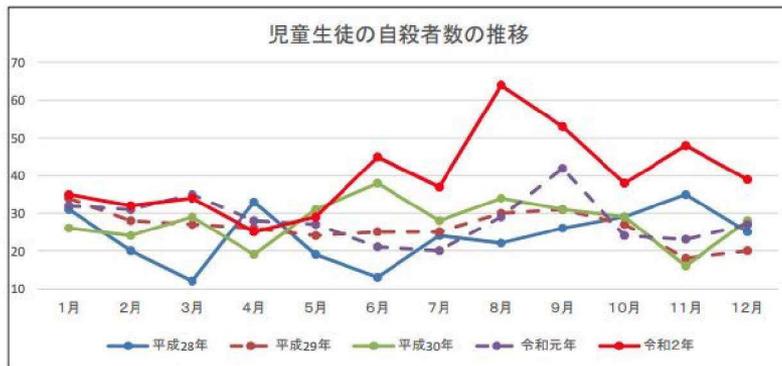
小中学校における長期欠席者数は287,747人、このうち不登校によるものは196,127人
すでに**約29万人の小中学生が長期欠席しており過去最多数**



若年層の死因1位が「自死」は日本だけ

日本の子どもの自死数は増え続け、2020年は**過去最多数**
 国際的にみても、**10～19歳の死因で自死が最も多いのは、先進国では日本だけ**

児童生徒の時期別の自殺者数 年度比較



児童生徒の月別自殺者数の総数(小・中・高)

年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成28年	31	20	12	33	19	13	24	22	26	29	35	25	289
平成29年	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
平成30年	26	24	29	19	31	38	28	34	31	29	16	28	333
令和元年	32	31	35	28	27	21	20	29	42	24	23	27	336
令和2年	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479

G7各国の10代の死因

10歳～19歳																
	日本 2018				フランス 2016				ドイツ 2018				カナダ 2016			
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率
第1位	自	殺	602	5.4	不慮の事故	412	5.2	不慮の事故	334	4.3	不慮の事故	276	7.0	不慮の事故	276	7.0
第2位	不慮の事故		304	2.7	悪性新生物	180	2.3	自殺	192	2.5	自殺	232	5.9	自殺	232	5.9
第3位	悪性新生物		225	2.0	自殺	152	1.9	悪性新生物	190	2.4	悪性新生物	104	2.6	悪性新生物	104	2.6

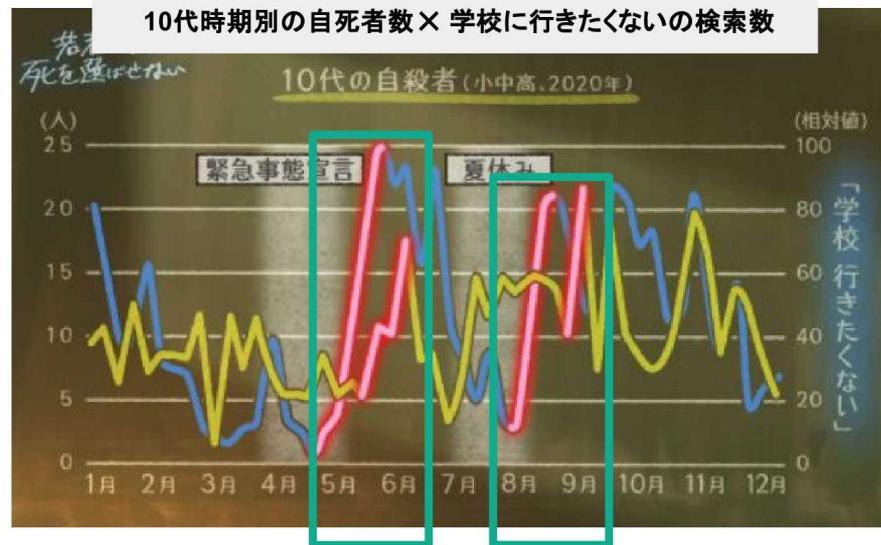
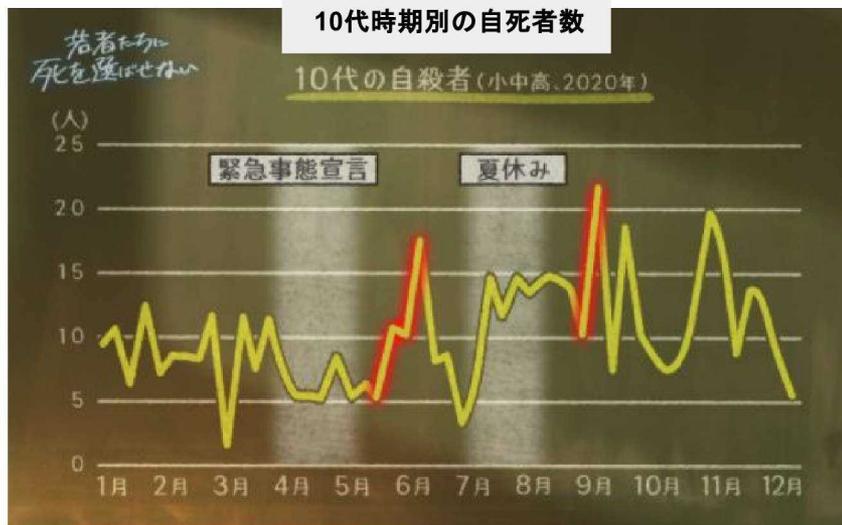
	アメリカ 2017				イギリス 2016				イタリア 2017				韓国(参考) 2019			
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率
第1位	不慮の事故		4,790	11.5	不慮の事故	329	4.4	不慮の事故	302	5.2	自殺	298	5.9	自殺	298	5.9
第2位	自殺		3,005	7.2	悪性新生物	198	2.7	悪性新生物	192	3.3	不慮の事故	139	2.8	不慮の事故	139	2.8
第3位	他	殺	2,002	4.8	自殺	165	2.2	自殺	85	1.5	悪性新生物	109	2.2	悪性新生物	109	2.2

出典 | 厚生労働省「令和年版自殺対策白書」

自死する日本の10代「学校に行きたくない」

10代の自死数は、緊急事態宣言や夏休みなどの長期休み明けに増加

自死者の時期別人数と、「学校 行きたくない」の検索数を重ねると、
検索数は長期休みが終わる頃から増え、数日後に、自殺する人も同じように増えていることが分かる



自死する日本の10代「学校に行きたくない」

休み明けに急増する**子どもの自死はすでに社会課題化**

特に夏休み明けに向けては、メディアや支援団体も様々な取り組みを展開している

NHK 番組・特設サイト

8月31日の夜に



出典 | NHK #8月31日の夜に

Yahoo!ニュース特設サイト

学校に行かないとダメですか？



出典 | Yahoo!ニュース 学校に行かないとダメですか？

複数の支援団体によるキャンペーン

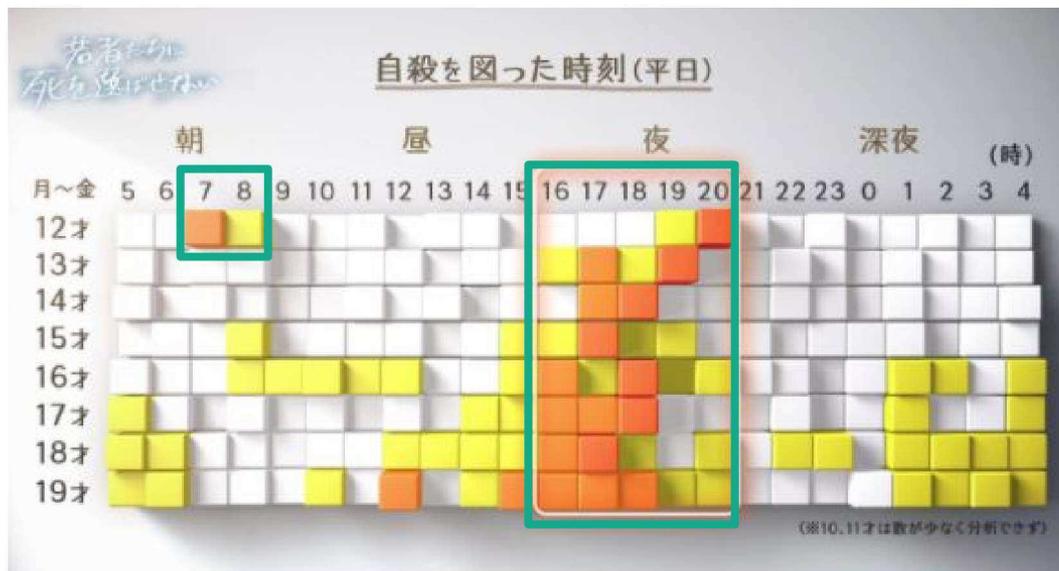
学校ムリでもここあるよ



出典 | #学校ムリでもここあるよ

自死する日本の10代「学校に行きたくない」

自殺を図った時間は、学校を離れた後、夕方から夜の下校の時間帯に集中
中学校入学前後の12歳は、朝7時から8時台の登校時間帯にも多い



自殺を図った時間は年代ごとに集中する時間帯が異なり40代以上は、早朝やお昼前後に多く、20代30代はそれに加え、夕方や深夜の時間帯にも増加。
学校を離れた後、夕方から夜の下校の時間帯に最も集中し、年齢によって登校時間帯にも多くなるのは、学校に通う世代特有の傾向。

これまで、一部の子どもだけが抱える
課題と捉えられてきた
不登校や自死。

いまやいつどの子が抱えてもおかしくない
状況にあることを前提に、
仕組みや法を再構築する必要がある。

Agenda

1. いま日本で起きていることの前提
2. 背景にある深刻な課題
3. NPOカタリバの取り組み事例
4. 国がやるべき3つのこと

不登校の児童生徒への公的支援が不十分

課題が深刻化する一方で、不登校の児童生徒に対する公的支援は不十分
居住地や家庭の経済力によって、**学びの機会に格差**がうまれている

不登校の児童生徒に対する 公的支援の仕組みが不足している

▶不登校特例校(一条校)の設置状況

指定校数 **17校**のみ

(うち公立8校/私立9校)

平成17年学校教育法施行規則の改正により全国化

▶教育支援センターの設置状況

・設置自治体は全国の**約63%**

・未設置の理由は、**予算・場所の確保**の問題が上位となっている

特に地方においては あらゆる支援が足りていない

▶人口が少なく公共交通機関が少ない地方の課題

地方では、全校児童生徒数が100名より少ない学校も多く、1校辺りの不登校児童生徒数でみると校内フリースクール等を設置し運用できる規模感ではない。一方で、自治体内に教育支援センター等を設置しても、公共交通機関が発達していないことから、子どもだけでは通うことができず、孤立しやすい。

▶民間サービスや担い手も不足

民間のフリースクール等のサービスも少ない・またはない場合もあり、不登校の児童生徒が通える場所も支援する人材も不足している。

学びの保障を家庭だけに 委ねることで格差が広がる

▶フリースクール等の会費(授業料)の

月平均額は**約3万3千円**

入会金の平均額は約5万3千円

民間が運営するフリースクールは高額。またオンライン学習等の有料サービスの利用料も家庭負担となる。公的支援が不足する中、家庭の経済状況によって、受けられる学びの機会格差が広がっている。

[出典 | 文部科学省平成27年8月5日 小・中学校に通っていない義務教育段階の子供が通う民間の団体・施設に関する調査](#)

不登校が深刻な家庭の貧困につながることも

学びの保障が自治体や家庭に依存しているいま、子どものサポートに必要な時間を確保するため、**保護者が就業困難な状況に陥るケースが増えている**
支援策が限られる地方都市では、親も子どもも八方ふさがりになっている実態もある

ひとり親家庭で起きた事例

子どものサポートのために必要な時間を捻出するため、勤務形態を変更し収入が減少。経済的困窮度が高まる。

子どものサポートで、放課後や時限途中の登校・心療内科への付き添いを実施。また相談のために、17時まで(教員やスクールカウンセラーの勤務時間内)定期的に学校に通う必要も。ひとり親家庭かつ周囲に頼れる人がいないことから、保護者は時間確保のために勤務形態をパートタイムに変更、収入が大幅に減少。

地方中山間地域で起きた事例

公的支援サービスがなく、民間サービスは利用料と送迎の保護者負担が必要。家庭の状況的に活用できる選択肢がなく、子どもは学びの機会にアクセスできなくなる。

子どもが学校に合わず不登校状態に。保護者が学校外教育の場所を探すものの、自治体が設置する教育支援センター等が居住地にはない。近隣の町にある塾やNPOが運営するサービスを利用する場合、遠方のため子どもの送迎が必要になり、利用料も高く、家庭の経済状況から活用することができない。

保護者の声

▶ひとり親で3人の兄弟を育てる保護者(富山県)

「最も困っているのは、長男(小4)と次男(小1)が不登校で**仕事に就くことができず、収入が得られない**こと。付き添わないと学校に行かないので、それぞれに送迎が必要で、へとへとになっている。」

▶ひとり親で2人の兄弟を育てる保護者(福島県)

「**子どもの生活リズムを整えるため、昼間は自宅にいてサポートしていきたい**と思っている。准看護師の仕事をしているので、夜勤に変えることが可能だが、自分の身体や生活を守るか不安で、迷っている。」

▶東北の過疎地に住む保護者

「学校からはプリントを配布されるのみ。学校は多忙だといわれており、私(保護者)からお願いをするとクレームっぽくなり関係が悪くなっている。学校には見切りをつけつつあり、学校外の学びの場も探しているが、**隣町まで車で送迎**して、大学生の家庭教師にみてもらっているが、**料金が高いので、今後の継続は迷っている。**」

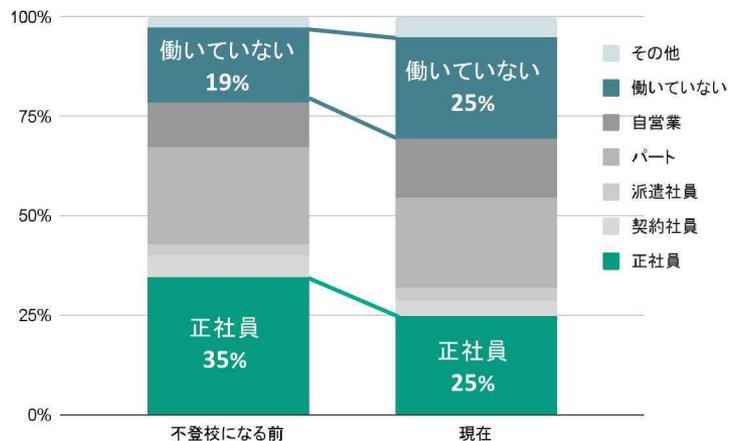
不登校が深刻な家庭の貧困につながることも

NPOカタリバが実施したアンケートによると、不登校になる前と不登校中の現在とで、

保護者のうち**32%が就労形態が変化**、**25%が年収が下降**

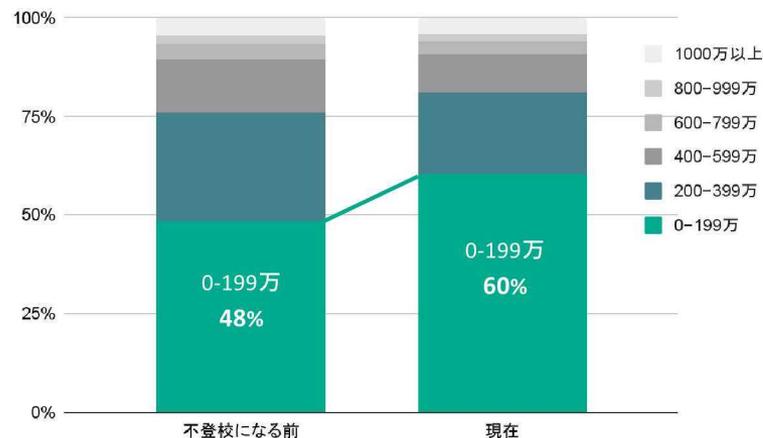
特に200万未満の収入の保護者が増え、**全体の60%を占める**

子どもの主たるケアを担っている保護者の就労形態



正社員の比率は35%から**25%に減少**
働いていない比率は19%から**25%に増加**

子どもの主たるケアを担っている保護者の年収



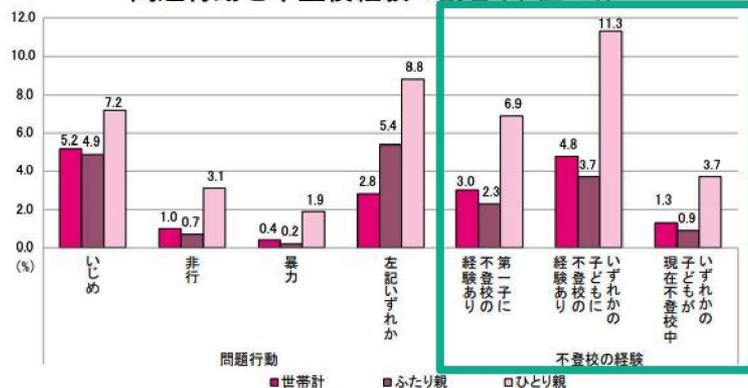
0-199万の年収の保護者の割合が
48%から**60%に増加**

ひとり親世帯ほど不登校になるリスクが高い

ひとり親世帯では、ふたり親世帯と比べて不登校に悩む世帯が**約3倍**

不登校がきっかけで貧困に陥ることがあるうえに、経済的に厳しい状況だからこそ不登校になりやすいという実態もあり、**ひとり親世帯に対する公的支援の充実**は急務となっている

図3 世帯属性(ふたり親、ひとり親)別子どもの問題行動と不登校経験の割合(単位:%)



資料出所:労働政策研究・研修機構「第4回(2016)子育て世帯全国調査」結果速報から引用、作図。

(注)「問題行動」のn数は、「世帯計」(n=2092)、「ふたり親」(n=1344)、「ひとり親」(n=748)、「不登校経験」のn数は、「世帯計」(n=1596)、「ふたり親」(n=960)、「ひとり親」(n=636)です。

子どもが不登校経験あり、
または現在不登校という割合

ふたり親世帯 **6.9%**

ひとり親世帯 **21.9%**

約3倍不登校経験世帯が多い

※2017年6月の厚生労働省の発表によると「児童のいる世帯」の総所得が**707.8万円**であるのに対し、「母子世帯」は**270.3万円**という明確な経済格差がある

不安を抱える保護者の声

シングルで、家に不登校の子どもが2人いる(中3, 小6)。パートでどうにか生計を立てており、仕事をやめるわけにいかないのに、日中は子供だけで留守番。「ネグレクトにあたる」らしいのですがどうにもならない。何かあった時に誰も助けてくれない。教材費用、日中の食事等で、これまでに100万以上かかっている。学校が子どものために何かしてくれるという事もほぼない。(埼玉県杉戸町・2児の母親・シングルマザー)

高校生と小2の2人の子どもがいますが、どちらも昨年不登校になりました。ひとり親でパートをやりくりして年収300万以上稼いでいましたが、仕事を辞めざるを得ませんでした。家庭内が落ち着かず、次の仕事を探す目処もたちません。上の子は発達障害で通院、投薬治療費が必要で、お金は出ていきます。通信制高校への転入を考えていますが、費用がなくサポートしてあげられません。(奈良県桜井市・2児の母親・シングルマザー)

シングルで中3の子とも暮らしている。奨学金を得て家を出た上の子も不登校だった。2人のサポートなどで朝の出勤がままならず、正社員からパートに変更を促された。在宅ワークをしながら頑張ったが、生活保護受給に。上の子の奨学金返済も不安。山奥に住んでいて、フリースクールはすべて遠い。送迎時間もガソリン代ももったいないので近くのファミレスで待っていた。在宅ワークはコロナの打撃で会社都合解雇、今は別の会社の在宅ワークだが常に不安。生活保護から早く抜きたいが叶わずフラストレーションを抱えている。(熊本県山都町・2児の母・シングルマザー)

高校生・中学生・小学生の3人の子どもがおり、全員不登校です。仕事は半分しか行けなくなりました。正社員で年収400万円台でしたが、今は半分以下です。子供は家から出ることができないため、民間の不登校支援に頼るしかなく月10万越える出費になっています。いつまで続けられるか不安でいっぱいです。(岡山県総社市・3児の母親)

中3、小1の子どもの面倒を私が1人で見ています。2人とも不登校です。精神的に不安定で、子どもの年齢も低くて1人で家に置いておけず、また登校期には予定が立てられず、パートの仕事を辞めざるを得ませんでした。学校外の選択肢を増やすためにはお金が必要だが助成などもなく、全額負担するしかない。100万以上はかかりました。(福岡県行橋市・2児の母親)

家事育児に自分都合でしか関わらなかつた夫から「こどもが不登校になったのはお前のせい」という発言があり、それをきっかけに離婚しました。今はシングルで3人の子どもを育てていますが、うち2人が不登校です。学校や親戚等からは、「将来困るよ」という声かけがほとんどで、学校以外の選択肢や本人の学びに対してどう機会を作るかの話をしたくても難しいと感じています。(広島県広島市・3児の母親・シングルマザー)

Agenda

1. いま日本で起きていることの前提
2. 背景にある深刻な課題
3. NPOカタリバの取り組み事例
4. 国がやるべき3つのこと

オンライン教育支援センター(未来の教室実証事業)

インターネット上に不登校の子どもたちと保護者の居場所をつくりサポート

子どもの在籍校・地域支援者(NPO等)・行政等とも連携することで、**リアルの関わりとオンラインを組み合わせた支援体制を構築**し、重複した課題の中で生きる子どもの学びと家族の孤立を支援する取り組み

子どもへの支援



1. 安心安全な学び場と学習ツールの提供

全国どこからでも参加できインターネット上の学び場を運営。

2. 個別支援計画の作成

面談等をもとに、子どもたちの状況に一人一人の個別支援計画・学習計画(時間割)を作成。

3. 定期オンライン面談の実施

個別支援計画に基づき、専門スタッフが子どもとの定期的なオンライン面談を1on1で実施。

家庭への支援



1. 保護者向けオンライン相談・面談窓口

不登校で悩む保護者を対象に、30分のオンライン面談やLINEのチャットで相談を受付。

2. オンライン保護者会

毎月2回実施。様々な悩みを抱える保護者同士で集まり、ゆるやかにおしゃべりをしながら次のヒントを見つけたり、心が軽くなる場をつくる。

関係機関／専門家との連携



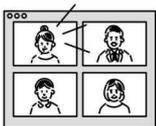
- ・子どもの在籍校、地域の支援者(NPO等)、行政などとの連携
- ・臨床心理士や社会福祉士や弁護士などの専門家との連携

オンライン教育支援センター(未来の教室実証事業)

子どもへの支援3つの特徴

不登校期間が長く、心を閉ざしている子どもたちも多いことから、個別支援計画を作成のうえ丁寧な伴走を実施
利用を続けることで、生活習慣の改善・心の成長・意欲の向上・学習の定着といった、ステップアップができるよう支援

安心安全な学び場と 学習ツールを提供



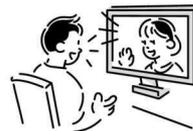
家庭からも、学校の別室・教育支援センター等からも接続できる**安心安全なオンラインの学び場**を運営。教科学習の支援、社会情動的スキルを育むプログラム、興味関心でつながるクラブ活動などを通して、**子どもたちに合った学習機会**や他者と共に過ごす機会をつくる。

専門スタッフが 個別支援計画等を作成



保護者や教員からのヒアリング、子どもとの面談を経て、**一人一人の個別支援計画・学習計画(時間割)**を作成。心理士や元教員等の専門スタッフが、保護者や教員と情報共有をしながら、**子どもの心の回復**や学習習慣づくり等を目的とした支援をリード。

専門研修を受けた スタッフが子どもに伴走

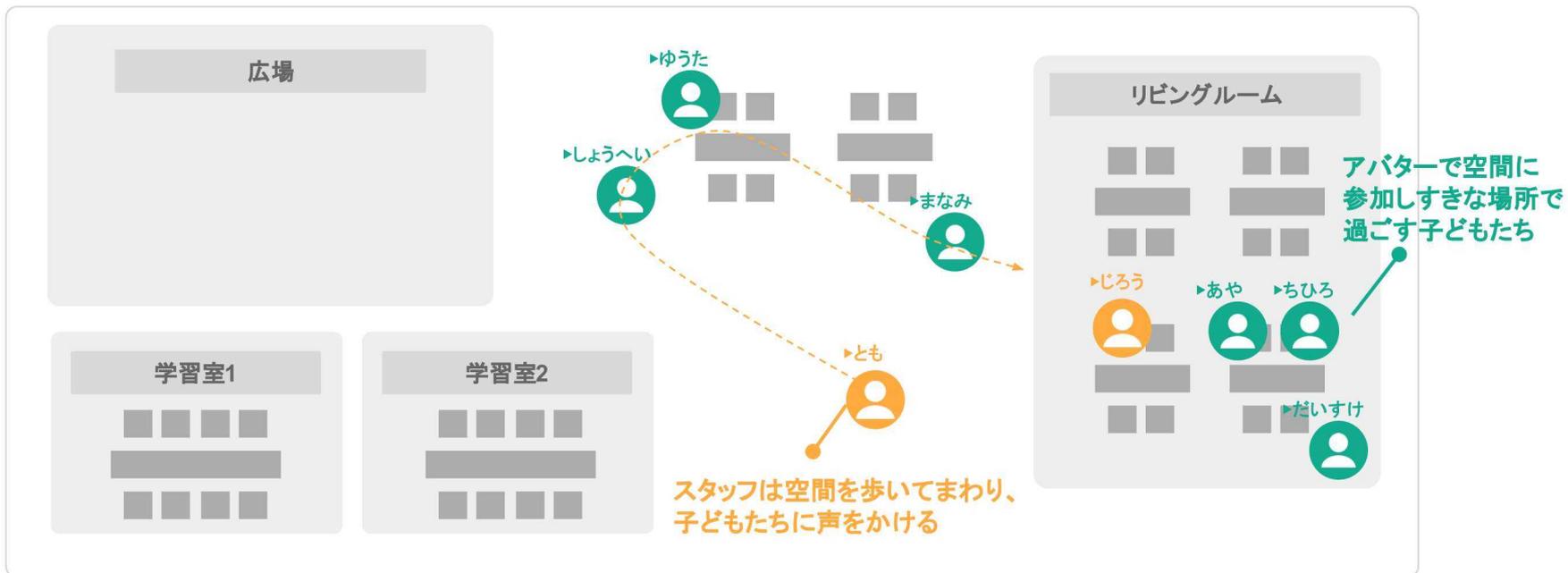


全国から募集・選抜を行い、専門研修を受けたスタッフが、**個別支援計画に基づき、子どもと定期的に1on1のオンライン面談**を実施。状況に応じた適切なサポートや、**学びの機会に誘い出すコミュニケーション**を行い意欲を育む。

オンライン教育支援センター(未来の教室実証事業)

メタースペースの学び場・居場所のイメージ図

バーチャル空間に、子どもたちとスタッフがアバターですごす

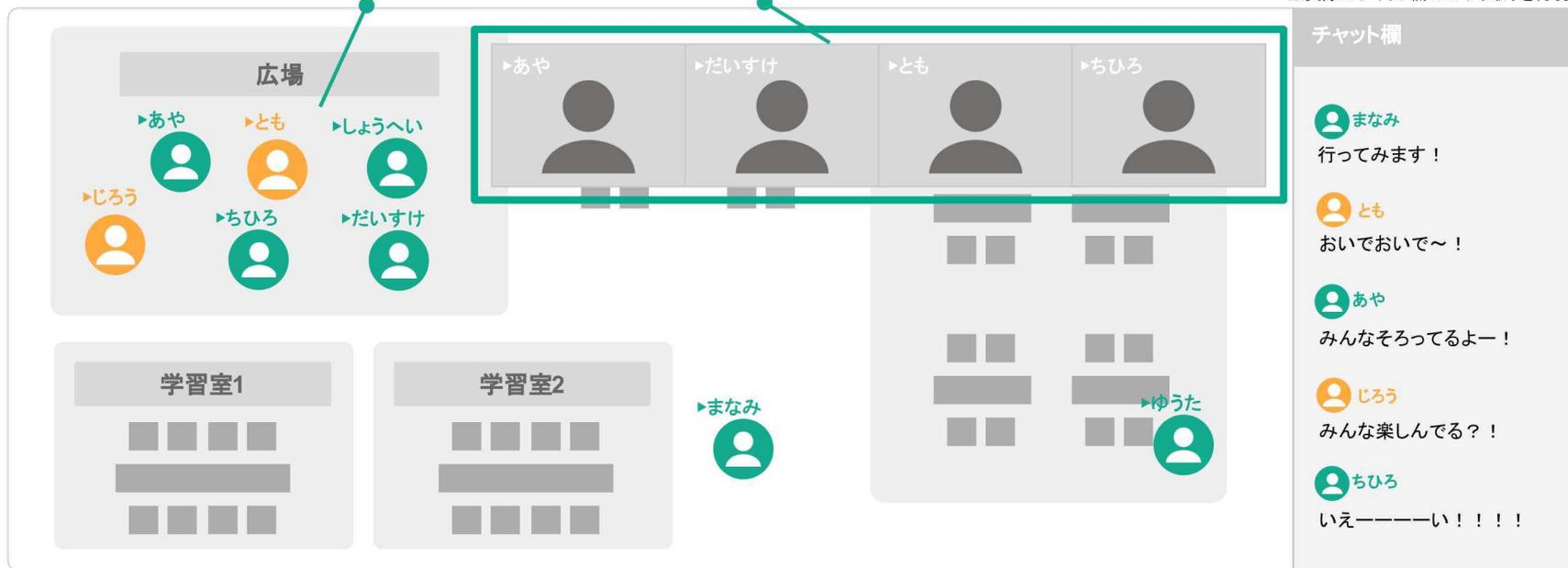


オンライン教育支援センター(未来の教室実証事業)

メタースペース空間の学び場・居場所のイメージ図

ときには集合し、カメラをONにして顔を合わせながら、チャットも使って交流する

集合しカメラをONにしてプログラムを実施



オンライン教育支援センター(未来の教室実証事業)

午前中はオンライン不登校支援サービスを活用し、
午後から学校へ登校する利用者も多い

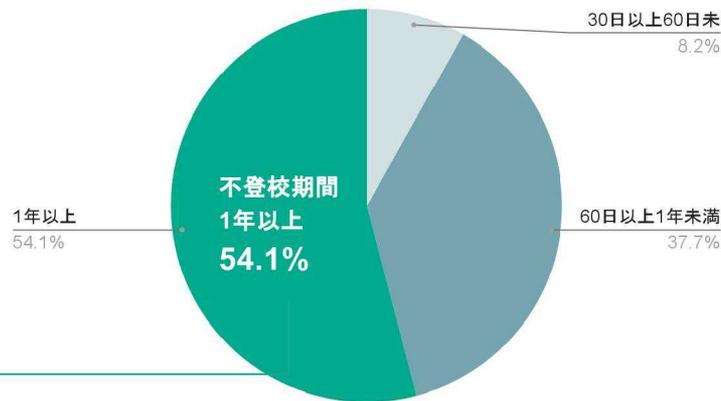
例>利用者(小学校4年生)のある週の実際の時間割

	月	火	水	木	金	
9:00-9:25	朝の会 (サークルタイム)	朝の会 (サークルタイム)	朝の会 (サークルタイム)	朝の会 (サークルタイム)	朝の会 (サークルタイム)	カタ リ バ 利 用
9:30-10:20	国語 (カンジラボ)	算数 (math channel)	ホームルーム	国語 (読み書きのツボ)	SST (ここからだ)	
10:30-11:20	自習タイム (セルフデザイン)	自習タイム (セルフデザイン)	プログラミング	定期面談	自習タイム (セルフデザイン)	
11:20-13:00	お昼休み					
13:00-13:50	午後は学校へ登校					学 校
14:00-14:30						

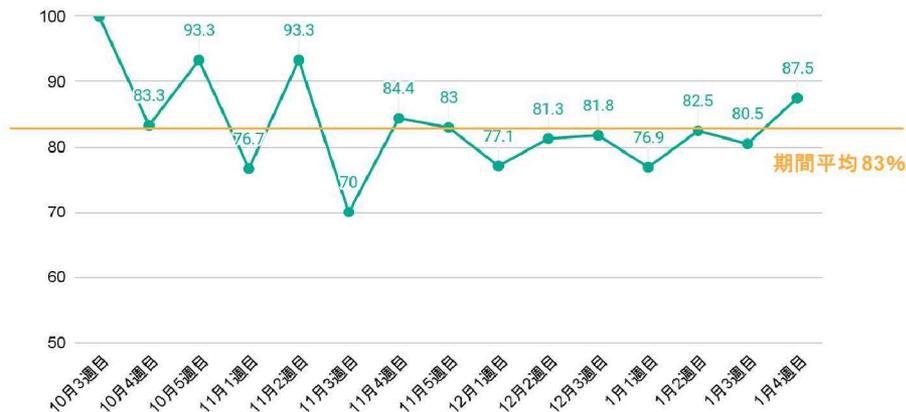
オンライン教育支援センター(未来の教室実証事業)

ユーザーのうち、**54.1%**が**1年以上不登校**状態でサービスの利用を開始するが、**オンライン支援で、週1回以上学びの場に参加している児童生徒が平均83%**

利用開始時点の不登校期間



週1回以上学習を継続している子どもの割合



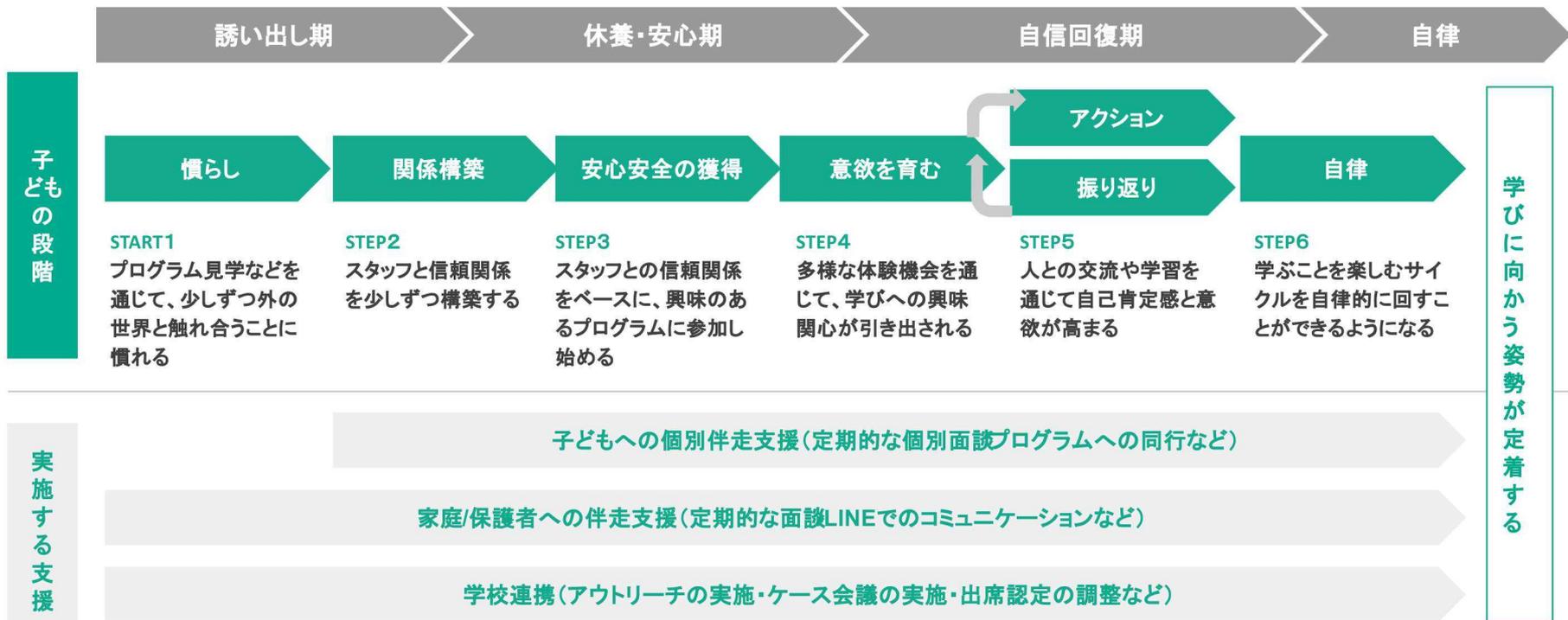
● 1年以上不登校の内訳 1年以上: 13名 3年以上: 13名 4年以上: 2名 5年以上: 3名 6年以上: 1名 7年以上: 1名

小学4年生／小学1年生から行き渋りが始まる。ADHD傾向がみられるなどの発達特性を抱えているものの、学校での合理的配慮の調整がうまくいかず、学校生活が送りにくくなり不登校に。本人は好奇心旺盛で「友達がほしい」という気持ちがあり利用開始。

中学2年生／小学3年生から不登校になり、積極的に外出はせず基本的に在宅。人間関係のトラブルにより集団生活・コミュニケーションが難しくなり不登校に。学校やSSWの訪問、行政の支援等もほぼ受け付けられない状況で利用開始。

オンライン教育支援センター(未来の教室実証事業)

段階に応じた支援を行うことで、子どもの意欲を引き出し成長に伴走している



子どもの段階

学びに向かう姿勢が定着する

実施する支援

支援事例1 | 虐待の兆候を発見し、地域の支援と協働して伴走

家族構成:
祖母(70代/認知症傾向)
母(週3パート)
本人(小4女子)

居住地:
関東圏

状況:

- ・不登校状態の子どもの学業不振に対して心配があり、学習支援を希望
- ・小学校の教員や他の保護者とのトラブルも多く、行政・学校の介入を完全に遮断している状態
- * 学校、SSW等が自宅訪問するも全面拒否

支援プログラムに申込み

子どもへの伴走支援(オンラインでの学習支援・学習計画作成・定期的な面談)

子ども



不登校状態の子どもにカタリバから、パソコン・Wi-Fiを貸与し、オンラインで学習支援を開始

初めは人との関わり方が分からない様子だったが、継続参加することで、コミュニケーション能力が向上

オンライン面談中に虐待の兆候を発見

* 面談中、母親が物を投げた音や、本人の「痛い」という声が聞こえる

保護者への介入強化

学習に集中できるようになり、やりたいことなどの希望も話すように変化

保護者への伴走支援(オンラインでの定期的な面談・保護者が抱えるさまざまな課題解決の具体的なサポート)

母親



母親の父の借金等からくる今後への不安、自身が受けた虐待やいじめのトラウマ、支払いが滞り撤退を求められる住居問題など、保護者自身に課題が山積、精神状態が不安定

亡くなった祖母の借金の問題が新たに発覚、40年住んでいた家が強制売却となり、新居や引っ越し代などの課題が増える

カタリバの支援スタッフが行政の各種窓口にて代理相談、公営住宅を一緒に探し、申込み対応も支援するなど、さまざまなサポートを実施

保護者の抱える課題の解決をサポート

新居が見つかり、就労も続けられるようになり生活が安定、精神的にも安定する

連携支援

学校に連携支援を申し出るも、個人情報保護の関係で連携を断られる
虐待の兆候があったことから児相に相談、児相預かりとなったが介入のレベルではないと判断され、カタリバで支援を継続
地域の困窮世帯の住宅支援を行う NPOと、社会福祉公法人にコンタクトを取り連携、オンラインで対応についての相談会を重ねる
引っ越しの際は、連携先の地域 NPOが住宅オーナーとの交渉に同席してくれ、退去のタイミングを延長することができた

支援事例2 | 子どもの意欲・学力・生活習慣を回復

家族構成:

母(中国人/アルバイト勤務)
姉(専門学校生)
本人(中3男子)

居住地:

中部地方

状況:

- ・主たる家計の柱だった父親(日本人)が5年前に死別
- ・祖父母(夫の両親)から、中国で育った母や子どもたちが受け入れられず、家族がばらばらに
- ・母親には障害があり、日本語にもハンディがある給食センターで働くも月給は12万で塾に行かせる余裕はない状態

支援プログラムに申込み

子どもへの伴走支援(オンラインでの学習支援・学習計画作成・定期的な面談)

支援前の 子どもの状況



- ・小学生の時に、家族の国籍に関して学校でいじめが始まる
- ・ストレスで親に暴力を振るうこともあり精神科を受診、「複雑性トラウマによる適応障害」から不登校と診断
- ・家庭では中国語で話すため、国語力が著しく乏しい
- ・不登校で自尊心が下がり、自分は偏差値 40台の高校しか行けないと思い込み、何にも意欲がない状態

子ども



不登校状態の子どもにカタリバから、パソコン・Wi-Fiを貸与し、オンラインで学習支援を開始

中3のため、受験勉強や自己申告書作成の支援、カタリバが運営するオンライン学習の場でさまざまな他者と関わり、社会的情動スキル(非認知能力)を獲得

オンライン学習の場で提供するプログラミング学習プログラムに熱中、エンジニアになりたいという将来の夢を語るようになる

支援開始時点よりも学力がのび、当初よりも偏差値が20ほど高い地域最難関の学校を志望するように

保護者への伴走支援(オンラインでの定期的な面談・保護者が抱えるさまざまな課題解決の具体的なサポート)

母親



- ・日本の中で感じる生きづらさや、子育ての不安について、定期的にカウンセリングを実施
- ・オンラインでの子どもの様子などを共有しながら、子どもとけんかした際は相談に乗るなど、ガス抜き役も担う
- ・食事や生活習慣のアドバイス も行い、子育てをサポート

オンライン支援の担い手は全国から集まる

NPOカタリバが行うオンライン支援事業では、子どもたちや家族を支えたいという人材が日本中(一部海外)から集結し実務を担当しており、採用倍率も非常に高い

| NPOカタリバ オンライン不登校支援プログラム スタッフの属性と倍率

子ども支援担当スタッフ: 44名

活動形態: ボランティアとして週10時間程度活動

担い手 : 大学生～社会人若手層

理系文系現役大学生 / 大学院生、塾講師、放課後児童支援員、作業療法士、海外駐在者、学校教員、県庁職員など

応募者881名
採用倍率20倍

保護者支援担当スタッフ: 45名

活動形態: 月に35時間在宅ワーク

担い手 : 子育て経験のある40～50代の方

社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、キャリアコンサルタント、不登校・発達障害・病児の子育て経験ありの先輩など

応募者300名
採用倍率6.6倍

個別支援計画担当スタッフ: 10名

活動形態: 月に35時間～ の在宅ワーク

担い手 : 元教員や専門職

元学校教員、臨床心理士、公認心理師、スクールカウンセラーなど

応募者800名
採用倍率80倍

オンライン支援人材の居住地

| 北海道・東北

北海道3名
青森1名
宮城1名
福島3名

| 中部・北陸

長野1名
静岡4名
愛知2名
岐阜1名
石川1名

| 中四国

岡山1名
鳥取1名
広島3名
香川2名
徳島1名
高知1名
愛媛1名

| 海外

スイス1名
マレーシア1名
タイ1名
オーストラリア1名
ケニア1名

| 関東

群馬1名
茨城2名
埼玉5名
千葉3名
東京29名
神奈川11名

| 関西

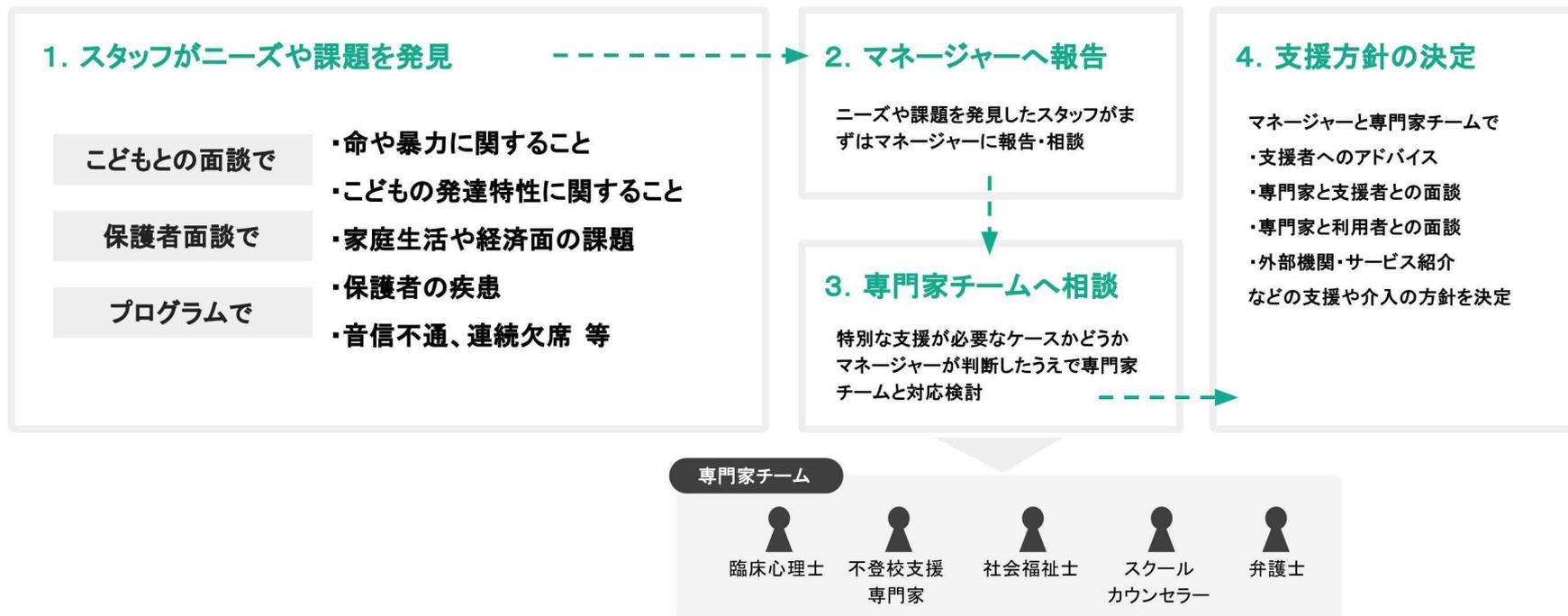
滋賀1名
京都1名
奈良2名
大阪8名
兵庫6名
和歌山1名

| 九州・沖縄

福岡7名
佐賀1名
熊本1名
長崎1名
鹿児島4名
沖縄2名

専門家と連携し特別な支援が必要なケースにも対応

特別な支援が必要なケース(福祉・心理・医療介入ニーズが感じられる場合)は、
専門家と連携して支援方針を検討、必要に応じて専門家が直接介入する仕組みを設置



支援を通してみえた可能性と解決すべきこと

支援を通してみえた可能性

- ・オンラインの支援でも子どもたちの意欲を引き出すことができる
- ・オンラインだからこそ、支援とつながることができる親子が実は多い
(オンラインで支援とつながってから、リアルな関わりがもてる学校や地域と連携することでさらに支援の質は高まる)
- ・保護者の支援(心のケアなど)を丁寧に行うことで、保護者の子どもに対する声のかけ方が変わり、子どもが安定して学ぶことができる環境が整い学習習慣が身につく
- ・オンライン在宅勤務であれば、支援者になれる意欲と能力のある人材が多数いる
支援の担い手を急拡大できる可能性がある
(常勤勤務は難しいケースが多いが、シフトを組むことで解決できる)
- ・高度な知識や経験を持つ専門家と密に連携することで、多様な人材を担い手としながら、支援の質を担保することができる

解決すべきこと

民間団体の信頼性が担保される仕組みがなく、緊急度が高い案件であっても、学校や行政と情報の交換ができないことがある(個人情報保護条例などが課題に)

Agenda

1. いま日本で起きていることの前提
2. 背景にある深刻な課題
3. NPOカタリバの取り組み事例
4. 国がやるべき3つのこと

国がやるべき3つのこと

様々な課題を抱える児童生徒への早期支援と
不登校の児童生徒への手厚い支援が急務ないま、国がやるべき3つのこと

1

国策として学びのオンライン支援サービスを設置し、
すべての子どもの学習を保障すること

2

リアルとオンラインを組み合わせ、子どもや家庭の課題を解決する
“実行力ある支援体制”を構築すること

3

保護者の「就学義務」から、社会総がかりでの
「学習権保障」へ、学校教育法を改正すること

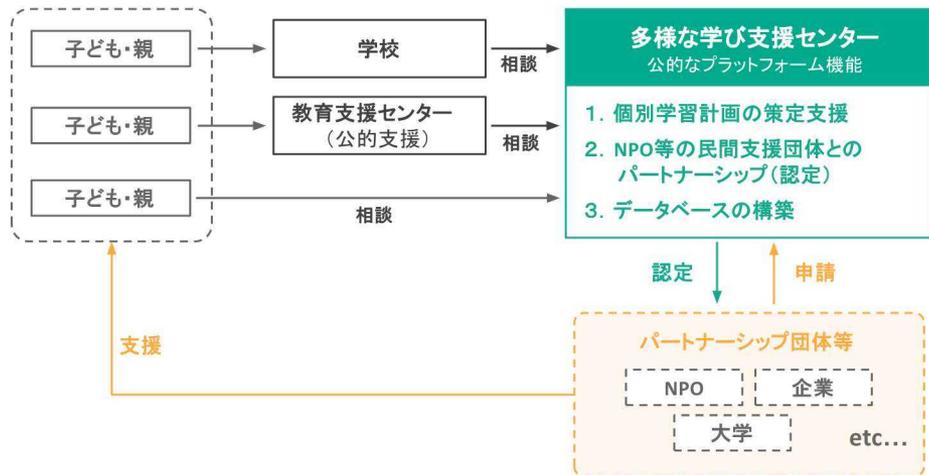
1. 国によるオンライン支援センターの設置

国がオンライン中心の「多様な学び支援センター(仮称)」を設置

国が主導で子どもと家庭の支援センターを設置することで、公的な支援プラットフォームを構築する

全国の学校・教育支援センター・個人からの相談を常時受け付け、認定した NPO等と連携して個別学習計画の作成サポートを実施
必要な支援とのマッチングも行うことで、「相談先がない・学ぶ場所がない」という子どもをうみださない

| 公的な支援プラットフォーム「多様な学び支援センター(仮称)」の設置イメージ



● 支援センターが実施すべきこと

1. 個別学習計画の策定支援の実施

子どもの状況に応じた個別学習計画の作成をサポート

2. NPO等の団体とのパートナーシップ推進

個別学習計画や状況に応じて必要な支援ができるよう、認定したNPO等の団体や企業や大学と連携

3. データベースの構築

学習の様子など学校や保護者に連携する情報等のデータベースを作成

2. 課題解決の実行力をもった支援体制の構築

オンラインを活用し専門職が24時間以内に対応できる体制と、一定の基準を満たした准専門職を全国に配置する新制度を設置、支援の質を伴った量の拡大を実現する

児童生徒及び保護者や教員を支える専門職・准専門職がチームを組み、オンラインとリアルで連携・役割分担する支援スキームを構築する

実施すべきこと

1. 規制不存在確認・財源の増額

専門職に対し文科省が「オンライン勤務も可能」と確認通達をだす
また総人件費を増やし、延べ時間数を増やすことは必須

3. オンラインや電話等の活用による実質的な常勤化

日本中どこにいても、求めがあったら24時間以内に対応できるようにする

4. 研修受講により、准専門職の支援員になる制度を設置

一定時間以上の研修(オンライン含む)受講によって支援員になれる制度の新設

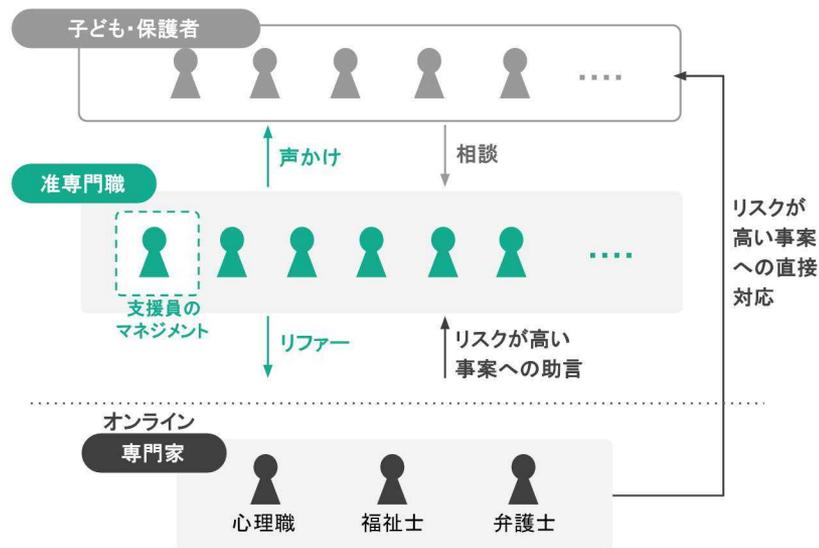
5. 大学等による公的な研修受講証明書の発行

大学や教職員支援機構等が、公的な研修受講証明書を発行する

6. 状況に応じて適切な人材が対応できるマッチングシステムを整備

医療・福祉・心理の視点で専門的な支援が必要なケースは、
直ちに専門職との連携をはかることができる仕組みを構築

7. 教育振興基本計画への位置づけ



3. 学習権保障へ学校教育法を改正

学校教育法(昭和22年法律第26号)を、就学義務ではなく学習権を保障するものに改正

現行法 ※問題点は緑で表示

第16条 保護者(子に対して親権を行う者(親権を行う者のないときは、未成年後見人)をいう。以下同じ。)は、次条に定めるところにより、子に九年**普通教育を受けさせる義務**を負う。教育委員会は、文部科学大臣の定めるところにより、同条第項又は第2項の義務を猶予又は免除することができる。

第17条 保護者は、子の満六歳に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから、満十二歳に達した日の属する学年の終わりまで、これを**学校、義務教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部に就学させる義務**を負う。

2 保護者は、子が小学校の課程、義務教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部の課程を修了した日の翌日以後における最初の学年の初めから、満十五歳に達した日の属する学年の終わりまで、これを**中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の中学部に就学させる義務**を負う。・・(以下略)

第18条 前条第1項又は第2項の規定によつて、保護者が就学させなければならない子(以下それぞれ「学齡児童」又は「学齡生徒」という。)で**病弱、発育不完全その他やむを得ない事由のため、就学困難と認められる者**の保護者に対しては、市町村の教育委員会は、文部科学大臣の定めるところにより、同条第項又は第2項の義務を猶予又は免除することができる。

変更案(例) ※変更案はオレンジで表示

教育の場所を学校に限定することがないよう、
「普通教育」の解釈を多様化する(条文の変更はなし)

▶小中学校への就学・登校限定を緩和するよう条文を改正

第17条 保護者は、子の満六歳に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから、満十二歳に達した日の属する学年の終わりまで、これを小学校、義務教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部**就学又はその他政令で定める普通教育(市町村または都道府県教育委員会が認めたもの)を受けさせる義務**を負う。

2 保護者は、子が小学校の課程、義務教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部の課程を修了した日の翌日以後における最初の学年の初めから、満十五歳に達した日の属する学年の終わりまで、これを中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の中学部**就学又はその他政令で定める普通教育(市町村または都道府県教育委員会が認めたもの)を受けさせる義務**を負う。・・(以下略)

▶免除猶予の条件に「重度の不登校」を追加

第18条 前条第1項又は第2項の規定によつて、保護者が就学させなければならない子(以下それぞれ「学齡児童」又は「学齡生徒」という。)で、病弱、発育不完全**重度の不登校**その他やむを得ない事由のため、就学困難と認められる者の保護者に対しては、市町村の教育委員会は、文部科学大臣の定めるところにより、同条第項又は第2項の義務を猶予又は免除することができる。

* 学習権の保障のためには、改正と合わせて、不登校の児童生徒の「個別学習支援計画」の作成の義務化等と、行政による「個別学習支援計画」等の認定が必要。

社会全体で抜本的な改革を進め、
誰一人、子どもに自死を
選ばせない社会をつくる

公正で個人の尊厳を重んじる 教育機会保障・公教育システ ムの構想

—不登校児童生徒への多様な支援アプ
ローチのあり方を中心に

末富 芳（日本大学文理学部教授）

※本資料は第127回文部科学省中央教育審議会
教育課程部会(2022年1月24日)での報告資料
をもとに加筆・修正して作成しております

2021年8月6日教育イノベーション小委員会

多様な教育機会を 「新しい学校」とするためのオプション

- ・ オンライン学習支援（不登校児童生徒への支援であれば、
在籍校の校長認定や不登校特例校・教育課程特例校等のス
キームで実現可能）
- ・ フリースクール・オルタナティブスクール助成（現行の自
治体による助成は違憲性が否定できない・・・）
- ・ ホームスクーリング等

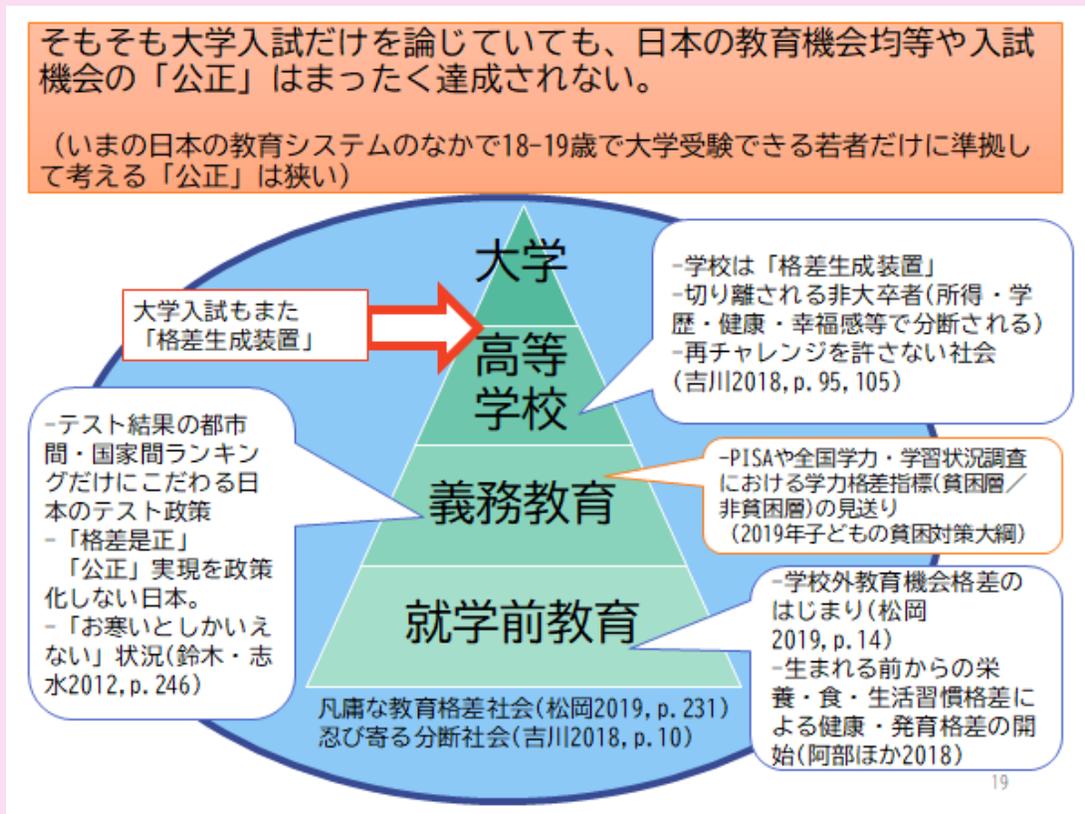
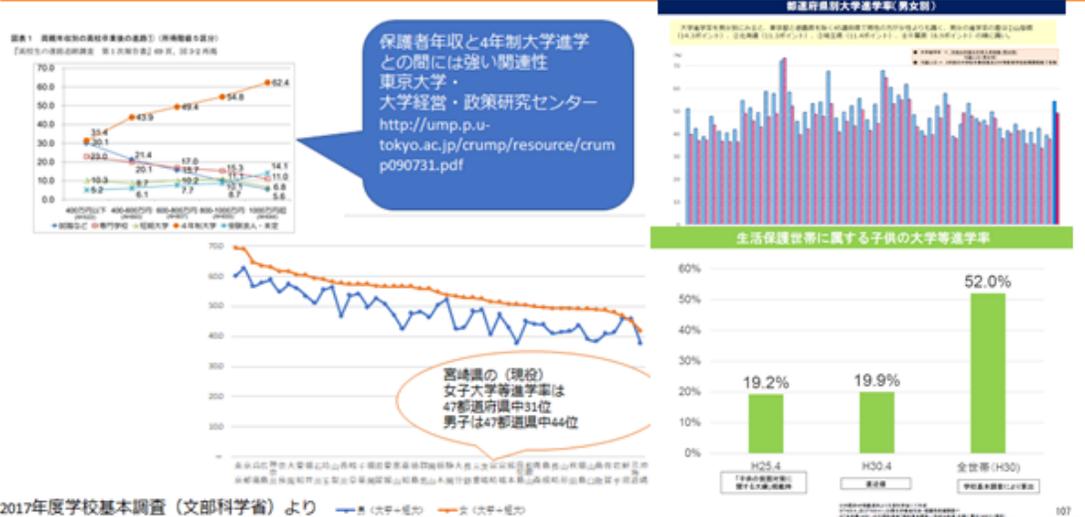
たとえば以下のような点でソリューションを考える必要がある

- ▶ 校長の学習認定基準の明確化
- ▶ 「公の支配」をどのように規定するか？
（非学校法人運営スクール、ホームスクーリングに対し）
- ▶ 公費助成のルールづくり、積極支援×管理型か？積極支援×育成型か？
（日本は現在、消極支援×放任型・永田佳行, 2005, 「オルタナティブスクール
と教育行財政に関する国際比較」日本比較教育学会『比較教育学研究』第
31号, pp. 156-176）

報告の前提1:公正（実質的公平性）の実現は日本の公教育システムにおいても正面から取り組むべき課題(末富2021・末富2022参照)

→就学前～高等教育までの政策規範・資源の増大・資源配分ルールの変更が必須かつ急務

「柱3 経済的な状況や居住地域、障害の有無等にかかわらず、安心して試験を受けられる配慮（機会均等・公正性）」
 →日本における機会均等問題を考える際に、**貧困(経済格差)、都市地方格差、性別格差**をどのように改善していくかは、正面から向き合わなければならない課題
 →共通テストだけでなく、すべての大学の多様な入試において「公正」をどのように実現していくのか？
 原理・原則の再構築とともにエビデンスにもとづくPolicy and Practiceが必要 **柱3**



第5回大学入試のあり方に関する検討会議・末富提出資料

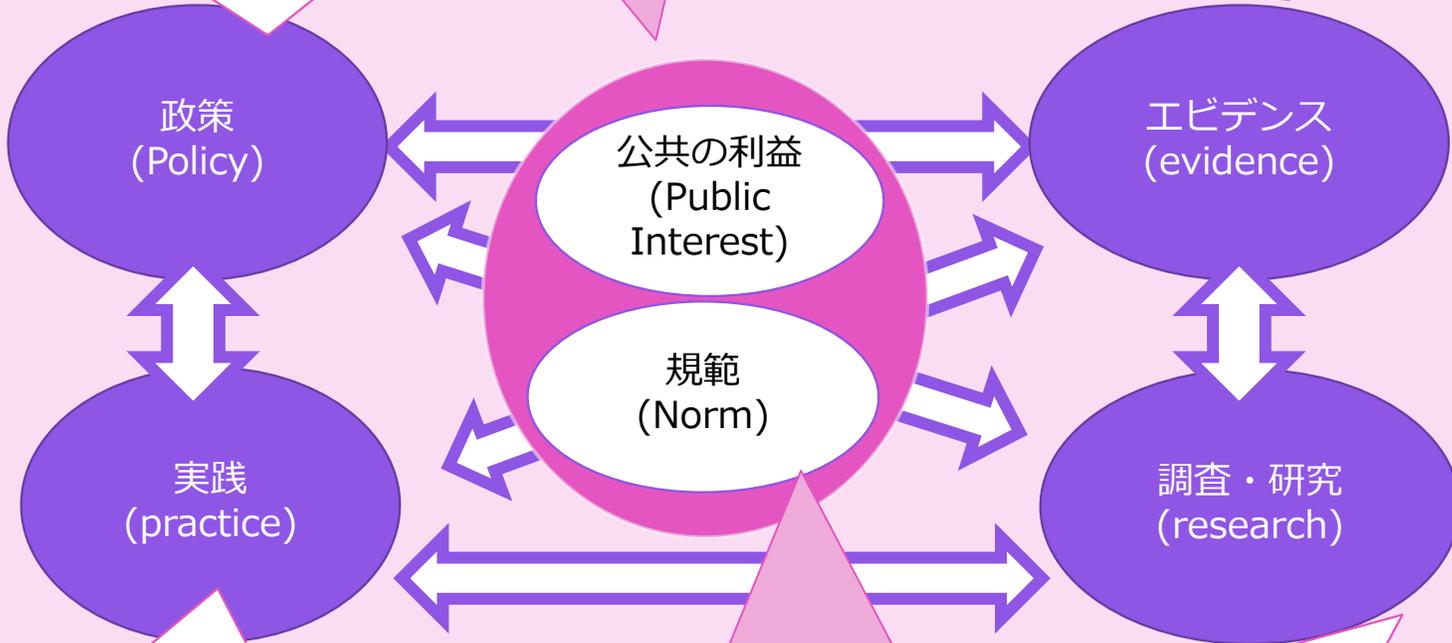
机上配布資料1：末富芳,2021,「教育における公正はいかにして実現可能か?」『日本教育経営学会紀要』第63号

机上配布資料2：末富芳,2022,「大学入試の迷走から何を学ぶか」『中央公論』2022年2月号

エビデンスを活用し、コストベネフィット、実現可能性を重視した政策立案
教員や子ども・学習者の政策立案参加による政策ニーズ把握

子ども・学習者のウェルビーイングの実現・改善

テストスコアだけでなくそれ以外の適切な測定指標の設定
児童生徒単位での格差や改善度の検証
社会集団間での格差や改善度の検証



適切な資源配分
教授－学習活動の開発
教育経営・学校マネジメントモデルの開発
生活・教育・参画にわたる多様なアクターの協働にもとづく実践

教育における公正の実現

教員・研究者も参画したリサーチモデル開発
パネルデータにもとづく教育機会・教育達成・ウェルビーイングの改善条件の検証
有効な施策の把握と検証

報告の前提2：教育データ利活用は公正な公教育システムのために不可欠であるが、その前提は個人の権利・尊厳、デジタルシティズンシップの実現である

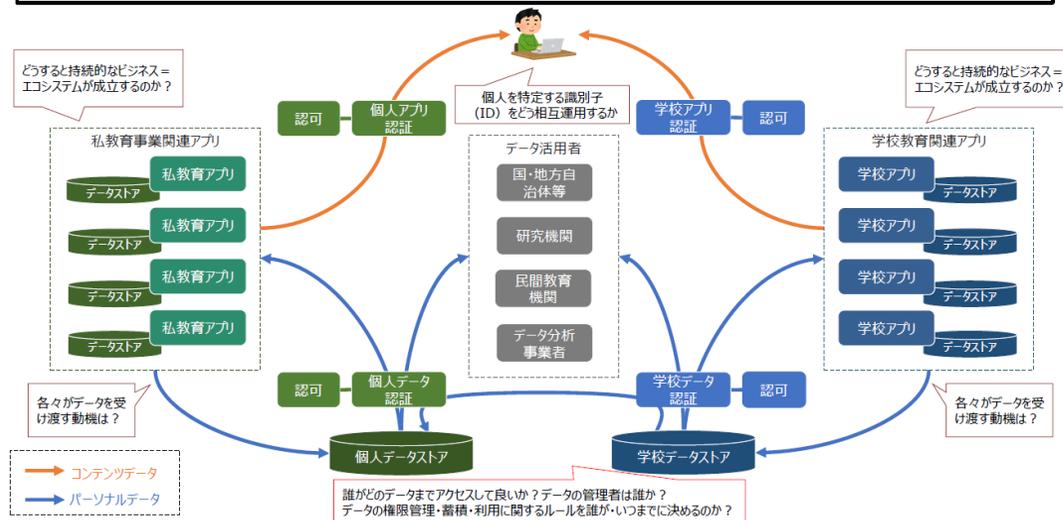
教育データ利活用ロードマップ

令和4（2022）年1月7日

デジタル庁
総務省
文部科学省
経済産業省

8. 教育データ利活用のルール・ポリシー（認証・認可の全体像のイメージ）

- データの流通に当たっては、学校・個人レベルでの、①アプリケーションレベル、②データレベルの双方での認証・認可が必要であり、関係省庁において関係者の意見も聴きながら、検討を深める。



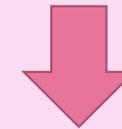
個人の権利・尊厳の実現

←国民・自治体・企業等でのルール共有

（個人情報保護や削除の権利

個人情報にアクセスした第三者の開示、不正利用の場合の情報開示等）

※EU 一般データ保護規則（General Data Protection Regulation : GDPR）等の重要な参照事例



デジタル・シティズンシップの実現

公正で個人の尊厳を重んじる教育課程と教育機会保障 →コロナ禍の中で、特に急がれるのは不登校児童生徒への対応である

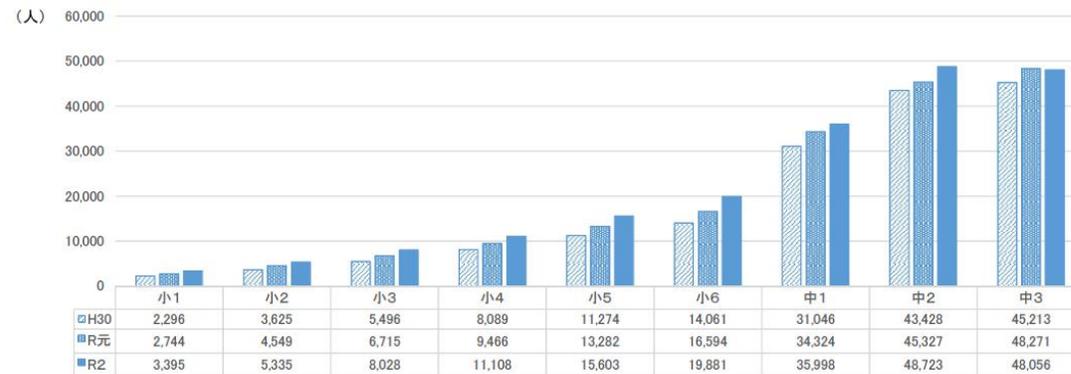
小・中学校における不登校の状況について

90日以上欠席した者は、不登校児童生徒数の54.9%を占め、依然として長期に及ぶ不登校児童生徒が多い。

区分	欠席日数30～89日の者		欠席日数90日以上で出席日数11日以上の方		欠席日数90日以上で出席日数1～10日の者		欠席日数90日以上で出席日数0日の者		不登校児童生徒数
小学校	35,614	56.2%	22,096	34.9%	3,545	5.6%	2,095	3.3%	63,350
中学校	52,742	39.7%	60,107	45.3%	13,762	10.4%	6,166	4.6%	132,777
合計	88,356	45.1%	82,203	41.9%	17,307	8.8%	8,261	4.2%	196,127

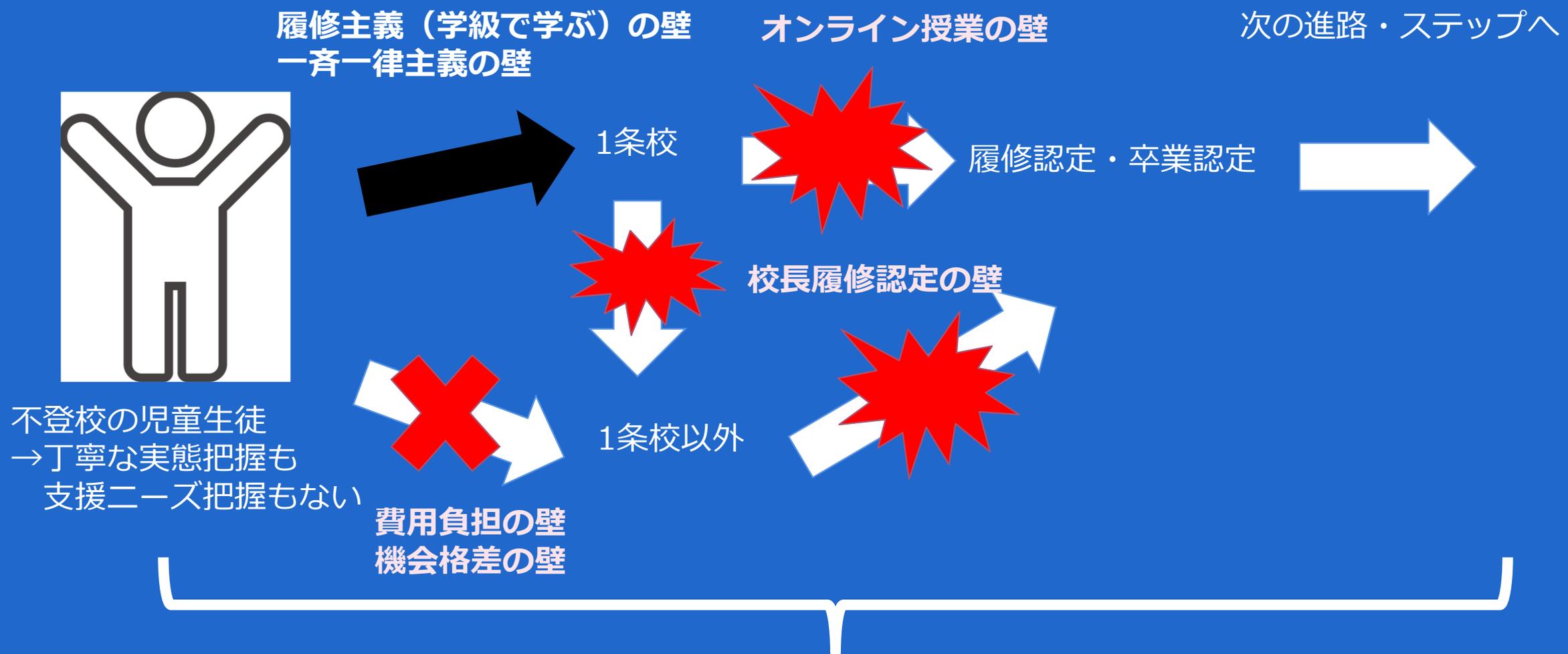
※ パーセンテージは、各区分における不登校児童生徒数に対する割合。

学年別不登校児童生徒数



16

不登校の児童生徒を取り巻く「壁」だらけの現状



不登校の児童生徒
→丁寧な実態把握も
支援ニーズ把握もない

子ども若者の尊厳・人権やウェルビーイングの軽視（1条校だけでなく1条校以外も）
1条校でも圧倒的に不足する人的・財的条件（個別最適な学びへの壁）
非1条校も含めた「多様な学びの保障」の全体設計がなく家計補助制度もない

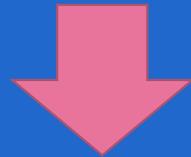
対応策1：

- **MEXCBT等を活用した不登校児童生徒の定期的な見守りシステム**（状況把握・ニーズ把握等）を教育委員会が実施し、対応できるような**共通尺度**を文科省が主導しながらの開発等が急がれる。
- あわせて、**発達特性や学習者特性の簡易アセスメント**を不登校児童生徒・保護者が気軽に受けられ、自治体・医療機関の相談や診断につながるような**デジタル化・オンライン化されたシステムの開発**も重要。

現状2：「多様な学びの保障」を支える 制度整備の不足

児童生徒の特性や居住地等に応じ
 ー対面中心/オンライン中心か
 ー在籍校/在籍校以外の1条校/1条校以外/在宅
 など、学習ニーズ・学習場所が多様化している

在籍校の校長による履修認定の基準は曖昧
 (病気療養児には相対的に柔軟な運用)



**「多様な学びの保障」に対応した
制度整備の不足**

**校長の履修認定基準の明確化・簡
略化(不登校児童生徒へのハラスメ
ントの防止も重要)**

主たる学習場所	対面中心	オンライン中心
在籍校	A. △ 別室登校 (学校内フリースクール)	B. △ 授業オンライン配信 ※感染予防のための長期 欠席対応も重要
在籍校以外の1条校	C. 転校 不登校特例校	D. 不登校特例校(文部科学省 の指定校) 拠点校方式オンライン学習 支援
1条校以外(非営利団体・学 習産業による支援、オルタ ナティブスクール・フリース クール等)	E. △ ※在籍校の校長による履修 認定の基準が曖昧	F. △ ※在籍校の校長による履 修認定の基準が曖昧
複数の学校・居場所(1条校・ 非1条校往來型)	G. ? ※地域・教育魅力化プラット フォーム	H. △ ※病気療養児への院内学 級・在籍校連携などは柔軟 な運用 ※在籍校の校長による履 修認定の基準が曖昧
家庭 (在宅学習)	I. △ ※在籍校の校長による履修 認定の基準が曖昧	J. ※在籍校の校長による履 修認定の基準が曖昧

対応策2：

- 前提として、不登校の児童生徒が**学習・登校等の意欲を回復するための期間**は、**学習より休養・ケアを重視し、親子を孤立させず見守る体制**の整備が重要。
- **不登校児童生徒の「多様な学びの保障」**（義務教育の教育課程の修得を多様な手段で支援すること）
- 家庭での在宅学習については、少数例かもしれないが虐待等のリスクもあることから、**必要な場合には子どもを守るデータ連携、MEXCBT等を活用した見守りシステムとスクールカウンセラー等による定期面談等を組み合わせた支援アプローチ**を開発する必要性がある。**専門職配置・担任外教諭の加配体制も必須。**

※参考リンク（スライドNo.4の表）

A.学校内フリースクール、広島県下の公立小中学校、横浜市立中学校を中心に展開

<https://digital.asahi.com/articles/ASP803G05P8YUTIL00H.html>

B.ハイブリッド授業、不登校児童生徒にも対応し出席認定しているのは福岡市・熊本市等

<https://news.yahoo.co.jp/articles/44c4dabe65b2409b7284b4f2ae30c0c7ea475617>

C.不登校特例校、岐阜市立草潤中学校

<https://forbesjapan.com/articles/detail/40608>

D.拠点校方式オンライン学習支援、熊本市

<https://news.yahoo.co.jp/articles/fd0ac0c46f12f10d77a04881cf15ad233e0ab9c9>

G.地域・教育魅力化プラットフォーム（地域未来留学365）

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/shomu_ryutsu/kyoiku_innovation/manabi_tankyuka_wg/pdf/001_s01_00.pdf

不登校の児童生徒に「多様な学びの保障」を

休養・回復期も重視
したアプローチを



不登校の児童生徒

①,⑥実態・支援ニーズの丁寧な把握、置き去りにしない見守り体制
⑦発達特性・学習者特性の相談支援

②不登校特例校
必置化

1条校

⑤家計補助
(対象施設・サービスの基準設定)

③オンライン授業の
支援・質保証

次の進路・ステップへ

履修認定・卒業認定

④校長履修認定の基準
明確化・簡略化(スタ
ディログ活用)

1条校以外

⑧在宅学習の児童生
徒の見守り・支援ア
プローチの開発

子ども若者の尊厳・人権やウェルビーイングの重視

(⑩学校教員・評価基準への反映・支援、1条校だけでなく1条校以外も)

1条校でも圧倒的に不足する人的・財的条件の改善(⑫効果的アプローチを令和版教育特区で検証)

非1条校も含めた「多様な学びの保障」の全体設計(⑫効果的アプローチを令和版教育特区で検証)

「壁」をなくす、急ぎ必要な政策①～④

- ①不登校児童生徒の支援・学習ニーズ、保護者の支援ニーズの検証と把握
【新規】
- ②不登校特例校の必置・推奨のための政策・予算
【既存政策拡充】
- ③1条校でのオンライン授業の質保障策のための緊急支援・調査検証改善事業
【新規】
 - 不登校児童生徒が多い学校へのオンライン授業提供のためのICT支援員配置
【既存政策拡充、国公私立の全設置形態に】
 - 質の確保されたオンライン授業の調査検証と授業改善基準の明示【新規】
- ④不登校の児童生徒の学校外での学習に関する校長の履修認定基準の明確化
スタディログの活用による認定簡略化（校長による不登校児童生徒・保護者へのハラスメント防止としても有効）【新規】

「壁」をなくす、急ぎ必要な政策⑤～⑧

- ⑤ フリースクール、オルタナティブスクール等での学習経費の家計補助基準の明確化と助成【新規】
- ⑥ MEXCBT等を活用した不登校児童生徒を置き去りにしない見守り（状況把握・ニーズ把握等）システムの開発【新規】
- ⑦ 発達特性や学習者特性診断を不登校児童生徒・保護者が気軽に受けられ、自治体・医療機関の相談や診断につながるようなデジタル化・オンライン化されたコンテンツ開発【新規】
- ⑧ 家庭在宅学習する児童生徒の見守り・支援アプローチ手法開発【新規】

そもそも不登校児童生徒を減少させるために

- ⑨文科省・不登校・問題行動調査の改善、家族の状況、いじめの有無、教員ハラスメントの有無等、日本財団調査等もふまえた調査改善【既存政策改善】
- ⑩学校評価、校長・教頭評価、教員評価基準の改善（不登校児童生徒を増加させている学校・校長・教員の特定と改善支援）【既存政策改善】
- ⑪教育委員会マネジメントの改善（不登校特例校、オンライン授業保障等への取り組みの見える化と取り組みの支援、教育長や教育委員会同士のピアサポートネットワークの構築等）【新規】
- ⑫1条校のマネジメント・カリキュラムの柔軟化【新規】 **令和版教育特区**
 - 文科省の教育課程特例校・授業時数特例校の取り組みのグレードアップ
 - 支援ニーズの高い児童生徒が多い学校**への人的財的支援の抜本的拡大
 - 教育のICT化を通じた修得主義中心のアプローチ（出席要件の緩和）
 - 授業時数やカリキュラムにおいてイノベティブな取り組みを促進するための大胆な規制緩和
 - 予算措置と調査検証改善のスキーム等

(参考) 不登校潜在人口33万人 (中学生)

学業・友人・学校の居心地の悪さなど

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査

【現中学生に聞いた】中学校に行きたくない理由

- ・「疲れる」「朝、起きられない」などの身体的症状以外の要因では、全ての群で学業に関する理由がみられた。
- ※26項目中



<中学校に行きたくない理由TOP10>

赤字は①～⑤非該当と比べて20pt以上高い項目

	⑥_①～⑤非該当	①-1_1年間に合計30日以上、学校を休んだことがある/休んでいる	①-2_1週間以上連続で、学校を休んだことがある/休んでいる	②～④いずれか選択	⑤基本的には教室で過ごし皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている
1位	疲れる (25.7)	朝、起きられない (59.5)	疲れる (38.2)	疲れる (44.0)	疲れる (48.7)
2位	朝、起きられない (19.2)	疲れる (58.2)	朝、起きられない (32.6)	朝、起きられない (35.6)	朝、起きられない (25.7)
3位	テストを受けたくない (16.0)	学校に行こうとすると、体調が悪くなる (52.9)	自分でもよくわからない (31.0)	授業がよくわからない・ついていけない (33.3)	学校に行きたくない (31.9)
4位	自分でもよくわからない (15.0)	授業がよくわからない・ついていけない (49.9)	友達とうまくいかない (30.1)	友達とうまくいかない (28.5)	学校は居心地が悪い (28.4)
5位	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (13.0)	学校は居心地が悪い (46.1)	授業がよくわからない・ついていけない (29.2)	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (27.1)	テストを受けたくない (28.2)
6位	部活がハード (11.8)	友達とうまくいかない (46.1)	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (28.9)	テストを受けたくない (27.0)	小学校の時に比べて、良い成績が取れない (27.3)
7位	授業がよくわからない・ついていけない (11.6)	自分でもよくわからない (44.0)	学校に行こうとすると、体調が悪くなる (28.1)	先生とうまくいかない/頼れない (26.1)	授業がよくわからない (27.3)
8位	友達とうまくいかない (10.1)	学校に行く意味がわからない (42.9)	学校は居心地が悪い (24.5)	学校は居心地が悪い (25.9)	先生とうまくいかない (26.1)
9位	校則など学校の決まりが嫌だ (7.1)	先生とうまくいかない/頼れない (38.0)	先生とうまくいかない/頼れない (23.4)	校則など学校の決まりが嫌だ (22.5)	小学校の時に比べて、つまらない (25.0)
10位	小学校の時と比べて、つまらない (6.7)	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (33.9)	テストを受けたくない (23.2)	小学校の時と比べて、つまらない (21.8)	友達とうまくいかない (21.8)

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査

学校生活をめぐる子どもの特徴 (タイプ) 6群

①-1	不登校	学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】年間30日以上(文科省定義内)学校に行っていない	30日以上欠席	10万人
①-2	不登校	学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】1週間以上連続(文科省定義外)など一定程度学校に行っていない	1週間以上連続欠席	
②	教室外登校	学校の校門・保健室・校長室等には行くが、教室には行かない 【主な特徴】保健室登校、図書室登校、校長室登校、校門登校など 頻度:「月2～3回以上、もしくは1週間続けて」		
③	部分登校	基本的には教室で過ごすが、授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】給食登校 遅刻や早退が多い。頻度:「1ヶ月に5日以上」 1日に何度か、一時的に保健室などで過ごす	学校内で行動表出	33万人
④	仮面登校A 授業不参加型	基本的には教室で過ごすが、皆とは違うことをしがちであり、授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】授業がつまらない、または授業内容とは別に追求したい・学びたいことがある 頻度:「月2～3回以上、または1週間続けて」		
⑤	仮面登校B 授業参加型	基本的には教室で過ごし、皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている 【主な特徴】行動表出なし。頻度:「毎日」	学校内で行動表出	
⑥	登校	学校に馴染んでいる		

(参考)

一定数の児童生徒は個別最適な学びへのニーズ

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査

【不登校または不登校傾向にある現中学生と卒業生(中学卒業後～22歳)に聞いた】

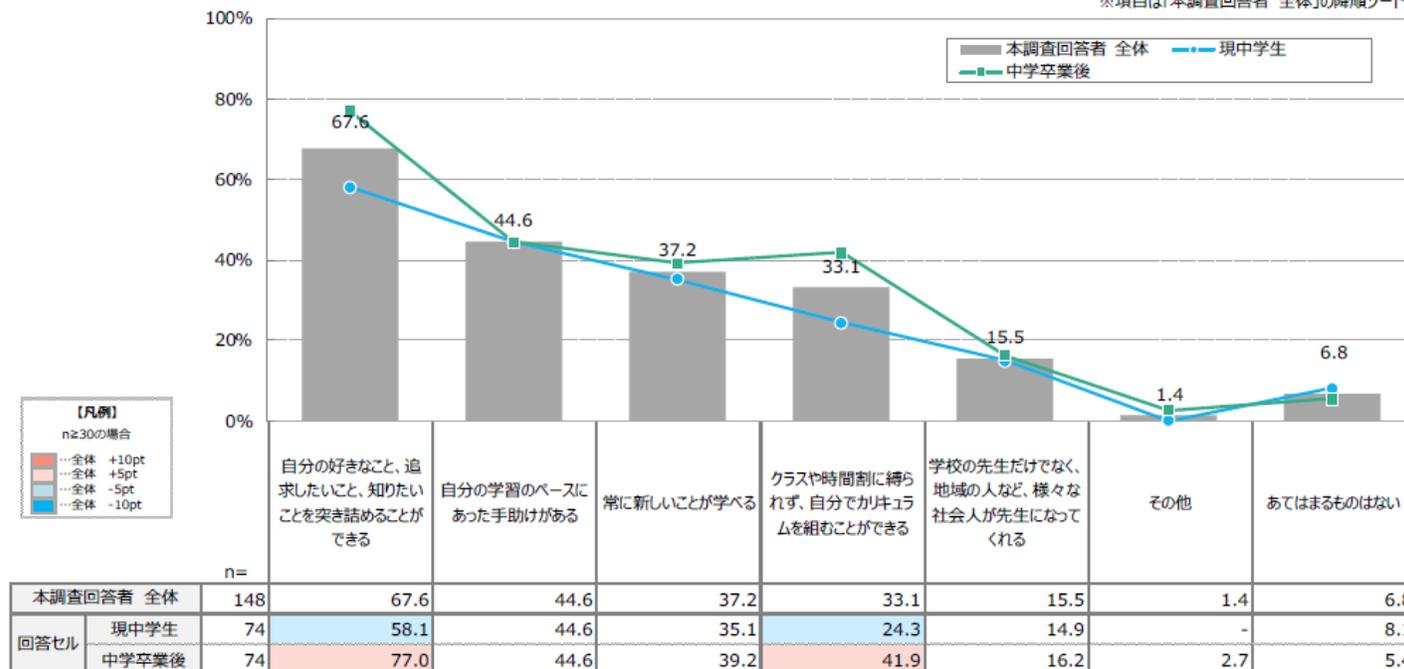
学びたいと思える場所

- ・ 「自分の好きなことを突き詰めることができる」環境が、学びたいと思える場所としてトップ。
- ・ 回答セルごとに見ると、「自分の好きなこと、追求したいこと、知りたいことを突き詰めることができる」「クラスや時間割に縛られず、自分でカリキュラムを組みすることができる」において、現中学生より卒業生(中学卒業後～22歳)のほうがスコアが高い。



Q2.あなたはどのような場所だったら学びたいと思いますか。あてはまるものを全てお答えください。(複数回答)

※項目は「本調査回答者 全体」の降順ソート



(参考) 発達障害や学習面等での困難がある児童生徒が一定数

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査

【参考資料 (事前調査)】 親回答による「子ども」のステータス

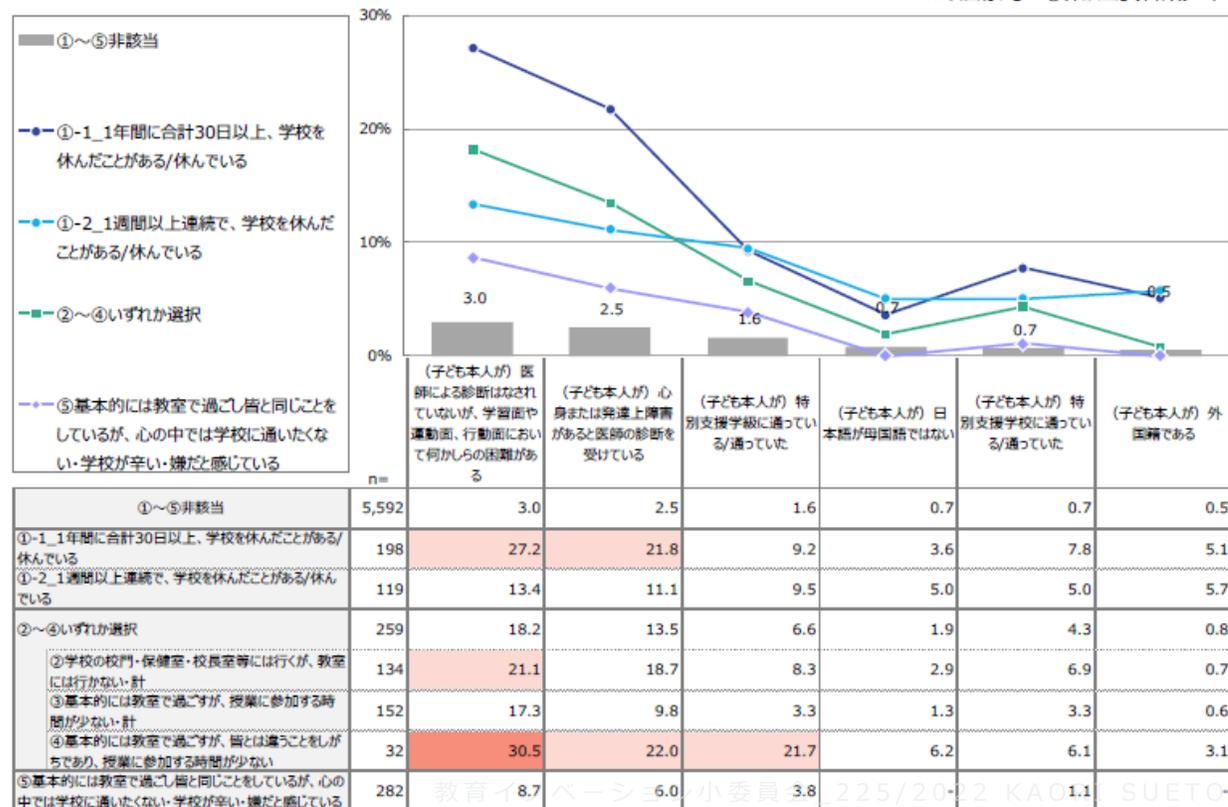
・不登校または不登校傾向にある子どもの親は「(自分の子どもは) 学習面や運動面、行動面において何かしら困難がある」と思っている比率が高い。「心身・発達上に障害があると診断されている」とする親も多め。

・特に④ (仮面登校A : 授業不参加型) は「医師による診断はなされていないが、学習面や運動面、行動面において何かしら困難がある」と回答している親が3割とスコアが高い。



PSQ5. アンケートにお答えいただくお子様について、あてはまるものをお答えください。(「1.あてはまる」一覧)

※項目は「①～⑤非該当」の降順ソート



【凡例】
n≥30の場合
40%以上
30%以上
20%以上

公正な公教育システムにむけて(1)

— 「場の選択肢」をどのように豊かにするか？

▶大きく3つの「場」

(1)オンラインという「場」

(2)1条校以外の「場」

(3)1条校という「場」

▶それぞれの「場」の課題

(1)オンラインという「場」

⇒履修認定基準、リアルでの学び、
協働的な学びの保障

(2)1条校以外の「場」

⇒公費助成の方式

(3)1条校という「場」

⇒リソースの拡大、柔軟な挑戦を可能に

教育の質や学習の権利保護に対する 「公の支配」をどのように確立していくか？

▶子どもの権利に関する包括的な法律

(いわゆる子ども基本法

or子どもの権利基本法)の必要性

→子どもの権利と尊厳の法規定

→おおむね18歳未満の学習者の権利保護・推
進規定が可能に

(学校教育法、教育機会確保法、

いじめ防止対策推進法等)

→学校および学校外の学習者の権利保護・推
進ルールの運用

=セーフガーディング指針および日本版DBSIに
よる経営者・雇用者ゲートキーピング

▶将来的には

おおむね18歳未満の学習者に対す
る教育・学習サービス提供機関
(1条校以外も)に

セーフガーディング指針導入義務
付けが必要

▶チェックシステムは別途課題だ
が、一定水準の認証評価を通過し
たプロバイダーに公費助成をする
仕組みの構築も可能

2021年8月6日教育イノベーション小委員会

基盤としてすべての学びの場で、「安全安心」「高信頼性組織」をマネジメント基準に
規定すること

公正な公教育システムにむけて(2)

一助成原則とリソースの拡大、「公の支配」の実質化

学校内の「場」の拡大
不登校特例校
令和版教育特区

公設民営型学校
オンライン学習
フリースクールへの公費助成
在宅学習者への公費助成

独立学校(Independent School)

リソース（ヒト・モノ・カネ）の拡大
スクールファンド等の資金調達手段の拡大
官民人材交流の促進
学校管理規則、学校法人会計基準等の
アップデートとガバナンスの強化
利益相反ルール等の整備

政治的宗教的中立性、人権侵害の禁止等
の法令遵守
学習指導要領の遵守
評価制度の整備
苦情申し立て・問題解決システムの整備
(消費者・学習者保護) など

